糸魚川市議会会議録

令和６年第４回定例会

自 令和６年12月２日
至 令和６年12月19日

糸 魚 川 市 議 会

令和６年第４回糸魚川市議会定例会会議録目次

資　　料

提出議案・請願・発議等の議決の態様……　１

（第４回定例会）

第　１　号（１２月２日）

議事日程……　２３

本日の会議に付した事件……　２３

出席議員……　２４

説明のため出席した者……　２４

事務局出席職員……　２４

開　　会……　２５

日程第１　　会議録署名議員の指名……　２５

日程第２　　会期の決定……　２５

委員長報告　議会運営委員長……　２５

質　　疑……　２７

採　　決……　３１

日程第３　　行政報告……　３１

日程第４　　所管事項調査について

委員長報告　総務文教常任委員長……　３２

採　　決……　３４

委員長報告　建設産業常任委員長……　３４

質　　疑……　３５

採　　決……　４０

委員長報告　市民厚生常任委員長……　４１

採　　決……　４３

委員長報告　議会運営委員長……　４３

採　　決……　４６

日程第５　　議案第８１号

提 案 説 明……　４６

採　　決……　４７

追加日程第１　　議長の辞職許可について……　４７

追加日程第２　　議長選挙……　４９

日程第６　　議会運営委員会委員の選任について……　５１

追加日程第３　　議席の一部変更について……　５４

日程第７　　議案第８２号から同第８９号まで

提 案 説 明……　５５

日程第８　　議案第９０号から同第９９号まで
提 案 説 明…… ５６
日程第９　　議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号まで
提 案 説 明…… ５７
日程第10　　議案第１０３号
提 案 説 明…… ５８
日程第11　　請願第５号…… ５９
散　　会…… ５９

第　２　号（１２月６日）
議事日程…… ６１
本日の会議に付した事件…… ６１
出席議員…… ６１
説明のため出席した者…… ６１
事務局出席職員…… ６２
開　　議…… ６２
日程第１　　会議録署名議員の指名…… ６２
日程第２　　議席の一部変更について…… ６３
日程第３　　一般質問
田原　　実…… ６４
保坂　　悟…… ８３
伊藤　　麗…… ９９
和泉　克彦……１２０
利根川　正……１３６
延　　会……１５０

第　３　号（１２月９日）
議事日程……１５１
本日の会議に付した事件……１５１
出席議員……１５１
説明のため出席した者……１５１
事務局出席職員……１５２
開　　議……１５２
日程第１　　会議録署名議員の指名……１５２
日程第２　　一般質問
東野　恭行……１５３
田中　立一……１７１
近藤　新二……１９９

新保　峰孝……２１５
加藤康太郎……２３０
延　　会……２４３

第　４　号（１２月１０日）
議事日程……２４５
本日の会議に付した事件……２４５
出席議員……２４５
説明のため出席した者……２４５
事務局出席職員……２４６
開　　議……２４６
日程第１　　会議録署名議員の指名……２４６
日程第２　　一般質問
阿部　裕和……２４７
渡辺　栄一……２７１
田原　洋子……２９２
古畑　浩一……３１１
散　　会……３２９

第　５　号（１２月１９日）
議事日程……３３１
本日の会議に付した事件……３３１
出席議員……３３１
説明のため出席した者……３３２
事務局出席職員……３３２
開　　議……３３２
日程第１　　会議録署名議員の指名……３３３
日程第２　　所管事項調査について……３３４
委員長報告　総務文教常任委員長……３３４
採　　決……３３６
委員長報告　市民厚生常任委員長……３３６
採　　決……３３８
日程第３　　議案第８２号から同第８９号まで、請願第５号及び発議第８号
委員長報告　総務文教常任委員長……３４０
討　　論……３４３
採　　決……３４８
日程第４　　議案第９０号から同第９９号まで
委員長報告　建設産業常任委員長……３５０

質　　疑……３５２
採　　決……３５６
日程第５　議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号まで
委員長報告　市民厚生常任委員長……３５８
採　　決……３６０
日程第６　議案第１０３号
委員長報告　総務文教常任委員長……３６２
建設産業常任委員長……３６２
市民厚生常任委員長……３６３
討　　論……３６５
採　　決……３６６
日程第７　議案第１０７号
提 案 説 明……３６７
質　　疑……３６７
採　　決……３６９
日程第８　諮問第２号から同第５号まで
提 案 説 明……３７０
採　　決……３７１
日程第９　発議第９号
提 案 説 明……３７２
採　　決……３７２
日程第１０　閉会中の継続調査について
採　　決……３７３
閉　　会……３７４

資料

提出議案・請願・発議等の議決の態様並びに一般質問

（第４回　定例会）

項目／番号	議案・請願・発議等の名称	議決の態様		
		提出月日	議決月日	結果
議案第８１号	専決処分の承認を求めることについて（令和６年度糸魚川市一般会計補正予算（第３号））	6.12.２	6.12.２	承認
議案第８２号	糸魚川市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	〃	6.12.19	可決
議案第８３号	糸魚川市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第８４号	糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第８５号	糸魚川市職員の寒冷地手当の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第８６号	糸魚川市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第８７号	行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第８８号	新潟県市町村総合事務組合規約の変更について	〃	〃	〃
議案第８９号	損害賠償額の決定及び和解について	〃	〃	〃
議案第９０号	糸魚川市糸魚川ジオステーションジオパル条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第９１号	糸魚川市スキー場条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第９２号	糸魚川市白馬山麓国民休養地条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第９３号	糸魚川市集会施設条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第９４号	糸魚川市簡易水道条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃

項目 番号	議案・請願・発議等の名称	議決の態様		
		提出月日	議決月日	結果
議案第９５号	糸魚川市ガス供給条例の一部を改正する条例の制定について	6.12.2	6.12.19	可決
議案第９６号	財産の譲与について	〃	〃	〃
議案第９７号	字の変更について	〃	〃	〃
議案第９８号	字の変更について	〃	〃	〃
議案第９９号	市道の認定について	〃	〃	〃
議案第100号	糸魚川市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第101号	糸魚川市障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例の制定について	〃	〃	〃
議案第102号	指定管理者の指定について（糸魚川市斎場及び能生火葬場）	〃	〃	〃
議案第103号	令和６年度糸魚川市一般会計補正予算（第４号）	〃	〃	〃
議案第104号	令和６年度糸魚川市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）	〃	〃	〃
議案第105号	令和６年度糸魚川市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）	〃	〃	〃
議案第106号	令和６年度糸魚川市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）	〃	〃	〃
議案第107号	教育長の任命について	6.12.19	〃	同意

項目 番号	議案・請願・発議等の名称	議決の態様		
		提出月日	議決月日	結果
諮問第　２号	人権擁護委員候補者の推薦について	6.12.19	6.12.19	適任と認め、答申
諮問第　３号	人権擁護委員候補者の推薦について	〃	〃	〃

項目／番号	議案・請願・発議等の名称	議決の態様		
		提出月日	議決月日	結果
諮問第　４号	人権擁護委員候補者の推薦について	6.12.19	6.12.19	適任と認め、答申
諮問第　５号	人権擁護委員候補者の推薦について	〃	〃	〃

項目／番号	議案・請願・発議等の名称	議決の態様		
		提出月日	議決月日	結果
請願第　５号	「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書の採択を求める請願	6.12. 2	6.12.19	みなし採択

項目／番号	議案・請願・発議等の名称	議決の態様		
		提出月日	議決月日	結果
発議第　８号	「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書	6.12.19	6.12.19	可決
発議第　９号	北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書	〃	〃	〃

（一般質問）

①　田　原　　実　１　医療と防災のまち、市民が安心して住めるまち糸魚川へ！

(1) 医療対応について以下伺います。

①　５年後、１０年後の糸魚川地域医療体制を市民と共有できていますか。

②　市長が繰り返し答弁されてきた糸魚川市に必要な医療とは何ですか。

③　市長が選挙公約とした看護師育成機関の設置は進んでいますか。

④　薬草栽培で稼ぐ「医療のジオパーク」を進めてはいかがですか。

(2) 防災対応について以下伺います。

①　未曾有の災害への備えはできていますか。

②　防災士、防災アプリの活用は進んでいますか。

③　県との連携は密ですか、いざというときに救済チームは派遣されますか。

④　国から支援を受けて「防災のジオパーク」を進めてはいかがですか。

２　スポーツ交流、文化交流、鉄道で人を呼ぶ仕掛けで糸魚川を元気に！

(1) スポーツ振興、スポーツ交流について以下伺います。

①　市民や各種団体との連携や協働で成果、効果を出していますか。

②　相撲が脚光を浴びています。糸魚川ならではの交流人口増大に結び付く提案を市職員全員から出していただいて、理解を進めてはいかがですか。

(2) 文化振興、文化交流について以下伺います。

①　市民や各種団体との連携や協働で成果、効果を出していますか。

②　文化資源やアーカイブスの活用は常にアップデートされていますか。新しい時代を感じられるよう工夫をし、若者たちを主役に活動を進めていますか。

(3) 鉄道で駅とまちに人を呼ぶ仕掛けなどの取組について以下伺います。

①　鉄道で糸魚川へ訪れる人をどのように増やしていますか。

②　大糸線全線開通７０周年への取組はいかがですか。

③　えちご押上ひすい海岸駅及び周辺整備は約束どおり進みましたか。

④　アニメ、スマホアプリ、イルミネーション等を活用して駅や鉄道利用者を増やす私からの提案は具体化しましたか、またこれからどうなりますか、伺います。

３　駅北子育て支援複合施設の必要性、市民・住民との合意形成について

(1) 前回の一般質問にて、以下の複合施設の優れている点をよく検討して計画を進めてほしいと要望しました。市長は何を学び、何を取り入れていこうとしていますか。教育委員会や担当課にどのような指示をしましたか、伺います。

①　長野県塩尻市の公民館図書館等複合施設「えんてらす」

②　富山県黒部市の図書館複合施設「あおーよ」

③　群馬県太田市の図書館・美術館複合施設「太田市美術館」

(2) 市長の判断で、こどもの数が減っていく中での建設と運営に巨額の支出をしていくことについて、市民・住民と合意形成できましたか、伺います。

② 保 坂　　悟　1　防災・減災について

(1) 小中学校体育館等へのエアコン設置について

①　新年度に向けて、エアコン設置への検討はどうなっているか。

②　災害時の対応として、ＬＰガス（プロパンガス）を併設することで、停電時でも稼働できるようにすることは検討しているか。

③　エアコンの電力として、太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーの検討をしているか。

(2) 感震ブレーカーの周知と設置補助制度の創設について

地震による火災の約６割は電気が原因と言われ、通電火災への対策が必要である。また、地震による停電の復旧時に発生する火災にも感震ブレーカーは有効であることから、周知と制度導入の考えはあるか。

(3) 防災士の資格取得経費の補助制度で、対象者を拡充する考えはあるか。

(4) 避難所運営について

①配慮が必要な方への対応②女性・子どもへの配慮③防犯対策④ペットの対応の４項目について、それぞれに力を入れていることはあるか。

(5) トイレトレーラーの導入を考えているか。

(6) 自動車避難を想定した津波避難道の整備計画を考えているか。

2　学校図書館の体制強化について

読書好きの子どもを育てることは、子どもたちの可能性を広げることになる。そこで読書の楽しみ方をレクチャーする学校図書館の楽しい活動を積極的に展開する取組に着目している。

(1) 学校司書について

①　学校司書の研修を積極的に取り組むことを考えているか。

②　学校司書の増員は考えているか。

③　学校司書を会計年度職員から正職員にする考えはあるか。

④　司書の資格がない方に資格取得の支援は考えているか。

(2) 長期休暇の活用について

①　夏休みに子どもたちに開かれた図書活動を展開する計画はあるか。

②　夏休みを図書館司書による「子どもたちの好奇心に火をつける期間」として取り組む考えはあるか。

③　田沢地区公民館主催の「絵本でＳＤＧｓ」の活動やＳＤＧｓの理念を反映させた糸魚川市総合計画と世界ジオパークの取組を連動させてユネスコスクールに加盟する考えはあるか。

④　夏休み期間を使って図書館司書のスキルアップのため、各種研修に参

加させる取組は考えているか。

3　「誰一人取り残さない」ＳＤＧｓの取組について

(1) 以前取り上げた、化学物質過敏症をはじめとした難病指定に至らない方たちへの支援と理解への周知について

具体的には災害時の避難方法や日常生活に支障をきたす場合に、精神障害者保健福祉手帳の交付への専門的なアドバイスの提供はできるか。

(2) 認知症患者とその家族への支援について

具体的には認知症の方が入所できる施設は、グループホーム、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームの４種類あるが、認知症の度合いと家族の精神的・経済的負担等を考慮した新しい施設の検討や支援制度を検討することはできないか。

(3) 老々介護者への支援について

①　未婚者による老々介護の家庭に対する精神的・経済的支援の拡充は考えているか。

②　引きこもり世帯に対する支援はどのように行っているか。

(4) 大人の発達障がい者への支援について

「生きづらさ」を感じている方の把握は難しいと思うが、生活や仕事における様々なトラブルを回避するために専門家による相談窓口が必要と考えるが、積極的に取り組む考えはあるか。

4　行政改革について

(1) 市職員の職場環境の整備について

①　健全な行政運営を行うには、公益通報制度とその通報者保護の強化が最も重要と考える。官製談合以降に何か工夫はされているか。

②　東京都では職員を守るために「カスタマーハラスメント防止条例」を令和７年４月から施行するが、当市において検討する考えはあるか。

(2) 道路整備と法面等の工夫について

除雪会議や観光シーズンになると毎回話題になるのは、道路法面の伸びた草木の伐採です。シルバー人材センターや建設業の人手不足により、慢性的な遅れを感じている。除草シートの活用や道路からの一定距離の樹木を伐採するルール作りの考えはあるか。

(3) 公共施設の統廃合と持続可能なまちづくりについて

単なるコンパクトシティー化ではなく、防災公園の整備、多様な学びを提供する施設、自然を生かした教育や体験観光の推進、新幹線駅を活用した首都圏との二拠点生活の推進とそれに伴う駅周辺整備を盛り込んだプロジェクトを立ち上げる考えはあるか。

(4) 子どもや若者の政策提言を受ける機会の創設を考えているか。

③　伊　藤　　麗　1　地域医療について

糸魚川総合病院とその後協議は行われたか、存続のために検討されている支援策はあるか伺います。

2　誰でもいきいき働く環境の整備の必要性について

先の衆議院選挙で「手取りを増やす」のキャッチフレーズで国民民主党が議席をのばし、年収の壁の引上げについて議論が行われています。働くシニアの年金減額の緩和を盛り込んだ改革案も厚生労働省より示されており、当市においても、人口減少による働き手の確保は大きな課題であります。よって、働く意欲のあるひとが働き、一人ひとりが活躍のできる環境整備が必要であることから以下伺います。

(1) 若者や女性の働きやすい職場について、市としての認識を伺います。

(2) 障がいをお持ちの方の働く環境について、現状の認識と課題を伺います。

(3) シニアが働き続けるために市として行っている支援はあるか伺います。

3　子育て支援について

令和６年４月に児童福祉法等の一部を改正する法律の施行に伴い、子育て支援や自立支援、障がい児支援が強化されました。

児童福祉法の改正ポイントに則り、糸魚川市の子育て支援の現状とこれからについて伺います。

(1) こども家庭センターの包括的な支援体制の強化・拡充について、現状の取組を伺います。

(2) 自立支援の強化について、現状の取組を伺います。

(3) 里親支援センターの設置について、考えがあるか伺います。

④ 和 泉 克 彦　1　糸魚川市と台湾との関係について

糸魚川市が持続可能な発展を遂げていくためには、国内外を問わず、多様な地域や人々と協力しながら、「現にある『ヒト・モノ・カネ・情報』等の経営資源を使って、それらの合計以上の成果を生み出す」ことが重要であると考えます。その中で、台湾との関係強化は当市の発展にとって大きな可能性を秘めたテーマであり、その意義を改めて見つめ直す必要があると考えております。

まず、台湾は地理的に非常に近く、飛行機で数時間の距離にあることから、経済的、文化的な交流が非常にしやすい地域です。また、歴史的にも台湾と日本は深い関わりを持っています。戦前に日本からは人材を送り込み、水力発電所、道路、港湾整備などのインフラ投資、農業や鉱工業などの産業開発、大学設立等の教育投資などを行いました。その資産は今でも使われており、日本を尊敬する台湾人も少なくありません。このような背景から、台湾は非常に親日的であることでも知られ、多くの台湾人が日本文化に親しみを持っています。

さらに、防災分野における台湾との協力にも注目すべきです。台湾は日本

と同様に、地震や台風などの自然災害が頻発する地域であり、災害対策の経験や技術を共有することで、双方の防災力を向上させることができると考えております。特に、本年４月３日に発生した台湾花蓮地震では、避難所などでの迅速な災害対応が日本でも話題となりました。台湾との交流を通して、こうした災害対応のノウハウも高めていくことができます。また、この地震の際は、日本から緊急支援チームも派遣されましたが、一方で、本年１月の能登半島地震でも台湾から支援チームが駆けつけました。こうした日本と台湾で互いに助け合う伝統は、東日本大震災や１９９９　年の台湾中部大地震から続くものですが、地方都市レベルで交流を強化することで、こうした伝統をより深化・発展させていくことができるのではないでしょうか。

そこで、以下、伺います。

⑴　「台湾有事」の際の当市としての対応について

①　当市の市民で、台湾や中国に観光や仕事等の目的で、訪問ないし定住する方の人数を把握していますでしょうか、伺います。

②　台湾有事の際、当市や市民にどのような影響が出るとお考えでしょうか、またそれに対して、どのような対策が考えられるでしょうか、伺います。

③　「ウクライナ戦争」などを分析すると、台湾有事の際に、大規模なサイバー攻撃が行われることが予想されます。有事の際は、その地域から遠隔であっても、通信システムなどに支障をきたすことがあると言われています。そこで、当市としても対応を検討すべきではないかと思われますが、いかがでしょうか。特に、重要なインフラ（電力、水道、通信など）が攻撃された場合の対策計画を策定していますでしょうか、伺います。

④　台湾有事の際には、当市として沖縄等の南西諸島の住民や台湾からの避難の受入れを検討すべきと考えますがいかがでしょうか、伺います。

⑤　全国の自治体の中には災害に関して企業等の事業継続計画（ＢＣＰ）策定の支援を行っていますが、当市において災害に加えて国際的な地政学的リスクにも対応したＢＣＰの策定を支援し、地元企業を守る取組を行うのはいかがでしょうか、伺います。

⑵　当市と台湾との関係強化の重要性について

①　米田市長は台湾をどのように位置づけ、当市との関係の重要性をどのように捉えておられるでしょうか、伺います。

②　現在、当市と台湾とは、ジオパークでのつながりがありますが、これ以外での観光・文化・スポーツ・教育など、どのような分野で台湾との関係強化が可能とお考えでしょうか、伺います。

③　台湾は日本の重要な経済パートナーであり、多くの自治体でも工場誘致や観光振興等の経済協力を行っています。当市として台湾との経済交

流をどのようにお考えでしょうか、伺います。

④　当市と台湾の都市との姉妹・友好交流都市を結ぶなどの連携について、米田市長のお考えを伺います。

2　糸魚川市における地域公共交通の現状と課題について

今年３月の北陸新幹線敦賀延伸や、えちごトキめき鉄道で大関・大の里関らのラッピング列車が走ったり、ＪＲ大糸線に観光リゾート列車雪月花が乗り入れたりなどと、話題が豊富な１年となっていますが、これらを含めた地域公共交通が糸魚川市にもたらす影響について、以下、伺います。

(1) 北陸新幹線敦賀延伸に伴う当市への波及効果についてどのように分析されているのか、伺います。

(2) 大糸線増便バスの途中経過と今後について伺います。

(3) 観光リゾート列車雪月花の大糸線乗り入れの効果と大糸線の将来展望について伺います。

(4) 今年の８月１日～１０月１２日までに行われた電動キックボードやレンタサイクルの社会実証の結果と今後について伺います。

(5) 先般示されました令和７年度からの「糸魚川市地域公共交通計画（マスタープラン）」案について、以下、伺います。

①　この計画の計画期間が、令和７年度から令和１６年度までの１０年間とされています。交通システム等は日進月歩で変化するものですが、この計画期間に起こり得るであろう事象に柔軟に対応できるとお考えでしょうか、伺います。

②　計画にある「目指す将来の交通網イメージ」として、路線バス以外のエリア、特に、中山間地域における共助による移動手段の確保とありますが、現状の運転者不足や更なる高齢化で、中山間地域における「共助」が成り立つものなのか伺います。

⑤　利根川　　正　1　令和６年度の稲作の現状と安定供給について

日本の食料自給率は、カロリーベースで３８％と低く、依然輸入に頼っている現状です。その中で自給率の高い米は、この夏品薄となり、いろいろな条件が重なり、令和の米騒動が起きました。現在米の価格は高値で推移しています。

消費者にとっては、物価がさらに上がり大変ですが、農家は、正常の価格になり、今後の継続と後継者問題、地方の所得向上を考えると、この価格を維持できるようにしなければなりません。

現在米騒動から３か月が経っても、値下がりする要因が無く、卸業者、ＪＡもこの先の不安から、少しでも確保しようと動いています。また、飲食店からは、１年間の数量確保を契約する動きもあり、糸魚川市内の生産者も販売する米が無い状態です。これらを踏まえ、以下の点について伺います。

⑴ 糸魚川市は今年の米の概算金（仮払金）６０ｋｇ当たり１９，１００円をどのように考えているか伺います。

⑵ 米の不足が来年も考えられますが、糸魚川市はＪＡ、米業者の在庫量などを把握しているか伺います。

⑶ 糸魚川市の令和７年度の主食用米の作付面積の傾向と、米農家の現状をどのように捉えているか伺います。

⑷ 農地の維持、景観等を守るべく、中山間地域等直接支払交付金制度、多面的機能支払制度が令和７年に更新の時期になりますが、参加団体の変化等があるか伺います。

⑸ 米価の値上げに伴い、今後若い農業従事者を増やすためには、どのような考えがあるか伺います。

⑹ ＪＡでは今年度Ｊ－クレジット制度を活用して、中干し期間を７日間延長すると３０％ほどのメタンガスを削減する栽培方法を導入しましたが、どのくらいの成果があったか伺います。

⑺ ＪＡ上越地区では、労働時間やコスト削減にＶ溝直播を実施しているが、糸魚川市でもこの方法を進めていく考えはあるか伺います。

⑻ 糸魚川市もふるさと納税で、米を主力に２０３０年までに２０億円達成できないか伺います。

２　ＪＡ新潟厚生連糸魚川総合病院の医療体制の確保について

ＪＡ組合員へのお知らせで、地域医療提供体制の維持と事業運営のために、経営状況と経営改革についての文章が配られました。その中で令和５年度決算は過去最大の３５億円の損失金計上となり、この状況が継続した場合には、令和６年度は６０億円からの損失金の計上が見込まれるとありました。

経営改革を進めなければ令和７年度にも資金が枯渇し、病院等事業が困難になる恐れがあるとしています。その原因として、人口の減少、新型コロナによる受診行動の変化、診療報酬の改定への対応のための在院日数短縮による患者数の減少、また、診療報酬が平成２８年以降引き下げられていて、影響が大きく出ています。

今回の経営改革方針のもとに改革対策をスタートさせましたが、あまりにも遅いと思います。糸魚川市にも更なる財政支援の要請に来られましたが、どのような対応が可能なのか、以下伺います。

⑴ 中長期的対策として不採算医療、非常勤診療の在り方を修正し、協議するとありますが、どのような協議が行われたか伺います。

⑵ 病床数、機能の見直しを行うとありますが、上越地域医療構想調整会議で糸魚川市の必要病床数の推計を示されました。２０２３年度は、急性期１６５の病床数のうち、回復期患者が入院している実態が報告され、２０２５年度の必要急性期病床数は３４床と示されていて、回復期は１５７床で、今後どのように機能を調整し、話し合いされるのか伺います。

(3) 医師、看護師の人材不足の中、管理職手当の削減は、必要と考えますが、ＪＡ新潟厚生連職員の賞与支給も下がっている状況では、更なる看護師、事務員の不足が生じると考えます、糸魚川市の考えを伺います。

(4) 県は１２月中に県内で１１病院を運営するＪＡ新潟厚生連の経営危機に県が財政支援する方向で検討に入りましたが、地域医療連携推進協議会の会長、米田市長はどのように捉えているか伺います。

(5) 糸魚川市もＪＡ新潟厚生連糸魚川総合病院の経営改善計画を分析して、改善を進めていくべきと思いますが、見解を伺います。

３　防災減災の実施に向けた取組について

今年１月の能登半島地震後、９月に石川県能登豪雨により再び大きな被害が発生しました。大雨特別警報が発令されていた中、裏山が崩れ、土石流が家の中に流れ込んできて、また、２７の河川が氾濫し、家は泥に覆われ、地震の被害よりひどい状況になりました。

このような災害が糸魚川市でも起きる可能性があり、対策を打つべきと思います。

以下、糸魚川市の考えを伺います。

(1) 土石流では、倒木により橋がせき止められ、水の行き場がなくなり、自宅に押し寄せて被害が大きくなっています。本流支流域の河川の木の伐採を早く進めるべきと思います。市の考えを伺います。

(2) 土石流は、平成８年１２月６日の蒲原沢での発生、また来海沢でも起きています。近年、砂防ダムの老朽化や土砂がたまっていて防災の機能を果たしていない現状です。糸魚川市は、どのように考えているか伺います。

(3) 政府は、自治体の防災備蓄品に対しての導入補助に乗り出す考えで、特に簡易トイレ、水の保管は重要と考えますが、市の備蓄品に関する考えを伺います。

(4) 高齢者の一人暮らしが増えている中、１９８１年以前の旧耐震住宅は耐震化する必要があり、どのように進めていくのか伺います。

⑥ 東 野 恭 行　１　公共工事入札の不調・不落の原因と対応策について

(1) 公共工事の入札に参加する事業者がおらず、落札者が決まらないときの対応策を伺います。

(2) 公共事業の入札に参加した事業者の入札価格が予定価格を超え、落札者が決まらないときの対応策を伺います。

(3) 再度公告入札、再度入札の概念について伺います。

(4) 入札不落の場合に例外的に行われる不落随契について伺います。

２　糸魚川市におけるＵターン施策について

(1) 糸魚川市にＵターンしてくれる人材について、Ｕターンする理由や動機など、糸魚川市はどのように分析しているか伺います。

(2) 糸魚川市内の賃貸物件に入居するＵＩターン者に、家賃の１／２を最大２年間補助する制度があるが、高卒で、市内で就職し、一人暮らしを検討する学生に対し、家賃補助の検討はあるか伺います。

(3) 将来、糸魚川市内で医療や介護分野の業務に従事しようとする学生に対し、修学資金を貸与する制度があり、一定条件により、その返還が免除になる制度があるが、修学資金の利用状況と、Ｕターンの見込みについて伺います。

(4) ＵＩターン修学資金返済支援事業補助金の利用実績と、制度利用者の今後の見通しについて伺います。

３　新成人を祝う会について

(1) 令和４年４月１日より、民法改正により成人年齢が１８歳となりました。令和６年度（令和６年１１月４日（月・祝））に開催された新成人を祝う会（成人式）の参加者数と開催時期の適正について伺います。

(2) 令和７年度の新成人を祝う会の、開催内容の検討について伺います。

⑦ 田 中 立 一　１　防災について

能登半島地震から間もなく１年が経とうとしており、次第に治まりが見えてきたかに思えたが、先月２６日には震度５弱（糸魚川は震度３）の地震が発生した。

元日の地震では多くの市民が避難し、市内で初めて液状化現象が見られ、擁壁が崩落し、住宅も各地で被害を受けた。

また、下水道管も数か所損傷するなど、生活インフラにも影響があり、最近になって地震が原因と見られる農道の崩落なども発生していることから、能登半島地震の教訓をどのように捉え、検証し、見直しをしているか、以下伺う。

(1) 液状化と擁壁の崩落について

① 液状化被害を受けた住宅は最終的に何件で、液状化調査は能生・青海でも行われたか。

② 今後、液状化のおそれのある地域への対応はどのように考えているか。

③ 京ケ峰地区の擁壁崩落は「空積み」が原因と聞くが、市内に同様の「空積み」の擁壁についての調査は行われたか。

(2) 避難施設と運営について

① 施設の収容数を超えた避難者の場合の想定と対応について

② 私設の自主避難所への支援について

③ 「避難指示発令」以外に発令等見直しの検討をしていることはあるか。

④ 自宅等避難施設以外の避難者把握に対する考えについて

⑤ ペット同行避難の庁内関係各課、保健所の連携と避難訓練について

(3) 耐震シェルター・防災ベッドの普及について

① 耐震シェルターの申込状況を伺う。

② 能登半島地震後の耐震診断について、申込状況を伺う。

(4) 上下水道設備の耐震化について

能登半島地震では「水」が使えることの重要性・公共性が改めて認識され、教訓にして上下水道の地震対策を強化・加速化するため、国土交通省は９月末、水道事業を担う市町村ごとに「水道カルテ」を作成し、年内をめどに公表すると明らかにした。水道管などの耐震化率や料金水準が簡単に把握できるようにするという。

① 市内の上下水道の耐震化の状況について伺う。

② 災害に強く、持続可能な上下水道システムの構築に向けて「上下水道耐震化計画」の策定取組について伺う。

２ 古民家について

人口が減り、集落に空き家が増え、環境悪化や治安の悪化などで周辺住民にとって大きな課題になっている。

一方で、建築年数が５０年以上、中には１００年以上経っている古民家と言われる建物は、現在では使われない太い柱や梁などを用い、建材が味わい深い趣を作り出しているところから、店舗等に重宝されている。

市内にこのような古民家がまだ多く存在しており、空き家になっているモノもあるのではないか。

個人の所有物であるが、地域の歴史的、文化的な貴重な資源として保存、利活用する取組について考えを伺う。

３ 農業政策について

(1) 来年度の主食用米の生産量目標と作付面積目標について

新潟県農業再生協議会は米の品薄を受け、本年産目標を１６，４００トン上回る５６万２，４００トンにすると公表した。糸魚川市は本年、県内で唯一前年産より目標を下に設定したが、来年度の目標をどう考えるか伺う。

(2) 第６期中山間地域等直接支払制度について

集落機能を強化し、コミュニティとしての維持を意図して第５期の「集落機能強化加算」が措置されたと言われるが、第６期では見直しされる報道がある。第５期との違いと第６期に対する取組状況を伺う。

⑧ 近 藤 新 二 １ 糸魚川市が管理する遊具の管理状況について

１１月７日、久留米市の小学校で、児童が運動場に設置された「ろくぼく」と呼ばれる金属製のはしご状の遊具で遊んでいたところ、およそ１ｍ６０ｃｍの高さに固定されているはずの鉄棒が回転し、手を滑らせて地面に落下し、腰の骨を折るけがをしたとニュースで報じられました。

市教育委員会は、鉄棒が回転したのは柱との接合部分がさびで劣化したこ

とが原因だとしています。この遊具は去年１２月に定期点検を行い、その際には異常は確認されなかったということですが、市教育委員会は、「管理に不備があった」と公表されています。事故後、市立小学校のすべての遊具を点検したところ、ほかの２校の遊具でも劣化が見つかり使用を中止しました。市教育委員会は、けがをした児童とご家族に陳謝し、今後、点検を徹底し、遊具の安全な維持管理に努めると報じられていました。しかし久留米市では、ことし８月と１０月にも市が管理する公園の遊具で子どもがけがをする事故が起きています。事前に発生した事故の教訓と再発防止対策がされておらず問題視されています。

全国的に公園や施設の遊具には、安全基準を満たしていない遊具が存在すると言われています。また、遊具は経年や雨風により劣化し、怪我や事故につながる危険も高まっていきます。そのような遊具を早期に発見し、重大な事故につながる危険を取り除くためには、的確な点検が必要とされています。

糸魚川市が管理する「公園」「保育園、幼稚園」「小学校」等の遊具について、どのように維持管理を行っているか伺います。

２　糸魚川市役所における喫煙所の適正な位置について

平成３０年７月に「健康増進法の一部を改正する法律」が成立し、令和元年７月１日から第一種施設として区分される学校や病院などの、子どもや患者などが主として利用する施設や、行政機関の庁舎などにおいては、敷地内禁煙が義務づけられ、令和２年４月１日に法律が全面施行されました。この法律は望まない受動喫煙の防止を目的としており、多数の者が利用する施設等の区分に応じ、当該施設等の一定の場所を除き喫煙を禁止するとともに、当該施設等の管理について権原を有する者が講ずべき措置等について定めるとされており、公共の場における喫煙の規制を強化する内容となっております。

公共の施設における喫煙の制限では、特に子どもや患者等に配慮が必要とされ「学校、児童福祉施設」「病院、診療所」「行政機関の庁舎」等の第一種施設では、多くの人が利用する施設において、原則として喫煙を禁止することが定められています。健康増進法の一部を改正する以前は、糸魚川市役所庁内にも喫煙所が設置されていましたが、令和元年７月１日の施行から市役所及び市民会館等の敷地内において、原則禁煙の措置が取られてきました。

また、この法律では、屋外で受動喫煙を防止するために必要な措置が取られた場所に喫煙場所を設置することができるとなっています。現在の糸魚川市役所において喫煙できる場所は、ありません。市役所職員はもとより来庁者、市民会館利用者等の現状を鑑みれば、喫煙できる場所の設置が必要と感じます。市の方針や条例に基づき適切な場所に設けられ、周囲への配慮が求められる現状をどのように捉えているか、糸魚川市のお考えを伺います。

⑨ 新 保 峰 孝　１　人口減少・少子高齢化対策について

⑴ 日本の人口が減少し続け、糸魚川市においても人口減少、少子高齢化が進んでいるが、原因をどのように考えているか。

⑵ 人口減少が進む中で岡山県奈義町のように、人口を維持するために子供を産み育てる環境づくりとしての子育て支援施策、住む環境づくりでの住宅施策、魅力ある教育、働く環境づくりとして子育て世代の柔軟な就労の場づくりに取り組んでいる自治体もある。子育て世代の視点、高齢者の視点等、町民の視点を大事に取り組んでいるのではないかと思うが、このような施策についてどのように考えるか。

⑶ 当市の子育て支援策の一つとして、子育て世代の視点で学校給食費の無料化を検討すべきではないか。

⑷ 高齢化が進む中で、自動車運転免許返納後の移動手段をどのように考えているか。

⑸ 年をとっても、病気になっても、市内のどこに住んでいても安心して暮らせるまちづくりの視点から、公共交通網等の維持をどのように考えているか。

２　入札改革について

⑴ これまでの入札制度改革と入札制度の現状をどのように捉えているか。

⑵ 予定価格と落札額、落札率の現状、あり方をどのように考えているか。

⑶ 入札が適正な競争となるよう入札制度改革を進めているか。

⑷ 落札後、下請けに出すことをどのように考えるか。落札後の状況を把握しているか。

⑸ 入札制度が、企業グループ等に有利であるようなら改善すべきではないか。

３　地域医療構想と糸魚川市の医療について

⑴ ＪＡ新潟厚生連病院の経営赤字問題は、厚生連だけでなく県立病院も同様であり、安倍内閣以降の医療費削減を求める国の政策に起因する。日本はＯＥＣＤ（経済協力開発機構）加盟３８か国中の医師数では３４位となっており、先進国の中では、医師の少ない国となっている。

　新潟県の医師数は、人口１０万人当たりでは４７都道府県中最下位クラスだと思うが、国の医療政策をどのように捉えているか。

⑵ 新潟県では医師の絶対数が足りないため、医療の必要度が高い高度救命救急医療の病院に医師の集中が起きている。その結果、新潟市、長岡市、上越市、新発田市などで医師の増加、他の市町では減少していると言われている。どのように捉えているか。

⑶ ＪＡ新潟厚生連病院の経営再建に関連して、糸魚川市内の医療体制が弱体化することは避けなければならないと考える。どのようにお考えか。

⑷ 交通網が分断される災害時において、医療確保が重要になると考えるが

どのようにお考えか。

(5) （仮称）上越・糸魚川沖地震ではどのような被害想定となっているか。
また、どのような体制で対応するか検討されているか。

⑩ 加 藤 康太郎 1 新しい「県立高校の将来構想」について

策定当初の予測を上回る急激な人口減少に加え、不登校児童生徒数の増加、広域通信高校への進学者増加などに見られる生徒の学習ニーズの多様化、遠隔教育の取組推進など、県立高校を取り巻く環境が大きく変化しており、新潟県教育委員会では、来年度からの１０年間を対象にした、魅力と活力ある学校づくりの中長期的なビジョンである、新しい「県立高校の将来構想」の公表を、令和７年３月に早めることとしました。

今後の学校・学科のあり方について、中長期的な計画を検討するため、令和６年１１月２７日、第６回「県立高校の将来構想」策定有識者会議が開催され、「県立高校の将来構想」の案を示し、この中で、１０年後の２０３４年度には、中学校を卒業する生徒数の推計などをもとにした、適正な県立高校の数や学級数の試算が示され、高校は、来年度の８６校から、２０３４年度には６４校へ、県内全体で２２の県立高校が減少し、学級は、来年度の３１４から、２０３４年度には２２５へそれぞれ減る（上越エリアで、１２学級減の２７学級）という試算を明らかにしています。県教育委員会の佐野教育長は、「生徒や保護者、各地域に大きな影響が出るが、教育の質を維持するためにも、ある程度集約していくことはやむを得ないと考えている。県が置かれている状況や将来的な生徒の人数などを各地域で説明していきたい」として、１２月５日から、各地域での説明会（当市においては、１２月１５日開催）やパブリックコメントを実施したうえで、来年２月の有識者会議に再度、案を示すことにしています。

花角知事も、１１月２８日の定例記者会見において、「このままだと子どもたちの学びを支えていくという意味で難しい」と危機感を示し、「できるだけ地域の身近な所に高校がある環境をつくっていきたいし、通う足への支援も考えなければならない」と話し、令和７年度からの県の最上位計画である「県総合計画」の素案では、児童・生徒数の減少を見据えた教育環境の整備を課題の一つに掲げ、小規模校であっても、デジタル技術を活用して遠隔で授業が行えるような取組が重要だとしています。

また、あわせて、各高等学校において策定したアドミッション・ポリシー等をもとに、中学生が自身の興味関心や適性等を踏まえ、より主体的に高等学校を選択できるようにすることを目指し、令和９年度入学者選抜から新しい制度に変更されます。

当市においては、第３次糸魚川市総合計画において、令和４年度から、市内３高校への地元からの進学者の割合が減少傾向となっていることが課題と

して挙げられ、施策として、高校の魅力化推進を掲げ、多くの生徒が行きたい、保護者が通わせたいと思う高校を目指して、地域、行政が高校と連携して、地域人材育成のための支援と、市内３高校それぞれの特色を生かした、事業の推進を図ってきましたが、令和９年度から、糸魚川白嶺高校の募集学級数が、３クラスから２クラスとなる見込みです。

(1) 「スクールミッション」、「新しい普通科」の設置、産業高校の「キャンパス制」の導入、「遠隔教育配信センター」（令和８年度）の開設、「セルフデザインハイスクール」（新たな定時制・通信制）など、多岐にわたる魅力と活力ある学校づくりに向け示された新しい「県立高校の将来構想」（案）についての所見を伺います。

(2) 「高等学校等入学状況調査報告書」（令和６年１１月／新潟県教育委員会刊行）も踏まえ、新しい「県立高校の将来構想」の策定に向けて、新潟県教育委員会と、市内３高校のあり方について、協議・連携をしていく考えはあるか伺います。

(3) ０歳から１８歳までの「子ども一貫教育基本計画（第３期）」の思春期後期（高校生）における推進にあたっても、市内３高校の今後の存続が大きく影響すると考えます。新しい「県立高校の将来構想」のもとでも、市内３高校を堅持していく考えは変わらないか伺います。

(4) 「高校を核とした地域人材育成事業」（総務省の地域おこし協力隊事業を活用した高校魅力化・産学官コーディネーターの配置）について、市内３高校への取組実績と評価（検証）を伺います。

(5) 新しい「県立高校の将来構想」を進めていくうえで、市内３高校の魅力と活力ある学校づくりを支援・公民連携する「コンソーシアム体制」の構築は必須と考えます。「コンソーシアム体制」の構築・運営のみならず、大学のサテライトキャンパス等の高等教育の誘致（地方創生２．０）も視野に入れた「政策監」、または、「産官学金労言推進企画幹」を採用する考えはないか伺います。

(6) 糸魚川高校に自習室が設置されましたが、令和４年度の重点施策として、教育の推進で掲げられた「公営塾」開設に向けた取組状況を伺います。

⑪ 阿 部 裕 和　１　未満児保育の体制について

(1) 未満児保育対象者のうち、未満児保育を希望される件数及び割合と受入状況について、０歳児、１歳児、２歳児それぞれお聞かせください。

(2) 希望する保育園に入園できない事案がありますが、そういった保育園は何か所あるのか、入園できない理由も併せてお聞かせください。

(3) 希望する保育園に入園できない事案が起こっていることについて、市としてどのように考えておられるか、見解をお聞かせください。

(4) 保育士確保へ向けた取組をお聞かせください。

(5) 保育士の業務改善へ向けた取組をお聞かせください。

(6) 保育所等の民営化の検討（あり方検討）の進捗状況をお聞かせください。

2　特別養護老人ホームの存続について

市内には４つの特別養護老人ホームがあり、１１月１３日に開催された市民厚生常任委員会委員会協議会では各法人・施設の理事長、施設長と現状と課題について共有することができました。

その中で、施設整備の課題、職員に関する課題、経営に関する課題と、大きく分けて３つの課題を抱えていることが分かりました。

これまでも市は各施設に対して支援をしていますが、介護現場を取り巻く状況は今後さらに厳しくなる見通しであり、このままサービスを提供していくことは困難になることが予想されます。

委員会協議会の中では、法人理事長より、今後「統合」についても考える必要があると話がありました。

特別養護老人ホームは終の棲家としての役割も果たしており、介護を必要とする方が安心して生活できる環境を提供することは、家族の負担軽減にもつながり、生活を送るうえで、双方にとって大きな安心感につながっているものと考えています。

運営は社会福祉法人でありますが「市民の生活を守る」という点では、市も一緒になって取り組んで行く必要があると考えますが、これから市としてどんなことができると考えているか伺います。

3　書かないワンストップ窓口の推進について

(1) 窓口業務改善に向けた取組の中で、窓口ＢＰＲアドバイザーを派遣し改善を図られましたが、どんな内容であったか、また効果はいかがだったかお聞かせください。

(2) ＤＸ推進は推進リーダーが中心となって進めているとところですが、業務フローや効率性の向上など、業務改善につながる変革はあったかお聞かせください。

(3) お悔やみコーナー（お悔みワンストップ窓口）設置後の手続き等で生じたメリット、デメリットについて、利用者側、職員側それぞれお聞かせください。

(4) 出生ワンストップ窓口設置に向けた試行実施で見えてきた課題をお聞かせください。

⑫ 渡 辺 栄 一　1　観光産業への活性化策について

当市はユネスコ世界ジオパークに認定されており、ジオパークやヒスイ海岸といった観光資源が豊富と思われている。さらに当市へ誘客させる方策について伺う。

(1) 新型コロナ感染症の５類への移行後、当市を訪れる観光客の動向はどの

ような状況にあり、また、どのように分析しているか。

(2) 鉄道の各路線及び大糸線増便バス等の利用状況について、市の評価を伺う。

(3) 来年４月１３日から１０月１３日まで開催の大阪・関西万博において、ヒスイ原石を展示するとのことだが、効果的な展示方法の工夫をどのように考えているか。

(4) 市内スキー場に対して、通年での利用促進策を進めて行くためには、どのような考えがあるか。

(5) 高浪の池の利用者の動向について、今後の見通しをどのように捉えているか。

(6) ジオエリアでもある月不見の池は、現状のままでよいと考えているか。

(7) マリンドリーム能生等を含む道の駅エリアの展望について、どのように考えているか。

２　農業を取り巻く環境について

糸魚川市の自然環境を生かした、農業のブランド化が進む可能性があり、地元産品を高付加価値化し、都市部への販路を拡大する取組が重要と思われる。しかし、一方では、耕作条件の悪い農地では、新たな担い手が見つからない場合や耕作者の高齢化が顕著となっている。市の考えを伺う。

(1) 糸魚川産のお米について、味や品質をどのように捉えているか。

(2) 後継者不足や効率化の課題解決に寄与するとされるスマート農業の導入についての課題は何か。

(3) 販路を拡大させるための方策は、どのようなルートを考えているか。

(4) 用水管理や畦畔の草刈りの負担軽減策を考えているか。

(5) 農業所得を上げるにはどのようなことが有効と考えられるか。

３　当市の諸課題について

(1) （仮称）「駅北子育て支援複合施設」の建設予定地にある旧東北電力ビルの解体工事は、４回目の入札結果も不調とのことであったが、今後の展開をどのように行うのか。

(2) 糸魚川総合病院に対して、今後どのような支援を行っていくのか。

(3) 人口減少と高齢化が課題となっているが、当市の人口減少対策プロジェクトとしては、どのような提言を考えているのか。

(4) 市内には、高等学校卒業後の進路として、専門学校等の設立が切望されるが、見通しはいかがか。

(5) 今冬は、降雪量が多いとの予報であるが、消雪パイプの不具合は解消されていると判断してよいか。

(6) 今後、政府も物価高騰や光熱費等を緩和させる政策を行う予定のようだが、市としての考えはあるか。

⑬ 田 原 洋 子　１　教育相談センターと適応指導教室ひすいルームについて

糸魚川市ホームページよると、適応指導教室ひすいルームは「不登校状態にある児童生徒に対して、情緒の安定や人間関係等の改善を図りながら、再登校に向けた相談・支援を行っています」とあります。

糸魚川駅日本海口、寺町２丁目にある糸魚川市教育相談センターは、１月１日に発生した能登半島地震で液状化の影響を受け、建物に入ると、床の浮き沈みがあるため、乗り物酔いをしたように気分が悪くなり、駐車場も地面が砂を吹き出したり波打っています。

このため、現在、教育相談センターは立入りが制限され、ひすいルームは令和６年１月から糸魚川市民図書館で開設されています。

隣に体育館があることから運動ができる、図書館で好きなだけ本が読めるというメリットがありますが、図書館は静かな環境であるため、会話や物音に気を使い、図書館の一部を間借りしているという感は否めないと思われます。

これらを踏まえて、以下の点について伺います。

(1) 教育相談センターで受けていた教育相談はどこで行っていますか。

(2) ひすいルームに通っている児童、生徒は何人いますか。

(3) ひすいルームに通っていた児童、生徒は再登校、進学につながっていますか。

(4) ひすいルームの糸魚川市民図書館での開設は一時的なものですか。それとも糸魚川市民図書館内に完全に移転する考えですか。

(5) 図書館内のひすいルームのエリアは、ひすいルームだけが利用できる状態となっていますか。

(6) 被災した教育相談センターは修繕をするのですか。

(7) 糸魚川市民図書館の他に移転先の候補の検討はされましたか。

(8) 糸魚川市民図書館内でひすいルームを開設していることで不都合はありませんか。

２　糸魚川市のキャンプ場について

糸魚川市は山も海もある豊かな自然を生かして、各所にキャンプ場があり、市外からも多くの方が利用されています。

私は２０２２年６月定例会の一般質問で「糸魚川市内にあるキャンプ場の料金見直しと予約方法について」取り上げ、料金設定の見直し、ネット予約の導入を提案しました。

農林水産課が所管する、海谷三峡パーク、雨飾山麓しろ池の森、不動滝いこいの里キャンプ場は今年度から試験的に「キャンプ場環境維持協力金」という形でテント１張り５００円、利用者１人１００円を鉄製のボックスに投入してもらう形を導入しました。

これらを踏まえ、キャンプ場について、その後どう検討され、改善された

のか、以下の点について伺います。

(1) 美山キャンプ場の担当課を生涯学習課から、クラブハウス美山を管理している商工観光課へ移管と、ネット予約は検討しましたか。

(2) ヒスイ峡キャンプ場のネット予約、ヒーリングガーデンたかなみの携帯電話の電波は入るようになりましたか。

(3) 海谷三峡パーク、雨飾山麓しろ池の森、不動滝いこいの里の「キャンプ場環境維持協力金」はどのくらい集まり、使い道はどのようにしますか。

(4) 不動滝いこいの里キャンプ場の盛り土が今のテントより小さく、微妙に斜めになっていてテントを張りにくい。トイレの目隠し塀があるが、男性が用を足している後ろ姿が見えてしまうのは改善すると答弁がありましたが、現状はどうですか。

(5) 不動滝いこいの里キャンプ場の池が埋め立てられたのは何故ですか。

(6) 荒崎キャンプ場の水はけのよくないサイト、サイトの番号が分かりにくい、野生動物が荒らす被害について、管理はどのように改善しましたか。

(7) 高ノ峰プラトーがリニューアルオープンしましたが、どのようにリニューアルされ、利用者数や評判はどうですか。

3　各地区の交流と活性化について

毎月発行されている公民館だよりは、各地区内に全戸配布され、糸魚川市ホームページでダウンロードでき、月ごとに、何が、どこで、何時から開催されているか一覧は出ていますが、公民館を紹介するページに、各公民館が日々の情報発信しているＳＮＳのリンク先は掲載されていません。

公民館事業の中には参加者を地区で限定しているもの以外は、どの地区の方でも参加できるものがあり、西海地区公民館「ふるさとウォーク」や、上早川地区公民館の「不動山ハイキング」、下早川地区公民館の「越後八十八か所めぐり」のように、地区外からの参加者が多い人気の事業もあります。

また、中学校が統廃合されたことで、それまで中学校の文化祭で展示されていた地区の皆さんの作品を発表する場所がなくなり、地区文化祭として公民館で開催されている地区があります。作品を展示されている方は、地区の方はもちろん、地区外から多くの方が観に来られることが作品へのモチベーションとなり、地区外にも同じ趣味を持つ仲間ができる利点もあります。

公民館だけではなく、地域おこし協力隊、集落支援員、地域づくりプランと、様々な角度の地域活動があり、公式ＬＩＮＥ配信、ＳＮＳ更新と情報発信に力を入れている地区もあります。

地区それぞれの活動が糸魚川市全体の活性化につながるのではないでしょうか。

これらを踏まえて、以下の点について伺います。

(1) 各公民館のページに、公式ＳＮＳをリンクすることはできませんか。

(2) 糸魚川市ホームページの「地域の活動紹介」のページにリンク切れや、

ページ管理者の交代などで更新されていないアカウントがありますが、最新の情報ではないのは何故ですか。

(3) 各イベント参加をネット予約できるようにできませんか。

(4) 地域づくりプランで発行した冊子をフォッサマグナミュージアムなどで販売はできませんか。

⑭ 古 畑 浩 一　1　市内中学校いじめ事件に対する学校現場及び教育委員会の対応について

(1) いじめ・不登校の推移と現状。対応はどうか。

(2) タブレット紛失事件に端を発した一連のいじめ事件の概要と教育委員会、学校側の対応に問題がなかったか。

(3) 総務文教常任委員会では、重大事態ではないと報告されたが、一転、重大事態とされ追加調査とされたが、その経緯と現状についてお聞かせください。

2　旧東北電力ビル解体工事４度の入札不調はどういうことなのか

(1) 不調の原因は何か。

(2) 本年６月議会で当初見込５，６００万円を９，８００万円に大幅増額したのになぜか。

(3) 総務文教常任委員会では、解体工事の増額補正は行わないと市長は明言されているが信用していいのか。

(4) 駅北子育て支援複合施設の建設日程に支障ないか。また建設費、年間維持管理費等、増額のおそれはないか。

3　市長選出馬について

来春、行われる市長選挙について、１２月になっても進退を明らかにしないのは、余りにも無責任と思われます。進退を明確にすべきと思いますがどうか。

令和６年第４回定例会会議録

第１号（１２月２日）

令和６年第４回糸魚川市議会定例会会議録　第１号

令和６年１２月２日（月曜日）

議事日程第１号

令和６年１２月２日（月曜日）
〈午前１０時００分　開議〉

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　会期の決定
日程第３　　行政報告
日程第４　　所管事項調査について
日程第５　　議案第８１号
日程第６　　議会運営委員会委員の選任について
日程第７　　議案第８２号から同第８９号まで
日程第８　　議案第９０号から同第９９号まで
日程第９　　議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号まで
日程第10　　議案第１０３号
日程第11　　請願第５号

本 日 の 会 議 に 付 し た 事 件

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　会期の決定
日程第３　　行政報告
日程第４　　所管事項調査について
日程第５　　議案第８１号
追加日程第１　議長の辞職許可について
追加日程第２　議長選挙
日程第６　　議会運営委員会委員の選任について
追加日程第３　議席の一部変更について
日程第７　　議案第８２号から同第８９号まで
日程第８　　議案第９０号から同第９９号まで
日程第９　　議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号まで
日程第10　　議案第１０３号
日程第11　　請願第５号

〈応招議員〉　１８名

〈出席議員〉　１８名

１番	利根川　正　君	２番	阿部裕和　君
３番	横山人美　君	４番	新保峰孝　君
５番	松尾徹郎　君	６番	伊藤麗　君
７番	田原洋子　君	８番	渡辺栄一　君
９番	加藤康太郎　君	１０番	東野恭行　君
１１番	保坂悟　君	１２番	田中立一　君
１３番	和泉克彦　君	１４番	宮島宏　君
１５番	中村実　君	１６番	近藤新二　君
１７番	古畑浩一　君	１８番	田原実　君

〈欠席議員〉　０名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長	米田徹　君	副市長	井川賢一　君
総務部長	大嶋利幸　君	市民部長	渡辺忍　君
産業部長	五十嵐博文　君	総務課長	嶋田猛　君
企画定住課長	中村淳一　君	財政課長	猪又悦朗　君
能生事務所長	高野一夫　君	青海事務所長	仲谷充史　君
市民課長	川合三喜八　君	環境生活課長	木島美和子　君
福祉事務所長	山岸千奈美　君	健康増進課長	林壮一　君
商工観光課長	大西学　君	農林水産課長	星野剛正　君
建設課長	長﨑英昭　君	都市政策課長	内山俊洋　君
会計管理者 会計課長兼務	山田康弘　君	ガス水道局長	山口和美　君
消防長	竹田健一　君	教育長	鷲本修一　君
教育次長	山本喜八郎　君	教育委員会こども課長	室橋淳次　君
教育委員会こども教育課長	古川勝哉　君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務	磯貝恭子　君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ケ原考古館長兼務 市民会館長兼務	嵐口守　君	監査委員事務局長	陶山智　君

〈事務局出席職員〉

局　　長　磯　貝　　直　君　　次　　長　伊　藤　　伸　一　君
係　　長　水　島　　誠　仁　君

〈午前１０時００分　開議〉

○議長（松尾徹郎君）
　おはようございます。
　これより、令和６年第４回糸魚川市議会定例会を開会いたします。
　欠席通告議員は、ありません。
　定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

　日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（松尾徹郎君）
　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。
　会議録署名議員には、１０番、東野恭行議員、１８番、田原　実議員を指名いたします。

　日程第２．会期の決定

○議長（松尾徹郎君）
　日程第２、会期の決定を議題といたします。
　１１月８日、１１月２５日及び１１月２９日に議会運営委員会が開かれておりますので、その経過と結果について、委員長の報告を求めます。
　宮島　宏議会運営委員長。
　〔「議長」と呼ぶ者あり〕
○議長（松尾徹郎君）
　宮島委員長。　〔１４番　宮島　宏君登壇〕
○１４番（宮島　宏君）
　おはようございます。
　去る１１月８日、１１月２５日、１１月２９日に議会運営委員会が開催されておりますので、その経過と結果について、ご報告いたします。
　１１月２５日の議会運営委員会では、以下のことについて協議されています。
　本日招集されました第４回市議会定例会に提出されました議案は、配付の議案書のとおり、専決処分の承認が１件、条例の改正が１４件、令和６年度補正予算が４件、人事案件が１件、その他が７件で、合計２７件のほか、諮問案件が４件であります。

このうち、議案第８１号の専決処分の承認については本定例会初日に、また、議案第１０７号、教育長の任命につきましては定例会最終日に、いずれも委員会付託を省略し、即決にてご審議いただくこととしました。

その他の議案につきましては、それぞれ所管の常任委員会に付託の上、審査することで、委員会の一致を見ております。

また、人権擁護委員候補者の推薦についての諮問４件については、定例会最終日に、いずれも委員会付託を省略し、即決にてご審議いただくことにしました。

本日の議会初日の議事日程については、１１月８日の全員協議会で松尾議長の辞職表明がなされたことを受け、議案第８１号、専決処分の承認の後、議長の辞職許可及び議長の辞職が許可された後、議長選挙を日程に追加することとしております。

その後、議会運営委員の選任を行います。１１月８日に和泉議員が議会運営委員を辞任され、議会運営委員が１名欠員となったことから、委員の補充を行いたいものです。

議会運営委員の選任後、休憩を取り、議会運営委員会を開催することとしております。

１１月８日の議会運営委員会においては、委員長から、委員長を辞任したいとの申出がありましたので、新しい委員を加えた上で、委員長の辞任許可、新しい委員長の互選を行う予定としております。

その他の議案については、それぞれ所管の常任委員会へ付託の上、審査することで委員会の一致を見ております。

次に、本定例会の会期につきましては、本日から１２月１９日までの１８日間とし、日程は、お手元配付の日程表のとおりであります。

また、一般質問につきましては、期日までに申入れがあった方は１４名であります。これを初日５人、２日目５人、３日目４人で行うこととしております。これによりまして、一般質問の４日目、１２月１１日は休会といたしております。

なお、一般質問の申出があった方を１１月２５日の議会運営委員会では１３人とし、日程を初日５人、２日目５人、３日目３人としておりましたが、期日までに口頭で議会事務局局員に通告した１人が、通告者のリストから漏れていたことが分かり、２９日の議会運営委員会において、リストから漏れていた１人の一般質問も認め、日程を、初日５人、２日目５人、３日目４人と変更したものであります。

次に、請願の取扱いについてご報告いたします。

請願第５号、「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書の採択を求める請願１件が、受理されております。

こちらは、総務文教常任委員会に付託の上、審査願うことといたしております。

委員長報告につきましては、総務文教常任委員長、建設産業常任委員長、市民厚生常任委員長及び議会運営委員会委員長から、閉会中の所管事項調査について、その経過を報告したい旨の申出がありますことから、本日の日程事項としております。

令和６年度の補正予算及び令和７年度予算議会費の要求につきましては、予算要求段階の内容について事務局から説明があり、委員からは質疑がございませんでした。

次に、議会運営について申し上げます。

議会運営については、１１月８日と１１月２５日の両日に、ハラスメント事案についてほかを協議しております。

最初に、１１月８日の内容について、ご報告いたします。

１１月８日の議会運営委員会では、旧清新クラブが、当時、同クラブに所属していた伊藤　麗議員の市長選立候補表明に伴って行った対応や発言が議会運営委員会内につくられた調査チームによって、ハラスメントであると認定されたことを受け、宮島委員長と和泉克彦議員から、陳謝とともに、その責任を取って、それぞれ議会運営委員会委員長と委員を辞任したいという意向が述べられました。

１１月２５日の議会運営委員会では、１１月８日のその他の項目で、委員から、議長と副議長となった者は会派から抜けたほうがよいのではないかという提案に対し、委員からは賛成という意見のほか、２人だけの会派の場合、このルールを適用すると、会派として成立できなくなってしまうので、反対という意見がございました。この件につきましては、継続審議となっています。

本日配付の日程表にあります１２月５日の議会運営委員会の開催につきましては、新委員が加わり、新委員長の体制となった議会運営委員会で協議することで意見の一致を見ております。

ほかにも議論が交わされておりますが、報告は割愛させていただきます。

以上で、議会運営委員会委員長報告を終わらせていただきます。

○議長（松尾徹郎君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

おはようございます。

委員長、今ほどは、報告ありがとうございました。

気になるところ１点だけお聞かせください。

ハラスメント防止条例、これによって、議長と委員長が役を降りるという今まで糸魚川市議会にはない事態が生じてしまいました。これをさらに混乱させるつもりはございませんが、その責任の所在ということにおきまして、一応、役を辞したからという形にはなっているものの、

、こういったものを今行っておかなければ、何となくうやむやになるんではないかと思いますけど、その点、委員会の中では話は出ませんでしたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島委員長。　〔１４番　宮島　宏君登壇〕

○１４番（宮島　宏君）

ご指摘いただき、ありがとうございます。

今ご質問の件については、これまでの議会運営委員会で、委員の方から、特にそのことについて

触れる発言はございませんでした。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

これは、私も議員の一人として大きな責任を負うものでありますけども、そういうことではですね、いかんと思うんですよ。やはり委員長は、あるいは議長が、そのことを皆さんに諮るということは、今回は難しかったでしょうけども、　　ハラスメント防止条例に抵触してしまって役を辞するような事態を起こしてしまったという　　を、いま一度みんなでよく話し合うべきではないかと思うんですよね。

委員長は、委員会の中で出されたことしか報告できないということではありますけれども、やはり委員長の責任において、それをどうお感じになってるか。また、新しい議会運営委員会にどのような申し送りをしたいとお考えになっているか。あとですね、二度とハラスメントを起こさないんだといったところをやはり糸魚川市議会として市民の皆さんにお伝えする必要があると思うんですけども、その点はどのようにお考えか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島委員長。　〔１４番　宮島　宏君登壇〕

○１４番（宮島　宏君）

ご質問いただき、ありがとうございます。

田原議員も、冒頭お話しになったように、この委員長報告は、委員会で行われた発言しかご報告できません。いろいろ考えるところはもちろんございますけれども、この場では発言ができませんので、お許しください。

〔「申し送りは」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島委員長。　〔１４番　宮島　宏君登壇〕

○１４番（宮島　宏君）

申し送りについては、私が今、委員長ですけども、次の新しい委員長の間でいろいろ相談がなされるものと思います。ただ、それは新委員長の考え方にもよると思いますので、それ以上のことは、ここでは申し上げられないと思います。当然、議会運営委員会は継続していくものだと思いますので、ここでハラスメントは全部解決、終わりと。そういうことではないのは、言うまでもございません。

○議長（松尾徹郎君）

田原議員に申し上げます。

委員長報告に対する質疑にとどめるよう、あくまでもお願いいたします。

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

ハラスメント防止条例が、今一番の糸魚川市議会の課題というかですね、問題になったわけです

よ。なので、私の質問を遮ることは、やめていただきたいと思います。

ハラスメント防止条例ね、今、議長にいろいろとご注意を受けたんで、私、何を言おうとしたかちょっと分かんなくなってしまって申し訳ないんですけども、いろいろとその問題点が指摘されておりましたよね。これは委員長のほうで把握されてると思うんですけども、これから改善をしていく必要があると思います。場合によったら、責任を感じて、一度これ、取りやめにしてしまうということも一つの責任の取り方だと思うんですが。私が思うところは、議長に権力といいますか、いろんな力が集中しているのではないか、そこが問題ではないかということが指摘をされておりました。その点、委員会の中でどのように協議されたのかなといったところ、これ早くやらないとですね、今のまんま行ってしまうということは、また今回と同じような事態を招いてしまうことになるわけですから、　　というふうに市民に取られるんじゃないでしょうか。これ以上、答弁を求めるのは大変だ、答えにくいということであれば、ここにとどめたいと思います。

終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島委員長。　〔１４番　宮島　宏君登壇〕

○１４番（宮島　宏君）

田原議員から、今ほどあった質問の前段、ハラスメント防止条例にある種々の問題、これは、議会運営委員会でも、これまでかなり長い時間かけて協議しております。特にハラスメントのアンケートをするかどうか。するとしても、ハラスメント防止条例に種々の問題点があるということは、この３月以降、運用している中で非常に明らかになっている部分がございます。これは、これまでの議会運営委員会でもそういった指摘が委員からされておりまして、まず、ハラスメント防止条例の改定に向けて、議会運営委員会で協議が必要ではないかと、そういった動きになっております。

○議長（松尾徹郎君）

ほかにございませんか。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午前１０時１８分　休憩〉

〈午前１０時２６分　開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

○議長（松尾徹郎君）

ほかにご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

本定例会の会期は、本日から１２月１９日までの１８日間とし、委員長報告のとおり進めたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、本定例会の会期は、本日から１２月１９日までの１８日間と決定いたしました。

なお、会期中の会議予定につきましては、お手元に配付いたしました日程表のとおりでありますので、ご承知願います。

日程第３．行政報告

○議長（松尾徹郎君）

日程第３、行政報告について、市長から行政報告の申出がありますので、これを許します。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

おはようございます。

令和６年第４回市議会定例会の招集に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、大変ご多用のところご参集いただきまして、厚くお礼申し上げます。

本定例会におきましては、条例改正や補正予算など２７件の議案についてご審議をお願いいたしたいものでありますが、この機会に２点について、ご報告申し上げます。

初めに、令和６年度の除雪体制について、ご報告申し上げます。

気象庁が発表した最新の１２月から２月までの３か月予報では、冬型の気圧配置が強まり、降雪量は平均並みか多いと見込まれると発表されるなど、厳しい冬となることが予想されております。この予報を踏まえ、例年以上の降雪に備え、万全の除雪体制を構築し、安全・安心な冬期交通の確保に努めてまいります。

次に、大阪・関西万博におけるヒスイ展示について、ご報告申し上げます。

来年４月から開催される２０２５年日本国際博覧会において、会場内の静けさの森と、国賓をお迎えする迎賓館に、糸魚川産出のヒスイの原石が展示されることとなりました。

また、新潟県催事では、ヒスイや糸魚川真柏を展示するとともに、当市の食の魅力についてもＰＲすることといたしております。

今後、県や日本国際博覧会協会と連携をいたしまして、万博に向けた機運の醸成を図るとともに、万博を訪れる国内外の皆様をはじめ、関西方面からのさらなる交流人口、関係人口の拡大に向けて、糸魚川の魅力を積極的に発信してまいります。

以上、２点についてご報告申し上げました。

議会並びに議員の皆様から特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、招集の挨拶とさせていきます。よろしくお願い申し上げます。

○議長（松尾徹郎君）

これで、行政報告は終わりました。

日程第４．所管事項調査について

○議長（松尾徹郎君）

日程第４、所管事項調査についてを議題といたします。

本件については、閉会中、各常任委員会及び議会運営委員会が開かれ、調査を行っておりますので、その経過と結果について、委員長の報告を求めます。

東野恭行総務文教常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野委員長。　〔１０番　東野恭行君登壇〕

○１０番（東野恭行君）

おはようございます。

総務文教常任委員会では、閉会中に所管事項調査及び市外調査を行っておりますので、主な内容について、ご報告いたします。

まず、１１月５日に開催した委員会について、調査項目は、（仮称）駅北子育て支援複合施設整備事業についてであります。

冒頭、こども課から、施設の整備及び運営事業に係る優先交渉権者及び次点交渉権者の決定について、説明がありました。

委員より、旧東北電力ビル解体工事の入札状況について、この金額では難しいという現場の意見も聞く。見通しの甘さを認めるべきではないか。この土地を子育て支援複合施設に使うにしろ、使

わないにしろ、ビル解体には議会は同意している。今後どのように進めていくのかとの質疑に対し、米田市長より、不調が続いているが、入札行為の途中であり、金額の見直しはまだ早いと考えていると答弁がありました。

委員より、解体工事の入札の不調が続いた場合、優先交渉権者と協議する手法もあるのではないかとの質疑に対し、担当より、事務レベルでは様々な検討を進めているが、現段階では答えられないと答弁がありました。

委員より、ようやく施設の整備・運営案が示されたが、次点の案を見ることはできないのか。仮に、優先交渉権者が辞退した場合、議会は次点の案を知らないまま、これを認めることになるとの質疑に対し、担当より、今回、優先交渉権者の提案内容を示したが、次点となった提案には、事業者のアイデアなどが含まれており、募集要項でも基本的に公開しないルールとなっていることから、現時点では提示できない。優先交渉権者の協議が調わず、次点交渉権者との協議になった場合には提示することになると答弁がありました。

委員より、ＤＢＯで一番重要なことは、しっかりと１０年間運営できるかどうか、地域貢献や自主事業のプラスアルファに期待できるかという観点である。一時預かり保育を１９時まで行う提案など、地域へのメリットも感じられるが、この図面だけでは、設計、建設ありきの部分が見受けられる。運営に関する内容は示せていないのかとの質疑に対し、担当より、設計の契約等を結んだ後、早い段階で、市民説明会を開催したいと考えている。その中で、詳しい図面、運営内容などを示し、また、その場でも意見をいただければと考えていると答弁がありました。

委員より、当事業について、今後の議会との協議や議案などのスケジュールを問う質疑に対し、担当より、予算については、その年度ごとに必要となる予算の審議をいただくこととなる。また、令和８年６月に、工事請負契約の議決が必要になると考えていると答弁がありました。

次に、９月３０日、１０月１日に市外調査を行っておりますので、概要を報告いたします。

まず、９月３０日に視察した千葉県佐倉市のファシリティマネジメントについてでありますが、委員より、佐倉市の職員が、土地・建物・設備といったファシリティの見える化を図り、一元化・共有化することで、財産を持ち続けることが財政を圧迫していくという危機感を全職員の共通認識として取り組んできた。そういう精神的な部分、システム的な部分は、見習うべきところではないか。佐倉市が、いち早くファシリティマネジメントに取り組み、経費の最小化と施設の効用の最大化を図るなど、造って終わりということではなく、持続可能な良質な資産として、次世代へ渡していこうとする考え方は評価できるという意見。また、糸魚川市においては、職員数が少なく、いろいろな業務を１人で兼任している実情もあり、職員の配置についてもしっかり考える必要があるように感じたとの意見もありました。

次に、１０月１日の長岡市の視察でありますが、長岡市は、保育士などが常駐した子育て支援拠点施設を市内に幾つも整備しており、この整備・運営の状況と、駅北子育て支援複合施設の参考となる施設として、同市の「子育ての駅　てくてく」を調査しております。

委員より、「子育ての駅　てくてく」の建設費が４億８００万円で、今、糸魚川市が計画している施設は１２億４，２００万円。「てくてく」は１６年前に造られた施設で、図書スペースの機能がないこともあるが、かなりコストが低く抑えられているように感じた。また、「てくてく」の運営を直営としている事情について、実際は外注したいが、なかなか受け手がいないという話で、外

部委託の方向性は確認された。また、受益者負担のキャッシュレス決済も今後対応の方向であるなど、細やかな部分での利便性の向上も図られているとの意見がありました。

このほかにも意見等がありましたが、報告は割愛いたします。

以上で、所管事項調査報告を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

本件については、委員長報告のとおり了承することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、本件は委員長報告のとおり了承することに決しました。

次に、保坂　悟建設産業常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂委員長。　〔１１番　保坂　悟君登壇〕

○１１番（保坂　悟君）

おはようございます。

建設産業常任委員会では、去る１１月２０日に所管事項調査を行っておりますので、その内容について、ご報告いたします。

まず、糸魚川ジオステーションジオパル鉄道ジオラマ修繕委託契約不適合履行追完についてでは、担当より、これまでの経緯と今後の取組についての説明がありました。

鉄道ジオラマ修繕委託の経緯では、９月２６日、２７日の２日間と１０月２２日から２４日の３日間において、新型デジタルカメラカーのテスト走行を実施し、１０月３１日には、関係者立ち合いの下、株式会社ディディエフから新型デジタルカメラカーがジオパル納品後、担当課へ履行追完届が提出された。届出を受け、１１月７日に株式会社ディディエフ立ち合いの下、事務処理要領で定められている検査員として財政課の工事検査監が、検査を実施した。検査した結果は、昨年１１月に契約不適合として追完請求した内容を全て満たしていることから、１１月８日付で契約不適合履行追完検査済証を株式会社ディディエフへ交付し、一連の事務処理を終えた。今後については、引き続き、ジオパルスタッフの作業量の把握及び運用方法の改善により、ジオラマ運営の適正化を図り、一層の来場者へのサービス向上に努めていく。また、使用料や運営時間の見直し、同規模施設の運営方法等の調査研究、ジオラマ更新計画の検討や策定に取り組んでいくと説明がありました。

委員より、Ｎゲージ外側のレールで、新幹線車両の走行を希望するお客の対応についてどうする

のかとの質疑に、担当より、昨年の１２月の現地検査においても新幹線同士を走らせても接触しないということを確認している。お客様がどうしてもそこで走らせたいという場合でも、普通の規定の電車を走らせるようお願いしたいと思っているが、イベントなど特殊な場合には、要望に添うよう今後運用を検討していきたいと思っていると答弁がありました。

委員より、検査時のテスト走行において、Ｎゲージジオラマにて最大の９台を同時走行３０分間実施したのかとの質疑に、担当より、検査時には、約１５分から２０分間の走行を確認している。また、納入期間から検査日までの２週間という期間の中で不都合がなかったことをジオパルスタッフから確認していると答弁がありました。

委員より、現地視察の際に、モニター画面にノイズが入ったり一時静止する場合が見受けられた。ジオパルスタッフや関係者で検証したということだが、そのときに映像のノイズや一時静止は確認していないのかとの質問に、担当より、検査確認した際にもノイズなどは発生していた。しかし、今回追完請求しているのは、デジタルカメラの部分についてであり、基本的にはしっかり納品されている。また、ノイズ等が発生する事象は、車両のモーター、レールの状況等の様々な外的要因や、車両の劣化などにより見込んでいるものであり、それは許容範囲の中だということで引き受けたものであると答弁がありました。

このほかにも利用料金、施設の維持管理、施設運用等について多くの質疑がございましたが、報告は割愛いたします。

次に、糸魚川市地域公共交通計画（案）の策定についてでは、担当より、平成２９年３月に策定した地域公共交通網形成計画について、本年度が計画期間の最終年度となっており、新たに地域公共交通計画（マスタープラン）という形で素案を作成した。先日、公共交通協議会において、事業者、一般市民の方からもご意見をいただいている。建設産業常任委員会においても意見をいただきたいものであると説明がありました。

各委員より、鉄道、路線バス、高速バスを利用しやすくするための工夫や、タクシーやコミュニティバス、ライドシェア、自動運転車両等の導入などの二次交通、積極的な運転手確保策の推進、キャリア教育と交通業界の人材育成の連携、医療機関や福祉タクシー等の連携について多くの質疑等がございましたが、報告は割愛いたします。

次に、簡易水道の料金改定についてでは、担当より、資料を基に詳細な説明がありました。

委員より、特段の質疑はなく、説明内容は了承されております。

以上で、建設産業常任委員会の所管事項調査についての報告を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○１７番（古畑浩一君）

それでは質問させていただきます。

ただいまジオパルのね、鉄道ジオラマについて、いわゆる１年間遅れたわけですけどね。その検

査の結果、大丈夫なので引き取りますというふうなことでありましたが、これはやはり委員会の中でもかなり指摘されたと思いますが、いわゆる画面のちらつきですとか、また、私たちの見ている前で列車が走行しない、止まってしまう等の、何だろう接触不良みたいなのがあります。それから、モニターに対してだってそんなにきれいではありませんよね、映りが。そして、前回でも問題になりましたが、そのカメラカーのカメラは、基本的には純粋なものなのか。前年はね、前回はドローンの空中カメラの、ドローン用のカメラを流用してそこにつけたということで、かなりそれは目的外使用に当たるんではないかということでね、ちゃんと総務省等の許可が下りているのかどうか確認をしたのかどうかね、まずその辺の全体の考え方、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂委員長。　〔１１番　保坂　悟君登壇〕

○１１番（保坂　悟君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

今ほどのカメラの画像のちらつき、また車両が止まってしまう、またモニターがきれいでないという部分ですけれども、現地視察のときに、当然今おっしゃられた指摘のとおり、車両止まったり画像の乱れがありました。ただ、モニターの画像については、きれいだったという声もありましたので、そういう意見もあったということであります。

そこで、最後の純粋なカメラのものはどうかということで、それにつきましても委員会のほうでは、新しい、新規の車両ということで、カメラもデジタル化して、バッテリーも２両編成型のものにしてあって、大きなバッテリーをつけたということでありまして、ここが特徴的なのは、まだ新しい規格のものを今申請している段階で、春頃に、その申請が正式に通れば許可になりますし、またそれが不適合になると、その車両自体は使用が駄目になるというようなの回答をいただいております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○１７番（古畑浩一君）

委員長、やっぱりそこなんですよね。結局、検査が終了してないわけですよね。許可が下りるか、下りないかは、来春の話になると。それを現時点の中でさ、全部工事が終了したということに対して通るということはさ、これやっぱりあってはならんことだと思いますよ、ねえ。それはやはり委員会の中でしっかりと審議をしていっていただきたい。だから、受け取るなり完了の、いわゆる認めるなりは、猶予を持つべきでしょうね、来年の春まで。任期も私たち切れますけどね、そこまでいっぱいについて、やっぱりそこは監視する役目があると思います。

それから、もう一点なんですけどね、ここはディディエフの社長が来てたんですよ。ディディエフの社長さんというと、ずっとね、この問題について市民からの訴えがあって、私も携わってきましたけど、いわゆる観光協会、そこのジオパルの観光協会の職員に対するパワーハラスメント、それがもとで職員が辞めたりなんだりしてますよね。今回も工事具合、確認検査の状態を確認したい

って、一緒に行きたいって言ってたんですけども、やはり怖くて、ディディエフの社長が怖くてね、顔を見れなくて、私は遠慮させてもらいますということだったんだよ。

でさあ、保坂さんはね、特にこのパワハラ、ハラスメント条例を議会でも制定すればどうかといっただけの人ですよね、副議長時代にさ。あなたが委員長をやってね、この建設産業常任委員会では、今回は全然このハラスメント問題については一切触れてないんじゃないですか。それはやはり問題だと思うし、そういう問題のある業者を、しかも、今後メンテナンスのほうの管理運営として認めていくんでしょう。これ、おかしいんじゃないですか、行政も議会も。ハラスメントをやった被害者が、いまだ怖くてその社長の顔が見えないほどの精神的負担を感じているのにね、その社長が目の前にいるのに、たしか私、社長に対して、あなたパワハラについてはどう思うかというときにさ、委員長は止めましたよね、まあまあこの件は、今はそのときじゃないんで、あなた傍聴議員でしょということで止められました。じゃあその分、委員会ではちゃんとやってくれたんでしょうね、お聞きします。しなかったって話じゃないと思うんですよ。

それから、今度はもう一点なんですけどね、権現荘に関わる部分の審査、これね、やはり無償譲渡、無償譲渡って言ってきて、９，０００万つけてますよね。これは空き家で言えば、使用していない空き家や空き地などの不動産を、その希望する人へ無料で譲り渡すこと、いわゆるただなんです。これを無償譲渡っていうんです。

でだ、じゃあその場合ですよ、譲渡した場合、対価として代金を支払うのが一般的ですが、無償譲渡では、対価がゼロ円となります。法律的にはこのような行為は、譲渡ではなく譲与と呼ばれます。いわゆるね、法人が法人、行政だってそうですけど、法人に無償譲渡する場合、これは譲与税がかかってくるんですよ。おまけに９，０００万円の現金つきですよ。その辺の税制法上の問題、いわゆるただ、９，０００万つけてあげましたよ。あと知りませんで終わるんでしょうか。その辺について審査したかどうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂委員長。　〔１１番　保坂　悟君登壇〕

○１１番（保坂　悟君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

今ほどありましたディディエフの社長との中でのパワーハラスメントの問題であるとか、それ自体が、今回の現地視察等の協議題に入っておりませんでしたし、確かに古畑議員が傍聴議員としてそれに触れられていたのは私も確認して、今回は協議題と違うことなのでご遠慮くださいと言ったのも事実でございます。

正直言いまして、委員会のほうにも特段、被害者である方からの申入れであるだとか、ディディエフ側からのこういう問題があるだとかっていうのが正式に伺っておりませんので、それについては特段、今対応していないというのが現状でございます。

それから、権現荘につきましても、休憩中の報告で、今現状の報告はいただきましたが、９，０００万をつけて譲渡することについてとか、また、法人から法人への譲与という部分についての議論も、権現荘についての協議というのは全くございませんでしたので、ご報告いたします。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○１７番（古畑浩一君）

議長が主催されて、この間、片山元総務大臣、議会研修をさせていただきました。やはりその結果については責任を持つこと、これは議会としてね、議員として。それからやっぱりちゃんと調査すること、行政がいろんなことを執行する場合に、行政に対して監視役というのが、議員に対して大きな責務と言えます。

やはり先日ね、渡辺栄一さんが、やっぱり議員広報を出しました。この中でやっぱり書かれてますけどね、権現荘については総事業費１８億８，１００万円、資産価値４億１，８５０万円ですよ。これをただであげて、さらに９，０００万までつけてあげる。

でだ、もらったほうが、アッサンですか、それに対する税収ってのはね、これかかっていくでしょう。無償譲渡なのにね、不労所得ですよ、ただでもらったって言ったって。これ相当かかってくるんじゃないですか、資産価値から考えても。さらに９，０００万の現金をあげてるんですよ。そこまでは皆さんちゃんとやったでしょうね、調べたんですか。だけど、それを調べるように言うのが議会じゃないですか。

今回のさあ、パワーハラスメントの問題だって、最初から協議題に上げとけばいいじゃないですか、ディディエフの社長が来てるのに。パワハラをやった張本人がそこにいるのに、何でそれを委員会として項目に上げて調べなかったのか。これはね、保坂さん、どう考えても審査不足と言わざるを得ませんよ。

権現荘の話だってそうでしょう。大した話もしないで私の物言いが悪いからといって、委員会の中でつるし上げて、私に答弁の機会も言い訳する機会も与えずに、これ、つるし上げというんですよ。それも見事なパワハラです。それは注意して、今後そのことがないようにということで了解されたようなんで、それでいいですけど。

そういうことをやっぱり、もう私どもの任期も、あと僅かですから、そういうところを念頭に置いて、委員会審査、運営をしていっていただきたい。してない以上、委員長報告としては答えられませんからね。こちらのほうでは強く審査の要望をお願いいたしたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂委員長。　〔１１番　保坂　悟君登壇〕

○１１番（保坂　悟君）

古畑議員のご質問にお答えします。

ご質問というよりもご意見等というふうに受け止めました。先ほどもいろんな古畑議員のご指摘の部分につきましても、十分そういうご意見、また主張、またその経験値から来るいろんな思いっていうのはあるかと思います。委員長としましては、各委員に何かを制限したとか、何を提案しちゃいけないとかって言った覚えは一つもありませんし、委員のほうからそういった提言なり、また、古畑委員のそういうご指摘を捉えて、上がってくるものについては全然、何ていうかな否定したものでもございませんので、私は、私として行政から上がってきた協議にかけてほしいという内容に

ついて、まともにというか、素直に受け止めたことを、委員のほうに諮って、委員会審査をしてきたつもりでございますので、答えになってるかどうか分かりませんけども、そういう制約はかけていないということでご理解いただきたいと思います。

以上であります。

○議長（松尾徹郎君）

ほかに。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

よろしくお願いします。公共交通の仕組みの維持という点から伺いたいんですけども、運転士さんと担い手の方が、大変厳しくなってきているという状況において、委員会の中ではその点、どのような質疑があったのか、もう少し掘り下げてご報告いただければと思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂委員長。　〔１１番　保坂　悟君登壇〕

○１１番（保坂　悟君）

田原　実議員のご質問にお答えいたします。

先ほどの委員長報告の中で述べさせていただいたとおりでございまして、鉄道路線バス、高速バスを利用しやすくするための工夫、タクシーやコミュニティバス、ライドシェア、自動運転車両等の導入などの二次交通、積極的な運転士確保策の推進、キャリア教育と交通業界の人材育成の連携、医療機関や福祉タクシー等の連携についての質疑がありました。ここは質疑と報告述べましたけども、基本的には、公共交通計画（案）に対しての各議員からの意見というふうなことで、その回答につきましても、皆さんの意見を反映していくような形でのご回答がほとんどだったので、まだまだこれからいろいろ議論をされる計画でございますので、そこまでの議員の個々の質問に対して細かく回答したというものではございませんので、その辺ご了解いただきたいと思います。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

公共交通網の維持ですね、存続、大きな問題です。それで、それを果たすためには財源が必要ですよね。計画案の中に、そういった財源というものを盛り込んだ形で計画が示されたのかですね。示されてないとすれば、どういうふうにしてそれを確保するんですかというところになるんですけど、その点は委員会の中でいかがでしたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂委員長。　〔１１番　保坂　悟君登壇〕

○１１番（保坂　悟君）

田原　実議員のご質問にお答えいたします。

今回、財源という角度での質疑はありませんでした。むしろ、今回出された計画の中身、項目等について、これはどういう考え方なのかとか、ここはどういうふうに運用していくのかという、例えばホームページであるだとか、そういったところへのご指摘はございましたが、その財源に関わる根拠みたいなものを示すようにとか、その財源内訳について、国とか県とかからの関わりあるかとかという質問はございませんでした。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

委員会、一生懸命やっていただいてると思いますんで、財源についてはどうだというのは、もうこれでやめたいと思いますけど、それがなければですね、その計画も進まないわけですから、今後、そういったところを注意しながら進めていただければと、お願いいたします。

終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂委員長。　〔１１番　保坂　悟君登壇〕

○１１番（保坂　悟君）

田原　実議員のご指摘ありがとうございます。

行政のほうでは、その計画の中でいろんなものが事業化されていく中で、国・県等のメニューに合わせていろんな形で財源措置をされていくものと思います。

また、身近なものであるとか市が対応できる財源については、いろんな沿線自治体だとか、高速バスであるだとか、いろんなところの分野と協議しながら財政措置をしていくものというふうに考えております。

以上であります。

○議長（松尾徹郎君）

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

本件については、委員長報告のとおり了承することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、本件は委員長報告のとおり了承することに決しました。

次に、田中立一市民厚生常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田中委員長。　〔１２番　田中立一君登壇〕

○１２番（田中立一君）

市民厚生常任委員会では、閉会中に所管事項調査及び市外調査を行っておりますので、その内容について、ご報告いたします。

まず、１１月１３日の所管事項調査について、その主な内容について、ご報告いたします。

調査項目は、社会福祉施設の現状と課題についてであります。

担当課より、前段に開かれた委員会協議会において、介護保険事業の運営状況について資料が示され、糸魚川市の人口・高齢化率について説明があり、令和７年に７５歳以上の高齢者数がピークを迎える見込みである。要介護・要支援認定者数、保険給付費は減少傾向にあり、特別養護老人ホームの待機者数は、令和５年度で２３４人と１０年ほどで約半分になるなどの説明を受け、質疑を行いました。

委員より、要介護・要支援認定者数と認定率の推移についての質疑があり、平成２７年に約５００人近い要介護５の方が、現在では約２５０人と半減している要因についての質疑があり、推測の域になるが、要支援と介護にならないという意味でフレイル予防の取組をしている。また、介護が必要な状態になっても自立支援や重度化防止のためにリハビリテーション的なアプローチで関わる事業もやっている効果が出ていることが要因の一つと考えている。もう一つは、特別養護老人ホームの施設の中で入所者の回転率が速くなっているということと同じような状況が、介護認定においても起きているのではないか。要するに、介護認定を受けるときには、ある程度年齢が高くなっており、その後に寿命に達してお亡くなりになるために、一番介護度が重い５になる期間が短い状況も起きているのではないかと考えているという答弁でした。

委員より、この要介護が半減してきているということで、要介護５を認定するに当たり、その認定基準が厳し過ぎることによって要介護５になれないということはないかとの質疑に、過去からにおいても、特段、認定の基準や介護度合いは、介護の手間を評価するものになっていて、全てのできる・できないの動作を分単位の時間数に置き換えるが、基準が変わったということもなく、適切に認定のほうはしているという答弁でした。

要介護５が減ってきて、待機者が減ってきている割には上越のほうの施設へ入ったとか、上越に流れていっている人がいるのではという質疑では、糸魚川に介護保険の身分は置いたまま上越の施設に入ったりする方は、確かに最近増えている。理由としては、各施設とも職員、その中でも看護師の配置が非常に厳しい状況があり、医療的ケアが必要な方やニーズの高い方を受け入れられなかったりする場合があり、そういう方は上越にやむなく行っていただかないといけない状況がある。また、特別養護老人ホームと別に介護医療院という看取りに特化したような施設は、市内にはないが、富山県や上越市にはあるので、そういった方が市外の施設をご利用されているという答弁がありました。

このほか若干の質疑がございましたが、報告は割愛いたします。

次に、去る１０月２８日、２９日、３０日に市外調査を行っておりますので、ご報告させていた

だきます。

調査内容は、静岡県裾野市の書かない窓口について、埼玉県草加市の動物の愛護及び管理に関する条例の制定について、東京都練馬区の高齢者みんな健康プロジェクトについてであります。

まず、裾野市の書かない窓口についてでは、窓口混雑の改革に着手した裾野市は、窓口ＷＥＢ予約システム「Ｆｒｏｎｔｄｅｓｋ」の導入、おくやみワンストップ窓口「おくやみコーナー」の開設、さらに書かない窓口の実現に向けて、受付まで待たせない、寄り添うサービスに努め、業務委託していた市民課の窓口を直営化するなど、全庁的な組織体制の構築を行いました。

委員からは、市民課の職員が実際に窓口において自分で体験するということをやっていて、身をもって体験することで問題点がよりよく把握でき、窓口の配置を含めて抜本的に使いやすい、利用者だけでなく職員も使いやすいように改善しているよい取組だと思った。また、インターネットでも窓口の予約ができるシステムは、当市のように高齢の方が多いところでもできるか検討が必要であるし、出生や結婚など、人生の節目の手続を色分けでやるというのはいいと思う。窓口の体験調査は、当市でも８月末に裾野市と同様にＢＰＲアドバイザーにより行ったが、さらにブラッシュアップしていければいいと思う。書かない窓口やインターネットでの窓口予約が実現すれば、裾野市でもスペース的にも省略化できたという話があり、窓口のソフト面から入って、ハード面の変更も考えられるため、書かない窓口の実現に向け、さらに取組を進めていただきたいと思うなどの意見が出されました。

次に、埼玉県草加市の動物の愛護及び管理に関する条例の制定についてであります。

草加市議会では動物に対する取組を一歩進めるため、議長が動物愛護条例制定の議案を議会から出すという提案をし、ワーキンググループを結成、令和６年６月に全会一致で可決・成立し、本年８月に施行されました。条例制定に当たり、超党派の意欲的な議員でワーキンググループを結成。県の条例や他市の事例など調査・協議した内容を執行部と意見交換、パブリックコメント、視察も行いました。

委員からは、草加市は、国の法律にのっとって動物の種類を決めていたが、当市の場合は、昆虫・魚類・両生類など、より多くの種類の動物がいるため、そういったものも含めたほうが、当市にはマッチすると思う。災害時のペットの受入れ体制の整備では、避難所に整備されているという説明を受けたが、ブルーシートを置く程度の対応と聞き、しっかりしたペット避難体制ができているのかと思ったが、違った。この条例ができたことによって、殺処分の頭数は少し減ってきているというが、本当に市全体で人と動物に対して優しいまちづくりが今後どのようになっていくのか、何年か後に、この条例ができたことによって、その効果というものを知りたいと感じた。議会主導で、条例をつくったということだが、行政側と議会側のキャッチボールを十分やりながらやっていかないとと感じた。当市の現状がどうかということも重要で、当市は動物に優しいまちなのか、飼い主の飼い方は適切か、避難所に関しては、津波のリスクも考慮した中で地域の現状に合ったものを考えていかなくてはいけないなどの意見がありました。

次に、東京都練馬区の高齢者みんな健康プロジェクトについてであります。

練馬区では、６５歳以上の人口約１６万３，０００人、高齢化率２２％、要介護認定者数が約３万６，０００人という高齢者の現状を踏まえ、令和６年度から９年度の第９期高齢者福祉計画・介護保険事業計画を作成し、高齢者みんな健康プロジェクトを推進しています。理念として、高齢

者の尊厳を大切にする。自立と自己決定を尊重する。社会参加と地域の支え合いを促進するなどを掲げ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的・継続的に提供される地域包括ケアシステムを深化・推進することを目標にしています。施策としては、元気高齢者の活躍と健康づくり・フレイル予防の推進をはじめ、６つの施策を推進し、拠点施設として、街かどケアカフェを設置し、庁内関係各課及び薬剤師会などと連携した取組を行っています。

委員からは、当市でも健康プロジェクトに近い取組はやっており、健康寿命の年齢が少しずつ上がっているが、練馬区の街かどケアカフェは、広い年齢層が集まっている。どうしたら楽しく健康寿命を延ばせるかというだけでなく、地域内の人とのコミュニケーションや地域のサークル団体とも一緒に協力していけば、糸魚川らしいよい取組になっていくのではないか。今のお年寄りの好みは多様化しているという説明があり、街かどケアカフェの集まりで、特に男性の集まりがよくないことから、生活支援コーディネーターの方がマージャンなど集まりやすいメニューを探しながら提供し、対策を取っているというのはよかった。また、当市でも非常に関わってくるものとして、多剤服薬の問題がある。高齢者にとって喫緊の問題であり、薬剤師と相談して、その改善に当たっているという説明であったが、当市においても改善していくために手を打っていかなくてはならないと思うなどの意見がありました。

以上で、市民厚生常任委員会の所管事項調査及び市外調査の報告を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

本件については、委員長報告のとおり了承することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、本件は委員長報告のとおり了承することに決しました。

次に、宮島　宏議会運営委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島委員長。　〔１４番　宮島　宏君登壇〕

○１４番（宮島　宏君）

議会運営委員会では、去る１０月２５日と１１月２１日から２２日に市外調査を行いましたので、その内容と集約事項について、ご報告いたします。

１０月２５日は、上越市議会への市外調査で、その目的は、本年元日の能登半島地震の発災を受け、大規模災害時、あるいは緊急時の糸魚川市議会や議員の活動の基本方針、いわゆる議会ＢＣＰ

となるものを構築するためのものであります。

上越市議会では、平成２８年の２月に大規模災害時の議員活動指針が策定されており、その策定のための調査、研究、検討などの経過や能登半島地震の際の実際の運用状況について研修してまいりました。

上越市議会の大規模災害時の議員活動指針では、最初に大規模災害の定義があり、市議会及び議員は災害対策本部の業務が円滑に遂行できるよう側面からの支援を原則としております。また、発生時の市議会及び議員の行動として、議長の登庁、連絡体制の確立と地域での活動や情報収集、発生時期やそれに応じた議会の対応についての基準が明確になっていました。さらに、議長の対応や議長の代理についても明示されていました。さらに上越市議会では、年４回、大規模災害発生を想定した情報伝達訓練を行っているとのことです。

委員からは、大規模災害時の議員活動指針の策定の必要性を強く感じた。電子メールでは連絡した議員が見たかどうかを把握できないけれども、上越市が使用しているＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓでは、誰が見たか見ていないかが、互いに把握することがよい。ＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓは、支給されているタブレットだけでなく個人のスマホにも入れることができ、災害時は重たいタブレットよりもスマホが使いやすい。ＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓにはアンケート機能があり、それを使って大規模災害時の安否確認にも利用できる。当市議会でも早急に導入を検討すべきなどの意見がありました。また、ＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓの導入が、議会事務局の負担の増加にならないかという懸念については、上越市議会では、安否確認や諸連絡は電子メールではなくＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓに切り替えて一本化したので、むしろ負担減になっているとのことでした。

１１月２１日から２２日には、諏訪市議会と駒ヶ根市議会への市外調査を行っております。

諏訪市議会では、糸魚川市議会政治倫理規則の条例化のための参考とするための目的で、令和２年１２月に公布された諏訪市議会議員の政治倫理に関する条例について研修を行いました。これは、昨年度来、議会運営委員会でハラスメント防止条例を検討している中で、既にある政治倫理規則、あるいは議員の基本条例、それとの整合性を図ることが大事だということが、議会運営委員会の委員からずっと指摘されてたことです。それを受けて、今後、政治倫理規則の見直しをしなければならないというふうに議会運営委員会の中では一致しております。そのための研修であります。

諏訪市議会の政治倫理に関する条例については、平成３０年１２月に制定された諏訪市議会基本条例の第８条、議員が守るべき政治倫理の基準を明確にし、市民に信頼される民主的な市政の発展に寄与することを目的として制定されています。

委員からは、議会改革を目的として制定されたものであることがよく理解できた。罰則規定がないことに大変驚いた。茨城県の取手市の情報管理課長の岩崎弘宜氏に議会改革アドバイザーを委嘱しているが、当市議会も、このようなアドバイザー的な人の意見を取り入れたらどうか。政治倫理条例の制定に当たって諏訪市議会ではパブリックコメントを実施しているが、このような外部の意見を聞く姿勢も大事である。理念的な色彩が強い条例ではあるが、それがブレーキになっている。諏訪市議会の条例には、当市議会の政治倫理規則にはない市民の責務が明示されていることや、議員だけでなく市民からの請求で審査請求ができること、さらに改選後のベテラン議員による新人議員に対する種々の条例についてのレクチャー、こういった点は大変評価できる。参考になるという意見がございました。

次に、駒ヶ根市議会では、今後の議会改革を進める目的で研修をしてまいりました。同市議会では、ＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓの活用と、議会機能向上推進委員会、クールダウンミーティング、ツキニミーティング、市民と議会の意見交換会、こども未来会議、ワクワク未来部会、高校生未来会議、一般質問ヒアリング、基本条例の検証と改正、議会広報モニターの委嘱など、多数の議会改革の取組について説明を受けました。

委員からは、ＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓの導入によって、議会事務局の業務の増加になるのなら導入しないほうがいいのではないか。様々な議会改革をしており、大変お手本になる。このような議会改革は、議長の強い思いがあってからこそできるものだと思った。ＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓの導入によって事務局の負担が増えるかどうかについて確認したが、これまでメールによる連絡であると、一々メールを見たかどうかを、その後、電話で確認してたそうです。そういった二度手間がＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓによって、既読の表示が出るためにする必要がなくなり、むしろ業務の減少になっていると、仕事量の減少になっているということが説明がありました。さらにＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓは３０人までであれば無料であり、さらにスケジュール管理やアンケート機能もあり、活用できる。ＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓは大変よいと思ったけども、導入に当たり、駒ヶ根市議会では、部会の設置や、それから、さらに試行的な運用をした上で導入をしているのがよかった。ＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓは、連絡の一本化ができる点では大変よいのであるが、使いたくないという議員がいた場合に、どのように対応するかを考える必要がある。駒ヶ根市の場合は、４０代から７０代という幅広い年齢の議員が使っていることはすばらしいと思った。ＬＩＮＥ　Ｗｏｒｋｓは非常に便利であり、使いこなしていくしかないという意見もございました。

さらに、委員会の後、３０分間いろいろな議題について自由に討議するクールダウンミーティングについては、とても衝撃を受けたと。議会の議員間討論ではなくてクールダウンミーティングという、少し気楽な雰囲気での話合いというのが、議会では大事なんじゃないかということであります。

さらに、タウンミーティングというものは、議員が市役所外に出て、市民の目線がある場所に出向いて、議員が話し合うものであります。これも非常に参考になるんではないかというご意見がありました。いろんな議会改革の取組がある中で、事務局はメモを取る程度の関わりであるので、事務局の負担にはなっていないということも評価できる。駒ヶ根市議会では、議員全員がタブレットを使用しているだけでなく、実は、本会議に出席する行政職員も全てタブレットを使用しているそうです。

さらに驚かされたのは、議場に持ち込んだタブレットをインターネットに接続して、いろんな情報をその都度、検索したり調べたりすることも許されているとのことです。さらにさらに、個人のスマホによって情報を検索することも駒ヶ根市議会では許されているとのことです。もちろんその使用は、その議会に関係するものという前提はありますけれども、非常に私は驚かされました。

ほかにも意見がありますが、報告は割愛させていただきます。

以上で、議会運営委員会の所管事項報告を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

本件については、委員長報告のとおり了承することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、本件は委員長報告のとおり了承することに決しました。

日程第５．議案第８１号

○議長（松尾徹郎君）

日程第５、議案第８１号、専決処分の承認を求めることについてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

ご説明申し上げます。

議案第８１号は、令和６年度一般会計補正予算（第３号）の専決処分の報告でありまして、歳入歳出それぞれ３，３２０万円を追加いたしております。これは１０月２７日執行の衆議院議員選挙にかかる費用を補正したものであります。

歳出につきましては、２款総務費、衆議院議員選挙の追加であります。

次に、歳入につきましては、所定の特定財源として、県支出金を充当したほか、所要の一般財源として、前年度繰越金を充当いたしております。

以上でありますが、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（松尾徹郎君）

お諮りいたします。

ただいま説明のあった本案については、会議規則第３７条第３項の規定により委員会付託を省略いたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案については委員会付託を省略することに決しました。

これより説明に対する質疑に入ります。

本案の質疑は１人１５分以内としてください。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

これより討論に入りますが、ただいまのところ、討論の通告はありませんので、討論なしと認め、これにて討論を終結いたします。

これより、議案第８１号、専決処分の承認を求めることについてを採決いたします。

本案は、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり承認することに決しました。

議事の都合により、ここで１１時４０分まで休憩といたします。

暫時休憩いたします。

〈午前１１時２８分　休憩〉

〈午前１１時４０分　開議〉

○副議長（横山人美君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

ただいま議長、松尾徹郎議員から議長の辞職願が提出されました。

お諮りいたします。

議長の辞職許可の件を日程に追加し、追加日程第１として日程の順序を変更して、直ちに議題とすることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

ご異議なしと認めます。

よって、議長の辞職許可の件を日程に追加し、追加日程第１として日程の順序を変更して、直ちに議題とすることに決しました。

追加日程第１．議長の辞職許可について

○副議長（横山人美君）

追加日程第１、議長の辞職許可についてを議題といたします。

地方自治法第１１７条の規定により、松尾徹郎議員の退場を求めます。

〔５番　松尾徹郎君退席〕

○副議長（横山人美君）

職員に、辞職願を朗読させます。

議会事務局長。

○議会事務局長（磯貝　直君）

それでは、辞職願を朗読いたします。

令和６年１２月２日。

糸魚川市議会副議長、横山人美様、糸魚川市議会議長、松尾徹郎。

辞職願。

今般、一身上の都合により、議長を辞職したいので、許可されるよう願い出ます。

以上であります。

○副議長（横山人美君）

辞職願については、ただいまの朗読のとおりであります。

お諮りいたします。

松尾徹郎議員の議長の辞職を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

ご異議なしと認めます。

よって、松尾徹郎議員の議長の辞職については、これを許可することに決しました。

松尾徹郎議員の退場を解きます。

〔５番　松尾徹郎君着席〕

○副議長（横山人美君）

ただいま議長の辞職について許可されました松尾徹郎議員から発言を求められておりますので、この際、これを許します。

松尾徹郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

松尾議員。　〔５番　松尾徹郎君登壇〕

○５番（松尾徹郎君）

議長退任に当たり、一言お礼を兼ねまして、ご挨拶を申し上げます。

本来、ハラスメント防止条例を推進する立場でありながら、同僚議員への助言のつもりがハラスメントに当たるという結論が出ましたことは、誠に残念であります。同一会派の一員としても、これ以上の混乱は避けるべきであると考え、議長を辞することといたします。

これまでの間、議会運営等における皆様のご協力に対し感謝申し上げますとともに、議長職を経験し、多くのことを学ばせていただきました。貴重な体験をさせていただきましたことに、改めまして感謝申し上げ、誠に簡単ではございますが、退任のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

○副議長（横山人美君）

暫時休憩します。

〈午前１１時４４分　休憩〉

〈午前１１時４８分　開議〉

○副議長（横山人美君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

お諮りいたします。

ただいま議長が欠員となりましたので、議長選挙を日程に追加し、追加日程第２として日程の順序を変更して、直ちに議長の選挙を行うことにいたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

ご異議なしと認めます。

よって、議長選挙を日程に追加し、日程の順序を変更して、直ちに議長の選挙を行うことに決しました。

追加日程第２．議長選挙

○副議長（横山人美君）

追加日程第２、議長選挙を行います。

議場の閉鎖を命じます。

〔議場閉鎖〕

○副議長（横山人美君）

ただいまの出席議員数は、１８人であります。

投票用紙を配付させます。

〔投票用紙配付〕

○副議長（横山人美君）

投票用紙の配付漏れは、ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

○副議長（横山人美君）

投票箱、異状なしと認めます。

念のため申し上げます。

投票は、単記無記名でお願いします。

投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、点呼に応じて順次、投票願います。

なお、議会の選挙では、同一の姓または名前の議員がいる場合、姓のみ、または名のみの投票があったときは、何人を記載したかを確認し難いものに該当し、無効票になりますので、ご注意願います。被選挙人の氏名をフルネームでお書きください。

それでは、点呼を命じます。

議会事務局長。

○議会事務局長（磯貝　直君）

それでは、お名前を申し上げます。

順次、投票をお願いいたします。

１番、利根川　正議員、２番、阿部裕和議員、３番、横山人美議員、４番、新保峰孝議員、５番、松尾徹郎議員、６番、伊藤　麗議員、７番、田原洋子議員、８番、渡辺栄一議員、９番、加藤康太郎議員、１０番、東野恭行議員、１１番、保坂　悟議員、１２番、田中立一議員、１３番、和泉克彦議員、１４番、宮島　宏議員、１５番、中村　実議員、１６番、近藤新二議員、１７番、古畑浩一議員、１８番、田原　実議員。

以上であります。

〔投　　票〕

○副議長（横山人美君）

投票漏れは、ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

〔議場開鎖〕

○副議長（横山人美君）

開票を行います。

会議規則第３１条第２項の規定により、立会人に１番、利根川　正議員、８番、渡辺栄一議員を指名いたします。

よって、両議員の立会いを願います。

〔１番、利根川　正議員、８番、渡辺栄一議員　立会い〕

○副議長（横山人美君）

投票の結果を報告いたします。

投票総数１８票、これは先ほどの議員数に符合いたしております。

そのうち有効投票１６票。無効投票２票、うち白票２票。

有効投票中、保坂　悟議員１２票、古畑浩一議員２票、横山人美議員１票、田原洋子議員１票。

以上のとおりであります。

この選挙の法定得票数は、４票であります。

よって、保坂　悟議員が、議長に当選されました。

ただいま議長に当選されました保坂　悟議員が議場におられますので、本席から会議規則第３２条第２項の規定により告知いたします。

それでは、保坂　悟議員から挨拶をいただきます。

保坂　悟議員。

〔「副議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。　〔１１番　保坂　悟君登壇〕

○１１番（保坂　悟君）

ただいまの議長選挙におきまして、議長に就任をさせていただきました保坂　悟でございます。今ほどは、議員の皆様に投票していただき、心より感謝を申し上げます。

糸魚川市議会議員として２１年間議員の活動を行ってまいりました。糸魚川市議会では、これまでに副議長、常任委員長、各特別委員会で委員長を経験させていただいておりますが、議長は初めてでございます。不慣れな点があるかと思いますが、誠心誠意、議長の役目を果たしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、今期の任期満了日は、令和７年４月２３日となっておりますので、大変短い期間でございます。議長として、市議会という職場からハラスメントをなくすためのルールづくりを全力で取り組みたいと決意しております。何とぞよろしくお願い申し上げます。

以上であります。

○副議長（横山人美君）

それでは、保坂　悟議員、議長席にお着きください。

〔議長　保坂　悟君　議長席に着席〕

○議長（保坂　悟君）

昼食時限のため、１時まで休憩といたします。

〈午後０時０２分　休憩〉

〈午後１時００分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

日程第６．議会運営委員会委員の選任について

○議長（保坂　悟君）

日程第６、議会運営委員会委員の選任を行います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１７番（古畑浩一君）

議長ね、次の日程に入る前に、あのさ保坂議長って、建設産業常任委員会の委員長ですよね。今の時点で、議長と建設産業常任委員会の委員長を兼ねてることになる。あなた、もしかして常任委員長やりながら議長もやるんですか。そうなってくると、一番最初にやらなくちゃいけないのはさ、建設産業常任委員会の委員長をどうするかを委員会の中ではっきりしなくちゃいけない。そのまんま保坂さんは、議長と議会の運営委員会の委員長を兼ねるんなら、そのまんまでいいです。だけど、次の日程に入った時点で、あなたは議長と建設産業常任委員会の常任委員長を兼ねることになる。今までこういった例、ほとんどないんですよ。市議会始まって以来だと思うけど。そこをはっきりさせないと、次の日程入った瞬間に、あなた両方兼ねたことになる。

でだ、会期中の建設産業常任委員会のときに委員長を変えてしまうよりも、今、議会運営委員会もやるわけだしさ、建設産業常任委員会もやらないと。やったほうがよろしいかと思うんですが、いかがですか。

○議長（保坂　悟君）

今ほど、議事進行ということで、古畑議員のご指摘のあったとおり、当初、議長と常任委員長が兼務するという形はこれまでになかったと思います。今回、常任委員会の開催のときにするか、本日にするかというのは、正直言いまして、議長選挙がどういう結果になるか分からなかったものですから、そういった対応は今現在しておりません。

ただ、今、古畑議員からのご指摘があったとおり、建設産業常任委員会の委員の皆様のご了解をいただければ、常任委員会を開催しまして、新しい委員長人事を互選をしたいと思います。今日付で、私のほうは建設産業常任委員会委員長の辞任の意向を提出させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１７番（古畑浩一君）

だから、その辺をうまく。それから、議会の承認が要るからね。新しい議事日程に追加しなくちゃいけない。今、保坂議長が言うようにさ、どなたが議長になるのかはっきりしなかったので、その対応については事前に議会事務局でも準備できなかったのはよく分かる。なんたって糸魚川市議会始まって以来の出来事だから、そこは議事日程に追加することにご異議ございませんかと議会全体に諮って、その後、建設産業常任委員会の委員の皆さんを委員会室でも集めて、速やかに決めていっていただきたいと思います。それから、次の日程入ったほうがよろしいかと思うんですが、よろしくお願いいたします。

○議長（保坂　悟君）

今ほど議事進行ということで、古畑議員のご指摘について、今、事務局とちょっと相談をさせていただきたいと思いますので、暫時休憩いたします。

〈午後１時０４分　休憩〉

〈午後１時０４分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

今ほどの古畑議員の議事進行によって提案されました建設産業常任委員会については、本会議の議事日程にするということは、なじまないということであります。

ただ、今この機会に休憩を取りまして、建設産業常任委員会を開きまして、委員長、副委員長の互選を図りたいと思いますが、皆様、休憩を取ることに対しましてご異議なければ、そのように進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

異議なしと認めます。

よって、ここで休憩を取りまして、急遽、建設産業常任委員会を開催したいと思います。よろしくお願いします。時間はちょっと分からないので、少し時間を要るということでご了解いただきたいと思います。

では、休憩いたします。

〈午後１時０５分　休憩〉

〈午後１時１８分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

今ほど古畑議員の助言、ご指摘により、建設産業常任委員会を開会いたしまして、私、保坂が委員長を辞任の許可を得まして、そのまま委員会のほうで正副委員長の互選が行われました。その結果について、ご報告いたします。

建設産業常任委員会委員長に、利根川　正議員、副委員長に、田原洋子議員となりました。

以上で報告を終わります。

次に、日程第６、議会運営委員会委員の選任を行います。

１１月８日に、和泉克彦議員が辞任したことにより、現在、議会運営委員会委員が１名欠員となっておりますことから、委員の補充を行います。

新しい議会運営委員会委員の選任については、委員会条例第８条第１項の規定により、議長において指名いたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、議長において指名することに決しました。

新しい議会運営委員会委員には、古畑浩一議員を選任いたします。

議会運営委員会開催のため、暫時休憩いたします。

〈午後１時２０分　休憩〉

〈午後１時４１分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

ただいま議会運営委員会が開かれ、宮島　宏委員長の辞任が許可され、辞任に伴い新しい委員長の互選が行われましたので、その結果について、ご報告いたします。

委員長には、古畑浩一議員、以上であります。

この際、議長の交代に伴い、議席の一部変更を日程に追加し、追加日程第３として直ちに議題といたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、議席の一部変更を日程に追加し、直ちに議題とすることに決しました。

追加日程第３．議席の一部変更について

○議長（保坂　悟君）

追加日程第３、議席の一部変更についてを議題といたします。

議席は、会議規則第４条第３項の規定により、議長において指名をいたします。

変更後の議席番号及び議員名を職員に朗読させます。

議会事務局長。

○議会事務局長（磯貝　直君）

それでは、変更後の議席番号及び議員名を該当の議員のみ朗読いたします。

５番、保坂　悟議員、１１番、松尾徹郎議員。

以上であります。

○議長（保坂　悟君）

お諮りいたします。

ただいま朗読したとおり、議席の一部を変更することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、ただいま朗読したとおり、議席の一部を変更することに決しました。

なお、移動につきましては、次回の会議からといたします。

日程第７．議案第８２号から同第８９号まで

○議長（保坂　悟君）

日程第７、議案第８２号から同第８９号までを一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

ご説明申し上げます。

議案第８２号から議案第８５号までは、新潟県人事委員会の給与勧告に準拠いたしたいため、所要の改正を行いたいものであります。

議案第８２号は、糸魚川市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第８３号は、糸魚川市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第８４号は、糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第８５号は、糸魚川市職員の寒冷地手当の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。

議案第８６号は、糸魚川市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでありまして、雇用保険法の改正に伴う就業手当の廃止等に対応したいため、所要の改正を行いたいものであります。

議案第８７号は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例の制定についてでありまして、番号法の改正に伴い、関係条例の引用条項を整理いたしたいものであります。

議案第８８号は、新潟県市町村総合事務組合規約の変更についてでありまして、新潟県市町村総合事務組合が共同処理をする事務の構成団体の加入に伴い、規約を変更いたしたいものであります。

議案第８９号は、損害賠償額の決定及び和解についてでありまして、教職員の起こした自動車事故のうち、物損事故に係るものについて、その損害賠償額を決定し、相手方と和解するため、議会の議決をお願いいたしたいものであります。

以上でありますが、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの説明に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております本案については、総務文教常任委員会に付託いたします。

日程第８．議案第９０号から同第９９号まで

○議長（保坂　悟君）

日程第８、議案第９０号から同第９９号までを一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

ご説明申し上げます。

議案第９０号は、糸魚川市糸魚川ジオステーションジオパル条例の一部を改正する条例の制定についてでありまして、ジオラマ鉄道模型ステーションの整備維持費用といたしまして、設備の利用者に対し、応分の負担を求めたいため、使用料の改定を行いたいものであります。

議案第９１号は、糸魚川市スキー場条例の一部を改正する条例の制定についてでありまして、燃料費の高騰に伴い、入浴施設に係る利用料金の改定を行いたいものであります。

議案第９２号は、糸魚川市白馬山麓国民休養地条例の一部を改正する条例の制定についてでありまして、高浪の池キャンプ場の収益性を高めたいため、使用料の改定を行いたいものであります。

議案第９３号は、糸魚川市集会施設条例の一部を改正する条例の制定についてでありまして、田屋会館を地元自治会に譲与することに伴い、所要の改正を行いたいものであります。

議案第９４号は、糸魚川市簡易水道条例の一部を改正する条例の制定についてでありまして、簡易水道事業の料金体系及び加入金の統一を図るため、料金の改定等を行いたいことから、所要の改正を行いたいものであります。

議案第９５号は、糸魚川市ガス供給条例の一部を改正する条例の制定についてでありまして、カーボンニュートラル化対象ガスの名称を「カーボン・オフセット都市ガス」に改めたいため、所要の改正を行いたいものであります。

議案第９６号は、財産の譲与についてでありまして、議案第９３号でご説明したとおり、田屋会館の建物を地元、下田屋自治会に譲与するため、議会の議決をお願いいたしたいものであります。

なお、譲与予定日は令和７年１月１日であります。

議案第９７号及び議案第９８号は、字の変更についてでありまして、県営農地環境整備事業により、字を整理するため、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いいたしたいものであります。

議案第９９号は、市道の認定についてでありまして、民間の宅地開発により市に帰属していただく道路について、市道桜木南北２号線として認定したく、議会の議決をお願いいたしたいものであります。

以上でありますが、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの説明に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております本案については、建設産業常任委員会に付託いたします。

日程第９．議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号まで

○議長（保坂　悟君）

日程第９、議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号までを一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

ご説明申し上げます。

議案第１００号は、糸魚川市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでありまして、し尿くみ取り量の減少及び物価の高騰に伴い、収集運搬費が割高となることから、し尿くみ取り手数料を引き上げる改正を行いたいものであります。

議案第１０１号は、糸魚川市障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例の制定についてでありまして、障害者地域活動支援センターの統合等に伴い、所要の改正を行いたいものであります。

議案第１０２号は、指定管理者の指定についてでありまして、糸魚川市斎場及び能生火葬場の指定管理者を、五輪・糸魚川二幸グループに指定いたしたいため、議会の議決をお願いいたしたいものであります。

議案第１０４号は、令和６年度糸魚川市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）でありまして、歳入歳出それぞれ１，６１０万５，０００円を追加いたしたいものであります。

議案第１０５号は、令和６年度糸魚川市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）でありまして、歳入歳出それぞれ２３３万３，０００円を追加いたしたいものであります。

議案第１０６号は、令和６年度糸魚川市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）でありまして、歳入歳出それぞれ２７０万９，０００円を追加いたしたいものであります。

以上でありますが、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの説明に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております本案については、市民厚生常任委員会に付託いたします。

日程第１０．議案第１０３号

○議長（保坂　悟君）

日程第１０、議案第１０３号、令和６年度糸魚川市一般会計補正予算（第４号）を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

ご説明申し上げます。

議案第１０３号は、令和６年度一般会計補正予算（第４号）でありまして、歳入歳出それぞれ８億５，８８９万円を追加いたしたいものであります。

歳出の主なものは、２款総務費では、一般管理費、職員人件費とふるさと糸魚川応援給付金事業の追加、３款民生費では、生活保護扶助費の追加、４款衛生費では、医療人材確保対策事業と鳥獣対策事業の追加、８款土木費では、道路除排雪事業と土砂災害緊急事業の追加、１０款教育費では、学校給食費軽減事業（物価高騰対策）の追加であります。

次に、歳入につきましては、それぞれ所定の特定財源を充当したほか、所要の一般財源については、前年度繰越金を充当いたしました。

なお、繰越明許費の補正、地方債の補正は、第２表、第３表のとおりであります。

以上でありますが、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの説明に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております本案については、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

付託区分については、お手元に配付してあります議案付託表によって、ご了承願います。

日程第１１．請願第５号

○議長（保坂　悟君）

日程第１１、請願第５号を議題といたします。

本定例会において受理した請願は、お手元に配付の請願文書表のとおりであります。

ただいま議題となっております請願第５号は、総務文教常任委員会に付託いたします。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

大変お疲れさまでございました。

〈午後１時５５分　散会〉

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

議　　長

議　　員

議　　員

令和６年第４回定例会会議録

第２号（１２月６日）

令和６年第４回糸魚川市議会定例会会議録　第２号

令和６年１２月６日（金曜日）

議事日程第２号

令和６年１２月６日（金曜日）
〈午前１０時００分　開議〉

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　議席の一部変更について
日程第３　　一般質問

本 日 の 会 議 に 付 し た 事 件

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　議席の一部変更について
日程第３　　一般質問

〈応招議員〉　１８名

〈出席議員〉　１８名

１番	利根川　正　君	２番	阿部裕和　君
３番	横山人美　君	４番	伊藤麗　君
５番	保坂悟　君	６番	田原洋子　君
７番	渡辺栄一　君	８番	加藤康太郎　君
９番	東野恭行　君	１０番	和泉克彦　君
１１番	田中立一　君	１２番	松尾徹郎　君
１３番	宮島宏　君	１４番	中村実　君
１５番	近藤新二　君	１６番	古畑浩一　君
１７番	新保峰孝　君	１８番	田原実　君

〈欠席議員〉　　０名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長	米田　徹君	副市長	井川　賢一君
総務部長	大嶋　利幸君	市民部長	渡辺　忍君
産業部長	五十嵐　博文君	総務課長	嶋田　猛君
企画定住課長	中村　淳一君	財政課長	猪又　悦朗君
能生事務所長	高野　一夫君	青海事務所長	仲谷　充史君
市民課長	川合　三喜八君	環境生活課長	木島　美和子君
福祉事務所長	山岸　千奈美君	健康増進課長	林　壮一君
商工観光課長	大西　学君	農林水産課長	星野　剛正君
建設課長	長﨑　英昭君	都市政策課長	内山　俊洋君
会計管理者 会計課長兼務	山田　康弘君	ガス水道局長	山口　和美君
消防長	竹田　健一君	教育長	鷲本　修一君
教育次長	山本　喜八郎君	教育委員会こども課長	室橋　淳次君
教育委員会こども教育課長	古川　勝哉君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務	磯貝　恭子君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ケ原考古館長兼務 市民会館長兼務	嵐口　守君	監査委員事務局長	陶山　智君

〈事務局出席職員〉

局長	磯貝　直君	次長	伊藤　伸一君
係長	水島　誠仁君		

〈午前１０時００分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（保坂　悟君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、１番、利根川　正議員、２番、阿部裕和議員を指名いたします。

次の日程に入ります前に、１２月２日に議長及び建設産業常任委員会の正副委員長が交代したことに伴い、市長から委嘱または任命される各種委員等について変更がありましたので、ご報告いたします。

職員に変更内容を朗読させます。

議会事務局長。

○議会事務局長（磯貝　直君）

それでは、ご報告申し上げます。

糸魚川市都市計画審議会委員は、保坂　悟議員から田原洋子議員に、糸魚川市土地開発公社理事は、松尾徹郎議員から保坂　悟議員に変更となります。

以上であります。

日程第２．議席の一部変更について

○議長（保坂　悟君）

日程第２、議席の一部変更についてを議題といたします。

これより、議席の一部変更を行います。

議席は、会議規則第４条第３項の規定により、議長において指名をいたします。

変更後の議席番号及び議員名を職員に朗読させます。

議会事務局長。

○議会事務局長（磯貝　直君）

今回の議席の変更に当たっては、現在の議席番号６番を空席とし、１７番と１８番の間の空席を新たに１７番とします。その上で、現在の議席番号７番から１７番については１番ずつ番号を繰り上げるものといたします。

それでは、番号のみ変更となる方も含め、変更後の議席番号及び議員名を該当の議員のみ朗読いたします。

４番、伊藤　麗議員、６番、田原洋子議員、７番、渡辺栄一議員、８番、加藤康太郎議員、９番、東野恭行議員、１０番、和泉克彦議員、１１番、田中立一議員、１２番、松尾徹郎議員、１３番、宮島　宏議員、１４番、中村　実議員、１５番、近藤新二議員、１６番、古畑浩一議員、１７番、新保峰孝議員。

以上であります。

○議長（保坂　悟君）

お諮りいたします。

ただいま朗読したとおり、議席の一部変更をすることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、ただいま朗読したとおり、議席の一部を変更することに決しました。

席の移動のため、暫時休憩いたします。

〈午前１０時０３分　休憩〉

〈午前１０時０４分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

日程第３．一般質問

○議長（保坂　悟君）

日程第３、一般質問を行います。

発言通告者は１４人でありますが、議事の都合により、本日５人、９日５人、１０日４人を予定しております。

一般質問の質問時間は答弁を除き、１人３０分であります。所定の時間内に終わるよう、質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、通告外とならないよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原　実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。　〔１８番　田原　実君登壇〕

○１８番（田原　実君）

おはようございます。田原　実です。

１２月議会一般質問のトップバッターを務めさせていただきます。

以下、事前に提出しました発言通告書に基づき、１回目の質問をいたします。

１、医療と防災のまち、市民が安心して住めるまち糸魚川へ！

(1) 医療対応について以下伺います。

①　５年後、１０年後の糸魚川地域医療体制を市民と共有できていますか。

②　市長が繰り返し答弁されてきた糸魚川市に必要な医療とは何ですか。

③　市長が選挙公約とした看護師育成機関の設置は進んでいますか。

④　薬草栽培で稼ぐ「医療のジオパーク」を進めてはいかがですか。

(2) 防災対応について以下伺います。

①　未曽有の災害への備えはできていますか。

②　防災士、防災アプリの活用は進んでいますか。

③　県との連携は密ですか、いざというときに救済チームは派遣されますか。

④　国から支援を受けて「防災のジオパーク」を進めてはいかがですか。

２、スポーツ交流、文化交流、鉄道で人を呼ぶ仕掛けで糸魚川を元気に！

(1) スポーツ振興、スポーツ交流について以下伺います。

① 市民や各種団体との連携や協働で成果、効果を出していますか。

② 相撲が脚光を浴びています。糸魚川ならではの交流人口増大に結びつく提案を市職員全員から出していただいて、理解を進めてはいかがですか。

(2) 文化振興、文化交流について以下伺います。

① 市民や各種団体との連携や協働で成果、効果を出していますか。

② 文化資源やアーカイブスの活用は常にアップデートされていますか。新しい時代を感じられるよう工夫をし、若者たちを主役に活動を進めていますか。

(3) 鉄道で駅とまちに人を呼ぶ仕掛けなどの取組について以下伺います。

① 鉄道で糸魚川へ訪れる人をどのように増やしていますか。

② 大糸線全線開通７０周年への取組はいかがですか。

③ えちご押上ひすい海岸駅及び周辺整備は約束どおり進みましたか。

④ アニメ、スマホアプリ、イルミネーション等を活用して駅や鉄道利用者を増やす私からの提案は具体化しましたか、またこれからどうなりますか、伺います。

３、駅北子育て支援複合施設の必要性、市民・住民との合意形成について。

(1) 前回の一般質問にて、以下の複合施設の優れている点をよく検討して計画を進めてほしいと要望しました。市長は何を学び、何を取り入れていこうとしていますか。教育委員会や担当課にどのような指示をしましたか、伺います。

① 長野県塩尻市の公民館図書館等複合施設「えんてらす」。

② 富山県黒部市の図書館複合施設「あおーよ」。

③ 群馬県太田市の図書館・美術館複合施設「太田市美術館」。

(2) 市長の判断で、こどもの数が減っていく中での建設と運営に巨額の支出をしていくことについて、市民・住民と合意形成できましたか、伺います。

以上１回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

おはようございます。

田原　実議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目の１つ目につきましては、現在、県の地域医療構想に基づく医療再編の議論を進めている段階であり、適切な時期に説明会を開催するなど、市民周知に努めてまいります。

２つ目につきましては、当市の地理的条件から、救急医療を中心とした地域内で一定程度完結できる医療体制が必要であると考えております。

３つ目につきましては、近隣の看護学校等を調査し、検討してまいりましたが、現状では実現の見通しは立っておりません。

４つ目につきましては、現時点では取り組む予定はございません。

２点目の１つ目につきましては、地域防災計画に基づき、平時から備えに努めております。

２つ目につきましては、先日、開催いたしました防災リーダー研修に防災士からご参加いただき、市内の資格取得者の掘り起こしを行っております。

防災関係のシステムにつきましては、防災以外での利活用も含め、庁内で検討を行っております。

３つ目につきましては、災害発生時には、チームにいがたや他県の自治体、また、国の緊急災害対策派遣隊などによる支援体制が整えられております。

４つ目につきましては、庁内関係課が連携し、防災教育を行っております。

２番目の１点目の１つ目につきましては、競技団体やスポーツ協会、スポーツ推進委員などと連携し、スポーツフェスティバルや駅伝競走大会などに取り組むことで、生涯スポーツへの理解や参加者の交流促進につながると捉えております。

２つ目につきましては、様々なスポーツ活動が市内外の方との交流に寄与していると考えております。

２点目の１つ目につきましては、博物館やフォッサマグナパークでは、来客数が好調であるとともに、木地屋シンポジウムやヒスイシンポジウムなどのアンケート結果では、満足度が高くなっていることから、成果が出ているものと捉えております。

２つ目につきましては、ホームページやＳＮＳによる情報発信に努めております。

３点目の１つ目につきましては、北陸新幹線敦賀延伸を契機として、大糸線では、沿線自治体や事業者などと一体となって利用促進に取り組んでいるところであり、えちごトキめき鉄道では、ラッピング列車など鉄道に親しんでいただく取組なども進めております。

２つ目につきましては、実施に向けて検討してまいります。

３つ目につきましては、地元の意向を踏まえながら、対応いたしてまいります。

４つ目につきましては、スマホアプリのキャラクターパネルを自由通路に設置しているほか、能生駅では、能生商工会女性部の皆様から、毎年イルミネーションを設置していただいております。

３番目の１点目につきましては、事業者との協議に当たり、参考とさせていただきました。

２点目につきましては、説明会や広報紙による周知、アソビバの開催、事業者選定に係る公開プレゼンテーションなどを通じて、合意形成が図られているものと捉えております。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

では、再質問に移ります。

医療に関しましては、６月にも私は一般質問させていただきまして、課題出しをしております。半年経過いたしましたので、半年前は、まだ検討中だったことも、そろっと結論、お答えをいただきたいというふうに考えているところでございます。

以下、具体的に伺ってまいりたいと思います。

糸魚川市民は、医療の確保について、ずっと不安があるわけです。その一方で、地域医療構想や

上越地域の医療再編について知らない市民は多い。それは、市長もお分かりかと思います。市民と、５年後、１０年後の糸魚川地域医療体制を共有できているのか、もう一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

ご承知のとおり糸魚川市は、地域医療構想という今、この上越圏域の状況に、県のリーダーの下に入っております。と申しますのは、やはり人口減少から起きております、この各医療施設の経営が厳しい状況にあることと、やはりこれから人口減少から起きるいろんな課題に対して対応していく地域医療が大切になるということから入っているわけでありますが、糸魚川市といたしましても、姫川病院が閉院して以来、医療フォーラムを行いながら、今の当市の医療の現状などを市民の皆様方に説明させていただいておるわけでございます。それで全て足りるとは思っておりません。これからの医療を考えますと、市民の皆様方にしっかり知っていただくことが必要ということで、また、広く市民に周知していくことが必要と捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

今週初めの２日、私は糸魚川法人会主催の講演会に参加をしております。「上越圏域における地域医療構想について」と題して、新潟県福祉保健部地域医療政策課政策企画員の市橋様、それと「糸魚川市総合病院の現在と将来の姿」と題して、糸魚川総合病院の山岸病院長様より、最近のデータを分析しての貴重なお話を聞くことができました。これまでとは違う糸魚川の医療の形が提示され、開設されたものと受け止めています。特に地域の基幹病院における経営と雇用という一番大事なところ、糸魚川総合病院は、大変に厳しいと受け止めております。この状況と市民生活への影響について、市からの情報を市民に出していると言えるかどうか、その点を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

おはようございます。

今ほどのご質問にお答えいたします。

市民に説明ができているかということでございますが、必要な情報は、タイミングを見て、出させていただいているつもりでございます。

ただ、この情報につきましては、まだなかなか地域医療構想の議論が進んでいなくて、糸魚川総合病院の将来の姿というものがはっきりと見えてない状況ですので、なかなか市民にはっきりとお伝えできていないのが現状だというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

半年前もね、同じだったんですよ、そのことはね。もちろん県がね、今示している地域医療構想、その中の上越圏域、中で基幹病院がどうなったかっていうことが、県が、まだ明らかにしていないので、市としてもそれについては言えませんという、半年前と一緒なんですよ。これ、いつになったら明らかになるか。１２月にはその辺明らかになるっていう話だったんじゃないですか。それをね、県のほうが示さないからと言ってるだけで、そうですかって私たち聞くわけにいかないでしょう。この半年の間に、糸魚川総合病院の経営状況が厳しくなってきて、支援をということで、その要望が出され、知事もようやく支援していくっていう話になったけども、これ大きな動きだし、市民にとってみれば大きな不安ですよ。その点、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院につきましては厚生連病院でございまして、公的病院ということで、公立病院ではございません。そういう中で、民間の経営の中で、この地域医療を担っていただいておるわけであります。そして、厚生連病院は、県内で１１の病院を運営いただいてるわけでありまして、そういう中で、やはり我々といたしましても、経営を全て把握できるわけではございません。

しかし、そういう中で、今非常に厳しい経営であるということは、その地域の、やはり必要な医療を担っていただいてるから、なっていると捉えております。それはどういうことかといいますと、経営がうまくいくという形には、やはり患者さんがたくさん来て、そして収支が合っていけばそれでいいわけでございますが、人口減少であったり、そしてまた、非常に厳しい医療の携わっているスタッフが厳しい状況の中においては、非常にそういった経営が厳しくなるということは、そして、診療報酬が決まったものしか頂けないわけでございますので、赤字になれば、やはり収支に合う診療報酬をもらえばいいんですが、それはできない状態の中で進めていくということは、非常に人口減少の中においては、厳しい環境になっておる部分があります。そういうのをやはり我々考えて、全てこの県内は、安心して住んでいける地域医療を担っていただきたいというお願いを県とやってまいりました。それぞれの市において環境が違う、ばらばらでは困るということで取り組んできたわけでございまして、そういう中で、今、県内の７診療圏域の医療構想を進めていくという中で、上越圏域もその中に入ってきておるわけでございまして、県がリーダーシップを取っていくのは当然でありますが、しかし、地域の医療者の皆さんと連携を取りながらいかなければ結論は出ないわけであります。上越圏域におきましては、県立病院、そして厚生連病院、そうした各診療所の皆様方との協議の中で決まっていくものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

市長がね、厚生連のほうの病院の関係都市の市長のリーダーでおられるから、今のようなご認識の下に様々お考えになってるというその点はよく分かるんですけども、私たち糸魚川市民は、まず、この糸魚川市で、身近なところの基幹病院で今までやられていた手術とかね、治療がね、やれなくなってしまうと。その不安とかね、じゃあそれに対してどういうふうにそれを補っていただけるかというところですよ。だから、新潟県の中での均一な医療サービス体制ですとかを知事に求めたところでですよ、糸魚川と新潟と長岡と上越では、もう全然状況が違うわけじゃないですか。糸魚川市の場合は、特に人口減少が著しくて、それに合わせて医療機関もダウンサイジングをせざるを得なくて、その中で、効率的な病院経営を行うにはどうしたらいいかということを今考えたわけですよね。で、今まだ決まってはいないけども、今までやれていた、そういう手術ですとか救急対応はね、上越市のほうに考えられているところの基幹病院の機能に委ねるというふうに方向性が出てるんじゃないですか、違うんですか。糸魚川の中で必要な医療というのは、そういった救急対応や手術の部分も含めて大事じゃないかということで、私、半年前にも聞いて、今はそれはやれていると。この先、また、医療体制の中で検討していきたいというお答えをいただいたから、半年たった今、それはどうなったかということを聞いてるわけなんです。新潟県全体の話はね、新聞読めば分かりますよ。私がここで聞いてるのは、糸魚川の２年、３年、５年先の医療体制ですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

まさしく今、議員ご指摘のとおりであります。それを今、上越圏域の医療構想の中で取り組んでおるわけでございますので、その中で糸魚川市といたしましては、どういう診療科目が絶対必要なのかというのをしっかりと定めていかなくちゃいけないし、その中で主張していかなくちゃいけないと思っております。

先ほど言いましたように、なかなか進まないというのは、やはり医療というのはそう簡単にはいかないところがあるわけでございますので、結果としては、私はそう簡単には出てこないと思っております。それまでの間、糸魚川はしっかり、今ご指摘の点については備えていかなくちゃいけないと思っておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

思っている次第であるということですが、その中身が分かんないから、私こうやってしつこく聞いてるんですよね。

先日のその法人会での話の中で、県の市橋さんは、糸魚川圏域だけ、糸魚川総合病院だけで医療対応はできないということで、それを前提とした病院経営をしていくしかないということまでおっしゃってるんですよね。正確なところは、もう一回ご確認いただきたい。

それから、糸魚川総合病院で急性期医療と回復期医療の両方への対応はできないということで、ならばどうしたらよいかといったところを考えているんだと。そして、上越圏域の病院開設者同士で話し合って、役割分担をすることを県は早く進めていきたいということをおっしゃってるわけですよ。もうその状況にあるわけ。それを今日、私は説明いただいて、糸魚川市はどうするんだということを市長からお話を伺いたかったわけですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

何度もお答えいたしておりますように、今その検討を進めているところでございますし、やはり糸魚川でどうしても必要な医療を続けていきたいといったときに、医療構想の中でどう捉えていくかということになってくると、そうなってくると、糸魚川市独自で考えていかなくちゃいけないところも出てくるんではないかなと思ってる次第でございます。それを先に我々は出すわけにいかないと思ってます。今の上越圏域の医療圏構想の中でしっかり位置づけしてもらいたいというのが我々の希望でありますので、それを主張していきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

ちょっと観点を変えましょう。

これは、糸魚川総合病院の山岸文範病院長さんのお話です。

病院では、改善策を出して実行していると。経営への改善策ですね。６億円の赤字を改善してきたと。来年は、ダウンサイジングの補助金は入らない。そして、先ほど市長もおっしゃいましたね、診療報酬、価格は自ら変えられないと。病院単独での黒字化はできない。ほかに病院収入を増やすことは、市は考えているのか。患者７万人が５万人となり、さらに赤字となっても続けていかなければいけないのが糸魚川総合病院だと思いますと、病院長がおっしゃってるわけですよ。どうしていくのかということをね、投げかけられたわけです。一生懸命考えて改善してる、だけども、来年はもう危ないんだということを病院長はおっしゃってるわけですよ。だから、糸魚川総合病院だけで、もう経営は立ち行かないってことまでおっしゃってるように、私には取れましたよね。これに対して市はどうするかですよ。県の地域医療構想がどうこうって話じゃないでしょう。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

ですから、市は、糸魚川総合病院と連携をしていかなくちゃいけないということと、もう一つ、糸魚川総合病院は、糸魚川総合病院だけで成り立つことはできないと思っております。県内の厚生

連という大きな組織の中にあるわけでございまして、糸魚川だけで黒字になっても、他の厚生連病院が赤字だったら、もう完全にアウトでございますので、そういったことにならないようなこともしなくちゃいけない。そしてまた、今、糸魚川独自で、その医療構想が進むまでの間は、現状をどのように守っていくのか。それをやはり守っていくとしたら、診療報酬で賄えない部分は、行政で賄うというか、公的にやはり資金を導入しなくちゃいけない状況もあるわけでありますので、その辺は、やはり糸魚川総合病院としっかりと連携を取っていくということで、今進めている状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

繰り返しの答弁なんで、どういうふうに伺ったらよろしいでしょうかね。糸魚川総合病院あっての糸魚川の地域医療ですよということから、じゃあどのような支援をしていくかですね。でも来年は厳しいと言ってるわけですよ。そしたらそこに、どのような財源の手当をしていくかというところですよね。１，２００万円の話はありますが、それで済む話ではないということで、それは市長もおっしゃってます。この先どのような形でね、糸魚川総合病院を残すのかというところに少し踏み込んでご答弁をいただきたいわけですけども。回復期医療だけの病院であれば、これは経営が成り立っていくところもあるよと。

ただ、急性期医療がないと、病院としての収入というのは低いので、回復期だけを糸魚川に残すというと、今度は急性期がやれないからという、いろんなそういった問題があるんで、そこのところどうするかなんですよねという話ですよ。これはあれですか、糸魚川総合病院のほうと糸魚川市とは、そういう話というのはしてないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

残さなくてはいけないということでやってるから、今の私たちは苦労しておるわけでございますが、やはり先ほど言いましたように、糸魚川総合病院だけを残す、残さなくちゃいけないことは残さなくちゃいけないんですが、そこだけでは、やはり存続できないということで、県内の厚生連病院、そして、今それをやはり支えてるのは県立病院と合わせると、県内の医療の４分の１を担ってるわけでございますので、県もやはりしっかりと支えなくちゃいけないということで、県と今話を、協議を進めておるわけでありますので、そういった大枠の中でやっております。糸魚川総合病院は残さなくちゃいけないってのは、当然であります。各診療所の医師会の皆様方におかれましても、高齢化が進んでおるわけでございますので、糸魚川総合病院がしっかりと公的病院となるように、私は残していかなくちゃいけないと考えている次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

糸魚川総合病院が公的病院となるために努力を惜しまないということですけど、もうちょっとその辺、具体的に説明願えませんか、課長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今大枠の中でしか分からない、進めない状況の中で、糸魚川はどうするのだというのは、当然、大事なわけでありますが、そこだけで、これはやはり進めるわけにはいかないと思っております。それまでの間は、やはり現状をいかに確保しながら、現状維持を進める中で、そういった県全体の医療構想の中で、糸魚川はどうなっていくかというのをやはり進めなくちゃいけない状況の中でございまして、具体的に、あれはどうの、これはどうのという話ではないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

半年前も聞いたんですよ。あれはどうの、これはどうのね、細かいとこの話すべきではない。いやいやそうじゃないんですよ。もう県の中では１つの構想があって、上越圏域の中では、中核病院はこのような形で、そして糸魚川はこういう形でということの、いわゆるイメージみたいなものというのはできてると思うんですよね。糸魚川に急性期のものをですよ、今までどおりやろうと思っても、医者は来ないんじゃないかってことを言われてるわけですよ。看護師は、慢性的に不足してるわけでしょ。そういった中で、糸魚川総合病院はなくせません、残します、必要な医療はやりますと言ってもね、やれないからどうするかということを上越の中での構想としてもう一回考えて、早くそれを進めることが、糸魚川総合病院をベースとした、これからの糸魚川市民のための救急やら、いろんな病気を治してくれる拠点としてなっていくんじゃないかというところ、そこを今明らかにしていただきたいということで、半年前に出していない結論を、検討した結果を今聞かせてくださいというふうに私申し上げてるわけです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

私も同じでございました。我々もやはり早く結論を出して、早くそういう方向に向かっていきたいと思っておるわけであります。医師不足、看護師不足、そして、糸魚川でなくてはならない診療科目があるわけであります。それがなくなったら大変でございます。そういったものを具体化させたいために進めておるんですが、なかなか進まないというのが実情でございます。今ほど議員ご指

摘のように、新潟県内の、今、新潟県内といいましょうか、これは全国同じでございますが、地方都市では、やはりこの中核を担っている各病院は、ダウンサイジングをしなくちゃいけないというのが、大枠ではそういう形にはなっとるんですが、そう簡単にはならない状況でありますので、それをいかに進めるかというのが、県でもありますし、我々、各市町村がどういう公的な病院を支えていくのかというのは、やはりしっかりとした結論が出ないままに進めるわけにいかない部分があります。しかし、それまでの間、今経営が厳しくなってるのを支えていかなくちゃいけないというのが実情でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

市長、頑張ってください。半年間たってね、同じ答弁ってのはやっぱり不安ですよね。市長も、自分の政策の一丁目一番地は医療だというふうにおっしゃってる。市民の命が大切、病院はなくせない。それはもちろんそうなんだけども、今この局面において、市民に対して糸魚川の、この厳しい医療の現状をちゃんと伝えて、そして５年後先、何とかこういう形に持っていきますと、そのためには、医師、看護師確保をはじめとしたスタッフの確保や、それから何といっても財源ですよね。これをどうしていくかということを示す必要があるんじゃないですか。市長、県へ行って県知事とか、あるいは国に行って、そういう支出をしていただけそうなところへの要望活動というのはされてると思うけど、その辺の状況をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

何度も申し上げておるとおり、糸魚川の地域医療というのは、今、糸魚川総合病院でしかないわけでございますので、これはしっかりと今の支えていただいている地域医療を守っていきたいというのがやはり一番の基本であります。そういう中で今、県も人口減少の中に起きておる各医療圏域の、これからの医療をどう捉えていくかというのも、今そういう、県の考え方あるわけであります。それを併せて７圏域の医療構想を進めていきたいということで入っております。それがなかなか結論が難しい問題で、なかなか簡単にはできない部分があります。それまでの間であっても、我々は、今厳しい厚生連の経営の中で支えていかなきゃいけないと思ってますし、やはりそういったところをしっかりと支えながら、今そういった県の構想に入っていってるわけであります。早く結論が出ればいいんですが、出なければ、それまでの間もやはり糸魚川市といたしましては、糸魚川総合病院としっかりと連携を取っていかなくちゃいけないと思いますし、医師確保、看護師確保も同じでございまして、それは今までどおり進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

すいません、もう一つ忘れておりました。国に対してもそうでございます。やはり国に対しても同じ今地域、地方では大変な状況に今、現象が現れとるという話をしっかりと伝えております。厚生労働省しかり、総務省しかり、非常にそういったところをご説明させていただくと、やはり国のほうも把握はしてるわけでございますが、なかなか難しい問題であるということの中においては、なかなか結論をいただけない状況でございます。

そういう中で、今新潟県は先駆けて進めておるのは、やはり前健康福祉部長が非常に積極的に捉えていただいておるわけでございまして、そういうことから上越圏域が医療構想に入っていった状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

同じことの繰り返しの説明なんですけど、要は、糸魚川市民に現状の危機感を訴えながら一緒に、市民と一緒に糸魚川の医療をなくさないように進めるということができるかどうかということですよ。それについて、私は、一個一個具体的に伺ってるつもりなんだけども、具体的なご答弁がいただけないもんですから、繰り返し繰り返しになってますけども、国・県のほうには要望しているよということは今聞きました。

人と金の問題があると思います。それで、糸魚川の医療人材の確保が大変厳しいと。これはうわさですけども、糸魚川総合病院からの医療人材の流出が顕著になっているというふうにも聞くんです。運営の基本は人材でございますから、人がいなければね、とにかく病院の運営できません。そして、その人材確保の基本は、財源になるわけです。どのように財源を確保していくのか、糸魚川市の一般会計からの支出だけでやっていけるのかどうか。そういったところは、もうとうに考えていなければいけない段階じゃないですか。そこのところはどうなっているんでしょうか。当初予算と補正予算のやりくりで抜本的な対策となっているのか、あるいは、もっと別の形での財源というものを早急に引っ張ってくる必要があるのかというところ、そういったところをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘のように、糸魚川総合病院に対しましては、非常に糸魚川市と連携をさせていただいておるわけでございます。医師不足、看護師不足に対しては、市独自の対応をさせていただいてる部分がございます。そして、それが非常に額が増えてきている部分がありますので、そういったところに関しましては、当然、糸魚川総合病院にやはり改革をしながら、そして、診療の基準をなるべく地域の要望に、不足がないような形に持っていただくようなお願いの中で、糸魚川総合病院も苦労いただいておりますし、そういう状況の中で県の支援もやはり必要ということで今動いて

る中においては、ようやく県も動き始めたわけでありますので、その辺もやはり我々は、もっともっと今の実情を訴えていかなくちゃいけないと思っております。厚生連におきましても、糸魚川総合病院の経営と、そして、県内の厚生連病院全体の経営というのもありまして、我々といたしましても、そういった、やはり民間の中ですから、全て踏み込むわけにはいかないわけでありますが、そういう連携の中でありますので、我々といたしましてもしっかりとその辺を把握するように今努めている状況でありますので、厚生連としましてもその辺は、本当の、確かな数字を出してこいという話をしながら、我々はどうすべき、いいのかというのを進めてるわけでございまして、今年に入ってからも、そういった状況が物すごく急激に変化してるわけでございますので、我々はそれに対して、今非常に苦慮してる部分はございますが、しかし、だからといって、その医療施設を損なうようなことをしてはいけないということで今取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

国・県からの支援は必要ですよね。

ただ、そこへの依存ということで時間がかかるうちに、病院の機能が地域からなくなったらどうするか、病院の機能が糸魚川地域からなくなったらどうするかということを国会議員や県会議員とその危機感を共有していますか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

当然、県会議員、国会議員には、その旨お伝えいたしておりますし、その都度、やはり新潟県に要望に行くとき、また、国の各省庁に要望に行くときには、議員の皆様方にも同じ要望をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

総務省あたりにですね、地方財政計画の中で、特別交付税で医療問題の配分があると思いますね。これを求めていかなければならないという中で、地方交付税を活用して、総務省からの支援を受ける形を早く進めるべきだと私は思うんですけども。いろいろとね、財政的なことは、また別のことがあるかもしれません。

ただ、どこに財源を求めるかといえば、やはりそこなんではないかと。これは、やっぱり市長が県会議員や国会議員と一緒に動いてですね、それをまず見つけてくるということが大事だと思うんですよね。今は１２月でございますけども、いかがですか市長、もう一つ皆さんと連携を取って頑張っていただきたいし、いいニュースを市民にもたらしていただきたいと思うんですけど、いかが

ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

７月、６市の市長と、やはり国のほうにも要望に行っております。それはやはり、今は交付税で頂いている以上に頂かなければ、今地方の医療は非常に逼迫しているという話を強く申し述べさせていただいてまいりました。県選出の国会議員の皆様方におかれましても、その辺はやはり強く国のほうにも当たっていただいております。県といたしましても、やはりそういったところを捉えていただいて、県もやはりそういった危機意識を、県立病院だけではなくて公的病院においても同じような支援をしてくれという強く要望させていただいておりますし、県会議員におかれましても、その旨を県のほうに強く言っていただいていると聞いております。

７月以降も、いろいろ活動させていただいておりますが、まずは７月に国のほうに初めて要望に行きました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

医療の確保は一番の政治課題であるという観点から、もう少し質問を続けますけども、医療の縮小化は、人口減少にさらに拍車をかけることになると。どう対策していくかだと。これは、議会も一緒に考えて提案し、課題解決に最大の努力をすべきことだと思います。当然、財源の問題についても考え、提案していかなければいけないことだと思います。この点、市長の認識を伺いたいと思います。

それと、医療確保の財源ができないならば、ほかの事業をやめてでも医療を確保すべきという声は、市民のみならず、役所の中にもあります。例えばスキー場、これをやめても医療を守ってという市民の声があります。医療確保と財源確保は、市民の理解と対応、で、そしてまた、次の選挙での論点になるとも言われています。市長の認識を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

医療環境が非常に厳しくなったのは人口減少というような、大きくそういうような説明の中でいたしとるわけでございますが、決してそれだけではないと思っております。やはり研修医制度の変更が、やはり大きく関わっておる状況ではなかろうかなと思っております。そういう中で、医師の偏在が顕著になってきている。そういう私は捉え方もあるのはないかなと思っております。

そして、やはり財源においては、しかし厳しい状況の中において一番市民にとって何が大事か、

それはやはり選択と集中の中で捉えていかなくちゃいけないわけでございますので、やはり市のこの行政運営につきましては、バランスのいいものでなければいけないと思っております。市民にとって、そしてまた市民の将来にとって何がいいのかという、そういったバランスが大事だと思っておりまして、偏った形では、やはり市民の皆様方においても市民生活に影響が出るのではないかなと思ってる次第でございますので、その辺はやはり考えながら取捨選択をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

私の質問にはちょっとお答えいただいてないようにね、感じます、申し訳ない。一般的な話ですよね。バランスがいいかどうか、それから何を優先するかどうかということを市民も一緒に考えてくださいねということになると、やはり市民と今の糸魚川市の医療の状況を共有して考える場をつくっていかなければいけないわけですよ。それをどうするかということと、それからやはり、ほかをやめても医療を残すという一つの決断が、市長には求められてきていますよということを私は申し上げてるわけですね。

では、そろっとですね、この医療のことについての私なりのまとめをちょっと申し上げてみたいと思います。

これは、仮に上越の医療の再編が進んだ後のことですけども、糸魚川にも救急や、あるいはカテーテルですとか、手術ができるようなものを残していきましょうという前提になっていますけども、まず、予算的な話ですが、普通交付税では算定基準が決まっているので、特別交付税を活用して、早く動いて、取りあえずでも危機的状況への対応を行い、市民に必要な医療確保ということで、市民に理解していただきながら、地域医療構想を進めて、県からの支援を受けて、基幹病院の分院を糸魚川につくってもらうよう早く進めていく。

また、糸魚川の医療を市民が支えていくにはどうすべきかを市民それぞれで考え、行動をしていただく。場合によっては税率アップがあっても、それは命を支えるための税であることを市民に理解してもらうことも必要であるといったことだと思いますけれども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

基本的にはそのとおりだと思っておりますが、県からも支援してもらうということじゃなくて、私は、県と一体となって地域医療を守っていかなくちゃいけないという考えであります。県から支援してもらうんじゃなくて、県もやはり県内の市町村の医療をしっかり守っていかなくちゃいけない状況にあると思うわけでございますので、県立病院だけを守っていけばいいということではないと思っております。その辺は、やはりしっかりと地域医療構想の中で伝えていきたいし、そういった形に持っていきたい。そういう中で糸魚川は、全て同じような上越圏域は一緒かというと、糸魚

川と妙高市もちょっと違うだろうし、また、中心の上越市も違うだろうし、そういったところをしっかりと地域の地形的な状況も勘案しながらつくっていきたい。数だけの問題ではないと思っております。そういったところをしっかり主張しながら、糸魚川の必要な医療の確保を守っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

市長、私が言ったことを、話をすり替えないでくださいね。というか、ご認識がどうなのかね。県立中央病院だけを守っていけばいいなんて、私一言も言ってませんよ。上越の中の再編を行ったその先にね、上越には中核病院的な機能のあるものを持っていって、そこに専門医を集めて、高度な医療がやれるようにしないと、糸魚川市民の命も助かるものも助からなくなる可能性が出てきますよねということでは申し上げてきたけども、何も県の病院だけを残してくれって言ってるわけじゃないし、私が一番言いたいことは、糸魚川でやれることはできるだけやっていただくように、全体構想の中で早く位置づけをして、それを早く進めていただいて、財源も確保していただきたいということを申し上げているわけですよ。

また、これは次の一般質問でも伺いたいと思います。

時間がなくなってまいりました。防災対応ということで、伺いたいと思います。

私、７月１０日に早稲田大学の全国地方議会サミットへ伺いまして、そのとき片山善博先生から、議会はこういうところをチェックすべきだということでご指摘をいただいたので、それを基にお話を少し伺いたいと思いますけども、災害時の責任者はトップだが、片腕となって専門知識を持って働く幹部職員、側近はいるのか。また、対応できるのかということを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

おはようございます。

お答えいたします。

当然トップは市長でございますが、その側近というのも必要です。そういった中で、側近といえば、まずは副本部長の副市長、あるいは危機管理監であります総務部長、あるいは消防長です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

消防長にいま一度伺いますが、県の対応が重要じゃないかということで申し上げて、市長からお答えいただきましたけども、救済チームの派遣等の対応について、いま一度詳しく教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、県につきましては、災害が発生した際には、市の対策本部へリエゾンを派遣いただきます。そこで、市の対策本部で県と市と連携いたしまして、災害の規模、必要に応じまして派遣チームを派遣調整していただいたりといったようなことをしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

残された時間の中で、質問してまいりたいと思います。

３番の駅北子育て支援複合施設の必要性、市民、住民との合意形成についてお願いいたします。

１番のほうでは、私からは、この施設いいなと自分で見てきて思ったものについて上げているわけですけども、学ぶべきことがあったと思います。それは、運営での工夫とデザインのセンスだと思うんですけども、担当課ではいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

おはようございます。

お答えいたします。

こちらの施設につきましては、３施設とも駅の近くにあるということで、当市の計画しているものと似たような形の施設かなというふうには認識しております。そういった中では、やはりいずれの施設にも共通して感じましたのは、出入りを含めた、そういった利用のしやすさでありますとか、居心地のよさといったものがあるというふうに感じております。私どもも、今、整備のほうの計画を進めておりますので、そういった部分を含みながら、今後、対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

設計、建設、運営ということで、建物というのは造られ、その後、市民に利用されるわけですけども、それをどのように進めていったかです。それぞれの施設、市民とどのように合意形成をしていったのかを調べましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

「えんてらす」のほうにつきましては、私も現地のほうを視察をさせていただきまして、その状況等も確認をさせていただいております。こちらの施設については、市のほうの直営で行われているといったところも確認をしております。今回、私どものほうでは、ＤＢＯという形で運営も一体的にということで進めさせていただいておりますけれども、それぞれの施設の運営の仕方を、やはり参考とするべきところはあるというふうには思っておりますので、今後、またさらにですね、そういった調査等も含めながら、対応を検討していきたいというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

次、（２）ですね、市民・住民との合意形成です。

市長から合意形成できましたというふうなお話でしたが、実際、市民から私が聞いたご意見を少し紹介したいと思います。

商業者の方で、その方のお店に来られた方たちから聞いたものだということです。店番を１日して、あの施設のことを知らない人が半分、知ってる人は全員反対でしたと伝えておきますというメールを頂戴しました。庶民のお店、店主ということで、お名前をいただいています。

それから、私が建設地の近くに住む方から聞いたものですけども、何十年か前のように地域に子供がたくさんいた頃なら、いざ知らず、今は公園で遊ぶ子供もいないのに、そんな大きな遊戯施設を造るのはナンセンスです。無駄になるか、造ったとしても一部の人たちだけが使うような施設となったり、中で何をやってるか分からない施設になるのではないですかと。少なくとも子供がいない私には行く用事もないし、何かイベントをやられても行きづらいところでしかありませんということなんですよ。

こういう意見がやはりあるんですよね。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

様々なご意見もあろうかというふうに思っております。

ただ、私ども、これまで駅北のまちづくり戦略等も踏まえて、この設置施設の整備計画を進めてまいりました。子供は減っていく中ではありますけれども、なくなるというわけではございません。今いる糸魚川市の子供たちのために、しっかりとした安心して子育てができる環境をつくっていき

たいということで、この施設の整備は進めさせていただいているというところでございます。

また今後、計画、今後、事業者のほうが固まってまいりますので、そういった中で市民の皆様にも丁寧にご説明をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

何年も前からね、市民の皆様にも丁寧な説明をしてまいりたいとおっしゃってるんですよ。ずっと来ました。議会では、その折々にご説明いただいているんですけども、何ていうんですかね、その市民の姿が見えないんですよね、私には。それを心配しています。それで、駅北子育て支援複合施設は、運営方法、それから一般会計からの高額で長期の支出など、いろいろと問題があるんではないかということは、これは私に近い市民からご指摘をいただいているところです。そういう方や、先ほど私に意見を言ってくださった市民に対してですよ、ちゃんと納得いただくようなことがなければ、これは市民との合意形成ができたとは言えないんじゃないですかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように市民との合意形成といったところは非常に大事だというふうに思っております。今後もですね、議会でのご説明をはじめ、しっかりと対応していきたいと思っておりますし、議会に説明させていただいた内容を市民の皆様にも説明させていただくという形で今後、対応してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

説明はね、いつもいただいているんですよ。委員会の中でも意見を申し上げたり提案しているでしょう。でもそれらはね、ほとんど聞いていただいてないような気がするんです。もちろん、前へ進めてくださいという意見を述べられる議員の方もおられますしね、行政と共にいいものをつくっていくということは大切だけども、今ちょっとそういう感じがね、私には受けられないんですよね。そういうふうには感じられないんですよ。で、私、こういうこと言うと、市長にこの前、田原は建設に反対してるとかというふうには言われたんだけど、私、反対してませんよ。いいものを造りましょうよと。

ただ、ＤＢＯはブラックボックスで分かりにくいですから反対したんですということなんですけど、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

手法的については、皆さんの意見を聞く中で進めておりますし、我々といたしましても、やはり一番いい方法ということでご提案させていただいたわけでございますので、確かに田原議員のところには、そういうふうなお言葉もあったのかもしれませんし、私のところには、逆に早く進めてほしいという声も来とる部分がございます。いろんな意見が私はあるのだろうと思っております。先ほどの地域医療もそうでございますが、やはり市民にとって、いろんなものが、必要なものがあるかと思うわけでございますので、やはりそういった市民に対して、また高齢者の皆様方や、またこの幼い子供さんたちのためにも、いろいろやはり進めていくことが、やはり行政の仕事だと思ってるわけでございますので、この施設についても、そういった形の中で捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

私のように意見を言う人間がですね、議員がですね、ＤＢＯ方式でいかがなものかと異論を唱えたことを、反対者というレッテル貼り等があるということもいかがなものかと思うし、そういうことをしてもですね、市民が望む公共施設というのはできないんじゃないかと思うんですね。住民意見を聞かない計画、建設後も多大な運営費を支出することで市民の賛同はないと思います。

○議長（保坂　悟君）

以上で、田原　実議員の質問が終わりました。

次に、私が一般質問を行いますので、横山副議長と交代いたします。

暫時休憩いたします。

再開を１１時１５分といたします。

〈午前１１時０７分　休憩〉

〈午前１１時１５分　開議〉

○副議長（横山人美君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、保坂　悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。　〔５番　保坂　悟君登壇〕

○５番（保坂　悟君）

公明党の保坂　悟でございます。

発言通告書に基づき、１回目の質問を行います。

１、防災・減災について。

(1) 小中学校体育館等へのエアコン設置について。

① 新年度に向けて、エアコン設置への検討はどうなっているか。

② 災害時の対応として、ＬＰガス（プロパンガス）を併設することで、停電時でも稼働できるようにすることは検討しているか。

③ エアコンの電力として、太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーの検討をしているか。

(2) 感震ブレーカーの周知と設置補助制度の創設について。

地震による火災の約６割は電気が原因と言われ、通電火災への対策が必要である。また、地震による停電の復旧時に発生する火災にも感震ブレーカーは有効であることから、周知と制度導入の考えはあるか。

(3) 防災士の資格取得経費の補助制度で、対象者を拡充する考えはあるか。

(4) 避難所運営について。

①配慮が必要な方への対応、②女性・子供への配慮、③防犯対策、④ペットの対応の、この４項目について、それぞれに力を入れていることはあるか。

(5) トイレトレーラーの導入を考えているか。

(6) 自動車避難を想定した津波避難道の整備計画を考えているか。

２、学校図書館の体制強化について。

読書好きの子供を育てることは、子供たちの可能性を広げることになる。そこで読書の楽しみ方をレクチャーする学校図書館の楽しい活動を積極的に展開する取組に着目している。

(1) 学校司書について。

① 学校司書の研修を積極的に取り組むことを考えているか。

② 学校司書の増員は考えているか。

③ 学校司書を会計年度任用職員から正職員にする考えはあるか。

④ 司書の資格がない方に資格取得の支援は考えているか。

(2) 長期休暇の活用について。

① 夏休みに子供たちに開かれた図書活動を展開する計画はあるか。

② 夏休みを図書館司書（この場合、図書館司書と書きましたが、学校司書というふうに受け止めていただきたいと思います。）による「子供たちの好奇心に火をつける期間」として取り組む考えはあるか。

③ 田沢地区公民館主催の「絵本でＳＤＧｓ」の活動やＳＤＧｓの理念を反映させた糸魚川市総合計画と世界ジオパークの取組を連動させてユネスコスクールに加盟する考えはあるか。

④ 夏休み期間を使って図書館司書のスキルアップのため、各種研修に参加させる取組は考えているか。

３、「誰一人取り残さない」ＳＤＧｓの取組について。

(1) 以前取り上げた、化学物質過敏症をはじめとした難病指定に至らない方たちへの支援と理解への周知について。

具体的には災害時の避難方法や日常生活に支障を来す場合に、精神障害者保健福祉手帳の交付への専門的なアドバイスの提供はできるか。

(2) 認知症患者とその家族への支援について。

具体的には認知症の方が入所できる施設は、グループホーム、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームの４種類があるが、認知症の度合いと家族の精神的・経済的負担等を考慮した新しい施設の検討や支援制度を検討することはできないか。

(3) 老老介護者への支援について。

① 未婚者による老老介護の家庭に対する精神的・経済的支援の拡充は考えているか。

② ひきこもり世帯に対する支援はどのように行っているか。

(4) 大人の発達障害者への支援について。

「生きづらさ」を感じている方の把握は難しいと思うが、生活や仕事における様々なトラブルを回避するために専門家による相談窓口が必要と考えるが、積極的に取り組む考えはあるか。

４、行政改革について。

(1) 市職員の職場環境の整備について。

① 健全な行政運営を行うには、公益通報制度とその通報者保護の強化が最も重要と考える。官製談合以降に何か工夫はされているか。

② 東京都では職員を守るために「カスタマーハラスメント防止条例」を令和７年４月から施行するが、当市において検討する考えはあるか。

(2) 道路整備とのり面等の工夫について。

除雪会議や観光シーズンになると毎回話題になるのは、道路のり面の伸びた草木の伐採です。シルバー人材センターや建設業の人手不足により、慢性的な遅れを感じています。除草シートの活用や道路からの一定距離の樹木を伐採するルールづくりの考えはあるか。

(3) 公共施設の統廃合と持続可能なまちづくりについて。

単なるコンパクトシティー化ではなく、防災公園の整備、多様な学びを提供する施設、自然を生かした教育や体験観光の推進、新幹線駅を活用した首都圏との二拠点生活の推進とそれに伴う駅周辺整備を盛り込んだプロジェクトを立ち上げる考えはあるか。

(4) 子供や若者の政策提言を受ける機会の創設を考えているか。

以上で、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、今年度、県内の小中学校で導入された移動式エアコンを視察し

ており、来年度に向けて、一部の学校での試行的導入を検討いたしております。

ＬＰガスの併設や電力としての自然エネルギーの活用については、今後の研究課題と捉えております。

２点目につきましては、補助制度の導入について、引き続き、調査・研究してまいります。

３点目につきましては、地域で活躍いただける方であれば、どなたでも補助対象といたしております。

４点目につきましては、避難所の運営は、避難者が運営に関わり、過ごしやすい環境をつくることが重要であると考えております。

５点目につきましては、現在、調査・研究いたしております。

６点目につきましては、自動車避難は、避難方法の一つと捉え、検討しております。

２番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

３番目の１点目につきましては、難病指定の有無にかかわらず、何らかの障害により日常生活に支障がある場合は、医療機関や障害者相談支援事業所の専門職が相談に応じております。

２点目につきましては、第９期介護保険事業計画において認知症対応型グループホームの整備を位置づけているほか、ＧＰＳ機能を持った見守り機器の購入補助やチームオレンジの立ち上げなどに取り組むことといたしております。

３点目につきましては、現在実施している介護家族への支援制度の中で、地域包括支援センター等の関係機関と連携して、引き続き、支援してまいります。

４点目につきましては、大人の発達障害の相談窓口として、発達障害ナビポータルを紹介しているほか、福祉事務所や障害者相談支援事業所の専門職が相談に応じております。

４番目の１点目の１つ目につきましては、コンプライアンス行動指針に基づき、公益通報相談窓口に加え、新たに外部相談員を設置し、相談しやすい環境を整備いたしております。

２つ目につきましては、職員の働きやすい環境整備のため、他の自治体の状況を研究してまいります。

２点目につきましては、作業の省力化を図るため、整備段階から維持管理のコスト縮減に努めてまいります。

３点目につきましては、効率的・効果的な行政運営を行うとともに、人口減少に対応したまちづくりを進める必要があると考えております。

４点目につきましては、現在、人口減少・少子化対策プロジェクトにおいて、若者の考えを聞く機会を設けており、引き続き、様々な世代の声を聞きながら、持続可能なまちづくりに向けた取組を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

２番目の１点目の１つ目につきましては、外部研修への積極的な参加を促してまいります。

２つ目につきましては、学校司書へのヒアリングを通して業務量等を確認し、検討してまいります。

３つ目と４つ目につきましては、現在のところ考えておりません。

２点目の１つ目と２つ目につきましては、学校司書の長期休業中の勤務日数が限られているため、現時点では考えておりません。

３つ目につきましては、各学校が加盟申請して国内審査を受けることになります。

４つ目につきましては、研修への積極的な参加を促してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

それでは、２回目の質問を行います。よろしくお願いいたします。

まず、小中学校体育館のエアコンの設置についてであります。

私が調べたところによりますと、文部科学省の２０２４年９月３０日に公表された全国公立小中学校の空調、この場合は冷房になるんですけども、設置率の調査では、普通教室が９９．１％、特別教室が６８．１％、体育館等となると２２．１％と、かなり数字が落ちております。糸魚川市の設置状況を改めて検討していただきたいと思いますし、ちなみに、先ほども答弁にございましたとおり、県内の取組としては、今年の６月１０日に燕市では、市内全１９学校に移動式エアコン、いわゆるスポットエアコンという方式であります。これが各４台配備して、総額約４億円というふうに伺っております。

また、阿賀町では、今年度中に三川小中学校と阿賀津川中学校に、これは固定式でありますが、エアコンを設置予定となっております。

現段階で、今ほど市長から答弁があったんですが、もう少し担当課のほうで具体的な取組を教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

私どものほうでも、今ほど議員さんのほうからご紹介いただきました燕市のほうの視察を行っております。そちらのほうのスポットクーラーといったところの視察を踏まえる中で、当市においても、そちらの市役所の隣にあります亀が丘体育館のほうで一度ちょっとデモ的なところも確認させていただき、冷房能力等も確認をしたところでございます。そういった点も踏まえながら、また、導入経費等も含めて、今後、検討をしてまいりたいというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

また、検討する際は、当然、学校関係者は当然なんですけども、やっぱりこの避難施設ということも考えた場合に、また消防とか、そういう福祉団体であるだとか、そういった方も織り交ぜながらの検討をぜひ行っていただきたいと思います。

次に、２番目のこのＬＰガス、プロパンガスのところでございます。

災害時のことを考えると、やっぱり暖房等ではやっぱり私プロパンガスってかなり有効だなというふうに思っております。実際、私、学校のほうは都市ガスをどの程度入れてるか分からないんですけども、やはりプロパンだと持ち運びもできるということで、ある程度そういう都市ガスに頼らず、プロパンガスという部分も併設していく考え方というのが糸魚川市では、もうやる必要がなければいいんですけども、もしやる必要がある施設については、ちょっとご紹介いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今ほどのＬＰガス等につきましては、万一そういった震災・災害が起きた場合に、早期に、要はその施設の部分だけで復旧が可能といったところで非常にメリットがあるといったようにも捉えております。よその自治体で、既に導入されているといったところも確認しておりますので、そういった状況も確認しながら、今後、対応を検討していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

ぜひ前向きに捉えていただきたいと思います。

次に、太陽光発電、風力発電という自然エネルギーの活用なんですけども、これも今言ったように、電力の供給が難しい場合に、やはりまず自家発電ではありませんけども、少しでもそういう可能性を残すという意味で導入をお願いしたいんですが、今市内では、太陽光の発電ってついてるところが幾つかあったかのように記憶しておるんですけども、もし公民館等であればちょっとあれなんですが、実際にはついてる数というのがどのくらいで、今後こういう自然エネルギーの取り付けというのが考えられるのか、その辺ちょっと教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

大変申し訳ございません。市内には、確かに太陽光等の自然エネルギーの設備、整っている学校ございますが、今、手元に資料がございませんのでお答えできません。大変申し訳ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

これも何ていうか、いざというときの代替案的なものであるんですけども、もしいろんな、また国の補助メニューとかもあれば、積極的に取り入れていただきたいなと思います。

次に、ちょっと今回一番、私としてはメインにしてるんですけども、この感震ブレーカーというものなんですが、地震による火災、先ほども言ってました６割が、電気が原因による火災が多いということなんですね。それで、２０１９年頃には、全国的に感震ブレーカーの設置というのが結構取り組まれたらしいんですね。私ちょっと勉強不足で分からなかったんですけども、今年の元旦にあった能登半島地震を受けて、特に木造建築物の密集地において、この感震ブレーカーというのがやはり通電火災を防ぐには非常に効果的だというふうな報告を受けております。

感震ブレーカーはどんなものがあるのかなと思って調べますと、３種類ございまして、１つ目は、分電盤タイプ、その中にこの内蔵型なんです。もともと内蔵されてるものだと５万円から８万円。後づけ型、分電盤に後からつけるものが２万円ぐらいだそうであります。ということで、２つ目は、コンセントタイプというのがございまして、これは５，０００円から２万円ぐらいだと。３つ目も、簡易タイプってのがあって、多分これ、おもりみたいなものがぽんと落ちるだけのものだと思うんですが、これが３，０００円から４，０００円だと。非常に種類が多いのと、価格帯が非常に広いもんですから、何がいいのかというのは難しいんですが、一度そういったものも検証していただいて、今回、能登半島地震の影響ってすごく大きかったなと思うんですが、この感震ブレーカーというものそのものの周知と、あと、できれば市としては、設置のキャンペーンをやっていただいて、設置補助というものについても、ちょっと具体的に研究等、その制度の構築を考えていただきたいんですけども、その辺の考え、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、周知につきましては、３月の市議会定例会で、中村議員の質問のときには調査・研究してからということで、今現在、出前講座で周知をしております。

ただ、保坂議員おっしゃられるとおり、タイプも様々で価格帯も様々、また、メリット・デメリットも数多くありまして、こちらで補助制度を創設するには、まだまだ課題が多いかなといったところなんですが、やっぱり地震の際の電気火災、これを防ぐには有効な手段といたしまして、市民のご判断でといえばちょっと逃げになりますけども、そのような形で今、出前講座では周知をさせ

ていただいておるといったところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

それで、県内の動きを見ようと思って調べたんですが、東京都中央区では、この感震ブレーカーの配布事業というものがありまして、そこに書かれてるのは無料配布って書いてあるんですね。ちょっとその中身はちょっと調べ切れなかったんですが、多分、すごく特徴的な取組だと思うので、また、研究していただきたいなと思っております。

ほかの、じゃあ自治体どうだったのかというと、魚沼市、柏崎市、見附市では、感震ブレーカーの設置の啓発のみであります。具体的に、まだ設置というところには至っておりませんが、ただ、今回、皆さんいろんな地震のことを考えると、徐々に何ていうかな、火災というものに対しての意識が高まってくるという部分と、あと、糸魚川市においては大火の経験を踏まえた自治体ということもございますので、そういった部分での、警報器のほうはね、すごく先進的な取組をされてるんですけども、またこの感震ブレーカーについてもいろんな取組、バリエーションがいろいろあってもよろしいかと思うので、また研究していただきたいと思います。これは、じゃあ要望にさせていただきます。

次に、（３）の防災士の資格取得経費の補助制度のところでございます。

これも全国でどんなものがあるかなと思って、調べさせていただきました。岐阜県の多治見市が参考になるかなと思いました。防災士認証取得補助制度というのがありまして、これが市内に住所を有して、要は、１２歳以上７５歳以下という年齢の対象です。ポイントは、やっぱり中学生から受けられるというところがポイントかなというふうに思っております。また、市や自治会が行う防災訓練等に積極的に活動する意思があること、また、多治見防災士の会というのがあって、１８歳以上の方には、そこに入会することと。要は、横の連携であったり情報共有という部分で、そういう会を立ち上げて入れさせていると。補助の内容としては、認証取得経費の２分の１を乗じて、１，０００円未満の端数を切る形だと。上限は３万円というふうになっております。

私から見ても妥当なのかなというふうに思いまして、この例を紹介いたしました。ぜひ糸魚川市でもこういったレベルでの取組をぜひやっていただきたいと思うんですが、何ていうのかな、特に、何で私、防災士を進めるかというのは、やっぱりいざ何か災害が起きたときに、必ずしもそこに若い人であったり男性がいるとかということが言い切れないんですね。そうなると、やはり女性であるとか、先ほど言いました中学生や高校生が、何ていうのかな、意外にというとちょっと語弊あるんですけども、力を発揮してくれるという、いろんなそういう報告もございますので、そういった女性向け、また、中高生向けというところにポイントを置いて、積極的な取組をする価値があるんじゃないかなと思うんですけども、その辺の考え、いかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、糸魚川市でも自主防災組織の補助制度を設けております。自主防災リーダーが認めた者、また、先ほどどちらかの地区の活動事例ありましたとおり、そこで実際活動いただくといったようなところで、ほぼほぼ申請すれば通るのかなといったような状況でございます。

今後の防災士につきましては、市長答弁にもありましたとおり、防災リーダー研修で実際に５名の方から防災士に参加していただきまして、やはり活動する場がないとか、どういった方が防災士をお持ちで、横の連携が取れなかったといったところで大変好評でした。そういったところで市がリーダーシップを取りまして、まずは防災リーダーの掘り起こしをいたしまして、その後につきましては、（仮称）防災士会でもないですけども、糸魚川市で防災士の横連携を取っていただきまして、防災士が中心となった活動をしていくといったようなところで今、取組を進めているところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

まさに今おっしゃっていただいたとおりのことを推進していただくと非常によろしいかなと思います。よろしくお願いいたします。

次に、４番目の避難所運営についてであります。

今、４つの項目を上げさせてもらったんですが、これは総務省か何かの避難所のガイドラインに載ってたところなんですね。それで、配慮が必要な方とは、障害者であるとか認知症患者、精神障害者、また、日本語に不慣れな外国人というのも対象になるかと思います。避難所において、ただでさえバタバタしてる中なんですが、やはりその専用ゾーンや別室を設けること、また、要配慮者を優先したこの場所割を決めること、食料には十分な配慮をすること、特に人工透析患者、糖尿病患者、また、高齢者ですと食べ物で喉を詰まらせたりしてはいけないので、そういう少し細かく切ったものを食べさせるであるだとか、あと、施設内での情報共有するために、情報を貼り出す場合には、やっぱり大きな文字で読み取れるものであるだとか、あと音声情報の場合は、やっぱり拡声機で話をするといったものの、そういう備品の整備であるだとか、あと、避難所内では、やっぱりけがの防止のために、つえや車椅子を使うことも、むしろ進めたほうがいいということであるだとか、いろいろ考えられるんですね。

ただ、私、このときに思ったのは、いわゆる配慮が必要な方のほうにも、やはり自分はこういう状況であるというプレートがいいのか、何かマークがいいのか、やっぱりそういったものもある程度、プライベートなことではあるんですけども、避難所運営の中では、そういったところのことも明確にしていかなきゃいけないと思うので、それは日頃から、事前にそういう黄色でも赤でもいいんですけど、ハンカチの色はそういう人を示しているでもいいんですけども、そういった工夫が必要ではないかなということで、ちょっとこの質問させてもらったんですが、そういった取組できますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

配慮の必要な方につきましては、災害時ということだけでなく、ヘルプマークというものが推奨されておりますので、そちらの活用というところも含めまして、また消防のほうとも連携を取りながら、災害時の対応というところを進めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

そうですね、ヘルプマーク、私も以前、この議会でも推進をお願いした立場でございますので、当然大事かと思います。

ただ、先ほども言いましたとおり、やっぱ避難所で、この方がどんな症状があるだとか、どういった、もっと具体的にアレルギーを、どんなアレルギーを持っているだとか、結局、混在している中での、何ていうのかな、その人の持病であるだとかそういったものに対して、ある程度、申し訳ないけども自分はこういう状態ですというものを示していただかないと、多分、二次被害といいますか、先ほども出てきたＳＤＧｓのとき、化学物質過敏症の方であるだとか、もう本当、柔軟剤とかの香りだけでもアレルギーが出てしまったりだとか、結局そういう人は避難所に来れない。来れないんじゃなくて、そういう方でも対応できるスペースを取るだとか、あえて車中泊にしてもらって、そのための便宜を図るであるだとか。いやそんな細かいことっていっても、その人が病気を発症してしまうと、結局お医者さんもすぐ来てもらえないわけですから、そういう事前な対応が必要だと。そこはやっぱりきめ細やかにしていかないといけないんじゃないかなということで、保坂は課題ばっかりいっぱい持ってくるなと思うかもしれませんけども、やっぱりそういった緊急の場合であるからこそ、そういった準備を事前にしておくという部分での提案なんですけども、その辺いかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

私のちょっと記憶がちょっと定かではないんですが、３．１１のときに、東北から避難されたときに、トリアージをやったようなことがございました。今、議員ご指摘のような細かいとこまではやってなかったかと思うんですが、ある程度大枠の中でやったところがあったかと思いますので、まさしく今ご指摘のとおり、非常にいろんなものをお持ちのその人たちがおられるんで、避難所において、それが非常に悪化したら困る部分がございますので、なるべくそういったことをスピーデ

ィーにできるように、そして、それをそうすることをしますよということも分かるようにしないと、なかなかそれを公にしたくない人もおられるかもしれませんので、そういったところを分かるようにして、どなたでも避難所の環境をよくしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

本当に考えれば考えるほどいろいろなバリエーションがあって、大変なのは重々分かってるんですけども、今現在そういう症状の方と、またコミュニケーションを取りながら、対応できるところはしていくという姿勢でぜひ臨んでいただきたいと思います。

次に、女性、子供への配慮についてであります。

これに該当するのは妊産婦であるとか乳幼児、また小さな児童が、具体的には対象になるんですけども、女性については、女性特有の健康状態であるだとか、あと、一時、生理用品のことであるだとか、あとおトイレの状態であるだとか、後は女性なので避難所生活であったとしても身だしなみであるだとか、そういったところがやっぱり生活の張りを持たせるのに非常に大事だというふうな報告もございます。そういった空間づくりの体制を、もう既に考えられておられるんでしょうけども、やっぱりそういったところに、何ていうのかな、糸魚川市としては、女性への配慮、子供たちへの配慮という部分で、もし工夫がなされてるんであれば、少しご紹介いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

避難所におきましては、事前に要支援者登録の台帳というものがございまして、事前に、まず配慮が必要な方というところでは把握をして、その台帳との、混乱のときにはちょっと時間はかかるんですけれども、突合しながら配慮するというところと、もう一つは、受付のところで配慮が必要な方については、女性、子供、障害者も含めて聞き取りをして、その上で配慮するということを現場では行っております。そして、女性、子供につきましては、例えば妊婦さんがおられれば、必要な保健指導というところは保健師のほうでも行っておりますし、子供さんにつきましても配慮が必要な方については、ご家族で個室を設けたりというところ、その場で臨機応変な対応というところで今までも対応してきておりますし、今後の災害においても、そのような形で実施していくということになろうかと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

ぜひそういった配慮をよろしくお願いいたします。

次、３番の防犯対策で、避難所における防犯対策であります。

大規模災害時の避難所における性被害の報告であるだとか、女性や子供たちを守る視点から、防犯カメラとかこの防犯ブザーの配布などの体制も必要なのかなというふうに考えております。

また、多くの方と生活の中で、物が盗まれたり、盗むつもりがなくても間違えて持ってったりということもあるかと思うんですが、そういう盗難、あと盗撮、あと精神的に追い詰められるようなケースというのが、この生活空間の中であるようなことも聞かれているので、そういったこの防犯対策というものについて、ただでさえ避難してきて大変なんですけども、そういったところへの何ていうのかな、配慮というか対策というのは、今どんなことが取り組まれてるんでしょうか。避難所で、なかなかそこで防犯カメラといっても難しいんですけども、例えば皆さんが持っているスマホの利用をするであるだとか、その通報システムをしっかり構築するであるだとか、何か平常時から何か取り組めること等があれば、そういったところも研究していただきたいと思うんですが、今現在、どのような取組になってますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

防犯対策１つ取れば、なかなか難しいといいますか、例えば防犯カメラだとかって難しいんだと思いますが、ただ、避難所運営全般的に考えますと、今言ったような様々な課題、女性の方だとか、あと、この後、保坂議員の質問にあるペットだとか、そういったところで避難所運営というのは非常に難しいんですが、ただ、その避難所を運営される方、また、避難者の方、相互の理解がなければ避難所運営というのは成り立たないというのは、実は、先日の防災リーダー研修のテーマでありまして、防災リーダーの方、そういうことだったんだなということで、かなり好評いただいております。

そういったところで、今後につきましても、今までは避難場所への避難だったんですが、この避難所運営にも力を入れていく必要があると。そういった中で、今、保坂議員おっしゃられた課題等々も１つずつ解決していけるのかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

いろんなことを想定すれば、本当に数限りなく上がってくるかと思いますが、その中でもまた、臨機応変な対応ができるように、ぜひ心がけてやっていただきたいと思います。

次に、先ほど今言われたペットの対応でございます。

このペットの同行避難についても、過去に一般質問でも取り上げてまいりました。ただ、これも日頃からの訓練が非常に大事だというふうに言われてまして、犬とかであれば普通に連れてくる場合もあるでしょうが、ケージに入れるとか、また猫ですと、やっぱりすばしっこいんでケージにな

かなか入れるのも難しかったりする場合もあり、環境変わってすごく落ち着かない場合もあるんですけども、やはり日頃からケージに入れるであるだとか、この車移動に慣れさせるであるだとかということも、ちょっと積極的な取組が必要なんじゃないかなと思っております。

また、避難所におけるペットの、何ていうのかな扱い方というものについても、やはりそれも訓練なり、またイベントでもいいかと思うんですが、そういう獣医師会であるだとか、ペットショップとか、そういったところとも連携を取りながら、こういう便利なものがあるよとか、避難所ではこういったことをしたほうが、非常に動物にストレスが与えなくて、かえって落ち着いていいんだとかというレクチャーも、やっぱり一度やってみたらどうかなと思うんですけども、ちょっと全国的にどんな取組があるかはちょっと調べてはないんですけども、ちょっとそういったところも今高齢者の方にとってはペットが非常に、生きていくための生きがいであったり、そういう方もおられるかと思いますので、少しちょっとレベルを上げた対応が必要だと思うんですが、その辺の取組、または考え方というものを教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

木島環境生活課長。　〔環境生活課長　木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

お答えします。

ペットの避難に関しましては、常日頃からの、議員さんがおっしゃるように常日頃からの準備、備えというものが大事になってくるかと思います。避難所においては、やはりペットが家族の一員という方もいらっしゃいますが、アレルギーを持ってらっしゃる方、それから苦手な方というのがいますので、運営に関しては、やはり動線を分けるというような工夫も必要だと思いますし、冒頭申し上げた、日頃からのケージに入れる訓練、人間と同じようにペットも大変災害時は不安な思いでおりますので、そこで飼い主とやはり離されるというのは、大変ストレスのたまることにもなりますので、そういった講習会等、また、関係機関の協力を得ながら実施してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

ぜひ講習会の開催、よろしくお願いいたします。

次に、トイレトレーラーの導入についてであります。

今回、能登半島地震で、上下水道が甚大な被害を受けたということと、あと避難所でのトイレ環境が非常に課題になったという報告がございます。特定非営利活動法人日本トイレ研究所の２０２４年6月２４日の能登半島地震における避難所トイレの被災状況調査というものがございまして、外部調達される仮設トイレやトイレカーなどは、半島という地理的条件や道路の被災により、設置されるまでに時間を要し、発災当初は、尿の処理場というんですね、その機能が停止したことによる、くみ取りに関してもすごく困難な状況を極めたという報告がなされております。

糸魚川市も、例えば国道８号線、あと１４８号線に土砂崩れがあって、搬送ができなくなった。だからいろんな提携を結んでいて、いざというときには、その物品が入ってくるという約束をしてあったとしても、そこが寸断されると入ってこないという状況になったときには、今回、能登半島が、まさにその半島がゆえに、いろんなそういうことで困られたということもございます。そういったところを考えると、じゃあ何台も用意はできないかもしれないんですけども、一時、トイレの、何ていうか、救援というか、そういったものにトイレトレーラーであるだとか、あと、特に能登半島で教訓となったのは、トイレとベッドとキッチンと言われてたかな。ＴＢＫとかといって、そういったものの物品がある程度、その地域に保有していないと、なかなか避難所というか、被災された方の衛生面が保てないんではないかという今回の投げかけでございます。それで高いものにはなるんですけども、ある程度、地域、市の市域を考えて、それが１台なのか２台なのか、場合によっては４台なのか、そういったところもちょっと検証していただきたいと思います。

また、糸魚川市がそれを持つことによって、また近隣の自治体に何かあったときには応援に行けるという、そういう相互支援の考え方もありますので、国のほうでもそういった今、自治体の、不交付自治体だったかな、国のほうでも少し何かそんなことも、トイレトレーラーとかの配備についても考えてる動きがありますので、もう真っ先に手挙げて、糸魚川市もそういった整備というものに取り組んでいただきたいなと思うんですけども、その辺の考え方、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

トイレカーにつきましては、市長答弁のとおり、今、調査・研究している段階ですので、その内容については、まだちょっと決まっておりませんので答弁できませんが、いずれにいたしましても保坂議員おっしゃられるとおり、ＴＫＢですかね、特にその中でもトイレというのは切実な問題だというふうに能登半島地震でも検証されております。まずは、簡易トイレを個々に備蓄していただくというのが原則ですが、ただ、トイレが破損したりだとか、簡易トイレも使えない状況も想定されますので、そういった意味も含めまして、今、調査・研究している段階です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

今ほど竹田消防長言われたとおりであります。トイレトレーラーだけが万全なわけではありませんので、今おっしゃられたとおり、携帯トイレであるだとか、簡易トイレ、糸魚川市で進めていただいてるマンホールトイレ、また、トイレトレーラーとして、最初言ったトイレカーというものもございまして、いろんな形の取り組み方があるんですけども、そういったところも、またぜひこれまでどおり、備品の充実というものを図っていただければと思います。

次、６番目の自動車避難道のところでございます。

今回、やっぱ能登半島地震を受けて、今回ほど津波というものに対しての意識が高まったときはなかったんじゃないかなというふうに思います。

私も市内回っておりますと、割にこの駅周辺で見ると、垂直避難というのが話題になりましたけども、比較的高い建物があったり、コンクリート構造であったりするんですけども、逆に、須沢地区であるだとか、あとどこでしょう、それは山までの距離があるということなんですね。あと、浦本地区とか、あと木浦地区、筒石もそうですけど、小泊もそうなんですけど、すぐ山は近いんですけども、急勾配であるだとか、あと、ほかの方たちが、何ていうか、例えばマリンドリームもそうなんですけど、ほかの方たちがいて、いざ一緒に動くってなったときに、動きにくくなるんでないかとかって考えられるんですね。垂直避難が可能なところは、そこを有効に使ってもらうのはあるんですけども、逆に一般住宅の中で高齢者の世帯率が多いところであるだとか、やっぱり車で避難するって考えたときに、ある程度の太さがある避難道というものがやっぱり必要なんじゃないかなと。これすると金かかるとか、いろんな財政措置も大変なんですけども、やっぱり人命を守るということと、やっぱり糸魚川で安心して暮らしてもらうというためにも、そういうある程度の太さを持った避難道整備というものを、大きなプロジェクトになるんですけども、私は考える必要があるのかなというふうに思ってます。そういった考え方、これも国・県の指示を待つというよりも、ある程度、各自治体で居住してる人たちのことを考えた計画を立てなきゃいけないと思うんですが、そういった考え方はいかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、避難道、車で通る避難道の整備といったところはなかなか難しいのかなといったふうに思いますが、ただ、車で避難しなければいけない、例えばご高齢の方がいると思います。今回の６月の防災訓練では、皆様、徒歩でといったところでお願いしたんですが、次の段階では、車避難が必要な方、こういった方は実際に車で避難していただく訓練といったようなものも必要だと思います。そういったところで、道の整備というのはなかなか難しいんですが、まず、その先には車が駐車できるスペースですかね、これを指定する、こちらで検討する。実際、冬の場合、あるいはコロナ禍の場合、車避難というのがクローズアップされた際に、選定したときもあったんですが、なかなかうまくいかないなといった課題もありましたので、そういったところも含めて、まず、車で避難した場合の車の駐車スペースですかね、そういったものをちょっと検討してまいりたいと思います。

以上です。

○副議長（横山人美君）

質問の途中ですが、昼食時限のため、休憩といたします。

再開を１時とします。

〈午後０時００分　休憩〉

〈午後１時００分　開議〉

○副議長（横山人美君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

次に、大きい２番の１番、学校司書についてであります。

先月、糸魚川市議会の議員研修会で大正大学特任教授、片山善博氏が、県知事の経験などから地方創生の一つとして教育を上げておりました。特に教員の非正規化により、行政改革の名の下で、人を外に追いやっているという指摘がございました。そこで、片山氏から言われたのは、図書館行政で生き生きしていることが大切であるということで、その図書館司書にすごくスポットを当てて強化してきたというお話がございました。

今回、私は、図書館司書ではなく、学校司書のほうに役割を向けているんですけども、教職員とは違う視点で、また児童生徒と向き合えるという特徴があります。また、図書と一言でいっても、子供の興味のあることや学びたいこと、またアドバイスできるその役割は、子供たちにとって人生設計をしていく意味でも大きな影響を与える存在だと思っております。

そこで、糸魚川市として学校司書というものについて、ちょっと多めの予算措置を取っていただいて、他の自治体とは一味違う体制づくり、本というものを通じて、人生を大きく開けるような、そういう取組をちょっと積極的に行ってもらいたいということで今回質問してるんですけども、そういった観点で取り組めるような要素があるかどうか、ちょっとご質問したいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

読書教育、図書館教育については、大変重要なものとして捉えています。議員おっしゃるように、子供たちの生きる力、考える力、感じる力、生涯にわたって教養を身につけていく、価値観をつけていくというようなことで大変重要だと捉えています。

ただ、現状といたしまして、市内での図書館、学校司書は３人しかおりません。ですので、１人大体６校前後を兼務している形となっています。これは全国的な傾向でもありまして、なかなか学校司書がそろわないというようなところであります。

よって、図書館教育の充実は、教育委員会としてもいたしたいところなんですが、日常の業務といいますか、図書の管理、それから教育環境、図書館環境の整備というところで手いっぱいなところがありますので、よく学校司書にヒアリングをしながら、業務を精選して取り組んでいきたいと思ってます。

行く行くは、やはり増員、それから国のほうも非正規から正規雇用への動きもありますので、そちらも注視しながら、また、県や国のほうにも全学校に図書館司書を、学校司書を配置していただ

くように要望してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

今朝の私の公明党の公明新聞の中でも、隣の富山県の、そういう図書館司書の団体が、やっぱり県のほうに増員ということで、また正規職員ということで要望が上がっておりました。恐らく全国的にもそういう動きがなってくるのは、やっぱりデジタル化の流れもあるんですけども、やっぱりこの想像力を身につける、また、活字から学び取る力があるということは、自分にエンジンを持ってるってことなんですね。だから自分で興味のあることをどんどん調べていける、また疑似体験ができるということで、非常に大切な、その窓口になってくださるのが図書館司書だと思いますので、またこれまでと違った観点で、また図書館司書にスポットを当てていただきたいなというふうに思います。

続きまして、今回４番目の大きい４番目の一番最後の最後の質問になりますが、子供や若者の政策提言を受ける機会の創設であります。

これを言うと、大体何かこども議会の形であるだとか、教室でちょっと話し合って何か要望しようみたいなことになるんですが、例えばですけども、今、行政の中にいろんな担当課があるかと思いますけども、子供のことだから教育委員会一本やりじゃなくて、各課における子供が抱えている課題、そのヤングケアラーであるだとか、あと、何ていうか医療の問題であるだとか、あと福祉の問題であるだとか、環境についてもそうでしょうけども、そういったちょっと切り口で子供たちにいろんな考えや希望を聞く機会というものを何か設けてもらいたい。場合によってはリモートで会議するのもいいでしょうし、またどこかの学校に担当を決めて集まって、そこで議論をするのもいいと思います。今、１８歳で成人になりますけども、やっぱり物事を考えていく力を身につける意味でも、そういった幅広い物事の視点というのを育てることが非常に重要かと思いますので、そこの上で、政策提言につなげていくという、ちょっと大風呂敷を開けたような話になりますが、そういった取組をぜひチャレンジしていただきたいんですが、いかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

１回目の市長答弁の中で、若者の意見を聞く会といった形でお答えをさせていただきました。今までは子供ということで、実際に子供・若者の意見を聞く形というのが、今後、求められて、今も求められていることだということでご提言として受け止めさせていただきたいと思っております。今のところ、まだ全庁的に子供の意見を聞く場面というのは、今こども課のほうでは検討してる部分あるかと思いますけれども、議員おっしゃられた点まではなかなか浸透してないかなとは思っております。国の動き、こども基本法、こども家庭庁の動きなども注視をしながら、取組については検討させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（横山人美君）

保坂議員。

○５番（保坂　悟君）

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○副議長（横山人美君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

ここで、議長交代のため、暫時休憩といたします。

〈午後１時０６分　休憩〉

〈午後１時０８分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、伊藤　麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。　〔４番　伊藤　麗君登壇〕

○４番（伊藤　麗君）

糸魚川の未来を魅せる会、伊藤　麗です。

事前に提出いたしました通告書にのっとりまして、１回目の質問をさせていただきます。

１、地域医療について。

糸魚川総合病院とその後協議は行われたか、存続のために検討されている支援策はあるか伺います。

２、誰でもいきいき働く環境の整備の必要性について。

さきの衆議院選挙で「手取りを増やす」のキャッチフレーズで国民民主党が議席を伸ばし、年収の壁の引上げについて議論が行われています。働くシニアの年金減額の緩和を盛り込んだ改革案も厚生労働省より示されており、当市においても、人口減少による働き手の確保は大きな課題であります。よって、働く意欲のある人が働き、一人一人が活躍のできる環境整備が必要であることから、以下伺います。

(1) 若者や女性の働きやすい職場について、市としての認識を伺います。

(2) 障害をお持ちの方の働く環境について、現状の認識と課題を伺います。

(3) シニアが働き続けるために市として行っている支援はあるか伺います。

３、子育て支援について。

令和６年４月に児童福祉法等の一部を改正する法律の施行に伴い、子育て支援や自立支援、障害児支援が強化されました。

児童福祉法の改正ポイントにのっとり、糸魚川市の子育て支援の現状とこれからについて伺います。

(1) こども家庭センターの包括的な支援体制の強化・拡充について、現状の取組を伺います。

(2) 自立支援の強化について、現状の取組を伺います。

(3) 里親支援センターの設置について、考えがあるか伺います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

１番目につきましては、当市に必要な医療体制等について協議を行う中で、県による支援と調整を図りながら、具体的な支援策を検討してまいります。

２番目の１点目につきましては、それぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会であると認識いたしております。

２点目につきましては、現状では、法定雇用率は国・県の平均を上回る高い水準で推移いたしております。

一般就労では、小規模企業におけるサポート人材の不足や通勤手段の確保、福祉的就労では、本人のやりがいと生活全般の意欲向上が課題と捉えております。

３点目につきましては、シルバー人材センターや高等職業訓練校に対して支援を行っております。

３番目の１点目につきましては、国に先駆けて、こども課内にこども支援室を設置し、全ての妊産婦と子ども・子育て世帯に対して、一体的に相談支援を行う体制を整えております。現在、子育て世帯ヘルパー派遣事業や産後ケア事業などの支援メニューを充実させ、支援体制の強化・拡充に努めております。

２点目につきましては、里親委託や児童養護施設等への入所児童の自立支援に向けて、児童養護施設の運営主体や児童相談所が支援しているところであり、市も連携して対応しております。

３点目につきましては、里親制度の窓口は、上越児童相談所が担っていることから、当市で設置する考えはございません。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

それでは、質問番号１から再質問を行います。

９月議会に引き続き、質問してまいります。

県内１１病院を運営するＪＡ、県厚生連病院は、２５年度にも運転資金が枯渇する危機的な状況にあり、県では１２月議会に２，０００万円を県厚生連の経営改善計画の策定のためという補正予算案を示していると思いますけれども、来年度の存続が危ぶまれている糸魚川総合病院では、経営改善計画が、県の委託した事業による経営改善計画が示されるのを待っている場合とは思えません。

糸魚川総合病院のここまでの経営状態は、どのようになっているのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院につきましては、この春、それまでの２６１床から１９９床にダウンサイジングをしております。そんなことで、今年度については、特殊要因によって、年度末、黒字決算を迎える見込みとなっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

黒字決済になりそうということで、そうなんですね。今、病床のお話があったので、ちょっと伺いたいんですけれども、手元にちょっと資料があって、入院の需要推計というのが、本県では、どんどんと減ってきているというデータがあるんですけれども、この先、糸魚川総合病院では、さらなる病床数の縮小も検討されているのか、今のところの進捗、ちょっとお聞かせいただきたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

今後は、糸魚川総合病院の病床数については、地域医療構想と密接に関わってくると思います。それで、糸魚川総合病院の山岸病院長のご意見を伺う中では、今後、もう少し病床を減らすことが病院経営の改善につながっていくのではないかというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

経営のためにダウンサイジングが必要だというのは、とても理解できるんですけれども、一度病床数を減らしてしまうと復活もできないというふうに聞いているので、その部分の見極めというのは、やはり慎重に行う必要性があると思うんですけれども、その部分については、院長先生なりと意見交換というのはされてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

先ほど申し上げました地域医療構想の上越医療圏の調整会議の中では、圏域全体の今後の人口減

少の推移を予測する中で、圏域全体で必要な病床数というものを割り出して考えています。それを８月３０日の調整会議で議論しておりまして、そこでは、今後、必要な各病院の病床数は、それぞれみんな減らしていくことが適正なのではないかという議論になっておりました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

流れというか方向性というのは、確認しました。

それでは、やはり今、働いていらっしゃる皆さんのリアクションだったりだとかというところが気になっています。糸魚川総合病院のこのような報道があったということを受けて、実際、働いている皆さんが、離職されてるだとか、そういう事実というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

病院のほうにお尋ねしたところですと、これまで年末期、例えば年度末期というようなタイミングですとか、賞与の支給月の後に、決まって退職者が少し出るというのは通例だそうです。今回、厚生連のいろいろな所要削減とかそういった措置によって、特別に退職者が出ている状況ではないというふうにお伺いしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

人材確保対策として、今、市として考えている支援策はございますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

今回、私どももいろいろなことを考えさせていただきました。まずは、今お勤めをされている皆さんからお残りいただくこと、これが一番だというふうに捉えております。それで、これまで私たちは医療人材の確保ということで、修学資金でございますとか、いろいろな仕組みをつくって支援をしてまいりました。これも継続しながら、今お務めいただいている方、糸魚川総合病院にいらっしゃる方というのは、全て市民の皆様ではなくて、ほかの地域からもおいでいただいて、糸魚川の医療を支えていただいておりますので、そういった方から転勤だとか、退職の意向が出ないように支援をしっかりとしてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

今、課長に全て答えていただいたと思っています。私も、市外から来てる人たちの今後というのをすごく心配していて、その部分への支援というのは、当然必要だと考えています。

ただ、例えばそういう部分に支援をしたときに、市内の同じような医療従事者の皆さんから、自分たちにもそういう支援が欲しいというような声が上がってくるかもしれないんですけれども、そういう部分で、ましてやこの糸魚川総合病院は、公的な病院であるというところでしっかりと説明をしていただければいいかなというふうに思っています。私もその部分の支援は必要だと思っています。

そして、引き続き質問に続けさせていただくんですけれども、令和７年度新年度予算に、恐らく具体的な支援策が盛られるというふうに私は見ているんですけれども、県や国からの支援は、受けることができそうかどうか、今のところの感触をお聞かせいただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

先ほど市長の答弁の中で、田原議員のときの答弁の中で、国・県への要望のお話をさせていただいております。そんな中で、国のほうは、総務省のほうで、市が地元にある病院に支援した場合の財源措置をお考えいただいておりますし、これまでの特別交付税の拡充についてもご検討いただいているところでございます。県につきましては、６市の協議会で、米田会長以下、皆さん、市長さんが、皆さんが、かなり県に厳しく詰め寄っていただいたおかげで、今県のほうから財政支援をしていただけるということが知事の口から出ておりますし、その内容については、今、大詰めの段階というふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

先ほどの田原議員の質問も、ごもっともだなというふうに考えながら聞かせていただいていました。

一方で、市長の県や国とある程度歩調を合わせて、そして厚生連病院のご意向もありますし、糸魚川市だけがこういう支援をするんだって勝手に決めたような形になってしまって、例えば県とかが、じゃあ糸魚川総合病院は、糸魚川市さんだけで何とかできそうですねというのも、考えようによってはあると思うんですよね。そういう部分での大切な問題だからこそ、慎重に歩調を合わせて議論を進めていくという市長の政治的な姿勢に関しては賛同する立場なんですけれども、とはいえ、やっぱり新年度以降どうなるのかというところが心配されている中で、先ほどね、大詰めのところまで来ているというようなご答弁あったんですけれども、何月何日に、例えばどのようなメンバー

でそういう話合いをする会が予定されているだとか、もしお聞かせいただけるのであれば、聞かせていただきたいです。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

やはり今この６市の中で、厚生連病院を中核の公的病院で担ってるやってる厚生連の病院で、今非常に厳しい状況の中で対応してるわけであります。と言いながらも、各市、実情が全然違っております。そういう中で途切れのない支援策として今個々にやってる部分があります。合同で対応していく部分も今大事なとこに来てるんですが、今言ったように、個々で対応してる部分については個々で、要するに医療人材を確保していくことが真っ先の今、急務な対応だろうという形で、個々の自治体の中で対応させていただきたいということ。そして、これからの中においては、６市全体であったり、残りの５市の皆様方におかれましても、やはり中核でないにしても、その地域の都市の大事な地域医療を担っていただいてる厚生連病院だということの中においては、同調歩調をしていただきたいという形で、それにもお願いに上がってる次第でございまして、でありますから、今本当にそういったところまで、一体となって動いてくる大詰めに来ておる状況でございますので、そういったところはもう少しお待ちいただきたいと思いますが、そういったスケジュールについては、また、担当課長のほうから答弁させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

というふうに市長おっしゃっておりますので、課長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

今、県と協議をずっと重ねてきております。そんな中で、私たち市の、６市のスタンスというのは、まず、県の支援をいただくことがまず第一、その支援を見させていただいて、私たち６市の支援があるという中で、私ども糸魚川市の予算編成作業も今大詰めの時期を迎えておりまして、財政課長にも大変迷惑をかけてるんですけども、そんな中で、今月、年内がその期限になってくるのではないかなというふうに思っておりまして、県ともそこの情報交換を密にいたしまして、当市の予算編成にも間に合わせていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

その様子というか協議の結果については、どのような場面での報告をお考えでいらっしゃいますか。プレスリリースという形になるのか、委員会への報告になるのか、もしお考えがあれば、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

まず、県の予算については、県の予算発表の中で示されるものと思っておりますし、それに合わせて私ども糸魚川市も、同様に令和７年度当初予算の予算編成の中でご説明をしていくものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

これだけ市民の皆さんが心配しておられる案件なだけに、当初予算案の説明の前に何か報告というか進捗の、何ていうんでしょうね、進捗を知れたらいいなと個人的には思っています。それだけお伝えさせていただきます。

引き続き質問するんですけれども、前回の令和５年度決算審査の中で、私、地域医療に関わる基金の創設について考えがないか、提言させていただいたんですが、こちらに関しては検討状況などいかがでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

議会の中でご提案をいただいた内容につきましては、その設置の目的であったり、時期、また規模感というところも含めて、検討してまいりました。

その中で、現在ご質問いただいております厚生連、また、糸魚川総合病院への対応というところが喫緊の課題としてあります。そちらのほうに、今後、国・県の動向、市長答弁等はございましたけれども、そういったところで動きに合わせて、また遅れないように、必要に応じては市の対応というところも含めまして、しっかりと対応したいということから、限られた財源でもございますので、今後の状況を見ながら、そちらのほうを継続して検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

厚生連の支援に限らず、介護・福祉によるケア等を含めて、私、地域医療だと思ってるんですが、地域医療確保対策基金は、今後ますます必要になってくると思います。確かに、今、課長ご答弁いただきましたように、厚生連の支援は、毎年５０万円積み立てたからってどうにかなるような額では、どうやらなさそうだと私も思っているので、そちらに関しては、国や県からの支援をぜひいただきながら進めていただくのと並行して、今、糸魚川市の基金っていろんな項目があると思うんですけれども、全部合わせると、多分８０億ぐらいあったと思うんですよね。その中で、名目もいろいろとあると思うんですけれども、例えばもうそろそろ使われていない名目のものを統合していくだとか、この地域医療に関わる基金の創設というのは、また並行してお願いしたいところであります。何かお考えあったらお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

新たな基金の創設につきましては、今ほどお答えしましたとおり、しっかりと継続して、検討していかなければいけないということでございます。その他の整理・統合というところにつきましては、目的があって設置している基金でございますので、そちらのほうも、今後の行財政運営の中でしっかりと活用状況等を考え、慎重に検討・判断してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

さきの議会でも公設民営化で維持していくという考え方についても、議論の俎上にのせられていたと認識しているんですけれども、私は、糸魚川市の公設民営は、とても厳しいと考えています。県の管理下による公設民営の可能性を模索する必要があると思うんですけれども、既にお考えや動きがあれば、お伺いしたいです。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

まずは、厚生連による運営が続けられることが、まず第一だというふうに思っています。そこへの支援を続けてまいりたい。だけどもそれが叶わなくなったような場合には、公設民営の検討が必要だということはお伝えしておりますし、その公設民営の考え方の中で、直ちに市立病院にするということではなくて、まずは県立病院にしていただく。そこを俎上に上げた中で、市立病院も含めた公設民営化の検討をしてまいりたいということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

まだまだ動きとしては、時間の経過とともに状況が変わっていくところだと思いますので、経過を注視させていただきたいと思います。

それでは、２番の質問に移らさせていただきます。

年収の壁が１７８万円に引き上げられた場合についてお伺いしたいんですけれども、糸魚川市の税収にどのような影響が見込まれているでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

川合市民課長。　〔市民課長　川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

当市への影響でございますが、個人市民税で約６億４，０００万円減収になる見込みでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

大きいですね。こういう声が地方の首長たちからも上がっているところだと思います。心配の声が上がっているのも事実だと思います。

しかし、今回の衆院選では、私の身の回りにも１３０万円の壁を意識して、扶養内のパートで働いている身だから、この壁を引き上げるという政党に引かれたというようなことをおっしゃるような方もいました。大学生だったりアルバイト学生においても、やっぱりこの収入の壁というのは、皆さんの働くことへの障壁になっているのかと思います。これまで自民党は賃上げをして、手取りも税収もどちらも増やすということを目標にしてきたのだと理解しているんですけれども、世論の高まりによって、今回は年収の壁が引き上げられる可能性が高いのではないかなというふうに私は見ています。

総合計画策定時に取られたアンケートによりますと、５８％の企業が人材確保について、「かなり不足している」、もしくは、「やや不足している」というふうに答えています。年収の壁がどうなるかについては、引き続き動向を注視することになりそうではありますが、働きたい人が働ける環境整備をすることに対しては、私は賛成の立場であります。

それでは、（１）から再質問をさせていただきます。

ここでいう若者というのを、いわゆるＺ世代と定義してお話を進めさせていただきたいと思うんですけれども、現状、糸魚川市においては、若者も女性も、一度勉強しに出ていってしまったまま、そもそも帰ってきていないので、企業さんがどういうふうに獲得するかというのは帰ってきてもらってからの話になるのかなというふうに理解はしているんですけれども、このＺ世代と呼ばれる世代は、デジタルネーティブという呼ばれている世代でして、この考え方が、職場環境や働き方にも大きな影響を与えているとのことです。

日本では、少子化によって若者の人数は少ないんですけれども、世界的に見れば、消費者のボリュームゾーンでもあるということで、世界を股にかけて事業をしているような企業にとっては、この世代の動向というか、考え方、ライフスタイルが、新たな戦略、商戦、ビジネスの戦略にとって、やはりとても重視している視点だとのことです。

Ｚ世代は、どういうふうに言われているかと申しますと、私よりちょっと下の世代です。多様性とお互いを許容しながら共存することと、あと労働に関しては優柔、フレキシブルで、仕事と生活の調和を重視する傾向があるとのことです。

厚生労働省が２０１９年に、働き方改革に関する法案を発表したことで、ワーク・ライフ・インテグレーションという言葉ができたりだとか、あと人生の中に仕事があるという考え方のワーク・イン・ライフという考え方に注目が今集まっています。これに女性の働きやすさを加えるとすれば、産休・育休が安心して取れる、生理休暇などホルモンバランスによる体調不良に対しての理解の促進、企業内に託児所、きれいなオフィス環境などが上げられるのではないでしょうか。わがままだなって思った人もいるかもしれないんですけれども、ただ、これが実情、こういう働き方を求めて、もしかしたら糸魚川市の若者ないしは女性が、県外に流出しているかもしれないということをちょっと伝えさせていただきたいと思います。

続けて、総合計画策定時に中高生向けに取られたアンケート結果によると、全体の２割が高卒の時点で市内の企業とマッチングできる。ですけど、残りの１割は市外に就職をする。で、残りの７割が進学や就職で市外へ出てしまうというのがデータとして出ています。この部分で、今年度実施された各種取組の成果を伺いたいと思います。人口減対策プロジェクトに示されてたと思うんですが、その取組の成果を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

人口減少、少子化対策のプロジェクトということでお答えをさせていただきたいと思います。

先般６月に総務文教常任委員会で報告させていただいた資料の中で、今ほどのお話ですと地元就職促進に向けた支援策といったところかと思いますが、その中で、例えば調査研究・検討事項といった形で高校との連携拡充ですとか、就業支援メニューの拡充、地元定着支援メニューの検討、外国人就労者の支援拡充検討といったところを庁内で検討をしてきたといったところでございます。これまでの中で、また先進事例なんかも見させていただきながら、お聞きしながら庁内で検討してきて実施計画、この後、予算といった形で示されていくものというふうに思っております。現在、令和６年度で取り組んでいるものについては、その評価をもって次年度をどう取り組んでいくかといったところになろうかというふうに思っております。現在のところは、成果と言えるかどうかはあれですけれども、現状としてはそんなような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

令和６年度の具体的な取組ってどういうことが行われたかって、お聞かせいただくことできますか。いいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えさせていただきます。

少子化のプロジェクトの中に、何点か施策のほうを記載させていただいております。その中では、令和６年度、新たに事業を行ったものにつきましてお答えさせていただきますが、まず、外国人材雇用支援事業、こちらのほうは、食を通じた交流イベントを今年度、開催させていただいております。

また、外国人生活支援ポータルサイトを新たに構築のほうもさせていただきました。またその中で、ＰＲ動画も作成しております。

地元就職促進事業といたしましては、出身者と、地元企業の交流イベントでありますチル・ナイトのほうを、今年は初めて新潟市で開催させていただいております。

また、インターンシップ促進事業につきましては、インターンから、就職につながったマッチング補助金が２人、また、企業がインターンシップの参加者の経費を負担する促進補助金が、３社、８人ございました。

また、今年から新たにつくった事業でございまして、糸魚川人材ゲット＆ステップアップ促進事業ですか、こちらのほうは、高校卒業後、すぐに地元就職した方へお祝い金という形で、運転免許証取得費の支援といたしまして、１人一律５万円を助成しております。今現在は、５３名の方がご利用いただいております。

すぐに成果とか結果は出にくいなと思いますが、おおむねこれらの事業は順調に行っているというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

今ほど課長おっしゃられましたように、突然１００人帰ってきたとか、そういうのは難しいとは思っておりますので、本当に一歩一歩かと思いますけれども、引き続き支援の充実を図っていただければと思います。

女性の就業率についてお伺いしたいんですけれども、以前、一般質問の中で、当時の国勢調査の結果で、市内２０市中、糸魚川市は女性の就業率が最下位だったというところで質問をさせていただいたんですけれども、変動はあったか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

非常に今、糸魚川においても、働き方改革によって、企業の皆様方はいろいろ努力をしていただいております。そういう中であっても、やはり厳しい環境は変わらないなと思っておるのが実情でございます。私も首都圏のほうに出向いて、首都圏の企業の皆様方と懇談するとか、また企業の会社の中を見させていただいたりもしていると、やはりコロナ前とコロナ禍以降では、全然もう働く環境が大きく変わっておるような気がいたします。それに対して糸魚川はどうかというと、なかなかそういうやはり速度につながってないところも感じる次第でございます。だからといって、大都会の企業と張り合っていけるかというと、私はできる状態ではないと思うので、糸魚川として働く環境を、やはり糸魚川らしさのやつをしっかりと確立していくことが大事かなと思っておる次第でございますので、今、商工会議所、商工会の皆様方が、いろいろお考えいただいてるやつに対して、我々も連携をしながら、今進めておる最中でございますので、担当課長からもまたご説明しますが、私といたしましては、今そういう状況でございますので、やはり女性の働く環境、また、ここで育って、そして都会で学んだり学習して、また帰ってこれる環境だとか、そして、働く皆様方の環境を、より糸魚川らしさの中で描いていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

以前、伊藤議員にお答えした数字につきましては、そのときは平成２７年の国勢調査の結果しか出ておりませんでした。そのときは、やはり県内２０市中、一応、最下位だということでした。今回、令和２年度国勢調査の数字のほうが発表されておりまして、そちらも、県内順位でいいますと、残念ながら県内２０市中は最下位でございます。

ただ、平成２７年度国勢調査の数字は、まず４５．２％、令和２年度国勢調査は４７．１％でございます。ポイントは若干上昇はしておりますが、やはり最下位という順位が変わらないということになりますが、やはり当市の産業構造によるところも多いんじゃないかなというふうに分析しております。引き続き、働きたいと思うような、女性が働けるように、多様な働き方を推進させていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

米田市長からお話あったように、大企業ね、都会の大企業と張り合って、同じような働き方の推進を進めていくのは難しいというのは私も本当に同じです。

ただ、逆に都会の大企業で働いている若者や女性が、糸魚川でもリモートワークしやすいだとか、帰ってきてリモートワークをするんだけれども、地域活動に対して積極的に参加していただくだったりだとか、市民活動を起こしていただくだったりだとか、そういう部分への支援というのがいいんじゃないかなというふうに私個人では今思っているところです。

引き続き伺うんですけれども、今、課長から答弁があった、ポイント的にはちょっと上がったんだけれども、依然として市内２０市中最下位の状態、産業構造によるものも大きいのではないかというお話だったんですけれども、市内企業の９４％は、何かしらの女性を雇用するメリットを見いだしているにもかかわらず、全体の２２％の企業が、女性雇用に今後も取り組む予定はないというふうに答えています。建設業でその回答が顕著なのは、何ていうんでしょう、理解できるところなんですけれども、卸売、サービス業でも業種数に対してのこの女性を雇用する予定はないというふうに回答された方の割合が高かったんですね。

女性雇用の課題という欄を見てみると、出産・育児等で仕事を辞めてしまうリスクが高い。育児等で時間の制約がある。子供の病気等で急に仕事を休むなど、稼働が読めないなど、子育てに関わる役割の多くを、やっぱり糸魚川市では女性が担っているイメージが根強いということが分かると思います。

市内では待機児童の問題がほとんどないことや病児保育やファミサポなど、核家族でも子育てしながら働くが、両立しやすくなってきていることや、ある程度子育て中の男女に対しての、急に休んでしまうだとか、そういう部分の理解を促進するような取組も必要だと思うんですけれども、この部分、何か取組が既におありか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

やはり今ほど言われましたように、やはり育児は女性が担うものという意識が、まだまだ根強いのかなというふうに思っております。この根強さが、やはり女性の就業率の低さにもつながる部分があるのではないかなと思っておりまして、引き続き、やはり普及啓発等、社会全体の働き方として、多様な働き方を認めていくというものを伝えていかなければいけないと思っております。

また、企業の人材確保や定着に役立つ国の認定制度がございます。その中で、子育てサポート企業の制度としまして、「くるみん」というものがありますが、市内にも、認定を受けております企業もございますので、取組のほうを、横展開のほうをしていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

市内の働いていない女性が、どのような理由で働いてないかというのを私はすごく知りたいんですよね。そこを調べるような調査というのは、現状、糸魚川市で行われてないということなんですが、私は、そこを深掘りするべきだと思うんですが、市長お考えをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

やはりミスマッチ的に何かそういうのを感じる次第でございまして、やはり企業としては、今言ったような女性が働くにはちょっと不利ではないかなという捉え方をされてるんじゃないか。また、働く方々におかれては、あそこの会社はどうも女性に対しては厳しいんではないかというようなところで、お互いにやはり情報提供がされてない部分があるんではないかと思いますので、私としましては、そういうことのないように、今のこの新しい雇用の在り方について、やはりもうちょっと情報の連携をしっかりしていくことが大切なのかなというのを感じておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

市内の女性に何かしらのアンケートを取ってほしいというお願いを、以前から一般質問の中でもさせていただいておりまして、今手元にキャリアステージいといがわさんのワーカーアンケート結果というのを持ってるんですけれども、キャリアステージいといがわで働いてらっしゃる方に取ったアンケートでは、ここで働いてる方の年代だったりだとか、あと、今の職場での満足度だったり、今まで働かなかった理由というのが書かれているんですよね。これすごいいいと思うんです。これをキャリアステージいといがわ内にとどめるのではなくて、例えばこども課とかに協力を仰ぐのか、こども課とかにそういう、子育て世代の就労の状況を把握してたりしないんですかね。とにかく全庁的に連携しながら動向をしっかり、何で働いていないのか、働きたくないのか、働きたいけど働けない何か理由があるのか、調べる必要というのがあると思うんですけど、何かこう、全庁的に協力してそういうことを行っていくとか、そういうことってお願いできませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

少子化対策プロジェクトの中にも、調査研究・検討事項ということで意識調査のほうは記載されております。やはり伊藤議員おっしゃるように、なかなか私も実態というのはつかみ切れておりませんので、これから、やはり新たな総合計画のほうも策定してまいりますので、その中で、市民アンケートというのを実施する予定になっております。項目的にどこまで入れるか分かりませんが、そういうような視点を持ちながら、作成のほうをしていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

ちなみにキャリアステージいといがわで働いていらっしゃる皆さんは、すごい満足してそうだなというふうに見てとれました。今までは、こういう柔軟な働き方ができる場所がなかったのでおうちにいたという方も、割合的には多くいらっしゃいますし、じゃあ働いたお金を全部生活費に充て

てるかといったら、自分のお小遣いにしてるよなんて方もいらっしゃるので、本当であれば働く必要がなかったんだけれども、この働く場所ができたから働き始めたって方がいるということだと思うんですよね。キャリアステージいといがわがあって、ＤＯＮＵＴＳ社の誘致がされて、さらにこういう働き方の層を集めていく、厚めにしていく必要性があると思うんですが、その誘致の予定だったりだとか、取組というのは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

やはり新たな企業誘致というのは、長い間培ってきました企業誘致の活動とともに、人と人とのつながりを活用しながら、交流のほうを生かしながら新たな企業を見つけていきたいなというふうに考えております。そのような企業も、やはり市内にもぽつぽつと見受けられるようになりましたので、その輪を広げていければなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

お願いします。

（２）に参ります。

障害をお持ちの方の働く環境についてですが、２０２４年に障害者雇用促進法が改正されました。これによって、令和６年度から変わったこと、大きくサービスが変わったことなどあれば、ポイントを絞って、分かりやすくご説明いただけますか。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

就労に関わる部分というところでお伝えいたしますと、まずは、法定雇用率のところが２．３から２．５％に引き上げられたというところが１つ。そして、これは促進法なんですけれども、障害者の総合支援法のところで申し上げますと、大きくは就労支援のメニューが１つ増えたというところがもう一つあります。そしてもう一つが、こちら、一般の就労している障害者の方が、一時的に例えば病気・疾患等で障害者手帳を持つような形になり、一時的に福祉就労を使用したいという場合には、福祉就労も併用して利用できるというところが大きな改正点となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

今ご説明いただいた後段のほうなんですが、労働者の方が途中から手帳を取得した場合に、手続するのは企業側になると思うんですが、企業側への周知というのは、どのような形でされてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

福祉サイドとしては、企業側にこのような制度が新しくなったということは、特別なアプローチはしてはおりませんが、ハローワークのほうでも障害雇用というところで取り組んでいただいてる中で周知しているというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

令和５年度の決算審査の際に、私、就労支援Ｂ型の工賃、他市と比較して、他市、上越市なんですが約月２万円というところが、糸魚川市ではどうなのかというふうにお伺いしたところ、５，０００円とか１万円とかというお話だったと思うんですが、これって、総合支援法の配分金のほうのお話だったということでいいのか、糸魚川市の就労支援Ｂ型の平均の月額の工賃、教えていただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

議員おっしゃいますとおり、５，０００円から１万円というふうにお伝えしましたのは、地域活動支援センターという、就労ではない形なんですけれども工賃ということではなく配分金として配分されている金額が、おおむねそのような形になっておりまして、Ｂ型につきまして、そのときはちょっときちんとした数字を把握しておりませんでしたが、今回お知らせしたいと思います。平均工賃につきましては、１万７，０００円から２万円という形になっております。

なお、Ｂ型の事業所については、現在、市内では３か所となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

今回、質問させていただくに従って、障害者の就労支援の現状と課題を糸魚川市ささえあいプランを拝見させていただいたんですけれども、今、市内にある就労継続支援事業所というのは、A型は２社、B型が３社ということで、また、市外に働きに出ている方の人数等を確認させていただいたんですけれども、やっぱり就労支援B型の事業所を求めて市外に行かれてる方が多いようなんですね。その部分での糸魚川市での今後の取組・課題、お聞かせいただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

おっしゃいますとおり、市外に出ておられる方が、B型では１２人ほど、これは実績としては、この９月実績ということになりますが、それぐらいの人数の方が市外で就労されているという実態はございます。この背景といたしましては、もともと就労支援を行う事業所の近くのグループホームや宿泊型の自立支援訓練施設というような、宿泊型の施設が糸魚川にはないような施設も、市外にはあるということで、そちらのほうを求めて、その近くの就労を求めて、結果的には上越で就労という形になっている方々というふうに把握しております。

この課題を踏まえまして、やはり就労支援を、障害者の方の就労支援をしていくに当たりましては、そういう生活全体の支援というところが必要ですし、居住の確保というところも非常に重要になってくるというふうに考えております。ちょうどこの４月になりまして、もう一か所、市内でグループホームの建設が今進んでおりまして、開設も予定をされておりますので、そういった形での住宅の確保、そして生活全体の支援というところから、市内に障害者の方で就労を求める方が、市外に流出しないようにというところを心がけ、また、支援のほうを継続したいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

就労支援A型で働いていらっしゃる皆さんは、就労支援ということなので、何ていうんでしょう、習得の内容だったり体調だったり、仕事と合うかどうかとかいろいろあるとは思うんですけれども、うまくいけば一般就労につながっていくということで、市内に一般の企業に勤めてらっしゃる方もたくさんおられると思うんですね。やっぱり当市においては、この就労支援事業所のB型の部分のさらなる拡充と、あと今、所長にもおっしゃっていただきましたけれども、住む場所、住まいの支援というところもセットで必要になってくると思います。こちらも一朝一夕とはいかないとは思うんですけれども、企業への理解の促進も、併せて行っていただきたいと思いますが、企業と一緒に行っている何か取組はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

企業側へのアプローチということで、やはり先ほどの女性のところでも話題になりましたが、情報共有ということが非常に大事だと考えております。市内で自立支援協議会というものを実施しておりまして、その協議会の中で、就労支援に特化して協議する場というものも設置しております。そちらの中で、委員の皆様は、ハローワークの方だったり就労支援の事業所だったりというところで、皆さん委員になっていただいて、実際どういうふうに企業と連携していくかというところを協議をしておりますし、今年度につきましては、５月なんですけれども、糸魚川ライオンズクラブさんのほうとの情報共有の場ということで、勉強会も実施しております。その中では、企業の皆様方にも、特に法定雇用率の対象になっていない中小企業が非常に糸魚川市内多いということもありますので、特に中小企業の方々に就労支援というところに目を向けていただきたいという取組として実施した勉強会でございます。こちらのほうでは、実際、障害者就労を経験された中小企業の方に発表していただいたりというところで、イメージつきやすいような話題提供をして、勉強会をしております。ぜひこの取組を今後も継続というところで、協議会のほうでは、また今後、取組を検討しておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

障害を隠して就労したい人もいらっしゃったりだとか、障害を持つ人に対する偏見が根底の問題にあったりすることもあると思いますので、その部分の周知・啓発も含めて、引き続き企業と連携して行っていただきたいと思います。

（３）についてです。高齢者雇用についてなんですけれども、高齢者雇用安定法で７０歳までの就業機会の確保が、努力義務なんですけれども、企業に課されるほど健康寿命が上がって、元気に働ける高齢者が増えていると思います。企業側も、実は女性を雇用するよりも高齢者を雇用することに対しての課題感のほうが少ないと捉えてる法人のほうが多いようでした。

ただ、どういうところが高齢者雇用の課題になるかというと、やっぱりけがをしてしまうというところだと思うんですよね。この部分に対して、例えば法律への対応に加えてシニア人材が安全に働くための設備面の支援だったりだとか、そういうことを企業に対してするようなお考えはありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今お問合せの件につきましては、国ではＡＧフレンドリーという取組がございます。ガイドライ

ンのほうも定められておりまして、環境整備に対する補助金もございます。また、高齢者雇用安定助成金も活用できますので、内容につきましては、ハローワークなどにお問い合わせいただきたいなと思っております。

市といたしましても、そのような制度があることは、周知のほうに努めさせていただきますし、高齢者の働きやすい環境整備に努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

国の支援があるということで了解いたしました。ぜひ広く企業にも周知していただければと思います。意外と企業さんも、ハローワーク通せばいいということを知らなかったりする中小の方も多くいらっしゃるので、その部分の周知というのをぜひよろしくお願いいたします。

それでは、最後の質問に参りたいと思います。

時間が迫ってまいりましたので、子育て支援に関しては、（１）のこども家庭センターについての質問にちょっと絞って質問をしていきたいと思います。

今、糸魚川市において、こども家庭センター機能を担っているのは、市役所内にある、こども課の中のこども支援室だと思うんですけれども、市役所内に置いていることの有用性について教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こども課に置いていることによりまして、まずはやっぱり一元的な窓口ということで、母子保健部門、また、あと児童福祉部門、そういったことを一体的に支援できるといったところ、まさにこれが、こども家庭センターの設置目的といったところに合致しているというふうになっていると思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

こども家庭庁は、相談窓口の設置とその入り口を増やすことを自治体に指示していると思うんですけれども、困り感のある家庭の情報をキャッチして、相談につなげるという作業が一番大切だと私は理解しています。

近年、事件性のある案件が幸い市内では発生していないことから、適切に相談や支援に、基本的にはつなげられているものと思うんですけれども、こども支援室に寄せられている相談事の主立ったものは、何かお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こども課で受けております児童相談の内訳といたしましては、やはり養護相談という形での児童虐待に関する部分というのが多くございます。これは、こども課で受けている相談自体が、やはり通常、相談といいますと、ご本人さんが困ったという形で相談をされるというところかもしれないんですが、こども課に来る相談というのは、学校ですとか県、あとは、また警察とかほかの行政機関とかが、お子さん、親子の状況に気づいてご相談をいただくといったものも含まれておりますので、そういった中では、やっぱり虐待相談というのが多くなっているといった状況がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

糸魚川市では、医療費の無償化、病児保育、ファミサポ、放課後等デイサービスの拡充などと、どんどん子育て支援が充実してきていると思っています。

昨日の報道では、糸魚川市が、こどもまんなか応援サポーター宣言を行ったというふうにありました。産前・産後ケアにおいても、さらなる充実を期待しています。今週、その件で園田先生にばったり庁舎の中でお会いしたんですけれども、病児保育の予約システム「あずかるこちゃん」について、市民の方から喜びの声が届いたということで共有していただけましたが、民間の支援に感謝する一方で、行政に病児保育を利用したいって相談したら、育休中は利用不可なんですというふうにあしらわれたというような表現もその中にされていて、これってすごい残念だなって思ったんですね。現状、どのような対応に今なっているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

基本的には、育休中というところでは、お子さんを見ていただくことができるということになっておりますので、そのような対応とならざるを得ない部分はございますが、個別にご相談いただければ、相談に乗って、いろいろな病児保育以外にもファミリーサポートセンターとか、ほかの対応というところも考えられますので、ご相談をいただければ対応してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

この方、どういうふうに問い合わせたか分からないんですけど、病児保育使いたいという言葉の裏に、例えば双子のケアがあるとか、双子プラス上のお兄ちゃんもいてとか、そういうのが隠されてたんじゃないかなって思うんですよね。そこの聞き取りをやるのが、この相談支援だと思うので、それについてどう思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

個別のケースの部分で、ちょっと正確にお答えできない部分もございますが、やはりしっかりと市民の方の身になって話を聞くというところが、まず第一だと思っておりますので、また当課の職員にも、そのような形で話をしていき、適切な受付対応になるよう努めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。

○４番（伊藤　麗君）

こういうとき、一問一答じゃ駄目なんだと思います。どうされましたかとか、そういうお声がけを心がけていただきたいなと思います。せっかく、こどもまんなか応援サポーター宣言をしたので、ぜひよろしくお願いいたします。

以上で、質問を終わります。

○議長（保坂　悟君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

２５分まで暫時休憩いたします。

〈午後２時１５分　休憩〉

〈午後２時２５分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。〔１０番　和泉克彦君登壇〕

○１０番（和泉克彦君）

幸福実現党の和泉克彦でございます。

発言通告書に基づきまして、１回目の質問をいたします。

１、糸魚川市と台湾との関係について。

糸魚川市が持続可能な発展を遂げていくためには、国内外を問わず、多様な地域や人々と協力しながら、「現にある『ヒト・モノ・カネ・情報』等の経営資源を使って、それらの合計以上の成果を生み出す」ことが重要であると考えます。その中で、台湾との関係強化は当市の発展にとって大きな可能性を秘めたテーマであり、その意義を改めて見つめ直す必要があると考えております。

まず、台湾は地理的に非常に近く、飛行機で数時間の距離にあることから、経済的、文化的な交流が非常にしやすい地域です。また、歴史的にも台湾と日本は深い関わりを持っています。戦前に日本からは人材を送り込み、水力発電所、道路、港湾整備などのインフラ投資、農業や鉱工業などの産業開発、大学設立等の教育投資などを行いました。その資産は今でも使われており、日本を尊敬する台湾人も少なくありません。このような背景から、台湾は非常に親日的であることでも知られ、多くの台湾人が日本文化に親しみを持っています。

さらに、防災分野における台湾との協力にも注目すべきです。台湾は日本と同様に、地震や台風などの自然災害が頻発する地域であり、災害対策の経験や技術を共有することで、双方の防災力を向上させることができると考えております。特に、本年４月３日に発生した台湾花蓮地震では、避難所などでの迅速な災害対応が日本でも話題となりました。台湾との交流を通して、こうした災害対応のノウハウも高めていくことができます。また、この地震の際は、日本から緊急支援チームも派遣されましたが、一方で、本年１月の能登半島地震でも台湾から支援チームが駆けつけました。こうした日本と台湾で互いに助け合う伝統は、東日本大震災や１９９９年の台湾中部大地震から続くものですが、地方都市レベルで交流を強化することで、こうした伝統をより深化・発展させていくことができるのではないでしょうか。

そこで、以下、伺います。

⑴「台湾有事」の際の当市としての対応について。

①　当市の市民で、台湾や中国に観光や仕事等の目的で、訪問ないし定住する方の人数を把握していますでしょうか、伺います。

②　台湾有事の際、当市や市民にどのような影響が出るとお考えでしょうか、またそれに対して、どのような対策が考えられるでしょうか、伺います。

③　「ウクライナ戦争」などを分析すると、台湾有事の際に、大規模なサイバー攻撃が行われることが予想されます。有事の際は、その地域から遠隔である日本であっても、通信システムなどに支障を来すことがあると言われています。そこで、当市としても対応を検討すべきではないかと思われますが、いかがでしょうか。特に、重要なインフラ（電力、水道、通信など）が攻撃された場合の対策計画を策定していますでしょうか、伺います。

④　台湾有事の際には、当市として沖縄等の南西諸島の住民や台湾からの避難の受入れを検討すべきと考えますがいかがでしょうか、伺います。

⑤　全国の自治体の中には災害に関して企業等の事業継続計画（ＢＣＰ）策定の支援を行っているところがありますが、当市において災害に加えて国際的な地政学的リスクにも対応

したＢＣＰの策定を支援し、地元企業を守る取組を行うのはいかがでしょうか、伺います。

(2) 当市と台湾との関係強化の重要性について。

① 米田市長は台湾をどのように位置づけ、当市との関係の重要性をどのように捉えておられるでしょうか、伺います。

② 現在、当市と台湾とは、ジオパークでのつながりがありますが、これ以外での観光・文化・スポーツ・教育など、どのような分野で台湾との関係強化が可能とお考えでしょうか、伺います。

③ 台湾は日本の重要な経済パートナーであり、多くの自治体でも工場誘致や観光振興等の経済協力を行っています。当市として台湾との経済交流をどのようにお考えでしょうか、伺います。

④ 当市と台湾の都市との姉妹・友好交流都市協定を結ぶなどの連携について、米田市長のお考えを伺います。

２、糸魚川市における地域公共交通の現状と課題について。

今年３月の北陸新幹線敦賀延伸や、えちごトキめき鉄道で大関・大の里関らのラッピング列車が走ったり、ＪＲ大糸線に観光リゾート列車雪月花が乗り入れたりなどと、話題が豊富な１年となっていますが、これらを含めた地域公共交通が糸魚川市にもたらす影響について、以下、伺います。

(1) 北陸新幹線敦賀延伸に伴う当市への波及効果についてどのように分析されているのか、伺います。

(2) 大糸線増便バスの途中経過と今後について伺います。

(3) 観光リゾート列車雪月花の大糸線乗り入れの効果と大糸線の将来展望について伺います。

(4) 今年の８月１日～１０月１２日まで行われた電動キックボードやレンタサイクルの社会実証の結果と今後について伺います。

(5) 先般示されました令和７年度からの「糸魚川市地域公共交通計画（マスタープラン）」案について、以下、伺います。

① この計画の計画期間が、令和７年度から令和１６年度までの１０年間とされています。交通システム等は日進月歩で変化するものですが、この計画期間に起こり得るであろう事象に柔軟に対応できるとお考えでしょうか、伺います。

② 計画にある「目指す将来の交通網イメージ」として、路線バス以外のエリア、特に、中山間地域における共助による移動手段の確保とありますが、現状の運転者不足やさらなる高齢化で、中山間地域における「共助」が成り立つものなのか伺います。

以上で、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

和泉議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目の１つ目につきましては、把握いたしておりません。

２つ目につきましては、渡航制限や退避勧告などが想定されます。

３つ目につきましては、国民保護計画において対象となる事態に該当しませんが、国や県から情報提供をいただく中で対応してまいります。

４つ目につきまして、国や県で検討するものと捉えております。

５つ目につきましては、現時点では、考えておりません。

２点目の１つ目につきましては、ジオパーク活動を通じた地域間交流の大切なパートナーとしての位置づけをいたしております。

２つ目につきましては、今年６月、台湾ジオパークネットワークと締結したフレンドシップ協定において、教育、防災、国際交流など、包括的な連携を進めることといたしております。

また、北アルプス日本海広域観光連携会議などによる、台湾旅行社へのトップセールスや現地商談会に参加し、サイクリングなど、アクティビティや食材、ヒスイ等をＰＲするなど、誘客促進を図っております。

３つ目と４つ目につきましては、経済や観光面のほか、新たな展開を図るため、台湾との友好都市の在り方を検討し、ジオパークによる交流を生かした取組につなげていきたいと考えております。

２点目の１つ目につきましては、市が行っている新幹線の乗降調査の結果から、対前年比２％の増となっており、観光客の増加や大糸線の利用者の増加につながっているものと捉えております。

２点目につきましては、６月から１０月までの利用者は、９，４１０人であり、１２月から白馬八方バスターミナルを経由するなど、ウインターシーズンの利用促進に向けて、取り組んでおります。

３点目につきましては、今年も１１月１０日に実施し、沿線住民の皆様から駅でおもてなしをいただくなど、大糸線の魅力発信につながっているものと捉えております。

引き続き、沿線自治体及び関係者と一体となって、大糸線の利用促進を図ってまいります。

４点目につきましては、実証実験期間中に電動キックボード２７人、レンタサイクル１２人の方からご利用いただき、現在、移動経路などを分析中であり、その結果を基に、今後の二次交通等の対策に生かしてまいります。

５点目の１つ目につきましては、マスタープランは公共交通に係る取組の方向性を示す計画であり、新たな技術や手法については、公共交通協議会において検討してまいります。

２つ目につきましては、共助を含む地域の実情を踏まえた、よりよい交通手段について、住民の皆様と協議する中で検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

すいません、ちょっと、明確に聞こえなかったということで、もう一度、説明させていただきますが、２番目の２点目の６月から１０月までの利用者は９，４１０人であります。申し訳ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

それでは、１番目の台湾との関係の再質問をいたします。

台湾有事については、外交、殊に国防関連の質問ということですので、地方議会にはあまりなじまないのかなという、そういう感じもしますけれども、冒頭で、防災分野でのことも取り上げておりますので、１点、防災分野についての質問をさせていただきます。

静岡県は、ご存じのとおり、防災先進県とも言われておりまして、台湾の６つある行政院直轄市、台北市などの大都市全てと防災協定を結んでいます。連絡窓口の設置とか、平時の業務提携とか、災害時の総合サポート及び被災後の復興再建の支援を協力するという、そういう方針があります。

横浜市も、台北市と防災協定を結んでおりますが、大規模災害は、被害が広域に及ぶために、市町村単位だけではなくて都道府県レベルでの連携強化も重要だと私自身、考えております。

また、当市単独では難しい場合は、新潟県レベルで防災分野で協力していくことで、台湾の防災のノウハウを学ぶことができる機会にもなるというふうに考えています。

そこで、県に対して、台湾との防災分野での連携強化を働きかけていくのは、いかがでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

防災分野でということで、お答えさせていただきます。

まず、台湾の防災への取組については、非常に見習うところが多いかというふうに捉えております。

また、発災時における県の役割もあることから、市からの積極的な働きかけということは現在のところは考えておりませんが、台湾など、海外とかそういった防災に関する連携強化の取組の話をする機会があれば、確認してみたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

今答弁いただきましたが、やはり市単独では難しい部分は、新潟県にも働きかけてということで、まず、糸魚川市が率先垂範というか、音頭を取って、そういう防災分野での勉強会といいますか、学びの機会を増やして、実際に、災害が起こるのは困りますけれども、いざというときのためのそういうノウハウ等を身につけていただければと、それに向けて検討いただきたいというふうに思い

ます。

続いて、（２）の台湾の関係強化についてです。

市長の答弁には、台湾は大切なパートナーという答弁をいただきました。

そこで、昨今、コロナ禍の影響が徐々に薄れる感がある中で、当市においても外国人の姿を目にすることが増えてきてます。現在、当市での観光案内としては、外国人向けにはどこの国や地域からの旅行者を想定しているのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

先ほどの市長答弁のとおり、台湾をメインターゲットとさせていただいております。そのほか考えられるものにつきましては、やはり白馬バレーにスキーなどウインタースポーツで長期滞在されておられますオーストラリア人とか、また、姉妹ジオパークで交流のあります香港からの旅行者も想定範囲になるかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

台湾をターゲットということですが、台湾では、ご存じのとおり中国語を使用しています。中国語も、同じ中国語であっても繁体字といって、我々が日常使ってる漢字に似たようなあまり崩してないようなものと、簡略化している簡体字というのがありますが、台湾の方は、どうも簡体字は読まないそうで、繁体字のほうを専ら読むようですね。もし同じ中国語だということで、当市において簡体字のみに対応している状況であれば、改善が必要かと思いますが、これについていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えさせていただきます。

今現在、当市で中国語対応につきましては、基本的には繁体字、簡体字、両方のほうで作成はさせてはいただいております。

ただし、やはり総合的な観光案内のみとなってございますので、今後は随時、更新時などには、小さなものも改善に努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

両方対応されているということが分かりましたが、実際に、よく私も台湾人の方が市振とかに来られるので、やはりそういう情報発信だけではなくて市内のポイントですかね、そういうところに、やはりそういう台湾人の方向けの表示等が必要になってくるのではないかなというふうに思いますので、ご対応をお願いしたいと思います。

次に、台湾の都市との姉妹友好交流協定を結んでいる各自治体の事例を挙げて、幾つか質問させていただきます。

まず、静岡県の浜松市ですが、浜松市は友好交流協定を結ぶ台北市と、それぞれの市から訪れた観光客に記念品を贈り合う取組を行っているということです。浜松市民は、台北市のトートバッグやウサギ型の貯金箱、ポストカードがもらえ、浜松市を訪れた台北市民は、トートバッグや遠州綿つむぎの袋にあめを入れた静岡巾着あめ、あるいは市のマスコットキャラクターを描いたピンバッジがもらえるということです。

このような事例がありますけれども、こうした取組を参考にして、当市と台湾との交流を深めていくのはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

私もアジア人ですので、記念品をやはり送り合うということは、お互いを知る上で、相互にやはり効果があるのではないかなというふうに思っております。

昨年４月に台湾ジオパーク関係者が来日いただいたときには、交流のあかしとして、記念盾のほうの贈呈もさせていただきましたし、また缶バッジ、またクリアファイル等、ジオパークグッズの進呈のほうもさせていただいております。また、来日するたびに郷土料理や、また地酒を楽しめますジオの恵みフェスタを開催するなど、交流のほうも深めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

今ほどの答弁から、ジオパーク関連での取組があるということで理解させていただきました。

次に、今年の６月ですが、北海道の沼田町が、台湾東部の花蓮県瑞穂郷と友好交流協定を締結しています。きっかけは、昨年の台北駐日経済文化代表処、札幌分処の粘信士分処長が、この沼田町の、夜に高いと書くんですか、夜高あんどん祭りというのがあるんですけど、それを訪れたのがきっかけだったそうです。加えて、豊かな自然、伝統芸能、アウトドア資源といった共通点があり、実現したとのことです。

当市も、けんか祭りとか、竹のからかいなどの伝統的な行事があって、このような地域の祭りを活用して、台湾側に働きかけて、友好交流協定を締結していくのはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

過去に台湾東部、台南のほうになるんでしょうか、台東市から声をかけていただいたことがございます。そのときには、まだ我々もジオパークをやっておりませんで、そういった台湾との交流もしてなかったもんですから、やはり少し大きな都市という形の中で少し釣合いが取れないんではないかなというような考えで、こちらからはお伺いさせていただきましたが、糸魚川のイベントにはお呼びかけしなかった経過がございます。

また、今現在は、台湾の各ジオパークと交流がございます。全体的な交流でございまして、当市との交流は、まだ図れない状態でございますが、しかし、やはり台湾大学を介しての交流でございまして、非常に信頼性が高く、非常に糸魚川に対しての思いを持っておられる方々も結構おられるわけでございますので、そういったことを考えたときに、やはりどこかの都市と結ぶというのも大きな事柄になろうかと思っておりますので、どこと連携すればいいのか、そして、我々糸魚川に対して、多くの方々がおいでいただくことを進めていくことが大切なことと思っておりますので、我々と共通の活動を介して進めていくという形に、何か、やっぱりつながっていくことが一番大事かと思っておりますので、そんな感覚を今思っている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

ありがとうございます。やはり台湾の方というのは、私も冒頭に申しましたが、非常に親日的な方が多くて、私も市振駅で歓迎したときは、「Ｗｅｌｃｏｍｅ　ｔｏ　Ｉｃｈｉｂｕｒｉ　ｔｈａｎｋ　ｙｏｕ」という英語で書いたものと、「ようこそ市振へ　ありがとう」という２つ、納豆パックの蓋を細工して置いておいたら、残ったのは英語のほうで、日本語の平仮名のほうをほとんど持っていかれたという、そういうのがあって、やはり日本の文化に触れたいというような、そういう方がたくさんいますので、台湾からの観光客の方の意向とかニーズをさらに調査研究していただいて、できればそういう友好関係を築いていくためへの一助にしていただければというふうに思います。

そのほかには、先月１１月に熊本県の菊池市が、台湾の台南市東区と友好交流計画を結びました。そこと双方の特産品のマーケティング推進などでの連携を推し進めているとのことです。こういうマーケティングというか、そういう特産品について、このような事例を参考に台湾との交流を深めていくのは、いかがでしょうか。特に地元の特産品等を台湾市場に向けてプロモーションするなど、具体的な計画等はおありでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

台湾市場に向けて、当市の特産品プロモーションについては、現時点では、市としては取り組む計画はございません。

しかし、市内業者が台湾等海外へセールスやマーケティングを行う場合は、今現在持っております事業が、展示会等支援事業というものがございます。そういったものもご紹介しながら、引き続き企業に対しては支援をしてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

今のところは計画はないということですけど、そういう支援事業がありますので、何から何まで行政がお抱えということでは僕はないと思いますから、そういうような事業を通して、市内事業者への支援をしながら、民間の活力を生かして、交流が図れればというふうに考えます。

次に、鹿児島県の阿久根市ですが、ここは台湾の台南市善化区というところと友好交流協定を結んでます。それを受けまして、互いに生徒を受け入れて、交流を深めているということです。今年は、市内の中学・高校生７人を派遣して、１１月の１２日から１５日の３泊４日という、そういう日程でホームステイをしながら現地の高校生と交流したとのことです。当市においても、中学生の交換事業ありますけれども、こうした事例を参考に当市の子供たちの国際交流をさらに盛んにしていくのはいかがでしょうか。教育長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

今ほど和泉議員のほうからご提案をいただきました。中高生の海外派遣、ホームステイも含めてというふうな事例を紹介していただいたんですけども、当市の場合については、香港ジオパークとの姉妹提携の関係で、今年が１０回目でした。市内の中学生２６人が、４泊５日の日程をこなして帰ってきて、その報告会を聞いてますというと、やはり相当なインパクトを受けたということで、糸魚川市のジオパーク学習と香港ジオパークの特色の違いとか、スケールの違いとか、それから、関わる中で、やっぱり異文化に触れるというような部分のところ、食とか町並みとか、その雰囲気全体が、やっぱり子供たちに与えたインパクトは相当強いというふうなことを考えますというと、やっぱり直接体験をしながら海外に出かけていくというふうな部分のところにとっては、子供たちの成長段階にとっては大変大事な取組になるかなというふうに思ってます。実践的に、実際に体験してみてというような部分のところを重き置いたときに、グローバル人材の育成という観点からすると、やっぱり大事なのかなというふうに思ってます。いかんせん、行政がどこまでやるのかということとか、民間の力を利用しながらどのような形でもって実践できるのかとか、あるいは中学生と高校生なのか、あるいは高校生だけなのかとか、いろんな取組の方法があろうかと思ってます。今までの実績を踏まえながら、これからの糸魚川市の海外派遣という、そして直接体験するというふうな教育の場をどのようにつくり上げていくかというふうな部分についての貴重な参考の資料とさせていただきたいというふうに思ってます。ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えさせていただきます。

補足的な事柄であると思っとるんですが、本当に台湾は、非常に日本にとって、非常に親日的な感覚を持った方々が多くおられまして、３．１１の東日本大震災のときに、どこへ支援物資を送ったらいいか分からないということで、糸魚川を介して送ったという経過もございます。糸魚川へ送ってきたということもございますので、非常にそういった意味では、私は非常に親日家の多い台湾でございますので、やはり締結を結ぶということに対しては、非常にいい国だと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

ありがとうございます。台湾関係のことについてまとめるという形でちょっと提言させていただきますけど、近年、やはり台湾からの観光客が非常に増えているということです。令和６年度版の観光白書においても、２０２３年の台湾からの訪日外国人旅行者数は４２０万人で、全体の１６．８％を占めているそうです。これは最も多い韓国に次ぐ２番目ということです。

また、訪日外国人の旅行消費額を見てみると、台湾は２０２３年だと７，８３５億円、全体の１５％を占めているということです。外国人観光客といいますと、中国の爆買いのイメージが強いんですけれども、何と今や台湾人の方のほうが、中国人観光客を上回る消費活動を行ってくださるというデータがあります。

台湾人観光客は、今答弁や質問のやり取りの中にもありましたけど、やはり糸魚川市というか、そういう地方都市への関心が非常に高くて、日本の地方の文化とか自然とか、美食を楽しむ傾向があるということで、観光庁の令和５年宿泊旅行統計調査報告によると、都道府県別の延べ宿泊者数について、外国人宿泊者のうち台湾人宿泊者が首位、もしくは２位というところの自治体が３６にも及ぶそうです。ですから、糸魚川市においても、自然の景観とか、歴史的資産、特産品といった観光資源を活用して、台湾からの観光客を誘致することで地域経済に大きな波及効果が見込まれるのではないかというふうに考えます。特に近年では、個人旅行とか小規模グループ旅行の需要が高まっていますので、これに対して、対応した観光プランの開発も求められるのかなというふうに思います。

また、文化交流についても、台湾との連携は多くの可能性を秘めていて、例えば台湾では、日本のアニメや音楽、伝統文化に対する関心が非常に高くて、これを生かしたイベントや交流プログラムを実施することで、双方の文化的理解が深まることも期待されます。

また、教育分野では、自由と民主主義の価値観を共有する学生同士、子供たちの交流や語学学習プログラムを通じて、若い世代が国際的な視野を養う機会を提供することができますし、これによって地域の若者が、世界を舞台に活躍できる人材へと成長するきっかけをつくることができると考えます。

以上のように、一般質問の冒頭にも申し上げましたとおり、台湾との関係強化は、当市の発展にとって大きな可能性を秘めたテーマであります。あらゆる視点から、その意義を改めて見詰め直す必要があるというふうに考えております。

ここで最後、教育長にも最初、交換事業のことをお話しいただきましたが、また、教育全般についての交流について、そして、井川副市長と最後にまた米田市長にも、お考えを伺いたいと思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

お答えいたします。

今ほど和泉議員のほうから教育分野における台湾との交流、子供たちとの直接の交流みたいなものの意義をはっきりと提言いただきました。私もその提言の内容については、非常に大賛成だなというふうなことを思ってます。

先ほども少しお話しさせてもらいましたけども、教育分野から言いますというと、先ほどと重なるんですけれども、やっぱり子供たちの成長段階において、異文化に直接触れながら、やっぱり交流を通して言語の力を高める。そして、直接的な部分のところを通して感動した部分、あるいはショックを受けた部分、その部分のところが次への成長に必ず生きてくるというふうな体験になりますので、大変有効な機会になるかなというふうに思ってます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

井川副市長。　〔副市長　井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

私、観光誘客という立場からちょっとお答えをさせていただきます。

私が注目しているのは、えちごトキめき鉄道で運行している雪月花でございます。雪月花につきましては、えちごトキめき鉄道から資料を頂いてるんですけども、全乗降客のうちの約４分の１が外国から訪れた方というふうになっています。そのうちの約８割が台湾から来られた方ということで、令和５年度の統計から申し上げますと、約１，８００人の方が糸魚川駅で乗降されているという形になります。雪月花は１乗車当たり２万５，０００円から３万円ぐらいと決して安くない料金なんですけども、多くの台湾の方から来ていただいている。そういった方が市内のほうに観光ですとか滞在にしっかり出ていられるかというのが、ちょっとしっかりまだ把握できてない部分ではございますが、ぜひ糸魚川にお越しいただいた台湾の方に、市内を巡っていただきたい。また、こういったパイプがあるもんですから、台湾から、また多くの方が雪月花を利用しに来ていただくように、えちごトキめき鉄道、それから関係機関と連携して、対応してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

何度も申し上げているとおり、台湾とは非常に親日的な国でございますので、私といたしましても何度も糸魚川へおいでいただいておるわけでございまして、その人たちにとっても、本当に糸魚川は非常に好きだということをよく言っていただけます。また、そして日本の文化に対しても非常に愛着を持っておられて、文化といっても非常に、千　昌夫の「星影のワルツ」でみんなで一緒になって、抱き合ったりしてハグしながら、別れたときもございます。そのように捉えますと、やはりほかの国と違って非常に友好的な連携を取れる国だと思っております。

ただ、やはりもう一つ決めなくちゃいけないのは、やはり今、全体にジオパークの関係者と交流してるわけでございますが、やはり一つの都市と結んで、しっかりとしたそういった地盤を築いていくことが大切かなと思ってるわけでございますので、その辺、台湾大学の大学の教授を介して、その辺を絞り込んでいくことも大切な一つの方向性かなという、今ご質問の中で捉えた次第でございますので、そんな友好都市ができればいいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

ありがとうございます。それぞれにやはり台湾とのつながりが必ずありますので、それを端緒に、さらにつながりを強めていっていただければというふうに思います。

次に、２の当市の地域公共交通について、再質問いたします。

まず、北陸新幹線についてですけれども、主に関西圏とか中京圏からの誘客を中心に考えられていると思うんですけども、糸魚川までおいでいただくためには、ご存じのとおり敦賀駅での乗換えが必須で、それに加えて、時間帯によっては金沢駅か富山駅で乗換えを強いられる新幹線ダイヤの現状があります。そのダイヤを何とか柔軟に変更していくことで、さらなる誘客増加につながるというふうに私は考えているんですけども、それについて、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、当市まで直通の本数というのは、１５本中、５本ということで、乗換えが７本にという形になっております。これ、なかなかダイヤの改正という部分を１市だけでＪＲ西日本に訴えかけても、なかなか難しい部分がございますので、これについては新潟県と連携しながら、要望をＪＲ西日本に対して出しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

要望していただいてるということですが、以前、建設産業常任委員会でも、富山まで来ている、つるぎを延伸するというような、そういう要望の内容もちょっとお聞きしたか、そういう記憶があるんですけど、これについての運用は、やっぱり何かちょっと鉄道ファンぽくなって申し訳ないですが、糸魚川駅での折り返しというのは厳しいと思います。ということになると、お隣の上越妙高駅か、やはり今通常、長野で、乗務員が交代している長野駅かということになります。そうなると、やはりＪＲの会社は西と東の両社またがることになりますから、結構また、ハードルが高くなると思うんですよね。ですから、どっちも多分、現行のダイヤを変更するというのも結構厳しいかとは思うんですが、やはり糸魚川への誘客を考えたときに、せっかくある新幹線ですから、それを使わない手はないと思いますので、粘り強く要望をお願いしたいと思います。

続いて、大糸線の増便バスですけども、目標指数の３万人までにはなかなか届いていませんが、これから冬ですね、ウインターシーズンへの期待がやっぱりあります。それも含めて、これまで利用された方々から生の声を生かしていくことが必要かと思われますけども、それについてはいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

増便バス、新聞報道にもありましたとおり３万人ということで、なかなか目標までにはちょっと厳しい状況ではあるんですけども、今年度、初年度ということもございまして、周知に努めてきたところでございます。地元の方からの団体、地域の方ですね、増便バスを使っていただいて、白馬方面に行っていただいたりといったところの動きも見れてきておりますので、こういったところを生かしながら進めていきたいというふうに考えております。

ご質問のアンケートの件でございますけども、毎月４日間ほど平日、それから週末ともに４日間ですけども、乗降調査を行っております。この際にアンケートを取っておりまして、これらを分析する中で、お客様のニーズに合った運行というものを検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

ウインターシーズン、これからになると思うんですけど、やはりここでもインバウンドへの対応というのが必要になってくるかと思います。先ほど台湾の交流についても、台湾の方が中国語を使うけど繁体字のほうがというような、そういうことをお話ししましたけれども、私も増便バス乗ったときに、僕入れて３０人乗客がいましたけど、僕以外はほとんど外国人で、運転士さんは一人一人、英語とか外国語を使って対応してるんですよね。そのために出発時間が１０分以上遅れたというような、そういうことがあります。

そういうことを思って、ちょっと糸魚川駅前に行ったら、やっぱり外国人向けの表示が、一応コンパクトにまとめられてる表示がされて、以前よりは改まってるなというような印象を持ちました。やはりこのインバウンド対応について、特にスキー場へ向かうルートを変更してるということですから、そういうスキー場へのアクセスなどの対応について、具体的な方策があれば、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えします。

議員おっしゃるとおり、インバウンドへの対応というのが、今年、初年度ということもあって、実際、運転士さんに大分ご迷惑をおかけしたというところの事例が挙がってきております。

そういったことを踏まえまして、冬のダイヤにつきましては、英語、それから簡体字になろうかと思いますけども、そういった対応はさせていただいております。さらにバスの中の三角運賃表、これについても英語対応になるようにさせていただいております。できるだけ運転士さんの負担軽減ということもございますので、そういったインバウンドの対応について、していきたいというふうに考えております。

さらに今回、冬ルート、冬ダイヤということで運行させていただいておりますけども、市長答弁にもありました、八方バスセンターに接続するという形での運行をしております。これは、白馬バレーの取組ではございますけども、八方バスセンターから各スキー場へのシャトルバスというのが運行されております。これが１５分から２０分間隔で運行されているといったことで、この増便バスを使って、八方バスセンターから各スキー場へのアクセスといったところも確保されておりますので、こういった点を周知をしていきたいというふうに考えております。さらに白馬の職員なんかに聞きますと、１２月から３月の中旬まで宿泊はいっぱいだということをお聞きしております。そういった中で、夕食難民が発生しているといったこともお聞きしておりまして、ぜひこの夕食を、ぜひ糸魚川のほうに来ていただきたいといった取組の中で、観光協会とも連携しまして、大体、外国の方々はお店に対して予約をしてからおいでになられます。こういった部分の英語対応について、予約の代替をできるような体制を今構築をして、そういった体制があるということも含めて、白馬のオーナーさんたちに営業を行っております。非常に好評だということをお聞きしておりますので、本格的なウインターシーズンの中で、こういった機能によって、増便バスを使って夕食に来ていただく外国人の方が増えていただくことを期待しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

取組を聞かせていただきまして、私もやはり糸魚川が、ただ、一通過点ということであってはならないと思いますので、糸魚川でお金を落としていかれる方策というか、今幾つかお聞きしましたので、ぜひ進めていただきたいというふうに思います。

続いて、大糸線についてですけれども、やはり大糸線の存続については、各議員の皆様も一般質問等で話をされてますけれども、私もやはり沿線住民の方々への働きかけがやっぱり大切だというふうに思ってます。全国各地での鉄路の存続に向けた取組の新聞記事等を見ますと、例えば災害等でそこから復旧した路線などは、まずは地元の住民の皆様の熱意があってこそであるというのが、やはり活字、そういう活字が躍るんですよね。ですから、いかに糸魚川市民の皆さんを巻き込んでいくかが課題だというふうに私は思いますけれども、これについていかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

先月の雪月花の乗り入れの際にも、根知駅で地元の方からおもてなしをしていただいたりといったことで、地域の方々からの熱意を示すということが非常に重要だというふうに考えております。この辺は、課題だというところも認識しておりますので、今、大糸線の取組について利用促進という形で、沿線自治体と一体となって進めておりますけども、糸魚川だけではなくて、白馬、それから、その先の大町、松本までも含めて、こういった地域の住民の方々の取組をどういうふうに巻き込んでいくかといったところが課題だというふうには考えております。一体となって行政の取組、利用促進の取組もそうですし、地域の地元の皆さんの熱意みたいなところを示していくことも重要だと思っておりますので、両面から取組を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

１１月１０日の雪月花の大糸線の乗り入れについては、単純に糸魚川駅から大糸線に入ったわけじゃなくて、ご存じのとおり、何で市振まで来るのかなというのがあります。

ただ、ここもう三、四年ぐらいになりますけれども、年々やっぱり市振駅での歓迎される方の人数が増えてきているというのが実感です。子供たちも、市振は少ないですけどもやっぱりお出迎え、お手振りをしに来てくださる方がやっぱり増えてきてますので、そういう自主的にというか、そういうような活動もやっぱり大切なのかなというふうに思います。やはり強制はできませんけれども、例えば大糸線応援隊が、もう大分増えてると思いますが、４，０００人ぐらいになってるんでしょうかね。そういう方たちにこれまで以上の情報発信に取り組んでいただくとか、お手振りって、えちごトキめき鉄道とかが通るときに手を振るだけなんですけど、そういうようなことで乗客の方とのコミュニケーションを図れますよなんていうようなＰＲ、そういう啓発が必要だというふうに思います。

やはり残念なことではありますけど、全国にある鉄路が途絶えてしまった地域というのは、どうしても衰退の一途をたどるという、そういう憂き目を見る事例があります。やはり一旦敷かれた鉄路ですから、何とかしてやっぱり地元、あるいはその沿線での関係機関とか団体とか、沿線住民、鉄道ファンの力を結集して、何としても存続に向けて取り組んでいく必要があるんではないかと。

これはもう何回もこういう言葉というのは異口同音に出ていますから、分かってるよということではあるんですが、何せ本当に赤字のことしか言わないので、ただ赤字ですって言われても、何が赤字なのかという、そういう中身まではＪＲは示してくれてませんので、そういうところもやっぱりちょっとできれば明らかにして、ＪＲさんとしてはどこを削減していけば赤字を減らすことができるのかということにも踏み込むことができるので、新たに赤字というふうにして地元民は言われても、ただ困る一方で、そういうことも考えの中に入れていただきたいというふうに思います。

次に、二次交通ですが、電動キックボードとレンタサイクルについてですけども、市内の各駅から各場所への移動について、観光振興のために市内の二次交通の充実が重要な課題だというふうに思います。市内に観光で訪れる方々の二次交通に関する意識調査等が必要かと思われますが、調査等は行っておられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

これは観光施設、観光サイドのほうの調査ということになりますけども、その観光施設においでになられるまでに、どういった交通手段でおいでになられましたかといったような調査は毎年行っております。当市の観光施設までのアクセス、要は二次交通の部分ですね、それは課題であるというふうに認識しているところでございます。

今回、実証実験によって、件数は少なかったんですけども、その方がＧＰＳでどういう経路、どういうルートで、どういったところに行かれてるのかといったところのデータを取れるような形になっております。現在それを分析して、どこにどういうニーズがあるのか、観光客の方々が、どういうものを求めているのかといった参考のデータになろうかと思いますので、そういったものを生かしながら、今後の二次交通を考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

調査で、やはり生の声ということになるんですけど、私はやっぱりちょっと個人的なことになってあれですが、週末はやはり市振駅に行くことがあって、市振駅においでになった方々からは、異口同音に、市振駅からの移動手段、二次交通のことを要望として聞くことが、ままあります。近くに道の駅があったりとか、市振の集落には、やはり文化遺産というか歴史的な史跡等もありますから、そこ回ってみたいんだとか、あるいは親不知まで行くにはとかですね。国道８号が危ないので、狭いので、自転車で行くのはちょっと危険性を伴うので、えちごトキめき鉄道さんのほうで、サイクルトレインという形で、自転車をそのまま乗せられるシステムありますけども、実際に親不知の難所といいますか、そういう断崖絶壁のところを見たいというような声もやはりお聞きします。ほんのごく片隅のところでのことなんですけど、やはり糸魚川を訪れて、糸魚川の魅力を感じてくださる方には違いないので、ぜひそういう方のお声をやはり聞いていただいて、移動手段をご検討い

ただければというふうに思います。

最後に、地域公共交通についてですけども、答弁でも共助についてのお考えが示されましたが、その計画にある、目指す将来の交通網イメージの共助がやはり課題になってくると思います。そこで、やはりその共助が、今後１０年間の計画の中で、アクションプランも含めて、共助は成り立つのかなというような、そういう疑問がやっぱり浮かぶんですけども、そこのところをもう一度、お聞かせいただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

糸魚川市地域公共交通計画、マスタープランですね、現在、今策定中でございます。これは、このマスタープラン、今の課題であるとか現状ですね、こういったことを知ってもらうための計画でもあるというふうに認識しております。

先ほど議員おっしゃられた共助が成り立つのかといったところについても、それぞれの地域、谷筋によって、違うものがございます。私ども公共交通に置かれる今の現状をマスタープランという形でまとめて、それを持って地域に入りたいというふうに考えております。地域の中でどういう交通の在り方が、移動の在り方がいいのかということを、地域の方々と一緒に話合いをしながら、その地域に合った移動の方法を選択をしていくといったことを来年度以降やりたいというふうに考えておりますので、それを持って、アクションプランという形でまとめて取り組んでいく。これ、いつまで続けられるかとか、時によって状況が変わってきます。技術も進歩するということもございますので、そういった段階では、また地域の方とお話をしながら見直していくということも必要かというふうに考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

和泉議員。

○１０番（和泉克彦君）

これまでも地元住民の声をお聞きしてきたかと思いますが、やはりそれ以上にしっかり入って、実情を把握されて、マスタープランがより充実したものになって、アクションプランにしっかりとつながっていくような、そういう形で進めていただければというふうに思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（保坂　悟君）

以上で、和泉議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を３時３５分といたします。

〈午後３時２２分　休憩〉

〈午後３時３５分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、利根川　正議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。　〔１番　利根川　正君登壇〕

○１番（利根川　正君）

みらい創造クラブ、利根川　正です。

本日、１２月６日は、平成８年、蒲原沢での土石流災害が発生し、１４名の貴い命が犠牲となりました。早朝より慰霊祭が行われました。この場を借りまして、深く哀悼の意を表します。

では、１回目の質問をお願いいたします。

１、令和６年度の稲作の現状と安定供給について。

日本の食料自給率は、カロリーベースで３８％と低く、依然輸入に頼っている現状です。その中で自給率の高い米は、この夏品薄となり、いろいろな条件が重なり、令和の米騒動が起きました。現在米の価格は高値で推移しています。

消費者にとっては、物価がさらに上がり大変ですが、農家は、正常の価格になり、今後の継続と後継者問題、また、地方の所得向上を考えると、この価格を維持できるようにしなければなりません。

現在米騒動から３か月たっても、値下がりする要因がなく、卸業者、ＪＡもこの先の不安から、少しでも確保しようと動いています。また、飲食店からは、１年間の数量確保を契約する動きもあり、糸魚川市内の生産者も販売する米がないほどの状態です。これらを踏まえ、以下の点について伺います。

(1) 糸魚川市は今年の米の概算金（仮払金）６０キロ当たり１万９，１００円をどのように考えているか伺います。

(2) 米の不足が来年度も考えられますが、糸魚川市はＪＡ、米業者の在庫量などを把握しているか伺います。

(3) 糸魚川市の令和７年度の主食用米の作付面積の傾向と、米農家の現状をどのように捉えているか伺います。

(4) 農地の維持、景観等を守るべく、中山間地域等直接支払交付金制度、多面的機能支払制度が令和７年度に更新の時期になりますが、参加団体の変化等があるか伺います。

(5) 米価の値上げに伴い、今後若い農業従事者を増やすためには、どのような考えがあるか伺います。

(6) ＪＡでは今年度Ｊ－クレジット制度を活用して、中干し期間を７日間延長すると３０％ほどのメタンガスを削減する栽培方法を導入しましたが、どのくらいの効果があったか伺います。

(7) ＪＡ上越地区では、労働時間やコスト削減にＶ溝直播を実施しているが、糸魚川市でもこの方法を進めていく考えはあるか伺います。

(8) 糸魚川市もふるさと納税で、米を主力に２０３０年までに２０億円達成できないか伺います。

２、ＪＡ新潟厚生連糸魚川総合病院の医療体制の確保について。

ＪＡ組合員へのお知らせで、地域医療提供体制の維持と事業運営のため、経営状況と経営改革についての文章が配られました。その中で令和５年度の決算は過去最大の３５億円の損失金計上となり、この状況が継続した場合には、令和６年度は６０億円からの損失金の計上が見込まれるとありました。

経営改革を進めなければ令和７年度には資金が枯渇し、病院等事業が困難になるおそれがあるとしています。その原因として、人口の減少、新型コロナによる受診行動の変化、診療報酬の改定への対応のための在院日数短縮による患者数の減少、また、診療報酬が平成２８年以降引き下げられていて、影響が大きく出ています。

今回の経営改革の方針の下に改革対策をスタートさせましたが、あまりにも遅いと思います。糸魚川市にもさらなる財政支援の要請に来られましたが、どのような対応が可能なのか、以下伺います。

(1) 中長期的対策として不採算医療、非常勤診療の在り方を修正し、協議するとありますが、どのような協議が行われたか伺います。

(2) 病床数、機能の見直しを行うとありますが、上越地域医療構想調整会議では糸魚川市の必要病床数の推計を示されました。２０２３年度は、急性期１６５の病床数のうち、回復期患者が入院している実態が報告され、２０２５年度の必要急性期病床数は３４床と示されていて、回復期は１５７床で、今後どのように機能を調整し、話し合いされるのか伺います。

(3) 医師、看護師の人材不足の中、管理職手当の削減は、必要と考えますが、ＪＡ新潟厚生連職員の給与支給も下がっている現状では、さらなる看護師、事務員の不足が生じると考えます。糸魚川市の考えを伺います。

(4) 県は１２月中に県内で１１病院を運営するＪＡ新潟厚生連の経営危機に県が財政支援をする方向で検討に入りましたが、地域医療連携推進協議会の会長、米田市長はどのように捉えているか伺います。

(5) 糸魚川市もＪＡ新潟厚生連糸魚川総合病院の経営改善計画を分析して、改善を進めていくべきと思いますが、見解を伺います。

３、防災減災の実施に向けた取組について。

今年１月の能登半島地震後、９月に石川県能登豪雨による再び大きな被害が発生しました。大雨特別警報が発令されていた中、裏山が崩れ、土石流が家の中に流れ込んできて、また、２７の河川が氾濫し、家は泥に覆われ、地震の被害よりひどい状況になりました。

このような災害が糸魚川市でも起きる可能性があり、対策を打つべきと思います。

以下、糸魚川市の考えを伺います。

(1) 土石流では、倒木により橋がせき止められ、水の行き場がなくなり、自宅に押し寄せて被害が大きくなっています。本流支流域の河川の木の伐採を早く進めるべきと思いますが、市の考えを伺います。

(2) 土石流は、平成８年１２月６日の蒲原沢での発生、また来海沢でも起きております。近年、

砂防ダムの老朽化や土砂がたまっていて防災の機能を果たしていない現状です。糸魚川市は、どのように考えているか伺います。

(3) 政府は、自治体の防災備蓄品に対しての導入補助に乗り出す考えで、特に簡易トイレ、水の保管は重要と考えますが、市の備蓄品に関する考えを伺います。

(4) 高齢者の独り暮らしが増えている中、１９８０年以前の旧耐震化住宅は耐震化する必要があり、どのように進めていくか伺います。

以上、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

利根川議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、ＪＡが、米の需要や販売価格に応じて適正に設定したものと捉えております。

２点目につきましては、卸業者などの需要が市内生産量を上回る状況であるため、在庫はないものと認識しております。

３点目につきましては、高齢化及び担い手の不足により、作付面積は減少傾向と捉えております。

４点目につきましては、現在、参加団体が農用地の選定を行っており、より多くの農家の皆様から参加いただけるよう努めてまいります。

５点目につきましては、所得の向上とともに、圃場整備やスマート農業の導入により、農作業の効率化を図り、新規就農者の確保に努めてまいります。

６点目につきましては、成果等については現在集計中でありますが、ＪＡからは、生育に対する大きな影響はなく、取組者の来年度以降の継続意欲も高いとお聞きいたしております。

７点目につきましては、作業の省力化及び平準化が図られる栽培方法であることから、上越市内での実績等を参考に、関係機関と検討してまいります。

８点目につきましては、当市の返礼品はお米が中心で、年々、寄附額が増えてきている状況であり、今後も、多くの皆様からご寄附いただけるよう、生産者との調整や効果的な情報発信に取り組んでまいります。

２番目の１点目につきましては、今後の人口減少や医療需要の変化を見据え、当市に必要となる医療体制について協議を始める予定であります。

２点目につきましては、上越医療圏全体での医療再編の中で、各病院の機能や規模が決められていくものと考えております。

３点目につきましては、看護師などの医療従事者は、医療を支える要であり、安定した医療体制の維持に支障が生じることのないよう、必要な支援を行ってまいります。

４点目につきましては、県内において平等な医療体制を維持することが、県の責務であると捉えております。

５点目につきましては、単に経費削減を目的とする経営改善計画ではなく、将来にわたって持続可能な地域医療を提供できることを確認しながら、病院と連携して取り組んでまいります。

３番目の１点目につきましては、各河川管理者と連携を図りながら、伐採処理に努めてまいります。

２点目につきましては、砂防堰堤の土砂や流木は、必要に応じて、国や県が除去作業を実施しております。施設の老朽化対策は重要な課題と認識しており、引き続き、関係機関と砂防施設の新規設置などの対策を要望してまいります。

３点目につきましては、市においては一定量の備蓄を進めるほか、家庭や自治会での備蓄の確保について周知しております。

４点目につきましては、耐震化の必要性や重要性、補助制度などについて、今後も継続して周知・普及に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

では、２回目の質問をお願いします。

（１）の糸魚川市の米の概算金の件なんですが、稲作の現状と安定供給について、この夏の米騒動の原因は、２０２３年の夏の猛暑による品質の低下による主食用米の流通が減少で、また、需要では、外国観光客の増加で消費量が増え、それに加え、麺やパンの値上がりがあり、主食としての米の消費量が伸びたこと、また、南海トラフ地震の臨時情報と迷走した台風で、消費者側も不安から買いだめするようになり、さらにちょうど新米に入れ替わる端境期で在庫がなくなり、米の売場から商品が全く何もなくなりました。

今回の米不足に対して、政府は備蓄米を放出しませんでした。放出の条件は、１０年に一度の不作か、不作が２年続いた場合に対処できる水準としています。今回は当てはまらず、しかし、例外で過去に東日本大震災で４万トンの供給、また、２０１６年の熊本地震にも放出しております。今現在、学校給食や子ども食堂にも提供しております。現在、５年分で１００万トンの在庫量で毎年２０万トンずつ買入れし、５年たったものから売却し、飼料用米として流通している現状です。

ここで、（１）の概算金の件ですが、昨年度、ＪＡ仮渡金が、昨年度末で１万４，２００円、この９月稲刈りが始まる前には１万７，６００円、今回、最終的に１万９，１００円の概算金、値上げで、４，９００円の値上げでした。この価格は、生産者からすれば励みになる金額ですし、この価格を来年度も維持していかなくてけないと思います。

しかし、消費者から見れば、さらに物価高を招いてしまい、難しいところがありますが、この金額、課長はどのように思われるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

生産資材等の価格が高騰する中、生産コストに適切に対応した価格設定というのは、農業経営を継続していく上では大切でありますので、一定程度の価格の上昇は必要であるというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

農家としてみれば、飼料、それからまた除草剤、燃料代、最近になって機械の高値が推移しております。生産者は、この価格がやっと利益の出る価格というふうに捉えておりますので、この価格は、続くように期待したいというふうに思ってます。

次に、（２）今回、米不足に関して情報発信が少なかったと思います。来年度の米のＪＡ、米業者の在庫量は、現在どのようになっているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

糸魚川産のお米につきましては、今年度だけではないんですが、今までもそうでしたが、生産量を上回る需要があることから、販売店、販売先が見つからないような在庫についてはないというふうに認識をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

糸魚川のお米が、売れるということだと思います。新潟県では、南魚沼産のコシヒカリが一番、今もかなり売れております。それに追いつくような形での生産のほう、実際、食べて、おいしいという声が、かなり受けておりますので、もっと拡販して、販売できるようお願いしたいというふうに思います。

それから、この１１月３０日の糸魚川産のブランド生産者大会において、来年の６月末の民間在庫量は１６２万トンで、平均ですと１８０から２００万トンの在庫量ということです。もう一年このままいきますと、不足するという数字が出ております。米を不足させないよう調整は難しいんですが、どのように不足が生じた場合、対応していくのか。また、今年と違う対応ができるのかをちょっと伺いたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

先ほどもお答えさせていただいたように、糸魚川産米につきましては、生産量を上回る需要ということで推移しておりますが、今、主食用米以外の飼料用米等も生産している田んぼもございますので、そうしたものを主食用米に切り替える等、関係機関と調整しながら、生産量の増加に向けて努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

銘柄を変えて、飼料用米から主食用米に切り替えるという方法もありますし、また、今、皆さん見て分かるとおり耕作放棄地が目立ってきております。そこを活用して、強く耕作に促すようにお願いしたいというふうに思っております。よろしくお願いします。

次に、３番、１１月に県の農業再生協議会で、来年度の米の生産目標が出ました。県の目標は、５６万２，４００トンと公表、２４年度の５４万６，０００トンを上回り、１万６，４００トン多い目標になります。これに伴い、作付面積も多くなりますが、糸魚川市では、今年度は作付面積を抑えて栽培しましたが、来年度、多くできるのか伺いたいというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

先ほどお話しさせていただきましたように、飼料用米から主食用米の転換等で、ある程度、面積拡大は可能かと考えております。生産量の数量の増加というのは、農業所得の向上につながりますことから、関係機関と連携いたしまして、県が示します目標値に近づけるよう努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

ここで気をつけたいのが、主食用米を増やして、作り過ぎによる価格低下という心配もありますが、その辺を調整してもらいまして、ぜひとも消費者に届くようにお願いしたいというふうに思います。

次に、（４）の中山間地域直接支払等多面的機能支払制度ですが、４月に再度始まります。中山間地では、高齢化により条件の悪い水田を諦める方が多くいて、このことは、景観の維持、また、

荒廃の防止、鳥獣害の面からも大きな問題です。地域全体として対策を考える必要があると思いますが、考えをお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

交付金を有効に活用して、地域のお住まいの農業者以外の方の参画によります地域ぐるみ、集落ぐるみの活動を推進するよう、地域の皆様と一緒に考えてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

次、（５）農業従事者を増やすためということですが、最近、地域おこし協力隊の方が２名、昨年度より活躍しております。これ、さらにＩターン、Ｕターン、Ｊターンなどが受けられる、増員を進めるべきと思いますが、農業ばかりちょっと増やすということはちょっと難しいというふうに思いますが、この協力隊の募集は、地域から要望して、地域が計画・立案して、市のほうにお願いすれば募集できるものなのか、農業に限らず、どのような方法を取れば、協力隊が応援してもらえるのか、分かればお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今ほど農業に限らずというお話でしたので、私のほうからお答えさせていただきますが、地域おこし協力隊の募集に際しましては、今、例えばそういった農業に従事していただくという場合もありますし、いろんなケースがあるものだと思います。そういった場合に、地域ですとか団体さんですとか、そういった受入れをしていただく体制、それから、協力隊の特色としては、３年間の任期というのがあって、３年後、またそこに定住していただけるかどうかというところが鍵になりますので、任期終了後、また、そこに住んでいただけるといったところへの配慮といったところも大切かと思っております。

したがいまして、地区などから協力隊等についてご要望があった際には、そういったところを視点にご説明をさせていただきながら、地域と一緒に検討させていただくといった形になろうかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

あと、もう一点、２拠点地域移住ですね。その移住を推進すると、都会の人をこちらに来てもらって、例えば週末、農業をしてもらって、月曜日には、また仕事に帰るというふうな、そういう拠点の生活で、農業という形に携わる、要は何ていうんですかね、少しでも触れてもらうという考えで、都会の人を呼び込むような対策ができるんではないかというふうに思ってます。

最近、この二、三日の新聞報道では、東京都は３連休にして、週４日の勤務にするというふうに打ち出してるとかいうふうな情報もありますし、その連休を利用して、農林水産の体験、また、自然体験、登山体験など、体験型の２拠点移住をぜひ進めてもらいたいというふうに思います。

次に、（６）水耕栽培における中干し期間の延長で、Ｊ－クレジット制度、中干し期間をいつもより７日間延長することによって、クレジットの売上げで手数料を引き、農業者の収益になり、栽培した米は、Ｊ－クレジット米として付加価値が上がり、高く販売できます。糸魚川でも近年やっておりますが、こちらを積極的に進められないか、伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

ＪＡでは、今年度の成果について、現在、精査しておるところです、農家の皆様から声をお聞きしながら。その結果につきまして、市といたしましても注視しておりますし、全国的な取組状況ですとか成果についても、今後、研究してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

この制度は、企業にとってもありがたい、重要な、会社運営にやる上ではなってきますので、ぜひ企業と一緒になって進めてもらいたいというふうに思っております。よろしくお願いします。

次に、８番、ふるさと納税ですね。こちらは２０２３年度の県全体の寄附金受入額は３４０億円、全国２位となり、糸魚川市は３億７，４２３万、これは２０２３年度ですが、経費を引いて実質１億８，７１１万円となりました。

ちなみに、今年度かなり伸びているということですが、残念なことに、既にお米の販売が、インターネットを見ますと在庫切れという形での糸魚川のホームページ、そちらに出ております。お米に代わる次なる商品をどんどん打ってきてもらいたいんですが、その辺の考えは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お米以外の返礼品につきましては、例えばこの先も人気になります、カニですとかエビといった海産物もございます。また、日本酒といったことが考えられるかと思っております。それ以外も、今後、期待しているものとしましては、体験型のメニューといったところも今後伸びる可能性があるというふうに考えておりまして、現在、例えば現地におけるツアー、糸魚川市へお越しいただいて、ツアーに参加していただくというのも商品として考えられますし、糸魚川市の食材を活用した都内でのレストランでの食事券といったところでも取組を始めているところでございます。

今ほど議員おっしゃられたインターネットサイトでの品切れ表示につきましては、サイトごとの、どうも掲載のルールがあるようでして、私見たときには、そういう品切れ表示はなかったんでですけれども、またちょっと確認をしながら、寄附者から選んでいけるように、また入れ替えしていただけるようなところがあれば、ぜひそうしていただくような形で進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

私が見たのは、「さとふる」だと思うんですけど、そちらのほう糸魚川見てみたら、ほとんど品切れ、お米は品切れという形で、南魚沼のコシヒカリを見たら、全て埋まってる。まだ全然予約取れますみたいな形なんで、かなりその差がありますので、その辺は来年度、しっかり取り組んでもらいたいというふうに思ってます。

先ほど日本酒の件も出ましたが、このふるさと納税で、糸魚川産の酒米を使いまして作られている日本酒があります。このたび、伝統的酒造りがユネスコ無形文化財の登録になり、昨日、パラグアイで開かれている委員会で正式に決まりました。糸魚川市には、５大酒蔵があり、糸魚川市と酒蔵が一緒になり、販路拡大に向けて、ふるさと納税、また、今輸出がかなり伸びておりますので、そちらのほうにも取り組んでもらいたいというふうに思っております。よろしくお願いします。

次に、農業の一番最後にですが、この１１月、各地域で農業に関する地域計画の説明会がありました。国の制度改革で、来年４月から農地の賃貸の手続が変わり、相対契約から農地中間管理機構を中に入れての手続となることや地域農業の現状と課題を上げられていて、その中で、中山間地では高齢化が進み、新たな担い手の確保が必要になり、特に負担となっていることが畦畔の草刈り、また、農業機械の更新、今使っている機械が壊れれば、もう農業をやめるという人がいる現状です。また、イノシシ、また猿の農作物被害、これは減る傾向がないんですよね。こちらも対策をもっと強化していかなければいけないというふうに思っています。

今後において、多面的制度、中間管理制度が利用して、農道の草刈りしないでいいように、農道のコンクリート化、また、機械の購入には、この制度を活用して、機械を買ってもらい、その機械を共同で利用して、集落単位での営農組織をつくることが必要だというふうに思っております。何より、そこで話合い、これからどのようにしてこの農地を守っていくかということを決めていってもらいたいというふうに、その話合いが大切というふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

次に、２の糸魚川総合病院の医療体制の確保についてです。

まず、糸魚川総合病院の現状を把握するために確認なんですが、糸魚川総合病院の今までの経緯について見ていきますと、令和２年３月に介護老人保健施設「なでしこ」の廃止。令和６年４月、許可病床変更、２６１から１９９に変更に伴い、５病棟の廃止。それから、看護師の勤務形態が変わり、３交代から２交代への変更。また、最近４月では、採血室が２か所から１か所になるということになっております。それから、令和２年から５年までの新型コロナで受診行動も変わり、患者数は減少しました。その間、新型コロナ補助金交付金を受けているときにも、忙しいということもありましたが、経営改革を進めていればというふうに考えます。また、県全体の厚生連の問題にもつながりますが、人口減少、患者数の減少が把握できたというふうに思っていますので、早く改善すべきであるというふうに思っております。この件に関して、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

経緯につきましては、今ほど利根川議員がおっしゃったとおりの流れで、ここに至っているというふうに思っております。コロナ禍で受診行動、受診控えがあって、コロナが明けたときに、その患者さんたちが戻ってきてくれるという期待感がやっぱり医療の中ではあったようですね、糸魚川総合病院だけではなくて。全ての医療機関において、そういうことが期待されていたんだけども、人口減少の流れと相まって、思ったほど患者さんの戻りがなくて診療収入が思ったほど入ってこなくなったというところでの病院経営の厳しさというのが現状だというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

県の今までの動きで、県の動きで１１月２６日、第２回県立病院とＪＡ厚生連病院との協議会の場が、県庁で開かれました。その中で、上越医療圏では新たな中核病院、運営主体や使用する施設の話合いに入ることを合意しましたとあります。また、その中の会合で、ＪＡ厚生連全体として１０月末まで収支を９億円改善したとあります。今後、さらに個々の病院も改善をさらにお願いしたいというふうに思っております。それから今回、県は今後の医療再編、コンサルティング費用として２，０００万を計上していますが、糸魚川市としても、経営改善計画の進み具合、コンサルティングの内容を一緒に見ていく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

県が、この１２月の議会で補正予算２，０００万ですかね、計上されているのは、経営コンサル

タントに厚生連の経営状況の分析を委託する費用を県が面倒見ますよということでの委託費というふうにお伺いしております。その委託内容、成果をお聞きしながら、それぞれの病院、特に私ども糸魚川総合病院の今後の在り方の診断というものをお聞きする中で、必要な支援というものも、また考えてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

ぜひよろしくお願いします。

今回、県のＪＡから経営改革方針が打ち出されております。その中で、緊急的対策の中で支出改善対策として、１つ、経営管理委員、理事、監事報酬及び管理職手当の臨時的削減、２つ目として一般経費の削減、固定資産取得の見直し、３つ目として各契約の見直し、４つ目に要員配置の適正化など改革を進め、品質改善を図っていくというふうに出ております。あと、この糸魚川総合病院も該当するというふうに思っておりますので、ぜひ進めてもらいたいというふうに思っております。

それから、糸魚川総合病院の現状を８月に、この議会の委員会協議会の中で行い、２０２３年度の状況を対応等説明が受けました。その中で、医師の高齢化、看護師の不足が上げられていましたが、医師、看護師の不足が改善されているのか伺いたいというふうに思っています。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院の医師につきましても、かなり高齢化が進んでおりまして、若い医師の方が、研修医とかはいらっしゃるんですけども、その後、糸魚川総合病院から離れてしまって、富山大学からの派遣をいただいているような状況でございます。その中で、比較的ご高齢になられてもお残りいただいて何とか確保している状況でございますし、看護師におきましても、若い看護師さんは、先ほど来、伊藤　麗議員のご質問にもお答えしましたが、糸魚川市外からおいでいただいて、勤務をいただいて、何年かすると、また異動希望等で糸魚川を離れてしまうというような状況が起こっておりまして、市内にいらっしゃる看護師の方から、定年を迎えてもお残りいただいて、継続勤務いただいているというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

今後、医師、また看護師等、また事務員もそうですけど、かなり厳しい状況が続いていくと思いますので、しっかり対応のほうをお願いしたいというふうに思います。

次、ちょっと細かい点になりますが、４点ほどちょっと聞かせてもらいたいんですが、研修医の受入れ状況ですね。研修医の受入れが負担になっているんじゃないかというふうに聞いておりますが、その辺いかがなもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

病院のほうにお伺いしましたら、やはり研修医の方を受け入れるということは、それなりにその方の指導に当たるということでの、通常の勤務以上の負担というのは当然あるというふうに伺っております。例年、各年度３人から４人の研修医を受け入れておりますので、その負担というのは確かにあるものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

研修医の受入れが、担当医が、本当に熱心に研修医を受けた以上は面倒を見てもらえるようにお願いしたいというふうに思っております。

それから、次に、会計時間が長いというふうに、かなり待たされるというふうに受診者からよく聞いておりますが、会計自動精算機の導入をぜひとも入れてもらいたいというふうに聞いておるんですが、その辺、対応できるようなもんなんでしょうかね、かなり高額なんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

このことにつきまして正式に伺ったことは、尋ねたことはございませんが、今、厚生連の経営状況から固定資産の購入停止だとかいろんな縛りが入っておりまして、導入はかなり難しいのではないかというふうに推測されます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

周り、富山の病院とか上越の病院も導入されておりますし、スムーズに診察終われば、自動精算機で帰れるという形で、待たすことなくいきますので、その辺の検討を、今後お願いしたいというふうに思います。

もう一つ、今閉鎖中の介護老人保健施設なでしこ、この後、今暗くなって、真っ暗になってるんですが、どういうふうにしていくのか。例えば違う業者に貸すとか、逆にもうそこで解体して、更

地にして地主さんに返すとか、どんなふうに考えているのか、その辺もし分かればお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

なでしこの件につきましては、現在、閉鎖してからずっと空いた状態で、あえていうとコロナのワクチン接種のときに集団接種会場でちょっとお借りをして使ったぐらいの使用しかしておりません。現在、閉鎖中でございますので、閉鎖のまま資産としては残ってるけども、そこで利益は生まない状況でございます。それで、これを賃貸借で別の方にお使いいただくということは、全国厚生連の中の縛りがあってできないというふうに伺っておりますので、まさに、悪く言うと負の資産的な状況になってしまっているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

最後の質問なんですが、糸魚川市にとって重要な病院、もう一点、よしだ病院がありますが、この関係性について、市との関係性について、どうなっているか聞きたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

よしだ病院さんにつきましては、通常、私ども市とのやり取りはほとんどございませんで、いろいろ先生もご高齢になっておられますし、今後の経営については、心配をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

よしだ病院のほうも、支援のほうを話してもらって、どういう支援があるのか一緒になって考えてもらいたいというふうに思います。

医療の最後に、糸魚川総合病院において、市民に愛される病院になってもらいたいために、どうしなければならないのかを考えてもらいたいというふうに思います。他の病院に比べて待ち時間の長いことや、会計での時間がかかり過ぎなど改善を進めてもらいたいというふうに思っております。市内の病院も同じく厳しい状況でありますので、一緒になって考えていってもらいたいというふうに思います。よろしくお願いします。

次に、防災の件で、（３）今回、石破首相が所信表明演説で、事前防災を進めることを言っておられます。避難所となる全国の学校体育館の空調整備を早く進めることや、能登半島地震、豪雨での教訓から、トイレカー、キッチンカー、トレーラーハウスの官民連携による登録制度の創設、また、温かい食事を提供できるよう機材・物資の分散備蓄などを上げています。防災備蓄品は、各施設に分散して置くことも必要ではないかというふうに思ってますし、また、住民は、不安視しております。防災備蓄品を使い、避難所体験を進めても役立つというふうに思っておりますが、防災備蓄品の分散を進めるべきではないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

備蓄品の関係につきましては、今までの一般質問でも答弁してきたとおりですし、基本的な考え方は、市長答弁のとおり、やっぱり各自、あるいは自治会でという考えになります。市の備蓄につきましては、３地域１か所ずつに集中備蓄をしておりますし、また、コロナ禍におきましては、各地区公民館に感染症対策物品を配付しております。

ただ、消耗品につきましては、５類に移行したといったようなところで更新は考えておりません。ただ、これもまた以前にお答えしたんですが、特にご高齢の方が重たい水、あるいは暖といいますか寒さをしのぐといったような備品につきましては、各地区公民館というわけにはいかないんですが、ところどころに、そういった水、それから毛布の代替になりますアルミブランケット、またちょっと小腹空いたときのちょっとした食べ物、こういったものを備蓄できないかといったところは、現在検討しているといったようなところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川議員。

○１番（利根川　正君）

政府も進めるというふうに言っておりますので、ぜひ一緒になって進めてもらいたいというふうに思っています。よろしくお願いします。

それから、最後に、災害時は市の職員の作業軽減、また負担軽減にほかの自治体の協力が極めて必要で、日頃から訓練と経験の積み重ねで進めてもらいたいというふうに思います。被害者の各種災害関連の申請書の簡単にできる改善など、日頃から改善努力をしてもらい、短期的な課題に対して計画的に取り組むことが大切だと思います。ぜひ市のほうで進めていって、災害がいつ起こるか分かりませんので、よろしくお願いしたいというふうに思います。

以上で、２回目の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（保坂　悟君）

以上で、利根川議員の質問が終わりました。

本日は、これにとどめ、延会といたします。

大変お疲れさまでございました。

〈午後４時２４分　延会〉

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

議　　長

議　　員

議　　員

令和６年第４回定例会会議録

第３号（１２月９日）

令和６年第４回糸魚川市議会定例会会議録　第３号

令和６年１２月９日（月曜日）

議事日程第３号

令和６年１２月９日（月曜日）
〈午前１０時００分　開議〉

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　一般質問

本 日 の 会 議 に 付 し た 事 件

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　一般質問

〈応招議員〉　１８名

〈出席議員〉　１８名

１番	利根川　正　君	２番	阿部裕和　君
３番	横山人美　君	４番	伊藤　麗　君
５番	保坂　悟　君	６番	田原洋子　君
７番	渡辺栄一　君	８番	加藤康太郎　君
９番	東野恭行　君	１０番	和泉克彦　君
１１番	田中立一　君	１２番	松尾徹郎　君
１３番	宮島　宏　君	１４番	中村　実　君
１５番	近藤新二　君	１６番	古畑浩一　君
１７番	新保峰孝　君	１８番	田原　実　君

〈欠席議員〉　　０名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長	米田　徹　君	副市長	井川賢一　君
総務部長	大嶋利幸　君	市民部長	渡辺　忍　君

産業部長	五十嵐　博文君	総務課長	嶋田　猛君
企画定住課長	中村　淳一君	財政課長	猪又　悦朗君
能生事務所長	高野　一夫君	青海事務所長	仲谷　充史君
市民課長	川合　三喜八君	環境生活課長	木島　美和子君
福祉事務所長	山岸　千奈美君	健康増進課長	林　壮一君
商工観光課長	大西　学君	農林水産課長	星野　剛正君
建設課長	長﨑　英昭君	都市政策課長	内山　俊洋君
会計管理者 会計課長兼務	山田　康弘君	ガス水道局長	山口　和美君
消防長	竹田　健一君	教育長	鷭本　修一君
教育次長	山本　喜八郎君	教育委員会こども課長	室橋　淳次君
教育委員会こども教育課長	古川　勝哉君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務	磯貝　恭子君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ケ原考古館長兼務 市民会館長兼務	嵐口　守君	監査委員事務局長	陶山　智君

〈事務局出席職員〉

局長	磯貝　直君	次長	伊藤　伸一君
係長	水島　誠仁君		

〈午前１０時００分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（保坂　悟君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、１１番、田中立一議員、１２番、松尾徹郎議員を指名いたします。

日程第２．一般質問

○議長（保坂　悟君）

日程第２、一般質問を行います。

６日に引き続き、通告順に発言を許します。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。　〔９番　東野恭行君登壇〕

○９番（東野恭行君）

おはようございます。みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、１回目の質問をさせていただきます。

１、公共工事入札の不調・不落の原因と対応策について。

(1) 公共工事の入札に参加する事業者がおらず、落札者が決まらないときの対応策を伺います。

(2) 公共事業の入札に参加した事業者の入札価格が予定価格を超え、落札者が決まらないときの対応策を伺います。

(3) 再度公告入札、再度入札の概念について伺います。

(4) 入札不落の場合に例外的に行われる不落随契について伺います。

２、糸魚川市におけるＵターン施策について。

(1) 糸魚川市にＵターンしてくれる人材について、Ｕターンをする理由や動機など、糸魚川市はどのように分析しているか伺います。

(2) 糸魚川市内の賃貸物件に入居するＵＩターン者に、家賃の２分の１を最大２年間補助する制度があるが、高卒で、市内で就職し、一人暮らしを検討する学生に対し、家賃補助の検討はあるか伺います。

(3) 将来、糸魚川市内で医療や介護分野の業務に従事しようとする学生に対し、修学資金を貸与する制度があり、一定条件により、その返還が免除される制度があるが、修学資金の利用状況と、Ｕターンの見込みについて伺います。

(4) ＵＩターン修学資金返済支援事業補助金の利用実績と、制度利用者の今後の見通しについて伺います。

３、新成人を祝う会について。

(1) 令和４年４月１日より、民法改正により成人年齢が１８歳となりました。令和６年度（令和６年１１月４日（月・祝））に開催された新成人を祝う会（成人式）の参加者数と開催時期の適正について伺います。

(2) 令和７年度の新成人を祝う会の、開催内容の検討について伺います。

以上で１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、公告時期や公募範囲を検討し、再度公告を行います。

２点目につきましては、設計書の見直しを行うとともに、公告時期や公募範囲を検討の上、再度公告をいたします。

３点目につきましては、再度公告入札は、入札の不調、不落により、改めて公告を行い、再度参加者を募集することであり、再度入札は、１回目の入札で全ての応札者が予定価格を上回っているが、その差が僅かな場合、引き続き、２回目の応札を求めるものであります。

４点目につきましては、再度入札においても予定価格を上回ったが、その差がさらに縮小した場合、最低額の応札者と随意契約の交渉を行うものであります。

２番目の１点目につきましては、転入手続の際に理由を調査しており、Ｕターンする理由の大半が「仕事のため」となっていることから、就職、転職、起業等が転機となっているものと分析いたしております。

２点目につきましては、現時点では検討いたしておりません。

３点目につきましては、医療分野については、合併以降、１４４人からご利用いただきまして、Ｕターン見込みも含め、約６割が市内に就職いたしております。

介護分野については、平成２７年度の事業開始以降、利用者２０人のうち１４人が地元就職となっておりますが、５年度以降の利用者はございません。

４点目につきましては、４年度４０件、５年度３４件、今年度は２９件と若干減少傾向にありますが、一定の効果があるものと捉えており、引き続き、取り組んでまいります。

３番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたします。

３番目につきましては、来場者は４２人で、そのうち新成人の参加者は１９人でありました。市内３高校と相談しながら、開催時期を決定しましたが、新成人の参加にはつながらなかったことから、今後の開催方法について検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

それでは、２回目の質問を行いたいと思います。

１番の（１）から、入札に参加する事業者がおらず、落札者が決まらないときの対応策について、２回目の質問をさせていただきます。

公共工事の入札予定価格は、どのように数値的根拠を出すのか。仕様書を作成するにも、建築等の大量の物品購入等が予測される大きな事業ほど見積りは困難となり、経費もかかると考えますが、事業の大小にかかわらず、入札予定価格決定までの道筋を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

おはようございます。

ご質問にお答えをいたします。

そちらのほう、必要に応じまして業者のほうから参考見積書を徴すると。それとその後、技師が設計した金額をもって予定価格を設定していくという流れになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

公共の入札には、建築、土木、電気工事、解体、ガス・水道事業など、様々な事業がありますが、発注者、市役所にとって見積りが困難で、落札予定価格の設定が困難な事業は、どんな事業か伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

今ほど議員のほうから少しお話ありました建築であったり、電気等に係る修繕だとか改築等のですね、また、付け加えますと解体工事も含めまして、そういった事業では、見積価格を参考とするところが多いものですから、そういったところでは、ご指摘のとおり高い困難性、困難な事業と言えるのではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

今いただいた答弁なんですけども、やはりこの建築や電気工事になってくると、その金額を、見積りを出すにしても、なかなか算定しにくいという状況が考えられるという、そんな解釈でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

そういった状況もあるということだと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

現在、長期的に応札者が現れない入札不調案件については、年間どの程度件数があり、どの程度の期間、不調であるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

長期的に応札者がいないという入札の不調案件でございますけれども、こちらにつきましては、年１件あるかないかということであります。近いところでは、令和５年度から６年度にかけまして、２件繰越しをして実施したということがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

年間１件、繰越しで５年、６年にまたがって２件ということなんですけども、総務文教常任委員会の審査の中でも、エアコンの設置でしたか、それもちょっと長期にわたって入札が不調になったかと覚えておるんですけども、そういった状況が発生するというのに、どういった背景があるか、分かる範囲で教えていただければと思いますが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

１つには、私どもの工期の設定であったり、業者さんが、そちらの受け手のほうでそういったことに対応できる状況かというところもあると思っていますけども、基本的には、応札者の皆さんと私ども発注者の皆様方の認識の違いもあるのかなというところで、今推測をしているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

なかなか現場の状況、発注者の認識の違いということなんですけども、会社さんの人手が足りな

かったりだとか、なかなか人員が確保できないという、そういった状況も考えられるんですけども、今考えられる原因としては、資材の高騰ですとか、その人員の不足ということが考えられるんですけど、やはりそういった状況は、当てはまりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

議員のほうご指摘のとおり、やはり資材の高騰等による価格の高騰、設計額の高騰というのは、避けては通れないということであります。そちらのほうにつきましては、ちょっと技師のほうとしっかりと見直しをかけながら、設計を行っているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

何度も不調が続き、応札者が現れない案件、年間１件程度ということだったんですけども、そういった案件には厳しい価格設定により収益が上がらないなど、事業されている方にとって、入札予定価格が妥当性に欠け、魅力のない事業とも考えられますが、そちらについては、いかがでしょうか。応札者が現れない、考えられる入札不調の原因をいま一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えします。

先ほども少し回答させていただきましたけれども、やはりそちらのほうにつきましては、応札者と私ども発注者側との認識による違いがどっかにあるのかなというところで、今推測だけしかできませんけども、そのような状況でおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

日頃より提出書類の簡素化や入札参加条件の見直しなど、入札が不調にならないための研究はされていることと思いますが、不調にならないための応札しやすい条件整備を今後ともよろしくお願いしたいと思います。

続きまして、（２）番の入札価格が予定価格を超え、落札者が決まらないときの対応策について、再質問させていただきたいと思います。

落札率が限りなく１００％に近い率で入札予定価格を予測できるようなソフトがあると、以前お聞きしたことがありますが、予定価格を超える応札に関しては、ご商売をされている以上、損をしてはならないという心理と、落札しなければ仕事が取れないというジレンマの中、競争入札をされ

ていることと思います。発注者の予定価格と事業者の応札価格の差異が、大幅に出てしまうときに考えられる原因について、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

やはり議員のご指摘されておりました、損をしたくない、仕事もしたいというところのジレンマもやはりあるものだというふうに考えております。いずれにしましても、各業者でそういったところを踏み込みながら工法、また、工事内容で得意・不得意の分野もあろうかと思いますので、そういったところで価格が反映してくるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

それでは、（３）番の再度公告入札、再度入札の概念について、市長からご答弁いただきましたが、改めて再質問させていただきます。

再度公告入札は、入札の不調や不落に対応するために有効な手段であるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

適正な予定価格というものを設定する上で、落ちなかったということでございます。そういったときには設計内容を見直す作業もしておりますので、そういったところでは、有効な手段であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

過去に再度公告入札の実例はあるか、伺いたいと思います。

仕様書や予定価格の見直しが必要なケースはどのような理由が考えられるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

再度公告につきましては、これはもう例年必ず発生するというようなところで、実例はあるというところでございます。

設計内容につきまして再度検討をし、修正がある場合は再設計をし、再度公告入札を行っているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

今いただいた答弁に関連するんですけども、糸魚川の公共入札において、再度公告入札を行うことによって、入札の不落・不調は解消されたという、今のご答弁で解消されるものと解釈してよろしいか、再度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

最終的には、落札に至っているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

今の答弁を踏まえて、もう一つ再質問させていただきたいと思いますが、今回、不落が続いている東北電力ビル解体事業ですが、再度公告入札で臨まれたのか、再度入札で臨まれたのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

再度公告入札によって実施しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

東北電力ビルの解体事業については、再度公告入札で臨まれたとのことですけども、先ほどの答弁の中に、入札が不落に終わったということで、設計の見直し等を行って、再度入札に臨んだ。そのような解釈で間違いないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えします。

そのような解釈でご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

そのように行って、今まではいろいろな問題、不落の問題についても解消されてきたということは、今後は、この事業に関して解消されるものという考え方でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

これまでの結果としては、解消されてきたということでございます。今ほどの案件につきましては、今現在継続中のところでもございますので、そういったところにつきましては、少し控えさせていただきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

それでは、（４）番の入札不落の場合に例外的に行われる不落随契について、再質問をさせていただきたいと思います。

不落随意契約は、競争性を確保した競争入札の結果として、落札者がいなかったので随意契約するものと考えますが、公共事業の入札で３回程度不落が続いた場合、予定価格に一番近い価格で応札した事業者が不落随契の権利を得られると考えますが、不落随契について、いま一度、担当より詳しい説明と、糸魚川市の入札で、過去に不落随契に及んだ実例があれば、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えします。

当市の場合は、初回の入札で落札者がない場合は、再度入札を行っているということでございます。そこでも落札者がいない場合には、最低の額で応札者と随意契約の協議を行っているということで、こちらのほうは、電子入札制度で行っているということになります。

先ほどの不落随契の案件につきましては、ここ二、三年では、年間４から５件程度、発生をしているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

不落随意契約の交渉としては、入札予定価格以下になるように価格の交渉を行うと考えますが、予定価格に収まらず、交渉がまとまらないケースもあると考えられます。そういった場合には、後に議会に対し補正予算などの検討も考えられるのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

予定価格の中に収まらない場合ということのときには、設計内容や公募条件を見直しをしていって、再度入札の公告を行っているということでございます。その事業内容の精査を行う中で、補正云々等の検討を進めていくということで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

基本、最初に決めた予算額内ということになろうかと思うんですけども、本当に物価の上昇やその人件費の上昇などにより、補正予算は考えられないことでないという、そういう解釈でよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えします。

補正が必要であるというしっかりとした理由があるのであれば、そこは補正というところもしっかりと考えて、お願いをしていかなければいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

入札の途中ということであれば、もちろん業者側と市役所側が対話をすることはできないというふうに思っておりますし、もちろんそうなってくると、補正の検討もできないということになろうかと思いますけども、不落随契になったときに初めて補正に関する検討が、対話することによって補正による検討ができるのかなというふうに思うんですが、そのような解釈でよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えします。

現在の当市の考え方とすれば、技師がしっかりと設計をする。必要に応じては設計委託をしているという状況でございますので、そういった中では不落の条件は、当然、分析、内容の確認をしていくという状況の中で、基本的には応札者の方々と話すことなく、自ら自分たちのほうで、しっかりと設計を、積算し直したり見直したりしていくというような状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

糸魚川市財務規則、別記１、建設工事請負基準、約款第２７条第６項の中で、予期することのできない特別の事情により、工期内に日本国内において急激なインフレーションまたはデフレーションが生じ、請求代金額が著しく不適当となったときは、発注者または受注者は、前各項の規定にかかわらず請負代金額の変更を請求することができると、この約款にございますが、これらは契約が済み、既に工事に取りかかっている状況、状態かと思いますが、仮に同様な想定、インフレなどによって入札の不落が続く場合、状況に応じて競争入札の原理・原則に基づき、応札する事業者と協議できるような仕組みやルールづくりが今後必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えします。

先ほどお答えしましたように、入札の不落が続く場合は、基本的には私ども発注者側のほうで市場価格であったり、参考見積りを徴しているというふうにお答えしておりますが、そういった中で見直しを重ねていくということでございます。その中で、新しい仕組みというルールづくりということでございますが、こちらのほうにつきましては、いずれにしましても透明性や公平性の確保をしっかりと留意をしながら、研究をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

一概には言えませんが、私は、理由さえ分かれば、必ずしも追加の補正予算が悪いとは思っておりません。糸魚川市財務規則にもあるように、急激なインフレやデフレが生じ、請求代金額が著しく不適当になるケースも考えられるわけです。そして、議会は予算の審査はするものの、応札者同様、入札予定価格は知り得ることができません。専門的知識もある方も一部でございます。ゆえに、数回にも及ぶ入札について、市役所が提示する入札予定価格と応札者の入札価格の妥当性についても、もちろん語ることはできないのです。工期の決まっている事業に後れを取らず、入札が不調・不落にならないための最善の方法を導き出していただきたいと思いますが、市長か副市長、お答えいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

非常にこの特殊のような事業については、今、議員ご指摘のようなことが起き得るだろうと思っております。そのようなときには、やはり一定の基準を設けておりますので、我々、内規的に持っておる部分がございます。そういった中での判断になろうかと思うわけでございますが、そういった枠内に入ったときには、発注者と、また応札者で協議をして、どの辺が違ってるのか、どの辺が我々の、発注者の考え方は、意向を聞きながら調整をしてまいりたいと思っておる次第でございますし、また、特殊的な外的な要因というのは、今ご指摘のようにインフレだとかデフレだとかいろいろ起きる中において、急激な価格変動が起きた場合には、それはやはり発注者としても調整をしなくちゃいけないと思っておりますし、また、受注者としてもそれだけの訂正をする権利も、やはり契約の中に位置づけさせていただいてるわけでございまして、そういう中で、なるべく我々の計画どおり進めていきたいと思ってますので、我々としましても、そういったところには努力していきたいと思っております。この我々の１つの決めた事柄におきましても、一定の考え方で行ってるわけでございまして、時代に沿ったものになっていくような形もやはり考えながら、落札率を高めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

よろしくお願いいたします。

それでは、２番目の糸魚川市におけるＵターン施策について、２回目の質問をさせていただきたいと思います。

Ｕターンする理由や動機など、どのような分析をしているかということで再質問させていただきます。

Ｕターンの動機は様々かと思いますが、ふるさと糸魚川にいずれ帰りたいと考えている学生の割合は、どの程度あるとお考えか、伺いたいと思います。過去にそれを知り得るアンケート等の実施した経緯はございますでしょうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

以前、コロナ禍において実施いたしました出身大学生に食料品などを届ける応援事業を行っております。その申込みの際に、将来どこに定住したいかといったことを取ったことがございました。その中で、糸魚川市を含むといった形になりますけれども、令和４年の数字で、おおむね３０％の方が糸魚川市に定住したいといった形でお答えをいただいているといった状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

そういったアンケートを行ったのをちょっと初めて知ったんですけども、令和４年に実施されたそのアンケートの中で、例えば保護者がどんな呼びかけ、Ｕターンに対して呼びかけをしてるかとか、そういった情報って、アンケートの中で取られた経緯はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今ほどのアンケートとはちょっと別で、今年度に入りまして、市内の高校生を持つ親御さん向けにアンケートを取らせていただいたことがございまして、その中で保護者の方々にＵターンしていただきたいかといった形でお気持ちを聞いたといったことがございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

ちなみにお伺いしたいんですけども、そのアンケートについては、親がＵターンして帰って来いよという声をかけたとか、例えば親としても帰ってきてほしいという気持ちがあるのか、どういったアンケート内容だったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

すいません、親御さんのお気持ちを聞くといった形で中学生、高校生の保護者の方にお聞きしたものでございました。Ｕターンして欲しいと思っているかといった設問、それからＵターンして欲しいと思わないといったことの回答を求めたところ、ほぼ同数といった結果が出てございました。

以上です。

○９番（東野恭行君）

何％ぐらい。

○企画定住課長（中村淳一君）

すいません、ちょっと今、具体的な数字まではちょっと今持ち合わせてないんですが、同じ数字、ほぼ同じ数の方々ということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

なぜこういった質問したかというと、やはり帰ってくるにもきっかけっていうのが大事だなというふうに思っておりまして、そのきっかけについて、親御さんがどう関わってるのかなというふうに気になったもので、質問させていただきました。

ふるさと就職資金貸付制度やインターンシップ申請補助金などは、糸魚川にＵターンを決めたことで、初めてそのよい制度に気づいたという方が、ほとんどではないかと思っております。今後は、Ｕターンするきっかけや動機につながる事業展開にも力を入れていただきたいと考えております。１０月、１１月と新潟市と東京で行われたＣｈｉｌｌ　Ｎｉｇｈｔ　Ｍｅｅｔｉｎｇも繰り返し続けていただくことで、必ず何らかのよい成果が生まれると思っております。Ｃｈｉｌｌ　Ｎｉｇｈｔ　Ｍｅｅｔｉｎｇの開催の成果、大きな成果について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

糸魚川市出身の学生や社会人、また、地元企業が緩く交流するイベントでございます、糸魚川Ｃｈｉｌｌ　Ｎｉｇｈｔ　Ｍｅｅｔｉｎｇは、今年度で3回目を迎えております。今年初めて新潟のほうも開催させていただきました。東京会場ですと、学生、企業を合わせまして６７人の方に参加いただいておりますし、今年初めて行いました新潟会場につきましては、３５名の方が参加いただいております。参加者数だけでは、計り知れない地元愛の確認だとか、そういった効果が、やはり出ているのではないかなと考えております。引き続き、今後も続けていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

井川副市長。　〔副市長　井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

おはようございます。

補足して、お答えさせていただきます。

私、今年度、東京と新潟会場、両方出席をさせていただきました。その中で聞いたお話なんですけども、東京会場では、昨年度、Ｃｈｉｌｌ　Ｎｉｇｈｔ　Ｍｅｅｔｉｎｇで出会った方が、結婚されて、来春こちらに帰ってくるというお話もいただいております。また、両会場に共通していたのは、糸魚川の皆さんが、私たちのことをよく考えてくださっていると。そういった中で、糸魚川に帰ってみることも検討してみようかなってお話も、幾つかいただいております。それはまだ実現に至らないのかもしれませんが、大きな、何ていうかな、Ｕターンとかそういうものになかなかつながりにくい部分もあろうかと思いますが、こういった取組を継続することによって、１件でも２件でも実績を上げていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

Ｃｈｉｌｌ　Ｎｉｇｈｔ　Ｍｅｅｔｉｎｇに関しましては、緩くつながるっていう趣旨、すごく分かります。あんまり帰ってきて帰ってきてっていうムードで糸魚川の人が伺うと、あんまりよくないのかなという意味合いも込められてると思います。本当に続けていただくことで、本当にきっかけも多岐にわたって、きっかけも発生すると思いますし、商工会議所と連携をしていただいて、長く続けていただきたいというふうに思っております。よろしくお願いします。

（２）番の高卒で市内に就職し、一人暮らしを検討する学生に対し、家賃補助の検討はありますかということでご質問を差し上げましたが、ありませんというご回答でございました。

本来、地元に残ってくれる学生にもっと優遇措置があってしかるべきと考えております。糸魚川市においては、地元就職おめでとう補助金などがございますが、一見、ＵＩターン者に優遇措置が偏っているようにも思っております。もっと地元に残ると決めてくれた学生さんに優遇措置といいますか、もっと大切にしてあげてほしいなと考えますが、それについて、お考えはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えさせていただきます。

ご指摘のとおり、運転免許取得に対します地元就職おめでとう補助金につきましては、高校を卒業し、すぐに地元に残っていただけることを決めていただいた若者に対して、私らとしての応援でございます。若者は、やはり貴重な財産でございますので、大変ありがたく感じております。引き続きこのような事業を継続してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

私も就職おめでとう補助金について、支援者の方からご相談いただいて、大変喜んでおられたのを目にしておりますが、実際、地元に残っていただいた方、どれぐらい利用があったのかなというのがちょっと気になるので、もし数字的に分かるようでしたら、お答えいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

地元就職お祝い補助金につきましては、一律５万円を補助するものでございます。現在、５３名の方に今、交付のほうを行っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

大変すばらしい制度だと思いますので、継続お願いしたいと思います。

それでは、（３）番の修学資金を貸与する制度、その返還が免除になる制度について、再質問させていただきたいと思います。

全国的にも、医師や看護師については、慢性的な人手不足の状況がございますが、医療の分野によっては、大学卒業後の就職時には、人材が飽和状態になると予測される分野もあります。そして、市内の病院については数年後、地域医療構想の下、診療科目の再編や集約という状況が考えられています。市内で医療機関に就職が決まれば、修学資金貸与の返還が免除になる大変よい制度だなと感じておりますが、同制度を見ますと、職種により市内の求人状況が異なります。卒業後、市内で就職できるかどうかを十分ご確認の上、申請してくださいとありますが、この飽和状態になるであろう医療の分野の修学資金返還免除について、既に実施されている分野は、期限を切るなどして見直しをする必要が、今後考えられると思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

おはようございます。

お答えいたします。

必要に応じてその辺は見直しをしていくことが必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

今年、この返還が免除にされる事業なんですけども、結構な人数ご利用されたということで伺っております。糸魚川市においては、医療や介護分野の業務に従事しようとする学生に対し、今質問しました（３）のような制度がございますが、慢性的に技術者が人手不足である産業の分野に対しても、同様の措置を検討してみてはどうかと考えております。一次産業でも二次産業でも、医療の分野と同様に確保したい人材は必ずあると思っております。地域の企業においても、修学資金の返還の免除について取り組んでいる実例があろうかと思いますので、企業とも情報共有をするなどして、検討してみては、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

全体的な制度をということで、お答えさせていただきたいと思いますが、医療ですとか介護人材、それから保育士等に関しましては、人材確保と併せまして、進学に際して国家資格などが取得でき

るといったところと組み合わせた制度を構築しているものというふうに理解しております。

したがいまして、今ほど議員おっしゃられるような制度としては、まだないんですけれども、例えば資格試験の補助制度もございますので、引き続き事業者の方々と意見交換させていただく中で検討できればというふうには考えております。

また、現在実施しています修学資金の返済支援事業の補助金というのがございますので、こちらのほうは公務員を除いて業種による制限というのは特にございませんので、大学を出て、戻ってこられて、返済に入るといった場合には利用できるといった制度になろうかと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

ぜひ企業とも情報共有などして、また、前向きにご検討いただければというふうに思います。

（４）番のＵＩターン修学資金返済支援事業補助金についての再質問をさせていただきたいと思います。

意外とこの制度について、存在を知らない方が多いと実感しております。ＵＩターンのきっかけや動機になり得る大切な事業であると考えます。大学生のお子さんを持つ保護者にも積極的にこの情報を伝える工夫をお願いしたいと考えておりますが、現在どのような情報を伝える手段として取組をされているか、状況を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

ＵＩターンの修学資金の返済支援事業につきましては、ホームページで公開をさせていただいているほか、毎年、市内３つの高校の保護者会、ＰＴＡ総会などに出向きまして、保護者向けに説明をさせていただいているといった状況でございます。引き続き、そういった場を捉えながら説明をさせていただくとともに、また、Ｃｈｉｌｌ　Ｎｉｇｈｔ　Ｍｅｅｔｉｎｇですとかリバイバル２５といった場もございますので、そういったところでも若者への周知といったところを図っていきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

先ほど最初の市長の答弁で、件数についてもご質問の答弁いただいたんですけども、件数について、改めてまたご回答をお願いしたいのですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

この制度を利用していただいている方につきましては、令和４年度で４０件、令和５年度で３４件、今年度ここまでというところになりますが、２９件といったところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

それだけＵターンの実績があるということで、こちら、いかにこの制度があるかというのを知っていただくかというのは大事なことかと思いますので、取組のほうを強化していただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

続きまして、３番の新成人を祝う会について、再質問させていただきたいと思います。

１１月４日に開催された新成人を祝う会に来賓として参加させていただきましたが、講演についても大変内容もよく、楽しく聞くことができましたし、設営には手作り感もあり、大変心のこもったしつらえであったと感じました。ありがとうございました。

しかしながら、新成人の参加者が、残念ながら少なかったように感じました。１９名ということでございました。本年度から１１月の開催についても熟考されたことと思いますが、お祝いという性質上、強制的に学生に対し動員もかけられないのが実情かと思いますが、多くの新成人にお祝いしたいのが今の心情であると考えています。この１９名という結果を踏まえて、どのような対策を今後考えていくか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

磯貝生涯学習課長。　〔教育委員会生涯学習課長　磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

おはようございます。

お答えします。

よかったという感想をいただきまして、ありがとうございました。参加された方からは、やはりそのような声をいただいておりますけれども、お祝いなので、受ける側に届かないと、やはりなかなか意味がないなと思っております。昨年度と今年度開催してまいりましたけれども、新成人の方を一堂に集めて行うということは、でき得る工夫はしたつもりですけれども、なかなか難しいなと実感しております。今、今後については検討してまいりますが、例えばメッセージを届ける方法はどうかとか、あるいは、はたちの集いにつなげられるような方法ができないか、そのような内容については検討してまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

本当、しつらえについては、すばらしいしつらえだなというふうに感想を持っておりますが、新成人をお祝いしてあげたい気持ちは、担当課のこのしつらえと取組で伝わりましたが、正直もった

いないなと感じたのが感想でございます。個人的には、市内３高校やフリースクール、現在ありますフリースクール等に市長が直接赴き、祝辞を述べて、ささやかな記念品を贈呈するだけでも新成人に十分気持ちが伝わるのではないかというふうに思います。そうすることによって、在校している生徒、少なくとも在校している生徒には、お祝いの気持ちというのが伝わるのかなというふうに思います。

新成人を祝う会は、糸魚川市の子ども一貫教育においても節目となる大事な行事であると捉えておりますので、来年度も開催する予定があるのならば、しっかりと意思をつないでいただきたい、このように思いますが、米田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今ほど課長が答弁されたように、我々といたしましては、やはり新成人を支えていくといいましょうか、お祝いする中においては、やはりどうしても行いたい一つの式典と捉えてるわけでございまして、その新成人という自覚を持っていただくということで自主性を求めたわけでございますが、なかなか我々の意図が伝わってないのが実情でございますので、その辺をどのように伝えればいいのか、強制的にやることは、今言ったような、議員ご指摘のような形ではできるのかもしれません。その辺をマックスと捉えて、自主性をどのように尊重して進めていくかというところを捉えていきたいと思いますので、今の段階でははっきりとは申し上げられませんが、検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

教育長のほうも、お考えがあれば伺いたいと思いますが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

お答えいたします。

今ほど東野議員さんのお話の中にありました、子ども一貫教育の関係から見ても大きな節目だというふうなことの位置づけをお話しされて、私は全く同じ考えであります。ゼロ歳から１８歳まで子供たちが地元で育ち、学び、そして成人というふうな大きな節目を迎える。それをみんなで応援したい。地域ぐるみで応援したいというふうな意味合いのイベントの企画だったんですけれども、あの手この手で、始めて２年たったわけですけれども、なかなか今ほど市長が話しましたように、私どもの思いがなかなか伝わらないという部分の中で、また見直し、改善をしながら、また、私たちの気持ちが少しでも伝わるような、そういったふうな内容に近づけるように、努力しながら、歩

んでいきたいなというふうに思ってます。大事なのは、やっぱりこれからも応援してるよ、糸魚川は、私たちのふるさとというのはこういう地域なんだよというふうなメッセージを、熱いメッセージを、成人を迎えた子供たちに送り届けたいというふうな思いでいっぱいであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。

○９番（東野恭行君）

地方によっては、１８歳の新成人に対するお祝いは、行わないという地方も結構多いのかなというふうに感じております。そういった中で、糸魚川市におきましては、この１８歳の新成人を祝う会を大切な事業だということで位置づけられてることに関しては私も同感しておりますし、継続していただきたい、このように思っております。さらなるいい内容を考えていただいて、新成人にしっかりとお祝いの気持ちを伝えていただきたいですし、新成人の皆さんも喜んでいただけるような、そういった事業を展開していただきたい、このように思います。

以上で、私の一般質問を終了させていただきます。

○議長（保坂　悟君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

関連質問なしと認めます。

１１時１０分まで暫時休憩といたします。

〈午前１１時０１分　休憩〉

〈午前１１時１０分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。　〔１１番　田中立一君登壇〕

○１１番（田中立一君）

市民ネット２１、田中立一です。

発言通告に基づき、一般質問を行います。

１、防災について。

能登半島地震から間もなく１年がたとうとしており、次第に収まりが見えてきたかに思えたが、

先月２６日には震度５弱（糸魚川は震度３）の地震が発生した。

元日の地震では多くの市民が避難し、市内で初めて液状化現象が見られ、擁壁が崩落し、住宅も各地で被害を受けた。

また、下水道管も数か所損傷するなど、生活インフラにも影響があり、最近になって地震が原因と見られる農道の崩落なども発生していることから、能登半島地震の教訓をどのように捉え、検証し、見直しをしているか、以下伺う。

(1) 液状化と擁壁の崩落について。

① 液状化被害を受けた住宅は最終的に何件で、液状化調査は能生・青海でも行われたか。

② 今後、液状化のおそれのある地域への対応はどのように考えているか。

③ 京ケ峰地区の擁壁崩落は「空積み」が原因と聞くが、市内に同様の「空積み」の擁壁についての調査は行われたか。

(2) 避難施設と運営について。

① 施設の収容数を超えた避難者の場合の想定と対応について。

② 私設の自主避難所への支援について。

③ 「避難指示発令」以外に発令等見直しの検討をしていることはあるか。

④ 自宅等避難施設以外の避難者把握に対する考えについて。

⑤ ペット同行避難の庁内関係各課、保健所の連携と避難訓練について。

(3) 耐震シェルター・防災ベッドの普及について。

① 耐震シェルターの申込み状況を伺う。

② 能登半島地震後の耐震診断について、申込み状況を伺う。

(4) 上下水道設備の耐震化について。

能登半島地震では「水」が使えることの重要性・公共性が改めて認識され、教訓にして上下水道の地震対策を強化・加速化するため、国土交通省は９月末、水道事業を担う市町村ごとに「水道カルテ」を作成し、年内をめどに公表すると明らかにした。水道管などの耐震化率や料金水準が簡単に把握できるようにするという。

① 市内の上下水道の耐震化の状況について伺う。

② 災害に強く、持続可能な上下水道システムの構築に向けて「上下水道耐震化計画」の策定取組について伺う。

２、古民家について。

人口が減り、集落に空き家が増え、環境悪化や治安の悪化などで周辺住民にとって大きな課題になっている。

一方で、建築年数が５０年以上、中には１００年以上たっている古民家と言われる建物は、現在では使われない太い柱やはりなどを用い、建材が味わい深い趣を作り出しているところから、店舗等に重宝されている。

市内にこのような古民家がまだ多く存在しており、空き家になっているモノもあるのではないか。

個人の所有物であるが、地域の歴史的、文化的な貴重な資源として保存、利活用する取組について考えを伺う。

３、農業政策について。

(1) 来年度の主食用米の生産量目標と作付面積目標について。

新潟県農業再生協議会は米の品薄を受け、本年産目標を１万６，４００トン上回る５６万２，４００トンにすると公表した。糸魚川市は本年、県内で唯一前年産より目標を下に設定したが、来年度の目標をどう考えるか伺う。

(2) 第６期中山間地域等直接支払制度について。

集落機能を強化し、コミュニティとしての維持を意図して第５期の「集落機能強化加算」が措置されたと言われるが、第６期では見直しされる報道がある。第５期との違いと第６期に対する取組状況を伺う。

以上、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目の１つ目と２つ目につきましては、被害を受けた住宅は６件で、現在、国と連携し、被災した地域を中心に調査を行っております。

今後、被災地域以外の調査について、手法も含め、検討を進めてまいります。

３つ目につきましては、市の管理施設の一部において調査を行っております。

２点目の１つ目につきましては、避難者が収容数を超える見込みとなった段階で、避難所を順次開設する対応を行っております。

２つ目につきましては、自主防災組織補助金などによる支援を行っております。

３つ目につきましては、国の避難情報に関するガイドラインに基づき対応いたしております。

４つ目につきましては、自主防災組織による自治会単位での把握が重要な手段であることから、引き続き、防災訓練での取組を周知してまいります。

５つ目につきましては、通常の避難訓練の中で実施いたしております。

３点目の１つ目につきましては、補助制度への申込みはありません。

２つ目につきましては、１８件の申込みがありました。

４点目の１つ目につきましては、５年度末の上水道基幹管路の耐震化率は３８％、簡易水道は４６％、下水道の重要な幹線は５２％であります。

２つ目につきましては、一体的に耐震化を推進するため、上下水道耐震化計画を策定中であります。

２番目につきましては、古民家は空き家として一定のニーズがあることから、空き家バンクに登録していただくことで、利活用が図られるものと考えております。

３番目の１点目につきましては、県の方針に基づき、生産量を引き上げるよう、関係機関と連携を図り、収量及び品質の確保について、生産者へ周知してまいります。

２点目につきましては、第６期制度では、ネットワーク化とスマート農業の加算措置が創設されると聞いております。

各協定の実情を踏まえ、必要とする加算措置の活用を周知してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

すいません、質問の順序を３番の農業政策からお願いします。

今答弁をいただいて、引き上げるように働きかけをすると。現実的にはどうなのかなという、その感触をまず伺いたいところなんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

実情といたしまして、やはり自然減、いわゆる耕作放棄される水田も多くございますが、現在、飼料用米を作付している田んぼですとか、転作物やっておられる田んぼもございますので、そうしたものを主食用米のお米の生産に回せないかということで、今後、関係機関、また農家の皆さんと相談し、できるだけ県が示す目安に近づけるよう、作付面積の増加に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

１つは生産者の生産意欲、モチベーションが上がるかどうか、そういったところがあるんじゃないかなというところを思うんですけれども、それには今年、仮払金が大幅に増加をしました。この仮払金の増加、これからどうなっていくのかなと思うんですけれども、それに対して、また肥料とか、あるいは資機材が、燃料が非常に上がっておるわけですけれども、このモチベーションを上げていくためには、もうかるという感覚がないとなかなか難しいのかなと思うんですけれども、生産コストというのは、この市内の農家の生産コスト、また、もうかるのかどうか、その辺の今の状況はどのように捉えてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

農林水産省では、毎年、お米の生産コスト、具体な数字を公表しております。令和５年、昨年の生産コストでございますが、６０キロ当たり、１袋当たり１万５，９４８円というふうに公表いた

しております。これはあくまでも個別経営体ということで、個人の農家、いわゆる法人組織等でなくて個人なんですけども、それに対しまして今年度、令和６年度のコシヒカリのＪＡの仮渡金、糸魚川地域では１万９，１００円ということで、単純に数字比較いたしますと収入が支出を上回るような状況になっておりますが、この公表されてる数字につきましては全国平均ということですので、当然、経営体の規模ですとか地形的な条件、いろんな条件が重なってまいりますので、この数字というのは一概に捉えることはできないと思います。私どもも今年の収穫が終わった後、農家の皆さんから、また、関係機関と協議していく中では、なかなかやはり厳しい状況、経営状況が厳しいという声が多いのかなというふうには感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

今、コストを伺いました。また、仮払金の金額も伺いました。計算すると大体３，０００円ぐらい、１俵当たりですね、６０キロ当たり。この辺の耕作条件を考えると、対象が少ない。それから耕作条件があまりよくない。この３，０００円がどれだけ縮まってくるのかと。そういったところを市としても把握する必要があるんじゃないのかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

特にこの近年、生産コストの部分では、やはり資機材の高騰等ございまして、非常に厳しい状況が続いているかなというふうに捉えております。市といたしましても関係機関と協議いたしまして、やはり生産コストの削減という部分で、今、基盤整備ということで圃場整備の推進ですとか、いわゆる農業用施設、用水路、道路等の改築ということで、生産コストを下げるような施策は取っておりますが、今後とも農家の声を聞きながら、どうした施策が農家にとって収入につながるのか、その辺りは、また研究してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

やはり市内のそういった生産者のデータはしっかり取っていただきたいなと私は思うので、要望しておきますが、仮払金、農家の収入が上がることに、私は賛成ですし、これからもなんですけれども、それに伴って、やはり消費者価格、消費者米価、そちらのほうも上がっていくというのが今の政策の現状じゃないかなと。ここはやはり政策の見直しが必要なんじゃないかなと思うわけですけれども、進められております食料安全保障の観点からも、そういった見直しのほう、働きかけを

お願いしたいなと思うんですけれども。やはりこの食料・農業・農村基本法、今これから食料自給率とかいろいろ取り沙汰されているわけですけれども、やはり生産者がもうかって、消費者は毎日食べるお米が買いやすい、そういう制度でないといけないんじゃないかなと思うんですけど、その辺のお考えを、市としての考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

お米に限りませんけども、やはり生産に係るコストが適切に、いわゆる販売価格、価格設定に設定されるということは重要なことだというふうに考えております。

ただ、今言われるように、やはり需要と供給のバランスもございます。今、国のほうでも、やはり消費者離れというのを一番恐れておりまして、そのための米の量というのを、絶えず在庫量を確認しておりますので、市といたしましてもやはり売れるお米作り、いわゆる糸魚川産の場合ですとかなり品質が良いということで、消費者の人気もあるというふうに考えておりますが、今以上の品質向上に向けて、関係機関とも連携してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

米価が高くなって、お米離れが進む。あるいは外国産米に流れる。そういう循環がもし、それがあるとすれば、それは何とかしなければいけないし、米を主としているこの地域においても大きな影響が出るんじゃないかなと。私としては、やはり戸別所得補償方式、あるいはそれに準ずる政策をこれから市としても求めていってもらいたいと思うんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

私どもは、新聞報道でしか分かりませんけど、やはり今、国のほうでは所得補償、また直払いというような形で農家を守ろうという議論もされておるというふうに聞いております。具体なものはまだ出てきておりませんけども、今後の国の動きにつきましては注視してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

ぜひ国のほうへも、あるいは県を通じてでも、生産者を守って、先ほどお話しした生産意欲が高まるような政策のほうを要望していってもらいたいなと思います。

もう一つは、昨年、特にそうだったんですけれども、猛暑に強い米作り、これに対してどういうふうにされてるか。先日も生産者米価の大会があったりもして、そういったこともお話がありましたけれども、ＪＡや農家を対象にして、暑さに強い米作りの研修会が結構あったよというふうに聞いてるんですけども、そういうことへの生産者の研修会等に対する考えというのはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

昨年の高温・渇水の状況を受けまして、今年度から農協のほうでも、農家の皆さんに対しまして、田植の時期ですとか、水管理、かん水の時期等、いろいろとご指導させていただいております。今年の結果というのは、これから農協のほうでも精査すると思いますので、またそうした結果を見てまいりたいと思いますし、県のほうでも、やはり暑さに強い米ということで今、新しい米の開発にも取り組んでいるということでございますので、今後のそうした動きを注視しながら、農家の皆さんに適切な米作りができるよう、また市といたしましても、どういった指導ができるか検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

できればもうちょっと具体的な、こういう取組をぜひ市としては力を入れていきたいなとか何かあれば伺いたかったところです。もしあれば、また次のあれでお願いします。

この（２）のほうとも関係してくるんですけれども、結局、中山間地直払いだとか、ほかの多面的機能とかという、そういったこともあるんだけど、５年ごとの単位になっているわけで、市内の今、もうこれから５年後、さらには１０年後の先の農業というものをどのように捉えているのかなと。市としては、その辺どのように捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

日本型直接支払のほうは、今言われるように５年単位になっております。今、私ども１０年先の農業、どの農地を、誰が、どういった作物を作るかということで、地域計画ということで各地域に

入らせていただきまして、声をお聞かせいただいて、その計画を年明けから取りまとめして、公告する予定になっております。なかなかやはり、担い手、高齢化という部分で厳しい状況が続いております。国のほうでも、今後はやはり個人農家というよりも組織化、やはり集落営農ですとか法人化ということがやはりコストを下げる上でも一番大きなウエートを占めるんじゃないかということを言われておりますので、糸魚川市としても非常に厳しい状態が続いておりますが、やる気のある農家さんもたくさんおられますので、そうした皆さんとお話合いをさせていただきながら、もうかる農業について、今後も農家の皆さんと話し合っていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

先ほどからの話の中であるように、やる気、生産意欲、それがどうかなというふうになってるわけですよね。今かなり大規模化、集積も進んできているわけなんだけれども、今年の特徴としては仮払金が上がったわけだけれども、直接販売している生産者の方は、逆に収入があまり上がらなかったという話も聞くんですけれども、その辺の把握は、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

私ども、なかなかの農協へ出荷されたお米については動向等を把握しておりますが、直接支払いされてる農家ということになりますと、法人・個人も含めて多数おられまして、なかなか具体にそうした声というのは聞いていないというのが実情でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

あらゆるそういったものも、情報は必要なんじゃないかなと思うわけでありますよね。

（２）のほうになっていきますけれども、この第６期のほうにおいては、機能強化、ネットワーク化ですね、ネットワーク化を今度推進するというふうになっているんですけれども。糸魚川において、今の集落協定の中でネットワーク化がなかなかどうなのかなという懸念もあるんですけれども、先ほどの答弁ではネットワーク化を進めていく、あるいは加算措置のほうに期待する話があるんですけれども、ちょっとその辺の考えを具体的にお願いできますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

まだ、この制度につきまして最終的な結論というのが出ていなくて、今、農林水産省のほうでも、今までありました集落機能加算というものの制度をどうするかということをかなり議論されているようです。ネットワーク化というのは、遠くの集落と手を結ぶというのも一つなんですけども、いわゆる１つの集落内で、いわゆる農業をしていない、いわゆる非農業者の皆さんですとか、例えば組織でいいますと青年会や老人クラブ、婦人会というような組織があると思いますけども、そうした皆さんと一緒に集落を守る、農業を守るというようなやり方も一つの加算事業になるのかなというふうなことで今、農林水産省のほうから聞いておりますので、今後の農林水産省の具体的な動きを見ていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

その集落機能強化加算なんですけれども、これに取り組む集落というのは、協定にしているところは、今回見直しになった大きな原因は、やってるところが少ないというふうに言っているわけですよね。数字にしても大体全体の２％とかというふうに、もうネットやなんかを見るとあるんですけれども、糸魚川は、この取組についてはどういうことになってるか分かりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

集落機能加算につきましては、参加協定が少ないということよりも、やはり費用対効果の部分での、いわゆる財務省との関係なのかなというふうに私ども報道を見る限り、考えております。糸魚川市内におきましても、全ての協定入ってるわけではございませんけども、いわゆる地域の花壇作りですとか、地域の、いわゆる集落内の道路の整備ですとか、いわゆる農業施設とは別の部分の活動に利用できますので、そうしたことで加算に加入している協定もございます。そうしたことで集落の維持に努めておるというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

私は、この集落機能強化加算も必要なことじゃないかなとは思っているし、これを当てにしてるといいましょうか、いろいろと取り組んでいる集落もあるわけですよね。もしもこれがなくなったらどうなるのかなということを想定した場合、どのようなことが考えられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

やはり集落を維持するために、集落の景観保全等に努力して、こちらの加算金を利用されている集落も多くございますので、やはりこの制度そのものが廃止ということになりますと、集落の活性化という部分に大きな影響が出るのではないかというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

黙って我々も見守っていいのかなという気もしないでもないんですけどね。もうちょっと声も上げていかなきゃいけないんじゃないかなと思ったりするわけでありますが。

もう一個、今後の農業についてなんですけども、新たな取組の中で、去年あたりから地域おこし協力隊が集落に入ったりということで期待をされているわけなんですけれども、もしもそういった、募集をして集まるものならば、１つ、そのミッションの中に無農薬とか、あるいは減農薬に対する取組の人を募集する。これは、こっちになってくるのかな、ちょっとあれなんですけども、そういう考えというのは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

確かに今回、地域おこし協力隊の方２名、糸魚川で採用しておりますが、そのときに、採用にならなかった方の中で現場を見に来て、いわゆる無農薬農業をやりたいという、非常に積極的にやりたいということを言っておられた方もおられました。

ただ、実際、現場を見にきたときに地形的な条件等で、やはり自分の田んぼで無農薬やっている、虫ですとか病気ですね、入ったとき、隣の田んぼが近いというようなことで、なかなかちょっと厳しいのかなということで諦めたという方もおられます。ですから、糸魚川市といたしまして、そうした農業、多様性のある農業というのは必要だというふうに考えておりますので、そういう条件でおいでになられても、また相談には乗っていきたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

応募する段階において、こういう無農薬、あるいは農薬を減らした農業をミッションとして最初からやっていく。そのための条件もどうやったら整えられるのか、そういうのをもっと積極的といったらいいんでしょうか、見据えた、せっかくやりたいと言ってこられた方が、最終的に選ばなかったというのは、もったいないというか残念だなという、その話も私も聞いたわけなんですけれどもね、これはやはり増やしていかなきゃいけないんじゃないかなと。地域によっては、それを無農薬で作った産物を学校給食に当てると。無農薬のものは、どうしても単価が高くなってくる。生産コストが上がってくるわけだけれども、１つの、農林水産課なら農林水産課だけじゃなくて学校教育のほうの費用といいましょうか予算、その中で連携する中において、食育といいましょうか、含んでいくのにも大きなものがあるんじゃないかなと思うんですけども、考え、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

地域おこし協力隊につきましては、やはり地域からの要望というのが、希望というのが一番大きいと思います。昨日の質問の中でも答えさせていただいてるんですが、やはり地域おこし協力隊ということになりますと、特に農業の場合ですと、営農ですとか日常の生活の指導というのはもちろんなんですが、３年間という期限の後、やはり地域に残っていただきたい。そうすると長期的な目で、長期的な支援施策ですとか永住に関わる支援を地域がどうやっていけるかということが、まず一番大事になってくるかと思います。あと、地域の皆様との思い、いわゆる農業方法につきましても、地域おこし協力隊に募集される方と地域が求める農業が一致しないと、なかなか一緒になってやっていけないのかなというふうなことがございますので、地域おこし協力隊の応募された方の気持ちも大事ですが、やはり地域の方のご希望というのも尊重していきたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

地域おこし協力隊でなくても、その地域、あるいは農業をやっていかれる方の中で、オーガニックについて関心をお持ちの方がやりたいという声を出せるような環境を、またぜひ進めてもらいたいなと。

先月でしたか、上越でもオーガニックフェスタが開かれて、大変なにぎわいをやってましたし、県内各地でやったりして、非常に関心が高い分野じゃないかなと。１つは、やはり農業の生き残りの中の方策として考えてもらいたいと思いますので、ここはよろしくお願いして、次に、１番からお願いをいたします。

液状化でありますけれども、液状化の調査は、能生、青海でも行われたかということに対して、行っているのか、行っていないのかがよくあれなんですけれども、１月４日の報道では、能生、青

海地域などでも調査を進めるというふうな報道がありました。このことについては、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

液状化調査につきましては、現在、駅南・駅北地区をメインに調査のほうを行わせていただいております。１月４日に調査をするというお話だったんですけども、こちらのほうにつきましては、その前日でしたか糸魚川地域で液状化の現象が起きたという事案がありましたので、能生地域、青海地域につきましても、そういった事案があるかというものを調べるということで説明させていただいたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

先ほどの市長答弁では、住宅に関しては６件と。私も住宅と書いてあるから、それなんですけれども、この物件の中には、教育相談センターとか、あるいは住宅以外、例えば車庫とか駐車場とか、そういったものは含まれていないわけですよね。その辺、もし分かっていたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

先ほど市長答弁にありました６件につきましては、主に中央区の住宅の件数になります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

で、液状化のこの調査は、どこで何か所行われたか、もうちょっと詳しくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

液状化の調査につきましては、駅南・駅北地区におきまして、現地調査及び基本の文献調査によりまして、被害の概要、あるいは液状化のエリアの推定ということで、液状化現象の精査のほうを

行いました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

例えばボーリングの調査とかそういうことは、やったわけじゃないんですか、どうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

ボーリング調査のほうにつきましては、春先からの調査の流れで、現在、駅北地区、中央区のほうで２か所、ボーリング調査のほうを実施してるとこでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

駅北地区で２か所というふうに伺ったんですけれども、中央区のほうの住宅が６件、私としては、中央区のほうをしっかり調査をして、何のための調査なのか、その辺をはっきり、目的もお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

先ほど大変失礼いたしました。「駅北地区」ではありません。「駅南地区」の間違いでございましたので、修正のほうをさせていただきます。

ボーリング調査の目的につきましては、今後、例えばどのような支援といいますか、ボーリングのデータに基づきまして、土質の状況とか水位とかを調べまして、今後どのような形で支援のほうをするかを踏まえて、要は今の既存のデータと、今度、今被災直後のデータのほうを見比べまして、支援策をどのようにするかの判定する材料ということで、今ボーリング調査のほうをさせていただいてるとこでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

五十嵐産業部長。　〔産業部長　五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

若干、追加整理させていただきます。

今までやってきて、春先までにやってきた仕事は、地形ですとか既存の文献、あと現地の踏査等で、どっちかというと定性的に液状化の調査をしてまいりました。今現在、市長答弁にもございました、国交省と協力してというのは、少し欠けている部分に、実際にボーリング調査を加えて、液状化に対する危険値、安全値みたいな、そういうやつを前回の調査と併せて今回の液状化の被害の想定、被害エリアを決定したり、あと長﨑課長が申しましたのは、その先で、今度そのエリアで住宅、実際に被害出た方、これから建てられる方へのどういう工法がいいか、それに対して支援はどうあるべきかというところを、この先、今検討しているという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

大分詳しく今、話伺ったんですけれども、今の調査の結果はいつ頃出るのかなという話になってくるわけですよね。危険値、あるいは安全値と今言われました、それは「値」ということですか、それとも土地の「地」なんでしょうかね、ちょっとその辺もはっきり教えていただきたいですし、今後の支援の体制、これによってどのように変わってくるのかなと。その辺の見通しもちょっと、ちょっと幾つか今言いましたけれどもお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

今ほど、駅南のボーリング調査のほうを行っている状況でございます。そのデータを基づきまして、今ほど部長も申しましたとおり、今後の支援策ということで、今、国土交通省さんのほうと協力のほうをさせていただいて、ボーリング調査のほうが分かり次第、できるだけ早く、その辺の方向性を、まず庁内のほうで決めさせていただきまして、それで少しでも早く、地元のほうには説明できる方向で、今作業のほうを進めさせている状況でございます。

○議長（保坂　悟君）

ほかの質問への答弁は、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

今ほどお話ありました安全値（ＦＬ値）になりますかね。

○１１番（田中立一君）

先ほど部長が言われた危険値とかって、その値は、「値」か、それとも土地の「地」なのか、どっちかよく分からないということ。

○議長（保坂　悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前１１時４８分　休憩〉

〈午前１１時４９分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

失礼いたしました。今ほどご説明したとおり、土質試験といいますかボーリング調査を行いまして、危険な値ですね、を調べるということで説明させていただきました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

値ということになると、それを数字で、ここは例えば１０段階に表すのか５段階に表すのか、よく分かりませんけれども、それによってどのようになっていくのかなというところをまず示していただきたいなと。危険の値というと、なんかちょっと怖い感じもするんですけれども、調査をする限りにおいては、その辺を今度、住民の皆様にも説明をしていかなければいけないんじゃないかなと思うわけですし、もう今、既に住民の皆さんは、やはり住んでいかなきゃいけないから修理も始まってんじゃないのかなと思うわけなんですけれども、その辺の説明に対する考えは、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

宅地の液状化被害可能性判定に係る技術指針というものがありまして、そちらのほうでは、液状化に対する安全率、今ほど言われたＦＡ値なんですけども、そちらのほうを基にしまして、算定される液状化の厚みといいますか層と、あと、地表の変位量、そちらのほうを液状化指標値から液状化の被害の可能性を判断することができるというふうにうたってありますので、そちらのほうを精査させていただきまして、今後、作業のほうを進めさせていただく予定でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

その値だとかボーリング調査の結果によって、ここはどういうふうな地盤改良をはじめ、住宅、あるいは土地に対してやっていかなければいけないというふうなものが出てくるんじゃないかなと思うんですけれども、そういったことを示されることによって、国からの支援、そういったものやなんかは、大分出てくるわけでしょうか。期待してよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

今ほどの調査によりまして、支援ということになりますと、今、市と連携しております国土交通省さんのほうと協議させていただきまして、例えば予防保全対策案みたいなものを検討中なんですけども、例えば公共施設と宅地を一体とした面的な整備とか、あと、それに併せまして個別の対策案とか、そのようなものを検討させていただきまして、今後の支援についても検討する必要があるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

国の支援を受けられる内容があるなら、やはり早くやって示していただけたらなと。私の捉え方がちょっと違ってんのかどうかは分からないんですけれども、もう１年たつわけですから、そのようにお願いしたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

いろいろ調査のほうをさせていただいてるんですけども、なかなかちょっと進まない状況もありますし、今後、今言った点を踏まえて、少しでも早く住民の方に説明できるような段取りで進めさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

よろしくお願いしますが、これまでこういう調査をしますよとか、今調査状況がこういうことになってますとか、あるいはもう修理が始まっている家等については、教育相談センターは何とか、今の段階でもなんかそのままのように見えるんですけれども、駐車場、まだべこべこになってます

わね。そういう地域住民に対して、これまでどんな説明だとか、あるいは対応というのをされたのか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

駅南地区の調査に関しましては、その都度というわけじゃないんですけども、地元の役員の皆さんには説明しながら、進めさせていただきました。

なお、今回、土質調査を行うに当たりまして、その詳細につきましては、地区の回覧等で周知をさせていただいたとこでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

ぜひそのように進めてもらいたいですし、もう一個気になるのは、今相談センター、教育相談センターの話をちょっと出しましたけれども、ボーリング調査は、駅南だけのようにしか、さっきの答弁は聞こえたんですけれども、駅北、大町ですか、あそこは寺町ですか、その辺の多くのちょっと範囲を広げると、住民の方も住んでおられますし、工場、会社等もあるわけですけれども、その辺の調査というのは行う予定は、あるいは行ったんでしょうか、あるいは行う予定はあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

今回の地震の被害で、一番目に見えて甚大な被害を受けたのは、やはり駅南地区でございましたので、まず、そちらのほうで詳細の調査ということでボーリング調査のほうをさせていただきまして、また、全体の調査の中でも、当然、今回の地形に似たようなところとかも把握はしておりますので、市長答弁にもありましたとおり、また今後、この先につきましては、再度そういった手法を含めて、調査のほうを検討させていただきたいと思います。

〔「議長、休憩お願いします。」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前１１時５６分　休憩〉

〈午前１１時５６分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

議事の都合で、昼食時限のため休憩といたします。

再開を１時といたします。

〈午前１１時５６分　休憩〉

〈午後１時００分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

午前中は、大変失礼いたしました。

まず、今やってる調査の目的のところから、まず説明のほうをさせていただきます。

当市の方針としましては、まず、実際に被害が生じた方々の、まず不安を取り除くことが最優先でございまして、あと被害の発生といいますか、住宅周辺における、まず液状化の発生エリアを明確にすること、それと一番重要なのは、発生のメカニズムといいますか、原因を特定しまして、今後の地震による再液状化を防止するために必要となる対策等を検討の上、住民に示す、こういった方向で、今調査のほうを進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

今、最終的にかどうかはともかく、調査の目的の話を聞く中で、再発防止の今話があったかと思うんですけれども、これは個人の敷地内、あるいは建物の中においてもということに考えてよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

まだ、具体的なところまでは決めてないんですけども、まずは、今既往のボーリングデータがあるんですけども、そちらのほうを整理させていただきまして、まず、エリア等を決めさせていただきまして、その上で、先ほど私、ボーリングと言ったんですけども、実際、液状化が発生した要因ですか、そちらを確定するということで、今調査のほうさせていただきまして、今後そういった形

で、どのような形で対策を進めればいいかという検討は、これから進めさせていただくというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

要因の確定は、確かに大事だし、だけど、もう発生してから間もなく１年。また余震なのか、あるいは新たな地震なのかが発生している中において、住民の皆さんは不安に思ってるんじゃないかなとは思うんですけれども、その辺の見通しというのは、ある程度立っているものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

今、国のほうと調査のほうを連携しながら進めさせていただきます。既存の地質調査といいますかを基に、今後、解析のほうを進めさせていただきまして、具体的にちょっと、いつかというのはちょっと明確には言えないんですけども、少しでも早く、住民の方にも周知できるような形で説明させていただく予定でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

ちょっとまだ煮え切らないような、でも、もうかなり住んでるところも、あるいはそうでないところも個人のところは対応しているんじゃないかと思うんですけれども、住んでるところなんかは、私も発生当時、見せてもらったりすると家が結構傾いたり、凸凹があったりしていて、ずっとそのまま住んでるわけにもいかないんじゃないかなと思うんですが、新潟やなんかの話、見ていると、健康被害の話もあったりするんですけれども、そういった健康被害等の話というのは、どっか出てきているもんでしょうか。あるいは把握されてるところ、あるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

住宅の被害というのは、お聞きはしてるんですけど、今ほどおっしゃった健康被害というとこまでは承知というか、お聞きしてないところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

本当にね、だからそれでいいなとは思うんですけれども、十分に住民と接しているのかなというのが一つ、先ほどからのやり取りで気になっているところでありますし、今後の調査結果にもよるんですけれども、支援制度も考えていくのかなと。支援制度も早くやって示さないといけないんじゃないかと。例えば新潟市は新潟市で、独自制度として新潟市液状化等被害住宅修繕支援補助金というのを設けてますわね。そういうのをご存じかと思うんですけれども、糸魚川市としても独自制度を、そういうものを設ける予定はありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

新潟市の独自制度というのも、私は新聞報道で承知しております。当市の独自方法といいますか対策につきましても、今後の調査結果を踏まえまして、また、庁内で検討させた上で、対策方法、どれがいいのかということで、進めさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

新制度に前向きに取り組んでいきたいというふうに受け取ってよろしいわけですね。

京ケ峰地区をはじめとした擁壁の空積みについてに入らせていただきます。

ちょっと今まで時間あれだったんですけども、市長の答弁では、管理している施設を今調査していると。これ、具体的にどこということは言えないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

空積みの調査につきましては、まず、京ケ峰の団地の東側、今回の造成ブロックが結構崩壊したとこなんですけども、そこの東側に、当市が管理しております駐車場がありまして、そちらのほうの造成ブロックを調査させていただきました。

あともう一か所は、能生地域の旧能生体育館の市道白山線があるんですけども、ちょうどその東側に道路に並んでいるブロックといいますか、そちらのほうを調査のほう、させていただいてるとこでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

能生地域、もうちょっと、能生体育館のところのブロックということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

言葉足らずで、すいません。旧能生体育館といいますか、能生体育館の向かいのちょっと高台になっているところに駐車場があるかと思うんですけども、そちらのほうの道路の北側というんですか、そちらのほうのブロックになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

私も地震発生時、京ケ峰の被害があって、毎日のようにあそこの前、あそこの前というのは旧体育館のとこを通って、ここは空積みじゃないのかな、あるいは擁壁大丈夫なんかなと思って通っていたところでございます。今、福祉センター、旧ね、の建物もあったりするわけなんだけれども、あそこを見ても、土台から少し傷んでるなということで心配はしているんですけれども、そこも空積みだというふうにも断定していいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

磯貝生涯学習課長。　〔教育委員会生涯学習課長　磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今言った箇所につきましては、コア抜きによる内部調査を行いまして、コンクリートが充塡されている方式だということを確認いたしました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

ということは、それは練り積みという工法だというふうに受け取っていいわけですね、分かりました。ちょっと心配はしてたんですけれども。

京ケ峰のことに関しては、空積みだと。これが被害を大きくしている大きな原因だというふうに受け止めているわけなんですけれども、この工事を発注したのは、どこだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えします。

今ほどの問合せは、京ケ峰の空積みの部分の修繕をしたってとこですか、あちらのほうは、空積みということを確認しましたので、私どものほうでコンクリートといいますか、充塡のほうをさせ

ていただきまして、業者のほうは、後藤組さんに頼んだところでございます。

○議長（保坂　悟君）

課長、もともとその工法をしたところがどこだったかという質問だったんです。

〔「休憩お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

暫時休憩いたします。

〈午後１時０９分　休憩〉

〈午後１時１０分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

大変失礼いたしました。当該地区につきましては、新潟県の住宅供給公社によりまして施工したということになりまして、昭和４０年から４５年にかけて造成したということで記憶しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

私も何だかの報道だったか何かで県の仕事というふうに聞いてはいたんですけれども、現在は、先ほどの体育館のところじゃないけれども、建築基準法ですか、それによって全部空積みというのをしないで、練り積みのほうの工法になっているというふうな話も聞くんですが、違法ではない、違反ではないけれども、この宅地造成したのが空積みだということは、県のほうは、じゃあ知っていたわけですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

五十嵐産業部長。　〔産業部長　五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

当時の基準では、胴込めにコンクリートを使うというブロック積みの基準はないということは承知しておりました。今回の発災を受けるまでに、あそこは空積みのブロックなんだという認識はなかったかと思いますが、こういう事象を受けて、いろいろ法令等を調べて、空積みだということは、県のほうも承知をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

やっぱり違反ではないし、違法ではないし、認識があったかどうかはともかくとして、この発生したのが、でも空積みが大きな原因だと、先ほどからのやり取りの中でそのように受け止めた場合、県のほうから、このことについて何らかの反応といいましょうか、話というのはなかったんでしょうか。あるいは、逆に市のほうから、これを大きな原因だけどもということで詳しい調査、あるいは支援、そういったことの話はなかったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

特に我々のほうからは、県のほうに一応話をしたということはいたしませんでした。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

五十嵐産業部長。　〔産業部長　五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

補足いたします。

県のほうは、当時の基準に当てはめて問題ない構造物であったということと、もう一個は地震だという、そういう認識でした。

ただ、私どもも実際、市民の方と接しておりますので、そこに、まだ家は何ともなくてもブロックが歯抜けをして崩落していると、いつ家が影響出るかということが分からないということで金額的には十分ではなかったかもしれないですけど、被災宅地の復元のほうの支援というのを、我々、京ケ峰等を念頭に置いて、補助制度を市として創設して運営してきて、皆さんからご利用いただいたものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

やはり何回も言うように、違法でも違反でもないし、その当時の基準にはのっとっていたけれども、幾ら地震とは言っても、原因がこうだということになった場合、何らかの、個人的な感覚的なものなんですけれどもね、県のほうも、その辺の考慮といいましょうか、責任の一端は少しは感じているのかなというふうには思って、今伺った次第なんですけれども。どうも今のやり取りだと、その辺のところは感じていないというふうに受け取ってよろしいわけでしょうか。それを酌み取っ

て市のほうでは、住民の方、被害に遭われた方に対して、市のほうではその辺の制度をやっているというふうに受け止めたんですけれども、それでよろしかったでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

五十嵐産業部長。　〔産業部長　五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えをいたします。

県から引き継いだものが空積みであって、それが今回影響を受けたことは、その後引き継いで、建築確認のときでも、その敷地を構うような建築確認行為もあまり出てきてなければ知りようがなかったということでは、責任という意味では、市のほうは知りようがなかったという気持ちはございます。

ただ、何回も繰り返しになりますけど、被災された方が気の毒だという気持ちというのはあるもんですから、ぜひお金があれば引っ越しとかいろいろできるかもしれないですけど、実際には、なかなかできないですよね。ですので、今のところに住み続けていただくために、最初は積み替えですとか事業者のほうと相談して、穴を開けて、コンクリに後から裏に注入して、安心して住み続けていただける環境を市としてつくっていったという状況になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

説明のほうは、大体分かりました。理解はしたつもりです。

ただ、県のほうが何もないのかなって、やっぱり何となくそういうもやもやとした気持ちが残るし、いかがなものかなと思って、何回か聞かせてもらいました。分かりました。

その辺のところであれですけども、今住んでる方の話されましたけども、もしも５０世帯に避難要請されたというふうに、約５０世帯、この中で、ここに住めないで転居されたという方はおられましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

被災直後の調査させていただいてまして、３世帯の方が転居のほうをされたというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

本当にお気の毒だなと思います。分かりました。

ちょっと時間がなくなったので、すいません、（２）のほう、収容者数については前回、ゆとり館のことで話もさせてもらったんですけれども、少し触れたんですけども。例えばゆとり館にしても、災害によっての収容人数の違いというのもあるわけなんで、ゆとり館に限らずだけど、もしそういうのがあれば、それによって収容人数が違うことを今後、示されたほうがいいんじゃないのかなと思うんですけども、その辺の考えは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

収容人数につきましては、地域防災計画に規定されているんですが、その後はコロナ禍で密にならないようにということで、さらに分散といったようなことで、その施設が何人という形は決まっているんですが、周知はしてないと。また、地域防災計画を見ても、マックスでということになっておりますので、周知は必要だと思いますし、また、行政のほうでも実際に把握しておくといったことは大切かと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

お願いします。

やっぱり災害別にも示したほうがいいんじゃないかと思いますし、見直しよろしくお願いします。

何でもう一回、今回聞いたかというと、今度この地震で避難場所へ行ったら、ほかの地区の方でいっぱいで入れなかったという区長さんの意見がありました。それをご承知かと思うんですけれども、そういったことがあってはいけないんじゃないかなという中で調べてみたところ、ＶＡＣＡＮＭａｐｓというものがあるんですけれども、防災ＤＸの一つなんですが、ＶＡＣＡＮ　Ｍａｐｓは、ご存じでしょうか。もう全国で２００以上の自治体が、これを利用されているというんですけれども、ご存じかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

竹田消防長。　〔消防長　竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

今、議員言われたものについてはちょっと把握はしていないんですが、ただ、県のほうで、別のシステムについて今検討しておりまして、令和８年度運用開始を目指して進めているといったような状況です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

これは、ＶＡＣＡＮという会社が持っているアプリ、あるいはソフトと言ったらいいんでしょうか。これによって避難所の状況が全部、行く前にもうスマートフォンなりパソコンで分かる、そういうシステムであります。

今、消防長言われたように、この会社ばっかりじゃないのかもしれませんし、そういうの、やはりあれば、非常に避難においても有意義なんじゃないかなと。県内ではこれを利用しているのは、私が調べた限りでは、長岡と見附だったかな、に、たしかあったかと思います。防災ＤＸを進めていくなら、こういったことも視野に入れてやっていただきたいと思います。

あと、福祉避難所の話、来年からやっていくというふうになっているんですけれども、要配慮支援者に対しての受入れ体制について、これまでも初日の日も一般質問でも話もあったりしたんですけれども、その各避難する施設の中に福祉避難スペース、その受入れについての話が今までなかったなと思うんですけれども、福祉避難スペースに対する考え方、あるいは体制というものは、どうなってますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

福祉避難スペースにつきましては、今までの災害の中におきましても、まず、避難所のほうに一旦収容していただいた中で、個別対応ということで、個室等を準備しておったところです。今後の準備ということで申し上げますと、福祉避難所の施設の設置に併せまして、各避難所の中でも、そのスペースを事前に想定して確保しておくというところも計画をしておりまして、体育館のようなワンフロアのところですと個室というのが難しいので、消防本部のほうともいろいろ知恵をいただきまして、簡単なテント方式のものを使ったりということで計画をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

今までこの福祉避難スペースの話題があんまりなかったなと思って、あえて聞かせてもらったんですけれども、今計画をしていると。早くその計画を実現して、それから、やはり市民が知っていないといけないんじゃないかなと。各施設において、福祉避難スペース、そこではどんなことができるか、また、そのための準備も必要になってくるんじゃないかなと思いますので、その取組をしっかりお願いしたいと思います。

次、上下水道のほうなんですけれども、先ほど耐震化率等を伺ったんですけど、これって全国平

均からすると私の感覚としてはちょっと低いかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山口ガス水道局長。　〔ガス水道局長　山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

お答えいたします。

先ほどの答弁のほうで申し述べたのが、基幹管路、基幹の耐震化率ということでお知らせいたしましたが、それに関していいますと、全国平均が２８％になりますので、それよりは上回っている状況にあります。

ただ、今回の能登半島地震を受けまして、いろんな見方で、いろんな分析が今入っているところで、国のほうでも耐震化率については、いろんな方法で出す調査が入っております。それの調査の内容によっては、全国平均に満たないものもございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

それにのっとって、耐震化計画というものができていくかと思うんですけれども、今答弁等は策定中ということなんですけども、見通しとしては、いつ頃までに策定される予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山口ガス水道局長。　〔ガス水道局長　山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

お答えいたします。

今回、やはりこの能登半島地震を受けまして、国のほうは、上下一体の耐震計画ということで、早急につくるようにということで、国からは依頼指示が来ております。今の状態ですと、１月末ぐらいまでには国のほうで報告が必要でありまして、国もそれを受けての公表を考えているということで、指示がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

それともう一つは、能登半島地震の教訓から、断水が長期化したということで、小規模分散の今考えていると、小規模分散も考えていくという話で、まず、能登半島のほうで、それを小規模分散化していくという話があるんですけれども、地形やなんか見ると、この地域もそういった地理的要件は同じのように思うわけですけれども、小規模の分散化、何か以前の合併前の状況に戻るような感じが、感覚的にはするんですけれども、リスクとしては少なくなるのかなと思うんですけども、

もしもこれが進めていった場合の考えというのは、何かあるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山口ガス水道局長。　〔ガス水道局長　山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

地形的な問題があるかと思います。今まで国のほうでは、やはり経営状況を勘案いたしまして、広域化とかそういった形のものを進めてきた経過がございます。

ただ、今回の能登半島地震におきまして、小規模といいますか、分散型も考えなければいけないんじゃないかというお話かと思うんですが、今現状でいいますと、糸魚川市の場合、簡易水道、こちらのほうは各谷谷で幾つかの水源を確保しておりますし、上水道につきましても水源については、何か所か確保した状況で運営している関係上、ある程度のカバーはできると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

これから耐震化計画、これをまた実際にやっていこうとなると、かなりの予算が必要になってくるのかなと思うわけですけれども、その辺の見込み、これからどうなっていくのかと思うんですが、その耐震化をやっていくに当たっての予算化というものは、今どのように考えてますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山口ガス水道局長。　〔ガス水道局長　山口和美君登壇〕

○ガス水道局長（山口和美君）

お答えいたします。

今回、計画の策定を指示されてます内容につきましては、令和７年度から５か年程度ということで指示があります。また、それ毎年フォローアップをする中で、国のほうでは把握するということで、Ｑ＆Ａには回答がございます。国のほうもこれを受けまして、それなりの補助事業のメニューを考えていらっしゃるようなんですが、今のところ、まだちょっと詳細のほうは分かりかねるんですが、今までも耐震については、やってきてないわけではございませんので、しばらくは、そのスキームにのっとった形で対応してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。

○１１番（田中立一君）

水のことについて、本当に今回の地震を受けて、大変だなと、大事なインフラだなと思っているわけでありますし、しっかり耐震化計画の中で、できれば市民の負担が少ないほうがいいわけですけれども、そのような形で進めていくことをお願いして、私の一般質問を終わります。

○議長（保坂　悟君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

１時３５分まで休憩といたします。

〈午後１時２９分　休憩〉

〈午後１時３５分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、近藤新二議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。　〔１５番　近藤新二君登壇〕

○１５番（近藤新二君）

創生クラブの近藤新二です。

通告書に基づき、１回目の質問をさせていただきます。

１、糸魚川市が管理する遊具の管理状況について。

１１月７日、久留米市の小学校で、児童が運動場に設置された「ろくぼく」と呼ばれる金属製のはしご状の遊具で遊んでいたところ、およそ１メートル６０センチの高さに固定されているはずの鉄棒が回転し、手を滑らせて地面に落下し、腰の骨を折るけがをしたとニュースで報じられました。

市教育委員会は、鉄棒が回転したのは柱との接合部分がさびで劣化したことが原因だとしています。この遊具は去年１２月に定期点検を行い、その際には異常は確認されなかったということですが、市教育委員会は、「管理に不備があった」と公表されています。事故後、市立小学校の全ての遊具を点検したところ、ほかの２校の遊具でも劣化が見つかり使用を中止しました。市教育委員会は、けがをした児童とご家族に陳謝し、今後、点検を徹底し、遊具の安全、維持管理に努めると報じられていました。しかし久留米市では、今年の８月と１０月にも市が管理する公園の遊具で子供がけがをする事故が起きています。事前に発生した事故の教訓と再発防止対策がされておらず問題視されています。

全国的に公園や施設の遊具には、安全基準を満たしていない遊具が存在すると言われています。また、遊具は経年や雨風により劣化し、けがや事故につながる危険も高まっていきます。そのような遊具を早期に発見し、重大な事故につながる危険を取り除くために、的確な点検が必要とされています。

糸魚川市が管理する「公園」「保育園、幼稚園」「小学校」等の遊具について、どのように維持管理をしているか伺います。

２、糸魚川市役所における喫煙所の適正な位置について。

平成３０年７月に「健康増進法の一部を改正する法律」が成立し、令和元年７月１日から第一種施設として区分される学校や病院などの、子供や患者などが主として利用する施設や、行政機関の庁舎などにおいては、敷地内禁煙が義務づけられ、令和２年４月１日に法律が全面施行されました。この法律は望まない受動喫煙の防止を目的としており、多数の者が利用する施設などの区分に応じ、

当該施設などの一定の場所を除き喫煙を禁止するとともに、当該施設等の管理について権原を有する者が講ずべき措置等について定めるとされており、公共の場における禁煙の規制を強化する内容となっております。

公共の施設における禁煙の制限では、特に子供や患者などの配慮が必要とされ「学校、児童福祉施設」「病院、診療所」「行政機関の庁舎」等の第一種施設では、多くの人が利用する施設において、原則として喫煙を禁止することが定められています。健康増進法の一部を改正する以前は、糸魚川市役所庁内にも喫煙所が設置されていましたが、令和元年７月１日の施行から市役所及び市民会館等の敷地内において、原則禁煙の措置が取られてきました。

また、この法律は、屋外で受動喫煙を防止するために必要な措置が取られた場所に喫煙場所を設置することができるとなっています。現在の糸魚川市役所において喫煙できる場所は、ありません。市役所職員はもとより来庁者、市民会館利用者などの現状を鑑みれば、喫煙できる場所の設置が必要と感じられます。市の方針や条例に基づき適切な場所に設けられ、周囲への配慮が求められる現状をどのように捉えているか、糸魚川市のお考えを伺います。

以上で１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

近藤議員のご質問にお答えいたします。

１番目につきましては、都市公園や市民公園の遊具は、有資格者により、年に１回、定期点検を実施するとともに、計画的に修繕・更新しております。

また、人が多く訪れるゴールデンウイーク前などには、職員が直接公園を見回り、安全点検を実施いたしております。

幼稚園・保育園と小学校では、定期的に目視等で遊具点検を行っており、使用に危険があると判断される場合は、修繕等を行うなど、安全管理に努めております。

２番目につきましては、望まない受動喫煙の防止を図るため、令和元年７月から駐車場も含め、市役所本庁舎等の敷地内を全面禁煙といたしたところであり、来庁者、利用者の皆様からご理解をいただいていると認識いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

ニュース報道などで遊具による事故が各地で発生していることから、糸魚川市の取組を伺いたく、今回、一般質問をさせていただきます。

事前に請求した資料にご丁寧に対応していただき、御礼申し上げます。

これより、２回目の質問をさせていただきます。

糸魚川市が管理する公園、保育園、幼稚園、小学校の遊具での事故は、直近どのような事故が発生したのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

定期点検を行っております市が管理する公園につきましては、直近１０年ぐらいなんですけども、これまでのところ、市民の皆様に大きなけがを伴う事故の報告はございません。

今後も、市民の皆様が安全に公園を利用できるよう、遊具の定期的な点検や整備を徹底していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

幼稚園、保育園と小学校の部分について、お答えいたします。

近年、小学校のほうでも事故が発生したという報告は受けておりません。

ただ、園のほうでは、ブランコから落下して、たんこぶを作ったですとか、築山で転倒して、顔を打ちつけたといったような事故報告は受けておりますけれども、基本的には、遊具自体に不備があっての事故といったものの報告は、受けていないというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

ありがとうございます。事故が発生した場合、ニュース報道などで各自治体や学校では、遊具の安全点検や利用ルールの周知を強化する動きがあると思います。糸魚川市の遊具の点検について、適切な点検が行うことで、遊具の劣化や事故につながる危険を早期に発見でき、常に子供たちに安全で自由な遊び場を維持管理できるようになります。市が管理する公園、保育園、幼稚園、小学校の遊具の点検の方法と、その点検サイクルを具体的に教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えします。

市が管理する公園では、人が多く訪れるゴールデンウイーク前に、主に目視や触診などによりまして、施設の変形とか異常の有無を調べる日常点検のほうを実施しております。

また、年に一度、一般社団法人の日本公園施設業協会の遊具の安全に関する基準に基づきまして、

その協会の認定資格を有する方から、構造部材、あるいは消耗部材などにつきまして、詳細な定期点検のほうを実施しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

幼稚園、保育園と小学校におきましては、学校保健安全法施行規則によりまして、安全点検を最低、毎学期１回以上行うといったところが定められております。これを踏まえまして、小学校では月に一度の頻度、また、園のほうでは毎週といった形で週に１回という形で職員等が目視等で点検を行っているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

ありがとうございます。私の資料、頂いたものの中には、私が卒園した中央保育園と糸魚川小学校の資料があるんですが、これには、今答弁されたようなことが記載されています。市が管理する公園や保育園、幼稚園などの遊具の点検においては、適切に点検がされているということで、ここにも点検記録もしっかり残されています。ほかの保育園、小学校でもこういったものがしっかり点検記録として残っているのか、再度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

市が管理する公園の遊具の点検者につきましては、日常の点検は、職員が直接現場のほうを回りまして、確認のほうを行っているところでございます。

定期点検につきましては、一般社団法人日本公園施設業協会の遊具の安全に関する基準に基づきまして、同じ協会から認定資格を有する方から点検のほうを行っております。

点検記録につきましては、施設の点検表を作成して保管しておる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員のほうに資料としてお示しをいたしました中央保育園と糸魚川小学校以外の園、学校でも、同様な形で点検をさせていただいておりまして、そちらの点検表のような形、全く同じ様式ではございませんけれども、それぞれチェックを入れるような形で職員が確認をいたしておるといった状

況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

しっかりとした点検を行っているんだなというふうに感じました。この点検で不具合が生じた、直ちにこの遊具の使用を禁止するなど、そういった事例は今まであったのか、なかったのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

直近の事例として、主なものを説明させていただきます。

まず、今年の１０月なんですけども、遊具の定期点検時に、業者のほうから西浜公園のブランコのチェーン摩耗進行によりまして、６０％以下の残量となったため、使用を禁止したという事例があります。こちらのほうにつきましては、市のほうで台座とかチェーンのほうを交換といいますか、修繕したところでございます。

また、平成４年の４月のゴールデンウイーク前の直営点検で、西海の羽生団地の緑地のシーソーの支軸部が破損したということがありまして、当面、使用禁止のほうの措置をさせていただいたんですけども、９月にシーソー板の交換を修繕で実施したという事例がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

すいません、訂正させていただきます。

今私、「平成」と申しましたけど「令和」に訂正させていただきます。失礼しました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

園や学校の関係でも、例えば金属部分の取付け部分のさび等が生じたりとか、支柱にちょっと穴、金属の腐食ですね、そういったところがあるといったところを確認した中で、使用中止にしたり撤去したりといった事例がございます。

直近でいいますと、今年度、田沢小学校で大型の木造のジャングルジムがあったんですけれども、こちらにつきましては、ネットのロープが切れかかっていたりとか、木材が腐食したりといったと

ころがございまして、撤去させていただいたという事例はございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

市が管理する公園の遊具点検では、資料によると、糸魚川地区と能生地区は職員がやられてるということですが、青海地区は職員以外の、これは二幸産業株式会社が行っているというんですが、これはなぜなのか。

また、点検者の判定基準について、職員が判定したものと、今さっきおっしゃった公園施設安全管理士の方が判定したものと、同じ場所によるんですが、市の職員は４月下旬、管理士のほうが７月下旬で３か月しか変わってないんですが、かなり評価基準が違うと思うんですが、これについていかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

まず、青海事務所が管理する公園につきましては、各公園の管理委託契約の仕様の中に遊具の日常の点検が含まれていることから、公園管理委託を事業者にお願いしているものでございます。

また、糸魚川地域と能生地域の公園につきましては、管理委託契約の仕様の中に含まれていないので、職員が、直営で点検のほうを行っているところでございます。

今ほどお話ありました判断基準のほうにつきましては、都市公園における遊具の安全確保に関する指針に基づきまして、統一した基準で行ってるとこでございます。主に、目視、触診、あと聴診ですか、などによりまして、施設の変形や異常の有無を点検しまして、ランクとしましてはＡからＤまでの危険度で判定のほうを行っておるとこでございます。

また、今ほどお話ありました４月ということになりますと、ちょうどゴールデンウイーク前ということで、その時期にやらせていただきますけども、現在はそういう状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

これを見ると、市職員の場合の、これは一つの例なんですが、Ａ判定、健全であり修繕の必要がない、使用可能とされているものが、この管理士によるとＣ判定となっていることがありまして、重要な箇所に部分的な異常があり、部分修理が必要、使用禁止ということもこの中にあるんですよ。やっぱり市の職員と、そういった管理士の方々と一緒に目を合わせる。こういうとこが、こういうふうに見えるんだよということが大事だと思いますので、ぜひともこういう進め方をしてほしいなと思います。

また、通常ですと市の職員、また、管理士の方々に点検を、４月と７月にやっていただいてるということなんですが、私の地域、横町では、３月に五、六人で区の役員が、地区の遊具と市の遊具、併せてみんな点検するんですよね。それで、その後、草刈りだとかそういったときに、また再度、遊具の点検をします。その際に出た不具合は、市のほうとか、区の遊具については区で直したりしてるんですが、地域の方々の目も、これは必要だと思うんですよね。ぜひとも市職員、また、その管理士以外でも、一緒になって地域の人と一緒に管理するべきだと思いますが、その辺についてお考え、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

今ほど議員のほうからお話ありましたとおり、地域と一緒にというお話なんですけども、我々も日常点検ということで、都市公園における遊具の管理指針に基づきまして点検のほうを行ってるんですけども、また、その辺り、点検する時期とか、今言われた分も参考にしまして、ちょっと見直す必要があるのかを踏まえまして、ちょっと今後の対応を検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

保育園と小学校について、また１つお聞きしたいんですが、この管理士による点検を年一度行ってない理由を教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

園や小学校におきましては、先ほどの学校保健安全法施行規則によりまして、のっとって点検をさせていただいております。その中では、職員による目視での点検が困難な場合には、そういった専門の方による点検を行うことというふうになっておりまして、そうでない場合、じゃあ職員によって安全が確保されているというふうに判断されている場合については、その点検で済ませていると。もし職員の判断ではちょっと怪しいといいますか判断ができないといった場合に、そういった専門の方の点検をお願いしているというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

遊具の安全基準を保ちながら子供の安全を守るために必要な遊具の点検には、日常点検、定期点検、精密点検などが必要とされています。基本的な点検の視点では、安全性の確保、性能の保持、美観に配慮した形成の維持とされ、適切な点検を行うことで遊具の劣化、事故につながる危険を早期に発見できるとされてます。

遊具は、過去の事故を教訓に、安全基準がかなり厳しくなっております。従来、遊んでいた遊具にも安全基準に満たないものは撤去や補修がされておりますが、全国的に遊具の老朽化が問題視されている今の中、糸魚川市の現状はどうなのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

当市には、設置から長い年月が経過した遊具もございます。

そこで、老朽化した遊具の安全性を確保するために、公園の長寿命化計画を令和５年３月に策定させていただきました。定期点検及び日常点検で、不具合があったものはもちろん、使用年数が長い遊具を長寿命化計画からリストアップさせていただきまして、国の交付金等を活用しながら、計画的に優先順位をつけて、更新を進めております。

また、導入の際、最新の安全基準に基づいた遊具を導入しまして、事故リスクを軽減するなどの取組を行っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

園などでは、やはりあの遊具自体の安全性の確認というところももちろんでありますけれども、やはりその遊具と子供たちが関わっていく中での安全性の確保といったところも大事になってまいりますので、全国的に、例えば事故が起きたりしますと、そういった形での通知が国のほうからも送られてまいります。そういったところも踏まえながら、子供たちの安全管理といったところで努めているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

ここで、事故報道の１つの例なんですが、埼玉県の保育園で事故が発生したときの報道です。

２０２３年５月２日午前１０時半頃、久喜市の社会福祉法人が運営する私立なずなの森保育園から、園児の首に遊具のロープが巻きついて意識がないと１１９番がありました。園庭で遊んでいた男児３歳が緊急搬送され、呼吸と脈は確認されたが、意識不明とのことです。

遊具は、園庭の築山、高さ数メートルあり、山上部の柵からロープをつないで斜面に垂らす構造で、園庭には３４人の園児と６人の保育士がおり、男児は、園庭にある土で盛られた築山で複数人で遊んでいたと見られており、近くで遊んでいた別の園児が、ロープに首が絡まった男児を発見、保育士は、いずれも事故を目撃してなかったとされています。

報告書によると、事故の一、二年前、職員会議で築山でのロープ遊びは危険なためにやめさせる話が出たと、複数の職員が証言しています。園の議事録には載っておらず、事故当日、現場にいた保育士２人は知らなかったようです。

また、事故直前、保育士の１人が築山の下で園児たちが引っ張り合う姿を見て、ロープを取り上げましたが、撤去せずに柵につながれていたそうです。別の保育士も含めて適宜、現場を離れ、その後、約１６分間にわたり現場は園児だけとなり、事故が発生しました。ロープが築山に持ち込まれた経緯も分からなかったってことで報じられてます。

この事故を教訓に、絡まれるおそれのあるものの点検は、糸魚川市はどのように行ったか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

この事故を受けてからの点検というものは実施しておりませんけども、日常点検とか定期点検において、危険と判断した遊具につきましては、使用禁止などの措置を講じまして、事故を未然に防止するような形で努めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

保育園では、遊具が、設置されている遊具のほかに木製のケーブル巻き芯の芯、でっかい木製のものと、また車のタイヤなどが使われてると思います。そのような遊具は、どのように点検されているのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

園のほうでは、今、議員おっしゃるような形で、本当に市販のといいますか、作られた遊具ばかりではなくて、子供たち、何でも遊び道具になりますので、タイヤとか、そういった木製のケーブルの芯みたいなものも置いている幼稚園、保育園もございます。そういったものにつきましても、先ほどの安全点検と同じような形で保育士のほうが一つ一つ点検をさせていただいているといったところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

この事故で報じられたときに、現役の保育士から、これ１つ意見が出されたんですが、１つの遊具に保育士は必ず１人はつくのは基本中の基本だと言われてます。それができていない保育園があることに驚きを隠せないと話されています。

この、１つの遊具に保育士が必ず１人がつくという基本は、糸魚川市でしっかり守られているのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

１つの遊具に必ず１つということではございませんけれども、やはり全ての園児にしっかりと目が行き届いているといったところが大事だというふうに思っておりまして、現場のほうでは、そのような形で子供一人一人見逃すことがないような形で対応をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

もう一つの岡山県の保育園で発生した事故なんですが、これは２０２１年１０月、岡山市の認可保育園第二さくら保育園で、２歳の男児が園庭の遊具に首が挟まった状態で見つかったと、１１９番通報がされました。

男児は病院に運ばれたが、意識不明の重体。岡山西署や園の説明によると、男児を含む２歳児クラスの１７人が、午前９時５０分頃から園庭で遊んでいたが、その後、滑り台やうんていが一体となった複合型の遊具に男児が入ったまま出てこないことに保育士が気づき、探したところ、遊具の柵と高床の隙間に首を挟まれた状態の男児を発見したとされています。

柵は、２００８年の開園後、園児らが通り抜ける際に頭部をぶつけることがあったため、園側が独自に設置。男児が挟まれた幅２０センチ前後の隙間は、その際にできたということです。園長は、取材に対して、園児と家族には大変申し訳ないと。柵をつけた際、隙間を作らず、全面を塞いでしまえばよかったと話したそうです。園児の首が、複合遊具の隙間に挟まり、その後、死亡した事故となりました。有識者による検証会議の最終報告の一部には、子供は、想定外のことや予期しない行動をすることがあるなど、子供の視点での安全点検が必要だと指摘されています。

これらのことから、子供の視点での安全点検や安全教育が必要と考えますが、市は、保育園、小学校など、どのように教育しているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

先ほど私、答弁させていただいた中にも触れましたけれども、やはり遊具だけではなくて、遊具と子供の関わり、子供視点での遊具の安全管理の視点というのが必要だというふうに思っております。

文部科学省のほうでも、学校における安全点検要領についてというのを令和６年の３月に新たに作成するなどして、子供目線での危険箇所のチェック、そういったところも周知をしておりますので、そういったことに基づきながら、また、園、学校で安全管理を行っていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

保育園、幼稚園で起きる子供の事故の報告件数は、年々増えていると言われてます。これ内閣府によると２０２０年に全国の教育、保育園施設で起きた事故は過去最多で２，０１５件、意識不明となったケースは１４件あり、これとは別に５人が死亡されたということが書かれていました。事故の起きた場所は、園庭も含む室外が多く、施設別では、認可保育園での発生が多いと、ここでは書かれています。

消費者庁による、これは２００９年の９月から２０１５年の１０月に報告のあった、遊具で起きた１２歳以下の子供の事故は１，５１８件、親が目を離した隙に滑り台から落下、滑り台の手すり部に服が引っかかって首が締めつけられた。滑り台の柵を乗り越えて遊んでいて落下したなど、遊具の種類が特定できた中では、滑り台での事故が４４０件で最も多かったとされています。同庁は、遊具の対象年齢を守ることや、保護者など大人が付き添うことで、ひもやフードのついた服は、遊具に引っかかる危険性があるため、服装や持ち物に注意することなどを呼びかけているとされています。

糸魚川市でも、このような周知はされていると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

一般社団法人の日本公園施設業協会から毎年送られてくる「仲良く遊ぼう安全に」といいまして、公園や遊具とかで、事故防止を目的としたパンフレットがありまして、そちらのほうを、保育園、幼稚園にお配りして、周知のほうを努めたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

今ほど長﨑課長のほうでもお答えしたとおりでありますけれども、当市においても幸いなことに、そういった園児の重大事故というのは発生しておりません。

国からいろいろ通達等も参りますし、ヒヤリハットの事案みたいなものも示されてきております。こういったものを園のほうにも配付しながら、引き続き定期点検等も含めて、一層の安全確保に努めていきたいというふうに思っております。あわせて、保護者の皆様にも、園ではそのような対応をしていますというようなことは呼びかけていきたいなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

私の横町の地区でも、公園にはかなり多くの小学生、園児が遊びにきて、必ずといっていいほど、誰か親がついてます。ましてや、おじいちゃん、おばあちゃんと来ている方も多いと思うんですが、親世代はこういうことはよくご存じなようなんですが、やっぱりおじいちゃん、おばあちゃんたちは、情報があんまり乏しいということが聞かれます。やっぱりおじいちゃん、おばあちゃんにも、こういうことが分かるように市の広報などで１回流してほしいなというふうに思います。

また、遊具の事故を防止するために、遊具の定期的な点検やメンテナンス、利用者の安全教育が重要とされてます。また、保護者や地域の人々が、子供たちの遊びを見守ることも大切です。事故の報道が続く中、より安全な遊び環境を整えるための取組を、市がしっかり行うよう要望します。

続いて、２番目の質問、喫煙所の適正な配置について伺います。

受動喫煙防止の条例がある自治体と、規程同様に文書化している自治体があるようです。第一種施設における受動喫煙防止対策などとしっかり対策文書化をしている自治体や、隣の上越市のように、市の所管する施設における受動喫煙対策とホームページに記載しているところもあります。また、塩尻市は、受動喫煙防止対策ガイドラインを作成されています。

糸魚川市健康増進計画の第３次健康いといがわ２１（案）には、受動喫煙防止対策に一切触れていません。糸魚川市は、受動喫煙防止の取組について、ホームページでは検索できませんでした。糸魚川市は、受動喫煙防止をどのように対応されているか、また、文書化されているものは存在しているのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

健康増進の中で、第３次健康いといがわ２１につきましては、市民の皆さんに呼びかける部分は

ございますが、施設における受動喫煙防止対策について、文書化したものはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

市が所管する施設というのが多岐にわたると思うんですが、吸えるところといったら地区公民館の玄関先は吸えると思うんですけど、そういったところが明記されてませんよね。やっぱり市の施設で、こういうところの、この場所が吸えるよ、吸えないよというのは、やっぱり記載して、皆さんに分かるようにするのが正確なのかなと思いますけど、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

嶋田総務課長。　〔総務課長　嶋田　猛君登壇〕

○総務課長（嶋田　猛君）

お答えいたします。

市の庁舎等での全面敷地内禁煙につきましては、実はホームページのほうでも、こういった施設は全面禁煙でたばこを吸うことができませんということを、施設がうたっているホームページがあります。

しかしながら、こちらのほうにつきましては、少し古い情報がありまして、既に休止等している施設もありますので、そういったものにつきましては適切なものに対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

私たち議員が行政調査ということで、いろんな市へ調査に伺うと、喫煙所がある市役所があることは多々見受けられます。富山県の富山市の市役所では、議会玄関から約２０歩ほどで喫煙所が設けられていました。そこにはきちんと喫煙所が表示され、受動喫煙防止対策がしっかりとなされ、煙の排煙ですね、そういうものがしっかりされてました。職員はもちろん、来庁者も喫煙できるようになっております。

糸魚川市では、職員や来庁者、市民会館や体育館の利用者から、喫煙所の設置を望む声があるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

嶋田総務課長。　〔総務課長　嶋田　猛君登壇〕

○総務課長（嶋田　猛君）

お答えいたします。

これまでも議会におきましても、設置の議論が交わされたりしております。また、それぞれの施設の利用者には、潜在的な気持ちはあろうかと思いますが、直接、利用者から設置の要望を受けた

ということはございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

改正健康増進法では、第一種施設、学校、病院、官公庁などは敷地内禁煙が原則です。つまり屋内・屋外を問わず、敷地内にいる限り喫煙できないことになります。

ただし、ここでは一定の条件を満たす屋外の場所に必要な措置を取った場合、例外として、その場所にだけ屋外、これは特定屋外喫煙場所を設置することが可能とされています。これは法律の中での解釈で可能だということで、改正健康増進法における屋外とは、外気の流入が妨げられる場所として、屋根があり、側壁が、おおむね半分以上覆われたものの内部に当てはまらない場合とされています。この屋外に該当する場所があって、かつ施設の利用者が通常立ち入らない場所であるなどの要件を満たしていれば、基本的には、特定屋外喫煙場所の設置ができるとされています。また、場所の形状については、制限は特にありません。市は、過去にこの喫煙所などの設置について検討したことはあるか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

嶋田総務課長。　〔総務課長　嶋田　猛君登壇〕

○総務課長（嶋田　猛君）

お答えいたします。

令和元年の法律の改正前には、確かに市役所の南口付近の敷地内に屋外の喫煙所を設置しておりましたが、令和元年の法改正に伴い、撤去しております。その後、撤去後は、禁煙を勧めている施設でもありますことから、法に定めます敷地内禁煙の原則によりまして、特定の屋外喫煙場所の設置を進める検討はしておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

喫煙所がない場合、喫煙者によっては、ほかの喫煙場所を探すこと、また、それを面倒に思って、路上や喫煙禁止場所などで、たばこを吸うケースがあると言われてます。

その結果、受動喫煙や火災のリスクも高まってしまうと。実際に、市民会館の入り口付近に吸い殻が落ちていることがあります。またそれを、職員が拾ってる姿を見たこともあります。私も実際、拾ったこともあります。

喫煙者の健康リスクを考えると、禁煙を推奨する市の考えも理解できますが、喫煙者の嗜好品であるたばこも人格の格差が生じないよう考える必要があると思いますが、再度、市の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

医学的見地、最大、すいません、三大成人病を予防するというような観点で、禁煙を呼びかけさせていただいております。

ですが、世界には、たばこを吸われる方、吸われない方という共存されているわけですので、喫煙マナー、受動喫煙をしない、させないということを啓発してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

やっぱり市の考えは理解してます。

でも、喫煙者のために、これ提案なんですけど、場所を設置するとしたらどこにするのかという議論は、やっぱりしてほしいんですよね。これは作る、作らないに関係なく、作るとしたらの検討、それで、もし喫煙者の方々が手を挙げて、喫煙所を作ってくださいと言った場合にはどうするのか、こういったことを市民にアンケートを取る際に、こういう項目も少し載っけてみては、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

嶋田総務課長。　〔総務課長　嶋田　猛君登壇〕

○総務課長（嶋田　猛君）

お答えいたします。

屋外の喫煙が可能な施設に喫煙所を設置、また案内する方法や、議員おっしゃられますように、施設内に受動喫煙対策が取られた喫煙所の設置が考えられますが、法律改正の趣旨にのっとりまして、現在の敷地内禁煙のほうを継続してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

近藤議員。

○１５番（近藤新二君）

最後になりますが、ぜひとも喫煙者の意見を少しでも取り入れるよう、設置に向けての検討は切らずに、継続的に行ってほしいと思います。

私の一般質問は、以上で終わります。

○議長（保坂　悟君）

以上で、近藤議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村議員。

○１４番（中村　実君）

遊具についてちょっと伺いたいんですが、先ほど年に一度、業者による点検があると。それからゴールデンウイーク前にも点検を、行政による点検があるというふうに話があったんですが、例えば、マリンドリームですよね、あそこは２年か３年前に古い遊具が撤去されて、今新しい遊具が設置されて、まだ新しいんですが、ただ、年間に数十万人、１００万人も来るような施設を、私も孫連れて遊びに行くんですが、並んで遊んでいるという状況なんですね。それぐらい利用頻度の多いところの点検というのは、４月、先ほど４月に点検すると言ったかな、それ一度で済ましているのかどうか、ちょっと伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

お答えいたします。

先ほど私、答弁で申しましたとおり、定期点検、日常点検のほうはゴールデンウイーク前にやるというふうに答弁しました。

ただ、今ほどお話ししたように、やはり利用頻度によりまして、やはり点検回数というのもいろいろ調整する必要があるかと思いますので、またその辺、公園の実態等を把握させていただきまして、点検の利用頻度等は、今後、検討させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村議員。

○１４番（中村　実君）

ぜひ、海沿いだということで、雨風に、どこの場所も遊具が汚れるわけですが、あそこは潮風が大変厳しいんだよね。傷む頻度も多いと思うんですよ。あそこの人気あるところは、ロープで渡って歩くような遊具が結構人気あって、まだ新しいんでね、そんなにすぐに傷むというもんではないと思うんですが、やはりゴールデンウイーク内にもう一度ぐらい、夕方でもね、お客さんが引いた頃に点検するのが必要なんではないかなというふうに今の近藤議員の話を聞きながら今思ったもんですから、質問しております。

それから、こども課長が話したように、園とかそういうところでは、先生が付き添って、目を離さないように見ているということでいいんですが、やはりマリンドリームとかああいうところだと、ほとんど親御さんがついてるわけなんですよね。そこに注意看板みたいのが見当たらないというふうに、私、何回か行ってるんですけど、目に入ってないってことは、見づらいのか、ないのかちょっと分からないんですけど、そういう設置もしっかりと、目に入るような設置の仕方ってする必要はあると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

長﨑建設課長。　〔建設課長　長﨑英昭君登壇〕

○建設課長（長﨑英昭君）

今ほどお話ありましたとおり、やはり多くの子供たちが利用される公園につきましては、そういった人目のつくところに注意看板とかというのは必要だと考えております。いま一度、状況といいますか実態のほうを把握させていただきまして、もしそういった施設の看板等も不足しておるようであれば、また地元の方と交えて、どういうところに設置するかを踏まえて、検討のほうさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村議員。

○１４番（中村　実君）

先ほども話の中で出たんですけど、フードをかぶったりして、ひものついたものとかね、そういうものはやっぱり遊びのときなんで、そういう格好してくる子供たちも多いと思うんですよね。そういうものは絡まないような対策というのはおかしいかな、よく見てもらうと。親御さんから見てもらえるような、そういう看板の設置の仕方、保育園がどういう対策を取っているかというのが一番大事だと思いますんで、その辺の対策と併せて、看板の設置をぜひお願いしたいというふうに思います。施設も、大体、物というのは３年ぐらいから傷み出して、５年ぐらいになるとさびが出てという状況があると思うので、やはり点検をしっかりとしていただきたいということと、今の時代は、大体、土日、月曜日とかって、そういう３連休が非常に多いんですよね。相当な人間が来てますので、ぜひその辺の対策も併せて、今後しっかりしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（保坂　悟君）

以上で、近藤議員の関連質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を２時３５分といたします。

〈午後２時２７分　休憩〉

〈午後２時３５分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。　〔１７番　新保峰孝君登壇〕

○１７番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、人口減少・少子高齢化対策、入札改革、地域医療構想と糸魚川市の医療についての３点について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

１、人口減少・少子高齢化対策について。

(1) 日本の人口が減少し続け、糸魚川市においても人口減少、少子高齢化が進んでいるが、原因をどのように考えているか。

(2) 人口減少が進む中で岡山県奈義町のように、人口を維持するために子供を産み育てる環境づくりとしての子育て支援施策、住む環境づくりでの住宅施策、魅力ある教育、働く環境づくりとして子育て世代の柔軟な就労の場づくりに取り組んでいる自治体もあります。子育て世代の視点、高齢者の視点等、町民の視点を大事に取り組んでいるのではないかと思うが、このような施策についてどのように考えるか、伺いたいと思います。

(3) 当市の子育て支援策の一つとして、子育て世代の視点で学校給食費の無料化を検討すべきではないか。

(4) 高齢化が進む中で、自動車運転免許返納後の移動手段をどのように考えているか。

(5) 年を取っても、病気になっても、市内のどこに住んでいても安心して暮らせるまちづくりの視点から、公共交通網等の維持をどのように考えているか。

２、入札改革について。

(1) これまでの入札制度改革と入札制度の現状をどのように捉えているか。

(2) 予定価格と落札額、落札率の現状、在り方をどのように考えているか。

(3) 入札が適正な競争となるよう入札制度改革を進めているか。

(4) 落札後、下請に出すことをどのように考えるか。落札後の状況を把握しているか。

(5) 入札制度が、企業グループ等に有利であるようなら改善すべきではないか。

３、地域医療構想と糸魚川市の医療について。

(1) ＪＡ新潟厚生連病院の経営赤字問題は、厚生連だけでなく県立病院も同様であり、安倍内閣以降の医療費削減を求める国の政策に起因する。日本はＯＥＣＤ（経済協力開発機構）加盟３８か国中の医師数では３４位となっており、先進国の中では、医師の少ない国となっている。

新潟県の医師数は、人口１０万人当たりでは４７都道府県中最下位クラスだと思うが、国の医療政策をどのように捉えているか。

(2) 新潟県では医師の絶対数が足りないため、医療の必要度が高い高度救命救急医療の病院に医師の集中が起きている。その結果、新潟市、長岡市、上越市、新発田市などで医師の増加、他の市町では減少していると言われている。どのように捉えているか。

(3) ＪＡ新潟厚生連病院の経営再建に関連して、糸魚川市内の医療体制が弱体化することは避けなければならないと考える。どのようにお考えか。

(4) 交通網が分断される災害時において、医療確保が重要になると考えるが、どのようにお考えか。

(5) （仮称）上越・糸魚川沖地震ではどのような被害想定となっているか。また、どのような体制で対応するか検討されているか。

以上、１回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、団塊の世代が７５歳に到達するなど、老齢人口が増加していることに加え、ライフスタイルや結婚に関する価値観の多様化に伴う出生数の減少により、少子高齢化が進んでいると捉えております。

２点目につきましては、当市においても様々な世代の声を聞きながら、第３次総合計画に掲げる持続可能なまちづくりを目指して、人口減少対策と住み続けたくなるまちづくりの両面から取組を進めております。

３点目につきましては、食材の実費は、引き続き、保護者からご負担いただきたいと考えております。

４点目と５点目につきましては、公共交通網の維持は非常に重要と捉えておりますが、利用者の減少や運転手不足などの課題もあり、共助を含め、地域の実情を踏まえた、よりよい交通手段について、住民の皆様と協議する中で検討してまいります。

２番目の１点目につきましては、これまでも必要に応じて入札制度を見直してきているところであり、引き続き、入札監視委員会の提言や国・県の動向、社会状況の変化に応じて、公正・公平な入札事務に取り組んでまいります。

２点目と３点目につきましては、適正な予定価格の設定を行うとともに、入札結果は、入札監視委員会でご審議いただいております。

引き続き、業者が入札に参加しやすい環境整備などに取り組んでまいります。

４点目につきましては、受注後の施工体制について確認いたしております。

５点目につきましては、案件ごとに契約の適正な履行が図られるよう、引き続き、入札制度を運用してまいります。

３番目の１点目につきましては、持続可能な地域医療提供体制の確保を図るため、早急に医師偏在是正に向けた実効性のある対策を講じるとともに、病院経営が成り立つような診療報酬制度の見直しが必要であると捉えております。

２点目につきましては、地域医療構想に基づく、医療圏ごとの再編の中で、各病院の機能や規模に加え、人材確保に向けた仕組みづくりが必要であると捉えております。

３点目につきましては、今後も当市に必要な医療体制が確保できるよう、医師会や病院と連携し、取り組んでまいります。

４点目につきましては、医療救護活動が円滑に実施できるよう、医師会、県などの関係機関と連携した医療体制を構築し、非常時に備えておく必要があると考えております。

５点目につきましては、当市においても、震度７クラスの地震により甚大な被害が発生する可能性があることから、発災時は、地域防災計画に基づき、医療救護活動を行うといたしております。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

１番の人口減少・少子高齢化対策から伺います。

糸魚川市内に働く場があっても、市外に就職する若い人たちが少なくないと思いますけども、原因をどのように捉えておられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

やはり今市内では、有効求人倍率も高いことがずっと続いております。やはり若い方たちと求めてる企業の職種のミスマッチが、大きな理由だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

昨年の１２月定例会で、岡山県奈義町の取組を紹介いたしました。町の存続のため、人口減少対策を最大の課題と位置づけて、高齢者の力も借りて徹底した各種子育て支援施策を２０年間かけて、拡充に力を注いできたという取組であります。決して交通の便がよいところとは言えませんが、取組が評価され、若者が移住・定住し、合計特殊出生率も上がっているということでありました。

糸魚川市も、先ほどもありましたが、「ひとみかがやく日本一の子ども」を育てるという観点で、取組を行ってまいりました。同様な施策を行っていると思いますが、奈義町は人口減少対策であり、糸魚川市は人材育成が柱だと思います。奈義町と糸魚川市の行う施策には共通点もあると思いますが、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

奈義町の政策のほうも見させていただいております。糸魚川市の施策と比べても、似たようなところもあるのかなというふうにも受け止めさせていただいております。

しかしながら、若干の就労の点とかですね、しごとコンビニといった取組なども紹介されておりまして、いろんな世代の方々が自由な時間にお勤めできるといった取組もあるというふうに受け止めさせていただきました。糸魚川市のほうでも、テレワークオフィスの取組などを通じて、そういった取組をさせていただいておりますし、また、子育て支援につきましては、医療費の無償化のほか、妊娠から出産までの支援、それから教育面におきましても郷土愛の醸成を図る取組ですとか、相対的にはそれほど変わっていないのかなというふうには考えてございます。

しかしながら、今ほど議員おっしゃられたような合計特殊出生率ですとかそういった数字に見えるところが、糸魚川市のほうではなかなか出てきてないという部分はあろうかと思っております。引き続き、全庁を挙げた取組の中で、出生数が増える取組というのも非常に大事ですし、そのためには、子育て環境の充実といったところは力を入れて取り組む必要があるというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

奈義町は、人口減少対策として企業誘致では１６社が立地し、約８００名が就労したということであります。若い人を呼び込む姿勢で取り組んでおりました。面積は６９．５２平方キロメートルで、糸魚川市の７４６．２４平方キロメートルの９．３％ということになります。面積が、糸魚川市の１１分の１弱という狭い中で、２０２３年3月１日現在の人口が、５，７５１人ということでありますから、誘致企業１６社というのは大きいと思います。人口減少・少子高齢化対策として、企業誘致についてどのように思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

奈義町のように、大きな設備投資が必要な工場等の誘致につきましては、やはり労働力というのがどうしても必要だと思っております。そのような労働力が確保できる市かどうかと言われますと、今現在なかなか当市としましては、そのような労働力は見込めないのが現状ではないかなというふうに思っておりますので、やはり当市は、今現在も進めておりますが、ＩＣＴ企業を誘致して、都会の仕事を家庭、もしくはサテライトオフィス等で業務をできるようなものを多く誘致していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

柔軟な働き方に対応する仕組みづくりについてでありますが、前回も述べたと思いますけども、再度言わせていただきたいと思います。

安定した職場であれば、出産後も復帰して働けます。しかし、中小零細企業の場合厳しい状況があると思います。仕事を辞めざるを得ない場合もある。子育て中の短時間労働等、奈義町は目配りしております。小さい自治体だからできるということもあると思いますが、高齢者の力も借りて、徹底した各種子育て支援施策の拡充に力を注いできたということでありました。こういう視点も大事だと思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今現在も市のほうでは、企業支援ということで様々な事業のほうを進めさせていただいておりますが、今ほど奈義町の事例のほうも確認させていただきまして、どこまで当市として、子育て中の家庭に対して支援できるのかというところを調査・研究させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

奈義町の各種子育て支援施策の成果としては、高い合計特殊出生率の達成にあるのではないかと思います。若者定住施策、就労対策、独自の子育て支援策の積極的な推進が町民へ安心感と心強さを与えたのではないかと思います。奈義町の合計特殊出生率は、２０１９年2.９５、２０２０年２.２１、２０２１年2.６８、２０２２年2.６８、２０２３年2.２１とのことであります。奈義町政の腹を据えた取組の構えが、町民に安心感を与えていると思います。出生率は高い水準で推移していると思いますが、どのように思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今ほどお聞きしたように、出生率、合計特殊出生率が高い水準で推移しているといったところは、すごい、すばらしいことだなというふうに思っております。糸魚川市の場合、直近の令和５年の数字になりますと、前年よりも下がって１.１６といったところが県の統計では出てきます。

この合計特殊出生率につきましては、いろいろ上がる要因としましても、対象としている若い女性が転出をしていくと母数が減るといったところもありまして、若干変化するのかなというふうな分析はしておりますけれども、いずれにしましても、糸魚川市の人口減少としましても、出生と死亡の差といったところが大きいところでございますので、出生数を増やす取組、子育て環境の充実を含めまして、取組のほうはしていかなくてはならないというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

ぜひ子育て支援策の強化に取り組んでいただきたいと思います。

次に、学校給食費の無料化についてであります。

まだ、給料もそれほど多くない、経済的には厳しい、そういう子育て世代の荷を軽くする視点で、学校給食費の無料化を考える必要があるのではないかと思います。今後も人口減少が続くことが予想されますが、学校給食費の負担軽減等を今後の子育て支援について、どのように対応していくお

考えかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

学校給食費に係る食材費につきましては、学校給食法の関係で食材費負担は保護者ということが、まず前提となっているというふうに思っております。

ただ、そういった中で、昨今の物価高騰の部分を反映いたしまして、保護者から頂く給食費だけでは、正直、食材費のほうを全て賄えていない現状がございまして、小学校部分ですと、１食当たり３０円、また、中学校部分に関しては、１食当たり５０円を市が負担するような形で補助をさせていただいているといった状況でございますので、また、今後の状況も見ながら、そういった支援策については考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

学校給食も教育の一環ではないかと思います。２００９年（平成２１年）に学校給食法が改正施行されたことにより、その目的が食育の点から見直されております。小中学校全て同時に学校給食費の無料化を行うには金額が大きいと思いますので、段階的に実施できないか、お聞かせ願いたいと思います。全国的には、給食費を無料化する自治体が増えているようであります。検討できないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今ほど議員さんのほうから段階的な無償化というようなお話もありましたが、今、市のほうでは、私、先ほど答弁で申し上げましたとおり、今の物価高騰に対する部分の増額分を市が賄う形で給食費を抑えるというような形で対応をさせていただいているところでございます。今後の部分については、また、その時々に応じた検討をしていくことになると思っておりますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

ぜひ前向きに検討いただきたいと思います。

今年度、高齢者の移動手段の関係ですが、今年度２０２４年版、令和６年度の統計いといがわを見ますと、年代別人口割合で、平成２７年（２０１５年）と令和２年（２０２０年）の国勢調査による年代別人口が出ております。５歳単位で示されているのを見ると、７０から７４歳と８５歳以上の人口が増えております。２０２０年、令和２年ですから４年前の数字ですが、８０歳以上では６，１４２人でした。この方たちが、運転免許証を返納した場合の移動の足となるのは、バスだと思います。この移動の足となる公共交通について、どのようにお考えか、いま一度お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

市長答弁にもありましたとおり、公共交通の維持というのは、こういった免許返納の方、また高齢者の方にとって、非常に重要な移動の手段だというふうに考えております。できる限り守っていきたいというふうには考えているところではありますけども、地域によって、例えばもうバス停まで行くこともなかなか難しいといったような事情もあったりというところがございます。私ども、和泉議員の一般質問にもお答えしましたけども、今、地域公共交通計画というものを策定させていただいております。これを基に、地域に入りまして、その地域でどういう移動の形がいいのかといったところを地域の地元の方と一緒に検討して、導入をしていくというようなことを進めていきたいというふうに考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

ぐりーんバスケットもなくなりました。非常にこういう面では協力いただいていたんではないかと思いますけども、残念ながらなくなっております。バスに代わる、何ていうか交通手段といいますかね、高齢者にとって病院に行くなりいろんな動く場合、それに代わるものがあれば、それをつくることが、そういう体系をつくることができればいいんですが、そうならない場合、糸魚川市内の現状、幾つかのパターンで、そういう交通体系といいますかね、高齢者だけじゃないんですけど、そういうものがつくられております。私が言ってるのは高齢者対象なんですが、ぜひ今ほど検討されてるというふうなことも言われましたけど、糸魚川市内のどこに住んでいても安心して病院に行けると、せめてそのぐらいの体制はつくっていただきたいというふうに思います。いま一度、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

通学、それから通院の足というのを、朝、それから帰りの需要ですかね、路線バスというのは、大量に輸送する。それだけの需要がある部分のところで機能を発揮するものだというふうに考えてます。当然、通学ですとか通院の足というのは、できるだけ確保していきたいというふうに考えておりますけども、なかなかバスも、高齢化の問題ですとか、あとバスの大型化、小型化にしていくといったような課題もございます。

こういった中で、その地域の新しい交通、移動の足としてどういったものがいいのかといったところは、先ほども答弁させていただきましたけれども、地域の方とお話合いをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

私も、これまでいろいろ提案させてもらいました。委員会、議会で市外調査で、いろんな自治体を訪問して、そこでバスじゃない新たな仕組みですよね、ずっと玄関の近くまで、もう行ってくれる、電話すれば。そういう交通網をつくり上げているところもありますし、一定のところまで出ていれば、電話すれば、もう出発時間が決まっている。ただし、最後のところに行く時間は多少その日によってずれたり遅くなったり早くなったりする。そういう交通体系を独自につくり上げている、そういう自治体もあります。そういうものをひっくるめて、高齢者が年を取っても安心して、病院なり必要なところへ行ける。最低限、病院に行けるような体制、ぜひつくり上げていただきたいと思います。

次に、３つ目の地域医療構想と糸魚川市の医療で伺います。

２０１８年度（平成３０年度）の医師、歯科医師、薬剤師統計の概況、これらの先生方の、どれだけ都道府県ごとにいらっしゃるかという、そういう統計でありますけれども。新潟県は、日本の中の都道府県の中で、これらの医師の少ないほうから４番目となっております。一般的に言えば、医師が少なければ、１医療機関当たりの患者数は増えるというのが普通だと思いますけれども、ＪＡ新潟厚生連病院の経営赤字問題は、またちょっと違うところに原因があるようでありますが、この厚生連の経営赤字問題の根本原因、これをどのように捉えていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

厚生連病院につきましては、県内で１１病院、運営をいたしております。そちらの中で所在する自治体が、離島であったり僻地であったりというような地に病院が存在している。大都市にもございますが、県内で比較的そういった僻地医療を担っているというところで、なかなか採算を取ることが難しくなってきているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

私はもう一つ、厚生連病院の経営赤字問題の根本には、医療費削減を進めてきた国の責任があるんではないかと考えますけども、今ほど言われたように、国や新潟県の医療政策との関係、今本当に新潟県の場合を見てみると、そういう僻地も結構、厚生連の病院なり診療所なりが多いので、そういう関係もあるのかなと思いますけれども、全体的に見て、それだけでなくて医療費削減も関係あるんでないかなと思いますが、この点どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

今、国の医療に関する制度の中で、診療報酬の関係があると思うんですけども、そちらのほうが、どちらかというと病院経営者には厳しい内容になってきている。診療報酬がずっと下げられてきていて、抑えられてきていて、病院経営者にとっては非常に厳しい状況である。

逆に、医療費を抑えるという意味では、保険者にとっては、思いのある制度なのかも、やり方なのかもしれませんが、診療報酬制度は、病院経営者にとって不利な制度となっているということだと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

私もそのように思います。

このＪＡ新潟厚生連病院の経営赤字問題は、厚生連だけでなくて、県立病院とか民間病院も同様の厳しさがあるんではないかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、先ほど私申し上げましたが、診療報酬等の点から、今非常に病院経営が厳しい状況になっているということでございまして、県立であっても厚生連であっても、みんな同じ状況だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

それで、糸魚川市内の医師の先生方の現状をどのように捉えていらっしゃるか、今後、病院の医

師、開業医の先生方等、どのように推移して、１０年後はどうなるかと。糸魚川市の医療を支える、そういう医師の状況というものをどのように捉えておられるか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

昨日もそのようなお話をしていたかと思うんですけども、今現在、糸魚川市医師会の会員でいらっしゃる先生方の年齢が非常に高齢化してきていて、５年後、１０年後に、皆さん５歳、１０歳と年を取られるわけで、そのときに多分、開業医の数、先生の数も相当減っていっていることになると思います。

そんな中で、今後、糸魚川総合病院が、そのようなかかりつけ医機能を担うということが、当市における課題だというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

少しいろんな観点から聞かせてもらいたいんですが、新潟県では、先ほども言いましたように、医師の絶対数が足りないために高度救命救急医療の病院に医師の集中があるのではないかというふうに言われていますが、どのような考え方で医療再編を新潟県は行おうとしているのか、説明なり、もし話を聞いてるようでしたら、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

今現在、新潟県のほうで地域医療構想のほうを進めております。そんな中で、地域に必要な病床数であったり、病院の数の調整をこれからしていかなければ、今現在ある病院が全て、経営をし続けていくことは非常に難しいということでございます。

そんな中で、例えば県内の大きな病院で高度急性期医療を担っていただいておりますが、そんなところに、そんな病院に医師が集まるというのは自然の現象でございまして、医師の先生方もいろいろな症例がある大きい病院で研究をしたい、経験を積みたいというのが医師としての、何ていうんですか、お考えでございますので、それは、県や大学がそういうふうにしているということではなくて、先生方もそれを望んでいるということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

上越地域では、新潟県立中央病院が医療の必要度が高い高度救命救急医療の病院になっていると思いますが、糸魚川市は、糸魚川総合病院に富山大学から医師を派遣していただいておりました。それも年々難しくなっているとのことでありますが、新潟県の医療再編計画が、糸魚川市の医療体制に大きな影響を与えることにならないかと。どのようにお考えか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

先ほど来からの医師の数が非常に新潟県は少ないということで、新潟大学からの医師派遣というのが非常に県内全域には難しい状況でございます。

そんな中で、就任以来、米田市長が２０年にわたり、毎年、富山大学の教授、あと病院長のほうへ医師派遣のお願いにずっと欠かさず行っていただいていて、そのおかげで、糸魚川総合病院に富山大学から医師派遣をいただいているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

災害時の医療体制でありますが、（仮称）上越・糸魚川沖地震が想定されているわけでありますけども、この災害時の医療体制というのは、いろいろと糸魚川総合病院なり、医師会の先生方と協議されているという話でありましたが、災害時の医療体制はどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

林健康増進課長。　〔健康増進課長　林　壮一君登壇〕

○健康増進課長（林　壮一君）

お答えいたします。

災害の程度によると思います。道路が寸断されていたりと、その状況によって状況は異なると思いますが、災害時に、例えばけが人が出たような場合には、救護所を設置するなど、保健所や医師会の皆さんと、そういう非常時を想定した訓練を定期的に実施しておりまして、糸魚川総合病院、医師会、保健所と連携して、そういった取組に備えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

前回も一般質問させていただいたんですが、（仮称）上越・糸魚川沖地震、これはマグニチュード７．６を想定しているわけでありますけども、防災ハンドブックの２０２３（保存版）が、市内全戸に配布されております。上越・糸魚川沖地震を想定したものだと、最大ですね、ということのようでありますが、このマグニチュード７．６の地震、津波、火災が起きると想定した対策も必要

になってくると思います。地域では、どういうふうな説明をされているでしょうか。マグニチュード７．６というのは非常に強い地震になると思いますが、どのように説明されておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

本当に、いまだかつてない経験といいましょうか、いまだかつてない地震に見舞われるわけでございまして、今年の１月１日に発生いたしました能登半島地震、我々は、やはりそれをしっかり検証させていただいて、糸魚川で起きたらどうなるかというのを、やはりもう一度しっかりと対応しなくちゃいけないと思っております。今までの中の対応は、私はこれほど大きな地震というその事柄ではなくて対応してきた部分があるんではないかと思うわけでございますので、やはりそういった少し身近に起きたその地震をもう一度、やはり糸魚川に置き換えて、その対応をしなくちゃいけないだろうと思っている次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

長期的な計画に基づいた対策というものを、そういう計画をつくって、それで全戸にそういう保存版を配っていただいているわけですよね。それが、例えばマグニチュード７．６の地震てどういうふうなものかというのは、実際には、この１月１日の地震ありましたけども、あれよりも相当大きい地震になるわけなんで、誰も体験したことがないような地震が来るということが想定されているわけです。すぐに来るかどうか、それは分かりませんけども、予想では、少し先になるんでないかという予想ですけども、だけども、それは常にどういうふうに動くかというのを訓練してないと、そのときになって動こうとしても動けないと思うんですね。だからそういう計画を立てて、実際にそれを動いてみる、地域の皆さんが、それで動いて訓練をするというのは非常に大事になってくるんでないかと思うんです。地域ごとにもう訓練してるところも、もう毎回、毎回というか毎年ですかね、そういう地域もあるようでありますし、地域ごとにいろいろ違うんですよね。ですからそういう点では、やはり市のほうでリードして、いつ起こるか分からない地震ですけども、訓練していくというふうにしていっていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

今ほどお答えいたしましたように、今までの我々の経験から、そしてまた今までのデータから、能登半島地震のような経験というのはしておりませんでした。そういう中で、我々は経験を積む中

で、今訓練については、そういう大きな、大規模な地震に対しては、まだ出来上がってございませんが、訓練のたびにそういったものを頭に置きながら今訓練をしとるわけでありますが、今、能登の起きた事柄について、我々はやはり検証することが大事だなと。どういう形でどういう対応をされたかというのは、やはりしっかり見定める必要があると思っております。

しかし、まだこの発災直後で能登半島の皆様方におかれましては、そういったものができてないわけでありますので、我々といたしましては、そういった対応策に対しては、しっかりまとめていかなくちゃいけないし、そして、我々の非常に被害を軽くするために対応しなくちゃいけない事柄については、しっかりまとめて市民と対応していかなくちゃいけないと思っておりますが、そういう状況にまだなってないという状況でございますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

繰り返しになりますけども、上越・糸魚川沖地震が起こった場合、マグニチュード７．６ということで、被害が大き過ぎて地震直後の対応ができなくなるんではないかというふうに思います。こういう甚大な被害が出ることを想定した計画にしておくことと地震直後の対応をどうするかというのは、季節、冬であったり夏であったり、日中であったり夜であったりいろいろ考えられるわけなんで、ぜひそういうことを十分留意した計画になるように取り組んでいただきたいと思います。

次に行きます。

入札の関係でありますが、この入札の、今まで入札制度改革と入札制度の現状をどういうふうに考えているかという中で、例えば入札に、１月１日、１２月１５日に、例えば入札が行われるという場合に、個々の会社がそれに応募する、入札に参加するというのは、それは別に何の不思議もない当たり前のことで、競争で決めてもらえばいいわけですが、企業グループということになると少し違ってくるんでないかと。企業グループというのは、合併前の糸魚川市にはそういうふうなことはなかったと思うんですが、その後、この地域においては大きいような会社が関連会社を造るとこういうふうなとこで、落札して、それを別の会社に下請に出すような、そういうふうなやり方があれば、ちょっとまずいんじゃないかなというふうに思ったもんで聞かせてもらいました。落札後、これ表現は下請に出すという表現でいいのか、どうか分かりませんけど、そういうことについては、何か承知していることはあるんでしょうか、担当課のほうで。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

土木工事等の場合に、工事を受注したときに、業者のほうからは、施工体制台帳及び施工体系図というものを下請契約をする、確認する書類として出していただいているような状況であります。そのようなものを確認しながら、下請契約の確認をしているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

例えば一定の金額の、一定の金額で線引きが行われておりますよね、規模ごとに。入札工事のランクを糸魚川市も決めてあると思うんですが、その工事、例えば１２月１５日に入札やりますよという場合に、大、中、小、そのグループの中で工事価格がそれぞれ対応できる、以前は１つの会社だったんだけども、小さい会社もつくって、どれにも対応できるという、そういう仕組みにして、それ違法でもないんだと思うんですが、その仕事を、要するに競争ですけども、その中で、どれにも対応できるということになれば、ほかの会社よりも有利になるわけですよね、どっちかと言えばね。そういうことについては、どういうふうにこう、例えば、その中のどのレベルの、１番大きいところが落札して、それを別の会社に下請に出すと。その場合、市に届出をすれば、それはそれでいいんですよというふうなことであると、一般的に考えると、利益の一定程度を落札した会社がもらって、残りでやってくださいということになると思うんですが、そういう点は市としては、それは違法でないから承知しているんだけども、それは仕方ないというふうに捉えているのか、なるべくそういうことは避けるようにしなければならないというふうに考えているのか、その辺のところを聞かせていただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

議員のおっしゃいますとおり、当市においてはランク別の発注をやっております。その中で、同じランクの中に親子関係、同資本の者が参加するかどうかということでのご質問かと思っております。私ども入札に係ります、建設工事等制限付一般競争入札共通公告というものを定めておりまして、その中では対象工事、１つの案件の中に資本関係が、また人間関係が同一であるというものに対しては、それは入札できないというふうに定めて公表しておりますので、基本的には１つのランクに１つの業者、企業グループの中の一つが入るというような状況で、私どもで執行しているということになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。

○１７番（新保峰孝君）

そのグループの中の会社が、同じランクの中の仕事を取りにいくということは、そうないと思うんですが、その中で、何ていうんでしょうかね、そういう有利な点を生かして、ほかのところに、グループでもちろん落札、グループの中で落札したのは、そのランクの会社がやればいいんですが、そうでないところに出しているというふうなことがあれば、これはまずいんでないかなというふうに思って、質問させていただきました。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（保坂　悟君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を３時４０分といたします。

〈午後３時２９分　休憩〉

〈午後３時４０分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、加藤康太郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。　〔８番　加藤康太郎君登壇〕

○８番（加藤康太郎君）

みらい創造クラブの加藤康太郎です。

発言通告書に基づき、一般質問をさせていただきます。

１、新しい「県立高校の将来構想」について。

策定当初の予測を上回る急激な人口減少に加え、不登校児童生徒数の増加、広域通信高校への進学者増加などに見られる生徒の学習ニーズの多様化、遠隔教育の取組推進など、県立高校を取り巻く環境が大きく変化しており、新潟県教育委員会では、来年度からの１０年間を対象にした、魅力と活力ある学校づくりの中長期的なビジョンである、新しい「県立高校の将来構想」の公表を、令和７年３月に早めることとしました。

今後の学校・学科の在り方について、中長期的な計画を検討するため、令和６年１１月２７日、第６回「県立高校の将来構想」策定有識者会議が開催され、「県立高校の将来構想」の案を示し、この中で、１０年後の２０３４年度には、中学校を卒業する生徒数の推計などを基にした、適正な県立高校の数や学級数の試算が示され、高校は、来年度の８６校から、２０３４年度には６４校へ、県内全体で２２の県立高校が減少し、学級は、来年度の３１４から、２０３４年度には２２５へそれぞれ減る（上越エリアで、１２学級減の２７学級）という試算を明らかにしています。県教育委員会の佐野教育長は、「生徒や保護者、各地域に大きな影響が出るが、教育の質を維持するためにも、ある程度集約していくことはやむを得ないと考えている。県が置かれている状況や将来的な生徒の人数などを各地域で説明していきたい」として、１２月５日から、各地域での説明会（当市においては、１２月１５日開催）やパブリックコメントを実施した上で、来年の２月の有識者会議に再度、案を示すことにしています。

花角知事も、１１月２８日の定例記者会見において、「このままだと子供たちの学びを支えていくという意味で難しい」と危機感を示し、「できるだけ地域の身近なところに高校がある環境をつくっていきたいし、通う足への支援も考えなければならない」と話し、令和７年度からの県の最上位計画である「県総合計画」の素案では、児童・生徒数の減少を見据えた教育環境の整備を課題の

一つに掲げ、小規模校であっても、デジタル技術を活用して遠隔で授業が行えるような取組が重要だとしています。

また、あわせて、各高等学校において策定したアドミッション・ポリシー等を基に、中学生が自身の興味関心や適性等を踏まえ、より主体的に高等学校を選択できるようにすることを目指し、令和９年度入学者選抜から新しい制度に変更されます。

当市においては、第３次糸魚川市総合計画において、令和４年度から、市内３高校への地元からの進学者の割合が減少傾向となっていることが課題として上げられ、施策として、高校の魅力化推進を掲げ、多くの生徒が行きたい、保護者が通わせたいと思う高校を目指して、地域、行政が高校と連携して、地域人材育成のための支援と、市内３高校それぞれの特色を生かした、事業の推進を図ってきましたが、令和９年度から、糸魚川白嶺高校の募集学級数が、３クラスから２クラスとなる見込みです。

(1) 「スクールミッション」、「新しい普通科」の設置、産業高校の「キャンパス制」の導入、「遠隔教育配信センター」（令和８年度）の開設、「セルフデザインハイスクール」（新たな定時制・通信制）など、多岐にわたる魅力と活力ある学校づくりに向け示された新しい「県立高校の将来構想」（案）についての所見を伺います。

(2) 「高等学校等入学状況調査報告書」（令和６年１１月／新潟県教育委員会刊行）も踏まえ、新しい「県立高校の将来構想」の策定に向けて、新潟県教育委員会と、市内３高校の在り方について、協議・連携をしていく考えはあるか伺います。

(3) ０歳から１８歳までの「子ども一貫教育基本計画（第３期）」の思春期後期（高校生）における推進に当たっても、市内３高校の今後の存続が大きく影響すると考えます。新しい「県立高校の将来構想」の下でも、市内３高校を堅持していく考えは変わらないか伺います。

(4) 「高校を核とした地域人材育成事業」（総務省の地域おこし協力隊事業を活用した高校魅力化・産学官コーディネーターの配置）について、市内３高校への取組実績と評価（検証）を伺います。

(5) 新しい「県立高校の将来構想」を進めていく上で、市内３高校の魅力と活力ある学校づくりを支援・公民連携する「コンソーシアム体制」の構築は必須と考えます。「コンソーシアム体制」の構築・運営のみならず、大学のサテライトキャンパス等の高等教育の誘致（地方創生２．０）も視野に入れた「政策監」、または、「産官学金労言推進企画幹」を採用する考えはないか伺います。

(6) 糸魚川高校に自習室が設置されましたが、令和４年度の重点施策として、教育の推進で掲げられた「公営塾」開設に向けた取組状況を伺います。

以上で、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

加藤議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、生徒の学習ニーズの多様化に対応した、高校の特色化・魅力化

を図る取組と捉えております。

２点目につきましては、機会を捉えて協議・連携を求めてまいります。

３点目につきましては、これまでも市内３高校の魅力化の取組を行ってきており、引き続き支援してまいります。

４点目につきましては、糸魚川高校では、総合的な探求の時間のカリキュラム作成や伴走支援、志望理由書作成講座、面接指導、自習室の運営など、糸魚川白嶺高校では、キャリア探求、インターンシップ、地域理解学習、防災フォーラム等の伴走など、海洋高校では、志望理由書講座、キャリア探求、自習室の運営など、多岐にわたって関わっております。

評価につきましては、今年度末までに教員、生徒を対象に実施するアンケートで検証する予定としております。

５点目につきましては、高校と地域をつなぎ魅力ある教育環境をつくる役割としてコーディネーターを配置しており、現時点では、政策監等の採用は考えておりません。

６点目につきましては、現在、各高校の要望を踏まえながら民営塾に配慮し、自習室という形で開設しております。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

改めまして、なぜ、この新しい県立高校の将来構想が令和７年３月に前倒しになったのかとかいうことも含めて、平成２８年３月に作成された将来構想の今までの取組実績や経過と現状について、まずしっかりと把握・検証していくことが、まず大事だと思いますし、それを踏まえて今後の市内３高校との魅力化・特色化に向けた地域協働を連携支援に生かしていくことが重要と考えまして、再質問に移りたいと思います。

また、今回の変化のポイントとして上げられているのが、広域通信高校への進学者が、県内で平成２９年の９７人から令和６年には５倍となる５０５人に増加しており、今後も、ますます増加傾向が予想されているそうです。

当市における広域通信高校への通学実績並びに希望者の増加傾向はどうか、また、進路選択のその要因とか背景がもし分かるようであれば、答えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

過去３年間の進学実績ということでは、４年度が１２人、５年度が１０人、そして、６年度が１７人ということで、近年、増加傾向にあるというふうに捉えております。健康面で選択をされたり、また働きながら高校を卒業したりとかということもありますし、生徒さんご自身の特性・適正

であったりとか、生徒の学習ニーズが多様化しているといったことの表れではないかなというふうに捉えているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

私もそういった今の進学状況とかで勘案しますと、結構、自分の夢をかなえるために、あえて進学方法を、コースを選んで時間をしっかり使うとか、あと、本当にカリキュラムとか講師の内容が飛び抜けてるので、もうそこに行くという部分と、あと、地方にいても地元で受けれるという部分があって、逆に積極的に受けているような部分があると思います。

そういった中で、生徒数が減ってる中にも、やっぱり当市においても１２人、１０人、１７人ということで、それがますます周知されて、卒業生が、今度また結構活躍されてる方も多いので、それを見て、またそこに選択するという、新たなまた道が提示されているという部分で、今後の高校の在り方についても、やっぱりそこをしっかりと検討、また課題として、入れていかなければいけないと思います。

また、あわせて、次の質問に移りたいと思いますが、県内の公立・私立の中学校では、令和４年度に３０日以上欠席した不登校の児童生徒は４，７５９人で、前年度より９０５人増えて、７年連続で過去最多を更新しています。当市においても、不登校児童生徒数は増加傾向であると私は認識しておりますが、また、あわせて、令和７年度より、中学校のいずれかの学年において欠席日数が３０日以上の者、中学校のいずれかの学年において欠席日数と教育支援センターの通所等により出席扱いとなっている日数の合計が３０日以上の者が提出できる自己申告書というものが導入されます。これも生徒一人一人の学習進度や個性に応じた個別最適な学びの推進と、多様な生徒の生活学習スタイルに応える高校が必要であるということで進んでいると思います。

当市でも、学びの多様化学校、不登校特例校の設置に向けた部分もありますが、中学校の卒業後の進路先として、生徒の学習ニーズの多様化への対応、受入れ状況について、ちょっとお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

対応・受入れ状況ということでありますけれども、当市からでも県立高校、私立高校、また、全日制、定時制、通信制など、そういった幅広い高校の選択肢があるというふうに、現状もあるというふうに捉えております。学習ニーズの多様化によりまして、全てに対応できているかというと、そうでない部分もあるかもしれませんけれども、生徒さんそれぞれに自分の適性に合ったところを選んで、進学されているというふうに把握しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

そういった中で、県もいろいろ検討を加えて、また、定時制のよさとか通信制のよさとかという部分があるんですが、やっぱりそれぞれ課題もあって、今後、定時制も通信制も融合した中で、相互に転籍をしたり、授業を受けたりとか、そういった形で、今度新しい名前になりますが、セルフデザインハイスクールというのが検討されております。またこれもオンラインで受けたりとか、そういった意味で、今後ちょっとまだ、上越エリアで１校ぐらいは、２校ぐらいか、造られる予定なんですが、まだ今後、いつというのは決まってないんですが、そういった今後の動きもありますので、そういった部分を含めて、また１５日に説明会もあると思いますが、しっかりとその辺の把握と、それと今後の設置の動きもしっかりと把握して、今後の進路状況について、対応していただきたいと思います。

また、次に移ります。

県教育委員会では、２８年当初の県立高校の将来構想では、適正な学校規模を１学年当たり４から８学級としておりました。これに満たない学級については、もう他校と統合していくということであったんですが、実際、令和７年度以降の計画含めて７校にとどまっています。生徒数の減少、いろいろな事情がありました結果、学級数の減で対応しております。

そういった関係もありまして、平成２７年度では、１から３学級募集の小規模校が全日制課程で２１校、２８％だったのが、令和７年度には４１校、もう過半数を超える５３％を占めて、今、県立高校の小規模校化が進行して、県の大きな課題となっております。当エリアについても、普通科高校、糸魚川高校と、総合学科高校である糸魚川白嶺高校の統廃合も検討されておりましたが、令和７年度から９年度の県立高校等の再編整備計画においては、同じく、生徒数の減少を学校の統廃合ではなく、学級減で対応するということで、白嶺高校は令和９年度から２クラスになるというような状況になっております。

そういった意味でも、市内３校が小規模校になります。これもある程度、たしか４から８という部分のメリット・デメリットあると思うんですが、当市において、小規模校３校になるというところの課題点等があれば、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

小規模校の課題ということでは様々あるとは思っておりますけれども、例えば集団の中で多様な考え方に触れる機会が減って、人間関係が固定化したりとか、学び合いが起こりづらくなったり、団体競技の部活動編成等も難しくなってきたりとか、教員の確保、また教員１人に対する負担が重くなったりといったようなことの課題が上げられるかなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

そういった点を踏まえて、やっぱり新しい、こちらの県の構想をもっても、令和７年度、普通科１６、総合学科６、専門学科系が１５で、定時制が２というところを、令和１６年に普通科系の高校が１２、専門学科系高校が、学級数ですね、１３、セルフデザインハイスクールが２学級ということで２７学級にしたいというところと、また、記載されているのが、令和１０年度から１６年度まで、先ほどのセルフデザインハイスクールの設置と産業高校の設置、あと総合学科の在り方検討と小規模校の統合ということで、この辺ちょっと読み、解釈しますと、白嶺高校がちょっと該当するんではないかなと、ちょっと危惧しております。

そういった動きも含めて、しっかりとまた今後、説明はまだね、１５日にあるんでお聞きしたいと思いますが、その辺ちょっと県のほうでは視野に入れてるんではないかなという読み方もできるので、しっかりとその辺もしっかり把握、また連携・協議をしていただきたいと思います。

次に、この生徒減少が続けば、今ほどの統廃合もやむを得ない状況になりますが、県立高校等の再編整備計画では、小規模高校については、各学校における特色化の取組状況や志願状況、入学状況、卒業生の進路状況を評価しながら、あと、地域の交通事情や地元生徒の入学状況など、地域の特性も踏まえて在り方を検討するという部分もあります。

また、新しい県立高校の将来構想においては、離島、中山間地域などの地理的条件や学びのセーフティーネットの確保の観点等を踏まえて、あえて存続させる小規模校もあり得る。また、あえて存続させる小規模校においては、ＩＣＴを活用した遠隔教育や地域との協働体制構築などを進め、そのデメリットの最小化を図ることが示されました。今現在、ＧＩＧＡスクール構想など、環境整備、取組などによって、そういったＩＣＴスキルを向上して、沿革授業ができたり、小規模校でもそのデメリットを解消して、学びの質を保証できる可能性が出てきたことは、産業高校のキャンパス制の導入で、小規模校の利点も生かして、新たな展開も含めて、プラスの視点で捉えていいと私は考えています。

そうした中で、あえて存続させる小規模校においては、地域との協働構築が必須条件になっていると捉えています。今後の市内３高校の存続、また特色化・魅力化に、こういった点をどうつなげていくのか、所見があれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

小規模校のメリットということで、一人一人の学習状況の把握が容易になったり、また、相互に今度、学び合う活動が充実してきたり、地域の協力を得やすいといったようなこともメリットとして上げられるんではないかなというふうには思っております。今、ＩＣＴの活用ですとか、そういったキャンパス制などの導入によりまして、今度、学校間での、例えば連携ですとか協働的な学び

ができるような、そういった環境整備というのも期待されるんじゃないかなというふうに思っておりまして、そういったことで小規模校のデメリットが解消されるというような可能性はあるんじゃないかなというふうに思っております。

市内の３高校においては、進学校としての糸魚川高校、また、地元就職で即戦力が期待される糸魚川白嶺高校、そして、水産の専門ということでの海洋高校という３校が、それぞれに特色があるというふうに思っておりますので、学校に特色があるということは非常に重要であると捉えておりまして、そうしたところをしっかりと伸ばしていけるような形の支援をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

少し補足をさせていただきますけれども、小規模高等学校の存続も含めてなんですけど、そこの中にどのような特色を持ち続けさせるかという部分のところ、今度、県のほうの説明にもいろいろあると思うんですけれども、やっぱりどの高等学校も、今現在、総合的な探求の時間、総探の関係で、地域との関わりというふうな部分を物すごく大きなウエートをかけて動き出しています。当市の場合についての３校は、他市よりも、いち早くコーディネーターの配置によって地域とどのような形でもってつなぐ中で探求的な学びをいかに深めていくかという部分にウエートをかけております。地域とのつながりという観点からすると、今まで義務教育の中で小中学校は、地域と共に歩む学校づくりというふうな部分で、コミュニティスクールの指定、市内の場合は、小中学校全学校がコミュニティスクールに加盟しています。その推進に向けて、組織も活動も推進しています。その波が、高等学校のほうにもぐんと上がってきまして、やっぱり地域と共に学ぶ、地域の人と関わる、その中にいかに高等学校としての特色を持っていくかという部分のところの方向が、今求められています。これからさらにそれが強まるというふうに私は思ってます。

そんなことからすると、今までの義務教育の流れを高等学校版に視野を変えて考えた場合に、高校生たちの学びの環境をどのような形でつくっていくか、これはまた、地域づくりにもうんと関わってくる課題というふうに私は捉えています。そんな意味合いで、県の高等学校の説明等を聞きながら、糸魚川市ではどのような具体的な構想が描けるのか。今現在の動きをどのように充実・発展させて、質の高い学びの環境を高等学校にどのような形でもってつくり上げることができるのか、そういう問題意識をしっかり持って、説明のほうを聞きたいなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

ありがとうございます。私もそういった意味で、阿賀黎明高校は、たしかコミュニティスクール方式でやってますし、ほかの学校では、佐渡か何かは、佐渡のほうは従来のそういった形で、コン

ソーシアムのほうで進んでおります。あと当市の場合は、どういった第三の形があるのか。いずれにしてもそういった場と、そういった環境と、そういったものがやっぱり今後も地域の小規模校を残すには、もう必須条件になってくるので、ぜひ積極的にそういった構築含めて進めていただきたいと思います。

ちょうど前回も議員講習でお越しいただいた、片山元総務大臣からご紹介いただいた熊本県立の高森高等学校のマンガ科設置の事例があったんですが、こちらのほうは、令和５年４月に普通科２学級を普通科グローカル探究コース１学級とマンガ学科１学級に改編して、定員８０名に対して２０名しか、もう集まらないような状態から、令和５年度マンガ学科が定員４０名になったんですが、これ１．８２倍です。グローカル探究コースのほうも１倍を割りましたが、定員４０に対して３３で合計７３名になりまして、令和６年度は、マンガ学科は定員４０名なんですが、これもう２．３２倍まで上がったそうです。グローカル探究コースは、ちょっと３１名で合計７１名なんですが、これ人口６，０００人ぐらいの町なんですね。県外枠をもっと増やしたいんですが、なんか県外枠、なんか４０％枠があって、現在も学区外から来られたのは１５名なんですが、今後それを増やせば、まだまだ募集できるような状況ですが、一応、施設のコンピュータの状況とか講師が教えるキャパが４０ということで増やしてはいないんですが、こういった事例をちょっとご存じかどうかちょっと分からないんですが、この点については事例を把握しているか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

大変申し訳ありません。ちょっとそちらの部分については、特段、事例を把握しておりませんので、また、今お聞きした部分を含めて、今後ちょっと確認をしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

高森、草村町長が、地方創生で漫画のシリコンバレー構想を打ち上げまして、出版社と官民連携をして、そういった中で教育委員会から反対されたそうなんですが、それを押し切って設置して、実際こうやって結果を出して、今、海外からも今そういった構想で外国人の漫画家の方も招致して、そういう国際キャンプみたいのを作って、エンタメ業界を世界に発信していって、新しい業界をつくって、そういったニーズをつくっていくということも、高校出たら、もうプロの漫画家としてもデビューできるようなぐらいの勢いで、しっかり出版社の方と、あと漫画家と連携して、進んでいるという好事例だと思いますので、また、ぜひ検証していただきたいと思います。

そういった中で、当市では、定員割れの状況が長らく続いておりまして、学級募集数の減につながる課題がありました。そういった中で、令和７年度は、高田北城高校、新井高校が、それぞれが

１級減になることから、ちょっと保護者からお聞きしたんですが、糸魚川高校への進路希望の状況で、定員の１倍をちょっと超えそうだというお声を聞きました。これまだ途中の意向調査中だと思うんですが、市内３高校の今現在の進路希望調査とか、地元から上越圏域に出ていく割合含めて、その辺把握されていれば、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市としては、現時点でそういった状況については把握はしてないという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

やはり１倍超えると、保護者の人から、今まで受験番号と名前だけ書けば合格するって言ってたお子さんが、これを聞いて勉強し始めたというところで、そういった副次的な効果もあるんですが、ある程度やっぱり１倍をしっかり超えて、魅力ある学校になってくということも大事ですので、今後、まだ１次、２次、いろいろな調査、以降あると思いますが、そういった関係もあって、逆に上越からこちらに、糸魚川に来る。特に直江津方面から来る可能性もありますので、ぜひ直江津方面も含めて、また糸魚川市内３校の周知、ＰＲ、また来てもらえるようにしていただきたいと思います。

続きまして、２、３に関連して、今までも、適時、当市で取組成果、地域の実情を、県教育委員会に伝えていただいたというところで、市内３高校を支援していく方向性は、お聞きさせていただきました。そういった中で、０歳から１８歳までの子ども一貫教教育の基本計画（第３期）においては、スクールミッションを含めて、新しい県立高校将来構想が大きく影響をしていくと思います。そういった中で、スクールミッションの策定を見ると、地元自治体の関係者と連携しながら策定するって書いてありまして、これが、令和５年１月から３月に市町村の意見を踏まえた修正を行ったと書いてあります。この策定に当たって、そういった連携とか協議、糸魚川市ではしたことがあるかどうか、ちょっと伺いたいんですが、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

３校のスクールミッション等については、学校要覧等にも記載されておりますので承知をしておりますが、こちらについて、公式に市のほうに何か照会があったということはございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

これね、県の通知なんですけど、スクールミッションの策定については、高等学校の設置者が、各学校や地元自治体の関係者と連携しながら策定するというのがあるんですが、ちょっとぜひそういった部分ではしっかりと、これ、校長先生が替わったとか、毎年度更新するものではないんですが、中長期において、もしそういう策定する機会があったら、ぜひ地元の意向とか、また学校とか、生徒さんが思い描くところの部分の、これ、スクールミッションで今後すごく大事なところなので、ぜひそういう協議をしていただきたいので、よろしくお願いします。

また、３校のスクールミッションを見ると、地域と協働した探求活動とか、あと郷土を育む社会に貢献するとか、地域に密着し、産学官連携により地域社会の発展に寄与する人材育成するとか、産学官連携の実施を通して地域振興と水産、海洋関連産業の発展に貢献する学校ということで、なかなかこのミッションを見ると、やっぱりなかなか統合、どっかを一つにするってなかなか難しいと思いますので、やっぱり今後はこの部分と先ほどの地理的条件だとか、様々な部分が関係したり、入学状況、卒業状況が関係してきますので、ぜひ今後も、適時、また教育委員会に行って、そういった情報交換をしていただきたいですし、先ほど教育長からいただいたコーディネーターの件でも、有識者会議で、もう有識者の方から、もうコーディネーターを全校に配置するべきだという意見があって、ちょっと僕は期待を込めてなんですが、当市の活動が県に伝わったり、有識者の方に伝わって、そういう議事録が出たんだなと思ってますので、そういう意味では、一つの今までの活動が実ったのかなという部分もありますので、ぜひそういった部分をまたしっかりと伝えていただきたいと思います。

続きまして、あともう一個、毎年度、学校で学校自己評価表の報告、ホームページ等で記載してるんですが、当市でもそれ、しっかりと把握されているかどうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

そちらについては、学校のほうで計画、また報告ということで記載をされているところでございますが、特段こちらのこども課、教育委員会のほうでは、そちらの内容について確認というか、そういったところはこれまでしていないという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

補足をちょっとさせていただきます。

評価の関係なんですけども、海洋高等学校、マイスター・ハイスクールの文科省の指定を受けまして、毎年毎年、１年ごとに生徒たちの変容の評価をしています。リテラシーというふうな分析を業者に頼んで、１年生は１年生のときに、入学当時、それからその年度末、２年生の初め、２年生の年度末、３年生の初め、３年生の終わりという形でもって、生徒がどのような形で、どのような分野で伸びているのかということを客観的にそのデータを分析された内容を、その会議のたんびに直近のデータを私どもに提供してくれています。その評価を受けて、教職員の研修を組んだり、また、取り組む事業の見直し・改善をしたり、生徒の落ち込んでるところはどこなので、どういう手だてをして前に進めていったらいいのかということで、先生方が、そのデータを真剣に受け止めて、職員会議、研修も含めて改善に向けて努力してるという内容については、もろにその評価を私たち関係者にも伝えてくれてるという部分については、私は大変うれしく思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

そういった部分、海洋高校のように、やっぱり市としても税金を投入して、人材投入して、そういった支援をする形で、やっぱりその成果とか結果にしても共有をして、それをさらに次の計画や支援の内容につなげていくということはすごく大事だと思うんで、これ本当すごく大事な内容なんで、ぜひ確認をしていただいて、今の支援の内容が足りてるのか不足してるのかとか、もし、もう今１つのステージが終わって、次のステージに行くんであれば、そういった支援の仕方もあるので、ぜひこれ、しっかりと共有をして進めていただきたいと思います。

また、続いて、先ほど、今の高校を核とした地域人材育成事業についてですが、令和４年度からということで、どうしても先ほどの地域おこし協力隊とか３年任期になってしまう部分で、そういった部分で今１つの節目、途中任期の方もいらっしゃるんですが、そういった部分と今後の今の新しい県立高校の将来構想の在り方が関わってまして、アンケートも取るということだったんですが、やっぱり庁内、行政としても今後とも、また違う展開をしていくかとか、あとコーディネーターも今５人になって、あと産学官コーディネーター１名の６名体制になってくると、ある程度やっぱり所管をしっかりするような、さっきのコンソーシアムと併せて、そういった部分が必要になってくるんですが、その点、次の展開は行政として考えてるかどうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

コーディネーターのほうを採用しまして今年６年目ということで、非常に今年度に入りまして、３高校ともコーディネーターの関係性が非常に、要は信頼関係が構築できてきたといいますか、よくなってきているというふうに思っております。市としましては、これまでどおり子供たちがそこで学びたいと思ってもらえるような、そういった私立高校の魅力化に、継続して取り組んでいきた

いというふうには思っておりますけれども、やはり県立高校というところもございますので、県ともしっかり協議をしながら、県、あるいはまた高校側もしっかり主体を持っていただいて、それに市がしっかり支援するというような形で、今後、また対応を進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

失礼いたしました。コーディネーターを採用して「６年目」と言ってしまったようですが、「３年目」の誤りでございます。大変申し訳ございません。失礼いたしました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

やはり任期が３年というとこで、どうしても、前も言ったんですけど属人的になるので、やっぱりそのノウハウとかが、引き継ぎがなかなか難しいと思いますので、ぜひそういった部分のことも採用とか、やっぱり継続していく的な、やっぱりしていかないと、３年ごとにまた人が代わったり、また新しい人が途中で入ったりという中では、なかなかやっぱり事業の構築とかチームの在り方も難しいと思うんで、ぜひそういった観点も含めて考えていただきたいと思います。

そういった意味で、今後、地方創生２．０も始まる中でそういった教育と関連した地域起こしも始まるんだと思いますが、先ほど、今のとこ政策監等考えてないということなんですが、今現在も教育委員会でもいろいろな課題があって、もう人手不足だったり多重の業務がある中で、そういった、また新しい部分を進めていく、また地方創生していくとなると、また教育委員会の中だけではなくて、他の庁内とか関係団体とか、またそういった関連のところと連携しなきゃいけないという仕事はなかなか難しいと思うんで、やっぱり外部から招聘して、それをしっかりと、先ほどのコーディネーター含めて、一緒になって運営していくという担当官が必要だと思うんですが、直近で、すぐにとは言いませんが、今後の中で、ぜひ設置いただきたいと思うんですが、改めてその見識を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

地域と高校に結びつけるというような形で、今現在、高校魅力化コーディネーターのほうを採用して配置をさせていただいております。先ほど申し上げたとおり、今年度、非常に高校との関係性がスムーズになってきたというふうに思っておりますので、先ほど市長答弁のとおり、そういった政策監の配置については、なかなか人材といったところも重要になってくるので、現時点では考え

ていないというところであります。今現状の取組を、もう少ししっかりと足元を固めるような形で進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

それでは、次の質問で、（６）の公営塾の開設に向けた取組についてですが、今のところ自習室というところで進めるということだったんですが、現在、インフレとか物価高騰、実質賃金の低下と併せて、子育て世代における教育にかかる経費について厳しい状況が続いていると捉えています。また、保護者の経済状況によって、学びの機会とか進路選択が限られている状況を何としても打破、解決していかなければならない喫緊の課題と考えます。また、指導者の成り手不足とか、通信オンライン塾の普及などで、中央通りにある大手学習塾の撤退も相次いでいます。そういった中でも、あと、地域の魅力化につなげる拠点としても、公営塾というのは機能すると考えるので、ぜひ今後、展開に向けて、来春以降でもいいので、ぜひ積極的に開設に向けて進んでほしいと思いますが、改めて、その見解をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

公営塾という形は、全国様々なところで開設をされておりまして、その内容というのは、例えば進学に特化したものであったり、地域を教材とした探求学習を行ったりというような形で様々にあるかなというふうには思っています。今現在ですけども、市内には民営の、民間の塾というのが複数ある状況もございますので、現状では、自習室という形で開設をして、取組をさせていただいておりまして、また今後、学校の要望も踏まえて対応していくんですが、基本的には、まだ自習室という形での対応を考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

これ、先ほどおっしゃったように公営塾の在り方いろいろあるんで、ぜひ、僕は地域探求とか総合探求の拠点としての公営塾でいいと思うので、普通の基礎学力を上げるとか、特進クラス狙うための塾じゃなくて、そういった意味の公営塾の拠点、名前の言い方がちょっとね、あれなんですが、そういった誤解のないように、民間事業の人とね、競争するわけではないんで、そういったある程度特化したものがやっぱり、これだけ３校とも地域協働が進んで、そういった成果が出てるので、やっぱりそういった、逆に３校の子供たちやコーディネーターが一緒に集まるような拠点と、そう

いった場が必要だと思いますので、今後とも検討していただきたいと思います。

最後になりますが、やっぱりこの問題を地方創生としっかりとつながってまして、１９９９年に地方分権一括法の成立で、国と地方が対等な関係になりまして、２００３年、三位一体改革で地方が自由に使える一般財源の割合が増えました。また、２０１４年には、地方創生推進交付金が創設され、今日に至っております。

そういった中で石破総理大臣は、地方創生の交付金を倍増を目指す。自治体に、ただ、反省もありまして、自治体に総合戦略を出してもらったら、東京のコンサルティング会社に頼む自治体が続出したとか、なぜ人口が減るのか霞が関で分かるはずがない。自分たちで考えない限り答えはないとおっしゃってますし、先ほどの片山総務大臣も、自ら考え、自ら行動する、国任せにしない。自分たちの地域の将来の課題は何か、将来どうすべきか、それには何が必要で何が足らないのかを教育委員会、役所のみならず、地域住民、産業界が一緒になって考え、自ら率先、行動することが必要とおっしゃっています。

ちなみに、１２月１５日の県立高校の将来構想の説明会は、市民周知されているかどうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市のほうでは、特段、周知活動を行ってはおりませんけれども、県のホームページのほうで公開、周知をされているというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

加藤議員。

○８番（加藤康太郎君）

子育て世帯も特に関係するので、ぜひＬＩＮＥで周知のほうをお願いしたいと思います。

ひいては、この活動が、糸魚川市の持続可能なまちづくりに向けた、自分たちの地域は自分たちでつくるという気概を持って、そういった説明会の参加によって、地方２．０の端緒につながることを切に願いまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（保坂　悟君）

以上で、加藤議員の質問が終わりました。

本日は、これにとどめ、延会といたします。

大変お疲れさまでございました。

〈午後４時２５分　延会〉

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

議　　長

議　　員

議　　員

令和６年第４回定例会会議録

第４号（１２月１０日）

令和６年第４回糸魚川市議会定例会会議録　第４号

令和６年１２月１０日（火曜日）

議事日程第４号

令和６年１２月１０日（火曜日）
〈午前１０時００分　開議〉

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　一般質問

本 日 の 会 議 に 付 し た 事 件

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　一般質問

〈応招議員〉　１８名

〈出席議員〉　１８名

１番	利根川　正　君	２番	阿部裕和　君
３番	横山人美　君	４番	伊藤　麗　君
５番	保坂　悟　君	６番	田原洋子　君
７番	渡辺栄一　君	８番	加藤康太郎　君
９番	東野恭行　君	１０番	和泉克彦　君
１１番	田中立一　君	１２番	松尾徹郎　君
１３番	宮島　宏　君	１４番	中村　実　君
１５番	近藤新二　君	１６番	古畑浩一　君
１７番	新保峰孝　君	１８番	田原　実　君

〈欠席議員〉　０名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長	米田　徹　君	副市長	井川賢一　君
総務部長	大嶋利幸　君	市民部長	渡辺　忍　君

産業部長	五十嵐　博文君	総務課長	嶋田　猛君
企画定住課長	中村　淳一君	財政課長	猪又　悦朗君
能生事務所長	高野　一夫君	青海事務所長	仲谷　充史君
市民課長	川合　三喜八君	環境生活課長	木島　美和子君
福祉事務所長	山岸　千奈美君	健康増進課長	林　壮一君
商工観光課長	大西　学君	農林水産課長	星野　剛正君
建設課長	長﨑　英昭君	都市政策課長	内山　俊洋君
会計管理者 会計課長兼務	山田　康弘君	ガス水道局長	山口　和美君
消防長	竹田　健一君	教育長	鷭本　修一君
教育次長	山本　喜八郎君	教育委員会こども課長	室橋　淳次君
教育委員会こども教育課長	古川　勝哉君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務	磯貝　恭子君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ケ原考古館長兼務 市民会館長兼務	嵐口　守君	監査委員事務局長	陶山　智君

〈事務局出席職員〉

局長	磯貝　直君	次長	伊藤　伸一君
係長	水島　誠仁君		

〈午前１０時００分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（保坂　悟君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、４番、伊藤　麗議員、１３番、宮島　宏議員を指名いたします。

日程第２．一般質問

○議長（保坂　悟君）

日程第２、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。　〔２番　阿部裕和君登壇〕

○２番（阿部裕和君）

おはようございます。

みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき、１回目の質問をさせていただきます。

１、未満児保育の体制について。

(1) 未満児保育対象者のうち、未満児保育を希望される件数及び割合と受入れ状況について、ゼロ歳児、１歳児、２歳児それぞれお聞かせください。

(2) 希望する保育園に入園できない事案がありますが、そういった保育園は何か所あるのか、入園できない理由も併せてお聞かせください。

(3) 希望する保育園に入園できない事案が起こっていることについて、市としてどのように考えておられるか、見解をお聞かせください。

(4) 保育士確保へ向けた取組をお聞かせください。

(5) 保育士の業務改善へ向けた取組をお聞かせください。

(6) 保育所等の民営化の検討（あり方検討）の進捗状況をお聞かせください。

２、特別養護老人ホームの存続について。

市内には公設民営でスタートした４つの特別養護老人ホームがあり、１１月１３日に開催された市民厚生常任委員会、委員会協議会では各法人・施設の理事長、施設長と現状と課題について共有することができました。

その中で、施設整備の課題、職員に関する課題、経営に関する課題と、大きく分けて３つの課題を抱えていることが分かりました。

これまでも市は各施設に対して支援をしていますが、介護現場を取り巻く状況は今後さらに厳しくなる見通しであり、このままサービスを提供していくことは困難になることが予想されます。

委員会協議会の中では、法人理事長より、今後「統合」についても考える必要があると話がありました。

特別養護老人ホームはついの住みかとしての役割も果たしており、介護を必要とする方が安心して生活できる環境を提供することは、家族の負担軽減にもつながり、生活を送る上で、双方にとって大きな安心感につながるものと考えています。

運営は社会福祉法人でありますが「市民の生活を守る」という点では、市も一緒になって取り組んで行く必要があると考えますが、これから市としてどんなことができると考えているか伺います。

３、書かないワンストップ窓口の推進について。

(1) 窓口業務改善に向けた取組の中で、窓口ＢＰＲアドバイザーを派遣し、改善を図られましたが、どんな内容であったか、また効果はいかがだったかお聞かせください。

(2) ＤＸ推進は推進リーダーが中心となって進めているところですが、業務フローや効率性の向上など、業務改善につながる変革はあったかお聞かせください。

(3) お悔やみコーナー（お悔やみワンストップ窓口）設置後の手続等で生じたメリット、デメリットについて、利用者側、職員側それぞれお聞かせください。

(4) 出生ワンストップ窓口設置に向けた試行実施で見えてきた課題をお聞かせください。

以上１回目の質問です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

おはようございます。

阿部議員のご質問にお答えいたします。

１番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

２番目につきましては、喫緊の対応といたしまして、引き続き、物価高騰や介護職員の確保に向けた支援を実施してまいります。

また、中長期的な対応としては、施設の老朽化対策や要介護認定者の推移を見据えた適正な定員及び施設規模の検討、業務連携や統合等における法人間の協議に市も参画する中で、施設サービスを確保してまいりたいと考えております。

３番目の１点目と２点目につきましては、証明発行、お悔やみ、転入届の３つの手続について、窓口の現状を職員が市民目線で体験することで、書類に記入する箇所が多いことや案内表示や窓口レイアウトなど、改善が必要な点を確認いたしております。

今後は、申請書の統一や申請一覧等を作成するなど、業務改善も含めＤＸの推進を図ってまいります。

３点目につきましては、予約制のため待ち時間がなく、１か所で手続ができるメリットがあり、職員にとっても事前準備ができることから、さらなる利便性の向上に努めてまいります。

４番目につきましては、受付環境などの課題がありますが、実施に向けて検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷭本教育長。　〔教育長　鷭本修一君登壇〕

○教育長（鷭本修一君）

おはようございます。

阿部議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、６年度の未満児保育希望者は、ゼロ歳児７３人、１歳児１１４人、２歳児１４１人であり、申込みのあった全ての未満児を受け入れております。

また、学年別の入園割合は、ゼロ歳児で５７％、１歳児で７９％、２歳児で８３％となっております。

２点目につきましては、６年度、定員を超過した園は、２園であります。

利用定員を超えて申込みがあることと保育士の確保ができないことから、第２希望等のほかの園の利用をお願いしております。

３点目につきましては、待機児童を出さないためにも、他園への入園調整を行うことは、やむを得ないものと考えております。

４点目につきましては、６年度から始めた保育士等修学資金貸与事業により、当市で保育士として働きたい学生への支援を行っているほか、保育指導支援員による定期的な訪問等を行い、働きやすい環境づくりに努めております。

５点目につきましては、全体で事務員を２人配置し、負担感のある事務の見直しや効率化などを進めております。

６点目につきましては、私立園を運営する社会福祉法人の理事や公立園保護者会の役員との懇談会を行ったほか、民営化の先進地視察を行っており、今年度中に基本方針を策定し、公表する予定としております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

ありがとうございました。未満児保育を希望する方っていうのが多くおられることが分かりましたが、お子さんが１歳を迎え、親の育児休暇が終わるタイミングで希望がやっぱり多いんじゃないかなというふうに考えています。毎年この時期になると、市民の方から希望する保育園に入れないというようなご相談を受けます。その都度、担当課に相談しているんですけれども、なかなか解決までには至っていないという状況であります。第１希望、第２希望の保育園に入園できないということが多々あるかと思いますが、今ほど２園というようなお答えがあったんですけれども、どこの園なのかというのと、第１希望、第２希望に入れないというのは、結構多いのかというのをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

おはようございます。

お答えいたします。

待機児童といいますか、入園が第１希望、第２希望の園に入園できない例といったところでは、やはり市内では、やまのい保育園、糸魚川東保育園、こちらのほうが未満児の入園希望というのが

多い状況がございまして、今年度、昨年度で、大体２０名ぐらいの方に入園調整を図って、別の園にというお願いをしたりというようなことで調整をさせていただいているといったところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

入園できないというのは仕方ないというふうに、やむを得ないというようなお考えをお聞きしたんですけれども、本当にやむを得ないのか、実態として、青海地域、また糸魚川の駅周辺にお住まいの方から、本当に先ほど２園というお話だったんですけれども、近隣の園は全て駄目だ。能生なら、能生の地域の保育園なら受入れできるという状況で、それで、入れずにやっぱり能生まで行くというのは本当にしんどいということで、諦めて育休を延ばして、自分で子供を見たというケースもあるというふうに聞いてます。今ほど待機児童ゼロというふうにおっしゃったんですけれども、そこら辺、どうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

近年、未満児、特にゼロ歳児の入園というのが、その希望が大きく増えているという傾向がございます。先ほどもお話ししたような形で、入園の調整というのは、各家庭の状況を把握させていただきながら、選考基準等で優先順位をつけて調整をさせていただいております。保護者の方にご相談、お願い等をさせていただきながら進めさせていただいているというのが実態であります。こういった状況が、決していいとは思っておりませんので、市としてもなるべく改善できるような方向を考えていきたいと思っておりまして、やはり職員配置、人材確保という点では、将来的な人材確保というようなことでの、今年度からの修学資金の貸与制度等も実施させていただいて、対応させていただいているといったところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

全員が全員希望する園に入るというのは、本当に難しいことだと思いますが、青海地域であったり、能生には園が多いというのも一つ理由なのかと思うんですけれども、市内の人が、市内というか青海地域であったり駅周辺の方が、能生まで行って、職場が、旧糸魚川市内というようなのは、やっぱり改善していかなきゃいけないと思うんですけれども、そこら辺はいかがお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

先ほど申し上げましたとおり、なるべく改善はしていきたいと思っております。今進めております、検討を進めております保育園のあり方検討等も含めて、そういったところを改善していけるように検討は進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

こういった事案というのは、もう何年も前からあったかと思うんですけれども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

やはり、未満児保育の入園希望が増加してきている中でこういった事案が発生してきていると思っております。何年も前からということで、特にいつからということでの統計は取っておりませんのでちょっと明確にはお答えできませんけれども、こういった状況、入園調整をお願いしているという状況は、以前からございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

先ほど検討していきたいというふうなお話あったんですけれども、ぜひ検討していただきたいんですけど、何年も、多分前からあるというふうに私、聞いているんですけれども、解決に向けた検討というのは、今までされたのか、それとも仕方ないというふうに受け止めていたのか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

入園申込みの状況というのは、先ほど未満児の希望というのは増えている傾向があるということでお話はいたしましたが、その年その年によって様々であるというふうには思っております。本当

に近年、そういった入園調整の数は、ここ２年ほどでかなり増えてきているなというような状況はございますが、それ以前にも、数はそれほど多くなかったかもしれないんですけれども、状況があったということで、本当に近年になりまして、そういった状況が顕著に表れてきているかなというふうな認識でおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

親としたら、本当に大変な課題だというふうに考えておりますので、ぜひとも、仕方ないというような、やむを得ないというようなこともちろんあるかと思うんですけれども、親の立場になって、ぜひとも考えていただきたいというふうに思います。

こういった相談もありました。育児休暇中に仕事を探され、子供が１歳になるタイミングで正規社員として勤務をする予定であったが、子供が、希望するところに入園できず、先ほどの件ですね、会社側も積極的に担当課に掛け合ったんですけれども、調整が大変難しかったというふうにお話聞いております。

現代社会において、子供を育てていく上で金銭的余裕がある家庭は少なく、夫婦共働きは当たり前、さらには夫婦ともに正社員で働かなければ生活していけないという苦しい現実が、実際にあります。また、働き手不足の課題もある中、当市においてこういった事案をなくしていかなければいけないというふうに考えますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

お答えいたします。

大きな課題だと、私どもも受け止めております。社会の変化によって、保護者の考え方が変わったり、保護者が子供たちを預けるというふうな部分のところの思いや願いが高まってるというな状況等も、数値の変化から見ても明らかになっております。でき得る限りで保護者のニーズに応じた、受入れ環境整備については、やっぱり大きな方向性を持って進めていかなければならない大事な要素だと思います。１人でも２人でも第１希望、第２希望の中にしっかりと落ち着くような環境づくりはどうあるべきなのか、先ほど課長からも答弁がありましたように、あり方検討というふうな部分の中に、そこら辺りをうんと加味した形でもって検討を進めていく、その方針を今年度末までに出していきたいというふうな構えでおりますので、今ほどのご提言、あるいは保護者からの貴重なご意見、十分に酌んだ形でもって、これから作業のほうを進めてまいります。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

第１希望、第２希望に入りたいというのはもちろんそうだと思うんですけれども、それは入れないで仕方ないことだとしても、やはり１０キロ離れた園に朝送っていって、また戻ってきて仕事に行くというのは相当な苦労だと思いますんで、ぜひともそこを、第１希望、第２希望に入れてくれってことじゃなくて、そういう子育て環境をしっかり整備していってほしいというふうな思いですので、よろしくお願いします。

続きまして、公立園、公立保育園、民間保育園において、未満児保育に関わっている職員の有資格者、無資格者、それぞれの人数を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

公立園のほうで未満児保育に関わってる職員といたしましては、有資格が３４人、無資格が１７人となっております。民営の保育園につきましては、大変申し訳ございませんが、統計的に把握しておりませんので、お答えできません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

ありがとうございました。

民間の保育園では、無資格の方に対して、子育て支援員の資格を取ってもらうという動きがあるようです。決して無資格者の仕事に問題があるというふうには申しませんが、親とすれば、ある程度、専門的な知識がある先生に預けたいと考える方が多いのではないかというふうに思います。国家資格の保育士の資格取得よりもハードルが低く、資格を取得しやすい子育て支援員の存在は、糸魚川市の保育の質を上げることだけでなく、親の安心感にもつながるというふうに考えます。今働いている方のスキルアップのためにも、子育て支援の有資格者を増やしていくというのは、いい取組かと考えますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

子育て支援員につきましては、保育士等の資格をお持ちでない方でも、研修を受けるだけで支援員となることができるということで、例えば学童保育とか、そういったところで従事する職員の方に研修等も受けていただいたりしているというふうに認識しております。

今、議員ご提案の趣旨、ごもっともだというふうにも思いますので、当市は、先ほどお話ししたとおり、無資格の職員もかなりの割合で勤務をしておりますので、またそういったところも検討し

てまいりたいというふうに思います。ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

よろしくお願いいたします。

続きまして、公立の保育園、また幼稚園、民間の保育園において、職員離職の実態について調べたことはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

特段調べたということではございません。民間の離職状況というのは、特に把握はしておりません。公立の職員に関しましては、直近の状況で申し上げますと、令和５年度に２人、４年度に１人、３年度に４人ということで退職をしているといったような状況がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

公立のほうはもちろん把握してると思うんですけど、先ほど、今までの答弁をお聞きしますと民間のほうは、ちょっと分からないというような答弁が多いんですけど、糸魚川市の子供、これからを担う子供たちというところでは、やっぱり情報共有していったほうがいいんじゃないかというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

民間の保育園の皆さんとは、定期的に園長会議等でも懇談をさせていただく機会がございますので、情報として教えていただけるかどうかといったところも含めて、今後ちょっとご相談させていただければというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

民間の園では、そこで育った子供たちが小学生や中学生になっても、懐かしんで、保育士や園を訪ねるというようなお話もお聞きします。このような環境こそが、子供たちの精神的な成長を助け、当市が掲げる０から１８歳までの一貫教育というのにふさわしい一面であるというふうに考えますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

やはり民間の保育園ですと、一度そちらのほうで就職しますと、ずっとそちらの園にいるという形、ただ、公立保育園のほうは定期的な人事異動もあって、今、議員おっしゃるような形での、お子さんが大きくなってから、また戻ってきても、園にその保育士がいるかどうかというところはちょっと定かでない部分というのもあるのが実態だというふうに思っております。公立園での人事異動をどうするかというところの課題もございます。

ただ、議員おっしゃるような形で、子供たちの心を豊かに育んでいくという点では、そういった部分の視点も必要だというふうに思っておりますので、今後ちょっと留意していきたいというふうに思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

お願いいたします。

（４）保育士確保に向けた取組について、保育士の確保も課題ですが、今現場で働いている保育士、特に若手の職員に対して離職を解消していかなければならないというふうに考えております。離職についても課題であると捉えてはおられるかと思いますが、もう一歩も二歩も踏み込んで、抜本的な改善が必要と考えますが、これからどのような対応・展開というのを考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

離職についての対応といったところでは、今現在も保育指導支援員を園のほうで巡回というような形で回っていただいておりまして、週に２園程度、回っていただいているんですが、そちらのほうで現場の状況をつぶさに見ながら、保育士の支援等もしていただいております。そういったところも含めて、今後ちょっとまた、なるべく働きやすい職場になるような、事務改善といったところも１つに上げられるかと思っておりますが、そういったところもできるところから進めていきたい

なというふうには思っているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

保育士の成り手不足というのは、看護師であったり介護士というと、同レベルで深刻な状況であるというふうに考えております。今年度より、保育士等修学資金貸与事業というのが開始され、今までよりも保育士確保に向けて取り組んでいるというところであるんですけれども、介護士や看護師に比べて、やはり保育士への人材確保メニューというのが少ないというふうに思います。

先日、昨日か、東野議員の中にもありましたけどＵＩターンの対象者を見ても、看護師、介護士というところが優遇されている状況でした。支援メニューを増やしたところで、人材確保に直接つながるという保証はないんですけれども、枠を広げて、看護・介護と同等の支援を展開していくということが必要なんではないかと私は考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、介護とかの職員に比べて保育士の部分のメニューは少ないなというふうには認識しております。今年度から、保育士の修学資金の貸与事業を始めさせていただきましたが、これまでに４名の方から申請をいただいております。また、今後もほかのメニュー、例えば県内の他市では、保育士の資格試験の受験料支援なんかも始めたというような例も聞いておりますので、そういったところも参考にしながら、支援メニューについての検討は進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

ぜひとも支援メニューを増やして、増やしたところでというのも思うんですけれども、やっぱり幼少のときから保育士に触れたり、保育士の仕事に触れたり、介護もそうですけど、やっぱり小っちゃいときに触れる、そこが、今糸魚川市は中学３年生にキャリアフェスティバルをやっておられるんで、そういうのをしっかり展開していっていただければというふうに思います。

また、当市でも介護事業所に対しては、実態把握のために年に１回アンケート調査というのを事業所に対して行っているんですけれども、保育所では、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

保育所の関係については、特にアンケート調査といった形では行っておりません。

ただ、先ほどもちょっとお話し申し上げましたが、月に１回、私立の園長会議等がございまして、そちらのほうにも同席させていただいたりということで情報交換は行っておりますので、また、アンケート、ご提案のアンケートといったところも、また相手方にもお話しする中で、必要かどうかというところも検討してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

今後のあり方検討とかも進んでいく中で、実態として、しっかり記録に残るようなものも必要じゃないかなというふうに思いますんで、ぜひとも民間の保育園の人たちとも協議を進めていっていただきたいというふうに思います。

次に、（５）業務改善についてであります。

今ほど事務作業というところありましたけど、保育園のＩＣＴ化というのも一つ重要なことじゃないかなというふうに考えます。

糸魚川市でのＩＣＴ化というのは、どの程度進んでいるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

園の職員に対して、業務改善ですとか、負担感等のアンケート調査を実施いたしまして、そういったものをまとめる中で、改善可能と思われるような項目を選定して、例えば今、保護者アンケートの電子化ですとか、記録簿等をデータ化するなど、少しずつ、できるところから取り組んではいるんですけれども、なかなか進んでいってないというのが実態だというふうにも思っております。

ＩＣＴ化は、非常に効率化が進められるとは思っておるんですけれども、現場の保育士の負担軽減、実際、利用する側の職員の、また理解、対応といったところも必要になってくると思っておりますので、現場のほうともしっかりと話をしながら、できるところから進めていきたいというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

今ほど室橋課長からあったとおりだと思います。現場では、なれ親しんだ方法を、やり方というのを変えるというのに抵抗がある方も多々あるというふうに思いますし、そういうふうに聞いておりますが、今後を見据えたときに、やっぱりＩＣＴ化というのを進めて、１回覚えれば、本当に効率が上がっていくことだと思いますんで、ぜひともそういったメリットをしっかりと現場に対して打ち出していくことで理解を得ていただいて、本当に現場と話し合いながらになると思うんですけれども、着実に進めていっていただきたいというふうに思います。

次に、あり方検討についてお聞きします。

保育園の民営化、適正配置についての進捗状況というのを詳しくお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

５年度からあり方検討ということで進めさせていただいておりますけれども、令和５年度に研修会のほうを開催いたしまして、今年度６年度は、私立園の理事の皆さんですとか、また、公立保育園の保護者会の役員の方と懇談、あるいは意見交換というふうな形で行わせていただいております。また、民営化の先進地視察等も、こども課の職員が行って、研修をしてきているといった状況もございます。

今日のご質問の中にもあるように、少子化が進む一方で、未満児保育というところも非常にちょっと増えてきているといったような状況で、様々なそういった保育ニーズというのがあるというふうに思っておりますので、そういった中で、子供たちの発達段階に応じた質の高い教育・保育の提供と、また持続可能な園運営といったところを視点に持ちながら、園のあり方検討というのを考えているところでございます。

先ほど教育長からお話あったとおり、今年度中にその方針を定めたいということで、また、今会期中の総務文教常任委員会のほうに、方針案のほうをお示ししたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

今まで上げた課題、特に預けたい園に預けられないというような親のニーズに応えられていないという現状を課題として捉えて、ぜひともそのあり方検討であったり、適正配置の中にしっかり組み込んで議論を進めていっていただきたいと思うんですけれども、そこら辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

適正配置という部分での具体的な議論ということになりますと、あり方検討の方針がしっかりと定まってから、その後、具体的なお話というふうになっていくんじゃないかというふうに思っております。持続可能な園運営という点で、今後もちょっとしっかりとそういった適正配置といったところも含めて、在り方を考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

適正配置の話につながることなんですけれども、保育園だけでなく、教育全般に関わることで、ちょっと教育長に答弁いただければと思うんですけれども、子供の成長を第一に考えたとき、社会性や協調性、コミュニケーション能力を養っていくためには、ある程度の人数がいる集団生活の中で、育って成長していくということが私は重要なんじゃないかというふうに考えますが、市としてのビジョンが、まず１個、今までのいろんな方の一般質問の中で地域と話し合いながらって、地域のもちろん考えも重要なところだとは思うんですけれども、ぜひ糸魚川市としてはどう考えているのかというところをお答えいただければ。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

お答えいたします。

日々成長する子供たちにとって、どういう育ちや学びの環境が大事なのか。今ほど阿部議員さんがご指摘されたように、ある程度の集団、その中で培われる社会性、コミュニケーション能力、いろんな人がいるんだ、いろんな仲間がいるんだということを学べるのも、ある程度の集団が必要です。そこら辺りのところの環境についての整備は、大変大事な考え方の一つです。

ただ、じゃ少人数だから駄目なのかということでもない部分も、私は可能性としては十分にあり得るというふうに考えてます。じゃあ、小集団になった場合はどのようにカバーしていくかと考えたときに、やっぱり交流とか連携とか、やっぱり協働の場面をどうやってつくっていくかという考え方も一つの方向性としては、課題解決の一つにはなり得るというふうに考えています。

糸魚川市の場合については、距離的な面とか、やっぱり立地条件とか、地域が歩んできた内容とか、やっぱり総合的に考えなければいけないというふうに考えてます。そうなってきたときに、地域づくり、地域コミュニティをどういうふうにつくっていくかという中に、子供を真ん中に据えていく。子供の育ちや学びの環境をどうやってつくっていくかという中に、地域が一体とならなければ、すばらしい環境にならないと私は考えてます。ですから、慎重に進めるということは大事なことなんですけれども、やはりある程度の人数というふうなことについては、大きな要素だと私自身は考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

お考え、受け止めました。ありがとうございます。

次に、令和８年度から本格的に実施される予定のこども誰でも通園制度が始まれば、両親が働いている世帯でなくても、誰もが保育施設を利用できるようになります。ですが、新たに受け入れる子供の増加、慣れない環境で泣いてしまい、その対応に追われるなど、保育現場では、保育士への負担がさらに増すことが容易に想像できます。保育を希望する家庭が増えたとしても、保育士がいなければ預けられません。人員配置、適正配置の検討をし、子供を安全に受け入れる体制を整えなければなりませんが、現時点ではどのような議論が進んでいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こども誰でも通園制度につきましては、議員おっしゃるとおり、令和８年度から全国的に実施ということで、県内でも既に幾つかの市では試行実施というようなことでお聞きしております。

ただ、利用時間が、園児１人当たり月１０時間を想定というようなことで、なかなかやっぱりその利用が進んでいくかどうかというところは、県内で既に試行実施しているところの状況を見ても、あまり利用がないといったようなお話も聞いております。現在対応している一時保育で対応できる部分も多くあるのではないかとは思っておりますが、令和８年度から実施するという方向では、市のほうも検討を進めているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

令和８年度から始めるときに、出生がどのぐらいかというのも予測立てて、どのぐらいの、始まってみないと分からないところですけど、例えばゼロ歳児が５７名でしたっけね。五十何名という中で、それほど出生に変化ないかと思うんですけど、何人ぐらい受け入れられる体制で整えていこうというふうに考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今現状では、先ほどお話をしましたとおり、それほど多くの方が利用されるという想定では考えておりません。実施する園につきましても、市内全ての園で実施するということではなくて、幾つ

かの園で実施するというようなことで検討しておりますので、実際の運用が始まった状況の中で、また検討はしていかなければならないとは思っておりますが、今現時点では、それほど多くの利用はないのではないかというふうに考えているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

子供を預けたいという親が実際に現れたときに、希望する園、全部の園でやるわけではないというふうにおっしゃったんですけど、それこそ希望がないような園でやって、実際に運営を始めて、希望者がいなかったというようなことがないように、ぜひともお願いしたいというふうに思います。

子供の成長において、先生や保育士、それぞれが持つ個性豊かな感性を表現できる環境をつくり、園全体で子供たちの成長を見守り、保育士の団結力、同心協力の思いを高めることが大切であるというふうに私は考えます。公立の園では、数年で異動があり、民間の園では、そこで長く勤められる環境であります。こういったところで、公立と民間との間で、少なからず影響が出ているというふうに思います。０から１８歳までの一貫教育の中で、スタートである保育園が最も大事な時期だというふうに捉えています。子供たちが伸び伸びと成長でき、親も安心して預けられる環境の確保のために、引き続きご尽力いただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

続きまして、２番、特別養護老人ホームのほうに移ります。

施設整備の課題では、施設整備から４０年以上が経過し、それに伴い、老朽化・経年劣化が進んでいる施設もあり、各施設においては、今後、修繕や更新が必要な施設もあり、修繕費の捻出に苦慮されているところであります。協議会の中では、今後、統合も視野に入れていくというふうな考えの発言がありました。これから法人間で協議が進むことだと思いますけれども、今後、市として具体的にどのように関わっていくか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

おはようございます。

お答えいたします。

今ほどの今後の市の関わりということでございますが、まず、短期的な対応としまして、国・県への要望活動が、まず必要、継続して必要というふうに考えております。こちら国・県の大規模修繕に対する補助メニューなんですが、要件というものが高いハードルがございまして、こちらの要件の緩和を継続して要望をしていきまして、修繕費の負担が軽減されるように働きかけていきたいというふうに考えております。これが短期的対応ということで、中長期的な対応として考えますと、こちら今ほどお話がありました、特に法人の統合や業務の連携ということでございますが、そちらに関しましては、先日の委員会の協議会におきましても、法人側のほうから、まずは法人間で方向性を定めた上で市に相談したいというお話もございましたことから、まずはこのような相談を受け、

そして、話合いの場が設けられたときには、こちらのほうは市のほうも参加させていただきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

補助メニューの枠を広げるというか、それは、市単独で要望されているんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

市の単独ということではございませんで、いろんな団体を通したり、後は市長会等を通しまして、組織として要望活動をしているということを現在も行っておりますし、今後も継続していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

ありがとうございます。

職員に関する課題であります。職員の年齢構成がだんだん上がってきて、人材確保についても、応募しても、ほとんど募集が来ない。で、今後さらに職員の高齢化というのが進み、人材不足というのが深刻化していくことが予想されます。現在も確保に向けていろいろな施策を展開されていますが、評価・見直し、今後の展開について、お考え、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

人材確保の厳しさというところは、今、議員ご指摘のとおりでございまして、実際、一例としまして、修学資金の貸与事業の利用者につきましても、昨日の市長答弁、東野議員さんの答弁でもございましたけれども、利用者がここ２年ほどないという厳しい状況もございます。この制度だけということではございませんけれども、この制度の見直し、改めというところ、利用効果がない事業については、思い切って廃止して、新たな制度を考えるというところも視野におきまして、随時、見直しをしてまいりたいと思っておりますし、また、県のほうでもいろいろなメニューを設けておりまして、そういった県の施策というところも一緒に連携、整合性を図りながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

よろしくお願いします。

人材確保で、先般、上越市の社会福祉協議会とベトナムの日本語学校との間で、協力体制の取決めを締結され、令和８年から５年間にわたり、同校の生徒を毎年５人ずつ採用するという報道がありました。

先日の協議会の中でも、事業所側から外国人の採用についても話がありましたが、当市として何か動きはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

当市としまして、新たな動きということはございませんが、現在、介護事業所の人員アンケートというところを確認させていただきますと、正職員、パートを併せまして、令和６年度は、外国人の方の数は１５人というふうになっております。こちらは前年度、令和５年度と比べまして、５年度が６人ということですので、２倍以上の増というふうになっております。

先日の協議会の中でも、こちらの外国人の方の雇用というところの話題もあったところなんですけれども、こちら結婚されて、もともと市内にお住まいの外国人の方も含まれているということでございまして、今ほど上越市の例でございました、技能実習制度を利用して、海外から来ている人材というところは、まだ少ない状況というふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

そういった状況の中で、今後どういう取組をお考えか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

この技能実習制度の受入れというところになるかと思いますけれども、事業所側にノウハウがまだないということも大きな課題というふうに捉えております。現在、県が実施しているセミナーだとか、市のほうでも実施している、こちらは介護人材だけにもかかわらずということなんですが、

外国人雇用支援アドバイザーによる相談窓口ということも設置されておりますので、こういったところを事業者様のほうにも、引き続き周知をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

事業所と一緒になって取り組んでいっていただきたいというふうに思います。

市がやってる事業について、ちょっと細かいところなんですけど、未来をつくるｋａｉｇｏ人材育成事業、この事業の目的と今まで行ってきた事業内容とその成果について、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

まず、目的というところですが、職場環境の改善と意識啓発リーダーの育成により、介護人材の定着を図るというところを目的としております。

内容と効果というところになりますけれども、この事業の内容としては２つございまして、１つ目は、介護カフェ事業というところで、ワークショップの開催によりまして、それぞれ各異なる事業所の介護職員が、悩み、課題等を共有しまして解決方法を図るというワークショップを開催しまして、モチベーションの向上だとか職場環境の改善を図るというところを狙っている。そういった内容になっております。

もう一つにつきましては、市内の中学校における出前講座の事業がございます。こちらのほうは、このワークショップに参加いただいた事業者の職員様も協力いただいております。こちらのほうは、生徒の皆さんに介護の仕事の内容とか魅力、イメージアップというところで、いろいろお伝えをさせていただいております。

この事業の成果としましては、事業後のアンケートを見ましても、多くの生徒の皆さんから、介護のイメージが変わっただとか、あと、アンケートでは興味ありというところを聞いているんですけれども、こちら回答も、事業前後で４倍ほど興味が上がったと、興味ありという答えた方が４倍ほど増えているというようなアンケート結果もございます。

このような形で成果が得られているというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

中学生のほうに対しては、５年後、１０年後に結果がだんだん出てくることかと思いますので、根気強く継続していっていただきたいというふうに思います。

また、今ほどありました介護カフェのほうについて、お聞きします。

よりよい環境にするために、必要なこと、様々な気づきを共有したというふうに広報で紹介されていました。広報いといがわで紹介されていましたが、その中では、現場が抱える課題というのも意見が出たと思います。こういった会は、日頃の疲れを慰め合う会で止めるのではなく、そこで出た貴重な意見を受け止め、改善できるように市としてサポートしていける会になればいいなというふうに思っているんですけれども、ここで出た意見はどう扱って、今後、現場に対してどう反映していくものになるのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

先ほど申し上げましたように、まずはリーダー育成というところを大きな狙いとしておりますので、まずは、こちら参加された方々に各職場に戻っていただきまして、リーダーとしての役割を果たしていただくというところを期待しているところでございます。

具体的なところで申し上げますと、まずは、この現場で職場同士の話合いの場を、今度は現場で設けていただくということによって、現場の環境の改善、職員の定着につなげていくというところに期待をして、そのようにお願いをしているところであります。

また、現場ではそのように行っていただきまして、市のほうの関わりというところでお伝えさせていただきますと、カフェの話合いの場の意見の中でも、市の施策として対応が必要なものというのも見えてきている部分もありますので、こちらのほう、取りまとめをさせていただきまして、臨機応変に指導できるところということで対応させていただきまして、これもまた、介護人材の確保というところにつながっていければというふうに、この事業の見直しというところにもつなげていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

分かりました。よろしくお願いします。

経営面の課題について、今年度、介護報酬の改定がありましたが、職員の処遇改善や最低賃金の上昇、光熱費をはじめとした昨今の物価高騰に見合ったものにはなっていないというふうに考えます。また、各施設事業収入の６５％から７５％、また、ある施設では８０％が人件費として支出されております。介護事業者の給与は決して高いものではないことから、介護を取り巻く環境は大変厳しく、今後も課題を多く抱えることになると思います。事業所の収入は、主に介護報酬から成り立っており、この報酬は、国の介護保険制度によって決められているため、事業所ではどうすることもできません。市として、今も要望しているところだと思うんですけれども、再度、強く要望していただきたいというふうに思いますが、市としてどういうふうに、今後、展開していかれますで

しょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

山岸福祉事務所長。　〔福祉事務所長　山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

あと重ねてということになりますが、支援だけでなく事業団体と共に要望活動を、声を上げていくということが重要であるというふうに考えております。介護報酬の在り方についてもそうですし、今回また、物価高騰を含む急激な社会情勢の変化というところでも、国のほうでもいろいろメニューを出してくるであろうというふうに想像をしているところです。そういったタイミングに合わせて要望活動というところも継続してまいりたいと思っております。

また、中長期的というふうに考えていきますと、今回の委員会協議ということも、一つ大きなきっかけになっているというふうに私ども捉えております。まず、市内の特別養護老人ホームの皆様方、各法人の皆様方、大きい法人さんの、この３つの法人が、市内の重要な介護の役割を担っているというふうに受け止めておりますので、こちらの話合いの場というのを継続していただきまして、市のほうもその話合いに参画していきたいというふうに思っておりますし、今回の委員会協議会のほうでは３法人というところでございましたけれども、次のステップとしましては、ほかの事業者さんのほうにも参画をしていくということで、広い取組につなげていければというふうな形で、市全体を挙げて、この課題については連携・協議を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

介護報酬、３年に１回というところで、本当に間に合ってないというか、しかも今回、訪問介護をはじめ、何ていうんですかね、対応が悪くなったというのも、受け取れる金額も下がったというのもありますんで、本当にこの後２年間で相当疲弊がたまって、倒れてしまうというようなことも市内でも考えられますんで、ぜひとも市長、先頭に立って、お願いしていっていただきたいというふうに思います。

今ほど山岸所長のほうからありましたけれども、民間のほうとも一緒になってということなんですけど、場合によっては医療関係の人とも一緒になって、糸魚川市にとって適切な介護サービスの在り方について、また、計画的な統廃合であったり、補完についても、一歩踏み込んだ話が必要なんじゃないかなというふうに思うんですけれども、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

井川副市長。　〔副市長　井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

公設で設立された法人ということでありますけども、基本的には法人の皆様の考え方が優先されるものというふうに思っています。

ただ一方で、施設の老朽化ですとか利用者の減、それから職員がそれぞれ不足しているような状況の中で、やはり全体を通して、どういった福祉サービスの在り方が正しいかというのをやっぱり見極めていく必要があるなというふうに思っています。

そういった中で、医療というふうに今提案もございましたけれども、福祉医療、どういった形で提供していくか、将来にわたって維持できるか、そういった話合いのほうに市も参画していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

介護施設というのはお年寄りだけが対象じゃなくて、その方々の家族というのも本当に密接に関わっていることだと思いますんで、ぜひとも市もそれを担っていると思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

３番目、書かないワンストップ窓口についてお聞きします。

業務効率向上のため、行政事務、または窓口業務のデジタル化を進めるに当たって、市民も恩恵を受ける取組が、書かない窓口であったり、その次の段階である、書かないワンストップ窓口だというふうに考えております。自治体システムの標準化も控えておりますが、現時点での進捗状況と書かない窓口の運用開始時期の目標をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

川合市民課長。　〔市民課長　川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

お答えいたします。

進捗状況につきましては、本年度２回、先進地視察を行いまして、導入に向けての課題の調査を実施いたしました。また、窓口ＢＰＲアドバイザー派遣事業の中で、窓口体験調査を実施いたしまして、市民目線での課題を理解はできました。

なお、書かない窓口の運用開始時期でございますが、令和７年度はシステムの全国標準化がございますので、導入につきましては、それ以降になるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

体験調査なんですが、どういった内容だったかお聞かせください。どういった内容が課題として上がったのか、いい点、メリットというか、糸魚川市の窓口はここがよかった。ここを変えなきゃいけないというようなものが出てきたかと思うんですけど、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

川合市民課長。　〔市民課長　川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

今回、窓口体験調査の中で、６人家族の転入の手続を行いました。市民課をはじめ、複数の部署を回りまして、記入した申請書等は全部で２０枚、その中で氏名が４７回、住所が２１回、生年月日が３３回と、本当に多くの回数、同じものを記入いたしました。そういった点を改善することが一番大きな課題だと思っております。

あと、ＢＰＲアドバイザーのほうからご意見頂戴したんですが、他市と比べて当市の職員の対応が非常に迅速であるということで、そういった部分で評価を頂戴しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

転入の手続で、相当な数の書類を書いたということなんですけど、昨年だったかな、昨年、北見市に会派で視察に行ってきました。まさに４人家族の転入を実際に私、受けたんですけれども、１０分ほどで手続が終わりました。しかも書いたのは、名前、２枚の書類かな、最後。本当に職員の人も負担が減ったというようなお話を受けて、双方にとってメリットがある取組だなというふうに思いました。本当に書かない窓口、ぜひとも進めていただきたいと思うんですけれども、市役所で幾つも手続あると思うんですけれども、どの手続から書かない窓口をスタートしていきたいというふうに考えているか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

川合市民課長。　〔市民課長　川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

まずは証明発行、転入・転出、お悔やみ、出生の手続から進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

令和７年度末の自治体システム標準化があるので、それ終わってからということなんですけれども、ぜひともよろしくお願いいたします。

お悔やみコーナーに関してお聞きいたします。

利用するために必要な手続というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

川合市民課長。　〔市民課長　川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

お悔やみコーナーの利用につきましては、死亡届出の際にお渡しします書類の二次元コードをご利用いただいて、ウェブで予約をいただくか、また、電話等でご予約をいただく形になります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

今ほど最初の市長答弁のほうでメリット・デメリットをお聞きしたんですけど、メリットはあったけどデメリットはなかったというような捉え方をしております。職員のほうも準備を事前にできるということで、本当に双方にとっていい取組だったんだなというふうに感じております。

また、そこで出た意見というのもぜひ反映して、よりよい窓口にしていっていただきたいというふうに思います。

出生ワンストップのほうについて、お聞きします。

実施に向けて取り組んでいきたいということだったんですけれども、今後どのような取組をされるのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

川合市民課長。　〔市民課長　川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

将来的には、窓口支援システム導入に向けまして、こども課と連携して取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

出生ワンストップ、市民課とこども課、２つの課にまたがるものだと思うんですけれども、市民課としての課題であったり、こども課としての課題というのがあると思うんですけれども、試行実施で見えたものをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

川合市民課長。　〔市民課長　川合三喜八君登壇〕

○市民課長（川合三喜八君）

出生関係、こども課関係の手続につきましては、やはりお子さんと同行してお見えになる家族が多いということで、１階フロアにお子さんが安心して一時お過ごしいただくような、そういったスペースの確保が必要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

試行的に、窓口の一本化というような形でこども課の２階のほうでやったり、１階の市民課のほうでやったりということを実施した中で、今ほど市民課長のほうからお話あったとおり、こども課の窓口といたしましては、やはりこども家庭センターの設置の中で、子供が遊ぶ場所といいますか、受付の間に過ごす場所というのは設置が求められております。そういったところをどうしていくかというところが、一つ課題になってくるかなというふうに思っておりますし、あと受付関係の機械のシステム的な配置、そういったところも課題として上がっているというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

基本的には、私は１階で手続、済めばいいなというふうに思ってるんですけども、現実的に今課題として、子供が遊べる場が必要だという、過ごせる場が必要だといったときに、そこを課題として捉えたときに、実際に１階にその場所を設置できるかどうかというのは、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺市民部長。　〔市民部長　渡辺　忍君登壇〕

○市民部長（渡辺　忍君）

お答えいたします。

環境的な整備の問題もございます。今１階で実際、どこの場所が、そのような場所ができるかというのも、併せて今検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

阿部議員。

○２番（阿部裕和君）

お悔やみコーナーや手続のところを、お悔やみコーナー専用として使っているわけではなく、出生ワンストップとしても使用できると思いますし、今後、書かない窓口が進んでいく中で、記載台というのの撤去のことも考えられると思いますんで、ぜひとも前向きにご検討いただければと思います。本当に市民に寄り添った窓口になることを願っております。

私の一般質問を終わります。

○議長（保坂　悟君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

１１時２０分まで休憩といたします。

〈午前１１時１３分　休憩〉

〈午前１１時２０分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。　〔７番　渡辺栄一君登壇〕

○７番（渡辺栄一君）

おはようございます。渡辺栄一でございます。

これからも糸魚川市内での暮らしやすさ、住みやすさを思い描きながら、市民の皆様方をはじめ、いろいろな方々のお知恵を賜りながら、稼げるまち、人口増を目指し活動することで、当市の翠の交流都市、爽やか、すこやか、輝きのまちへ寄与してまいりたいと存じております。よろしくお願いいたします。

発言通告書に基づき、１回目の質問を行います。

１、観光産業への活性化策について。

当市はユネスコ世界ジオパークに認定されており、ジオパークやヒスイ海岸といった観光資源が豊富と思われている。さらに当市へ誘客させる方策について伺います。

(1) 新型コロナ感染症の５類への移行後、当市を訪れる観光客の動向はどのような状況にあり、また、どのように分析しているか。

(2) 鉄道の各路線及び大糸線増便バス等の利用状況について、市の評価を伺います。

(3) 来年４月１３日から１０月１３日まで開催の大阪・関西万博について、ヒスイ原石を展示するとのことだが、効果的な展示方法の工夫をどのように考えているか。

(4) 市内スキー場に対して、通年での利用促進策を進めていくには、どのような考えがあるか。

(5) 高浪の池の利用者の動向について、今後の見通しをどのように捉えているか。

(6) ジオエリアでもある月不見の池は、現状のままでよいと考えているか。

(7) マリンドリーム能生等を含む道の駅エリアの展望について、どのように考えているか。

２、農業を取り巻く環境について。

糸魚川市の自然環境を生かした、農業のブランド化が進む可能性があり、地元産品を高付加価値化し、都市部への販路を拡大する取組が必要と思われる。しかし、一方では、耕作条件の悪い農地では、新たな担い手が見つからない場合や耕作者の高齢化が顕著となっている。市の考えを伺います。

(1) 糸魚川産のお米について、味や品質をどのように捉えているか。

(2) 後継者不足や効率化の課題解決に寄与するとされるスマート農業の導入についての課題は何か。

(3) 販路を拡大させるための方策は、どのようなルートを考えているか。

(4) 用水管理や畦畔の草刈りの負担軽減策を考えているか。

(5) 農業所得を上げるにはどのようなことが有効と考えられるか。

３、当市の諸課題について。

(1) （仮称）「駅北子育て支援複合施設」の建設予定地にある旧東北電力ビルの解体工事は、４回目の入札結果も不調とのことであったが、今後の展開をどのように行うのか。

(2) 糸魚川総合病院に対して、今後どのような支援を行っていくのか。

(3) 人口減少と高齢化が課題となっているが、当市の人口減少対策プロジェクトとしては、どのような提言を考えているのか。

(4) 市内には、高等学校卒業後の進路として、専門学校等の設立が切望されるが、見通しはいかがか。

(5) 今冬は、降雪量が多いとの予報であるが、消雪パイプの不具合は解消されていると判断してよいか。

(6) 今後、政府も物価高騰や光熱費等を緩和させる政策を行う予定のようだが、市としての考えはあるか。

以上、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目と２点目につきましては、観光客や鉄道利用者は増加しており、人の流れはコロナ禍前の状況に戻りつつあると感じております。

また、大糸線増便バスの利用者は、６月から１０月までで９，４１０人でありました。

３点目につきましては、県や万博協会、展示業者と連携しながら、ヒスイの価値や魅力が伝わる展示を検討してまいります。

４点目につきましては、グリーンシーズンの集客が課題となっており、ゲレンデ等の活用について、指定管理者と協議してまいります。

５点目につきましては、指定管理者において、新たなアクティビティの導入や様々なイベントを実施するなど、大人から子供まで楽しめるよう取り組まれており、今後も多くの利用者が見込める施設であると考えております。

６点目につきましては、地元の皆様に必要な管理をお願いしながら、景観の維持に努めております。

７点目につきましては、多くの観光客が訪れる主要な施設であり、維持管理や整備等を計画的に進めてまいります。

２番目の１点目につきましては、高品質でおいしいお米であると捉えております。

２点目につきましては、圃場等の基盤整備が課題であると捉えております。

３点目につきましては、需要が生産量を上回る状況であることから、当面は、収量の確保を重点に推進してまいります。

４点目につきましては、農業生産基盤整備やスマート農業の導入による省力化と併せ、非農業者等の参画による体制強化を促進してまいります。

５点目につきましては、農産物の高付加価値化と併せて、基盤整備やスマート農業などの導入に

よる、生産コストの縮減が有効と考えております。

３番目の１点目につきましては、現在、検討中であります。

２点目につきましては、医療従事者の離職を防ぎ、安定した医療体制の確保を図るため、緊急的に支援を行いたいものであります。

３点目につきましては、現在取り組んでいる事業の分析や先進事例の調査などを行い、新年度の事業展開に向けて検討を進めております。

４点目につきましては、看護師養成所等の設立に向け、検討しておりますが、現実は難しい状況であります。

５点目につきましては、冬期前点検を実施し、不具合箇所を修繕しております。

また、不具合が生じた場合は、速やかに対応してまいります。

６点目につきましては、国の情報を注視し、必要な事業に取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

順番どおりでさせていただきます。お願いします。

２回目の質問をさせていただきます。

（１）でございます。糸魚川市の令和５年度版の観光統計によりますと、令和５年度の観光客の入り込み状況は、総数が１９０万９，５５０人、対前年比で１０９．３％、１６万２，８９０人増で、新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着き始め、５月の８日から感染症法上の位置づけが５類感染症となり、各地でイベントが再開するなど観光需要が回復し、新型コロナウイルス感染症拡大前、令和５年度総数で２１７万７，４８０人ということで、約８８％まで回復したとありますけれども、これは事実で間違いないということでよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今ほど議員のおっしゃるように、観光統計のほうにはそのような記載もありますし、今現在、令和６年度１１月末現在の市内主要観光施設の入り込み状況のほうの結果によりますと、令和元年度比、コロナ禍前に比べまして８７．６％という数字が今出ております。ですから、今ほどおっしゃったような数字は、間違いないものだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

続きまして、目的別観光入込み乗客数では、産業観光７地点で４４．４％、文化施設１０地点で２５．２％、温泉１３地点で６．６％ですけれども、当年度から、要は令和５年度からお祭りであるとかイベントの４１地点で８．４％と、今まで縮小で開催していたイベントを制限なしで開催できたということもあって、令和４年度の９万人から１６万１，０００人に回復してきたというふうに書いてございます。先ほど言ったとおり、令和元年度総数から、まだ２６万７，９３０人少ない状況ではございますけれども、この令和６年度の見込みと、この手応えについて、どのように受け止めておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

先ほども１１月末現在の数字のほうをお答えいたしましたが、やはりあの数字を見る限り、今年度は、昨年よりも観光客の数は増えるとは思っております。

しかしながら、コロナ禍前までに戻るかといいますと、まだまだ難しい面もあるんじゃないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

課長にお伺いしますけれども、今後どこをターゲットに伸ばそうと思っておるのか、また、その理由を教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

昨年来から、やはり来年開催されます大阪・関西万博に来られるインバウンドの方、また、国内の方も含めて、北陸新幹線を活用して、糸魚川市に来ていただけるような施策のほうを打っていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

最近メディア等で、糸魚川に関連した番組というものが放送されておると思うんですけども、何か市として働きかけというものはされておるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

糸魚川市で行います各種イベント等は、やはりマスコミに対しては、プレスリリースのほうをさせていただいております。今現在、今、議員おっしゃるように、テレビの露出が増えたというのは、今までの糸魚川市の取組が、功を生んだかなというふうに思っておりますが、やはりスキーシーズン等なりますと、近隣のテレビ局等もお邪魔して、ＰＲのほうもさせていただいております。今後も引き続き、そういったマスコミ等と一緒にＰＲを図っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

糸魚川市全体からして、やっぱり伸び代ってのはまだまだあると思っておりますし、市内で消費してもらえる機会は転がっているかと思いますので、一緒になってお知恵を出していってもらいたいと、そのように思っております。

それでは、２番目でございます。

どの路線もお客様が糸魚川市を訪れるための大切な交通インフラだと思っておりますけれども、特に、やはり大糸線については、ご利用される方の動向というものを私、心配しておるところであります。６月の１日から来年の３月末まで、大糸線の増便バスを運行して、潜在需要を可視化するため、北陸新幹線と接続する糸魚川から白馬まで、１日４往復８便を運行しておりますけれども、私も一般質問をする以上は、今月の７日土曜日１１時５５分に乗ってみました。６月のときも乗ってみたんですけども、今回は、そのときとは違っておりまして、私も含めて２２名ぐらい乗車しておりまして、半分以上が外国人の方でした。南小谷駅までの間で２名乗車して、１１名が降車したと。３名の方が八方バスターミナルで降車されて、後は１０名ほど終点白馬まで行ったというところです。帰りは、たしか１３時４０分発だったと思うんですけども、白馬から、私も含めて１３名乗って、南小谷で１７名が乗りまして、北小谷で２名降車して、３人乗車したと。合計３１名が、終点糸魚川まで来たというところでございます。

運転士さんに確認しましたところ、曜日や時間帯にむらというものがあるけれども、お客さんは増えている傾向にあり、特に外国人の方が多いというようなことでした。

そこで、一応私も、新聞報道では３万人という目標数値というものが、どういう過程で数字が出されたのかということを少しお聞きしたいんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

過去に、コロナの前でしたけども増便バスを１回やったことがございます。これ、コロナ禍入ってしまって利用は少ない状況だったんですけども、そういったときの乗車人数ですとか、あと大糸

線の利用の人数等も踏まえながら、目標はちょっと高めですけども設定をさせていただいたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

先ほど市長答弁で、６月の１日から１０月の３１日まで9，４１０人ということで、大体目標の３割弱というような回答であったと思いますけれども、この数字、達成されるのか、あるいは達成されない場合はどうなるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

私ども目標の３割ということで、少し目標よりは少ない数字かなというふうには認識しておりますけども、本格的なウインターシーズンに期待をしているところでありますし、幸いにして、今年、雪も早い状況ということ、それから白馬の状況を聞きますと、１２月から３月中旬ぐらいまでは宿泊はいっぱいだというようなことも、白馬の職員からお聞きしております。こういったところに非常に期待を持っているところでありますし、高い目標設定はしましたけども、できるだけその目標に近づくような形で取組を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

そうですね、ちょっと同じような質問なってしまいますけれども、関東地方で今のところ３６％、新潟で２０％、あと長野・関西地方、それぞれ１３％ぐらいだというような新聞報道がありまして、敦賀の延伸による関西からの来訪を見込んでおるんだけれども、結果に結びついていないということについてどう思ってるかということなんですけど、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えします。

これまでのグリーンシーズンの分析でいきますと、新幹線の、私どもの乗降調査による調査でいきますと、糸魚川駅の部分に関しましては２．４％の増ということで、確実に増えているところがございます。そういったところを大糸線、白馬エリア等につなげていくといったところでの増便バスというところで、着実に私ども今、増便バスの乗降調査と併せて鉄道のほうの乗降調査もさせていただいておりますけども、前年よりは着実に伸びているというところをＪＲのほうからも聞いております。そういったところもありますので、取組をした効果というのは出ているかと思っており

ます。

ただ、ウインターシーズン、本格的なウインターシーズンというのはこれからになりますので、もともと白馬エリア、グリーンシーズンも頑張っておりますけれども、やはり本格的なシーズンはやっぱりウインターシーズンということになりますので、ここをターゲットに、インバウンドの方も含めて乗っていただければというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

昨年、私も、湯めぐり手形すたんぷらりぃというのを、私、去年やったんですけど、今年はこういう企画というのはもうやらないんでしょうか。私もやっぱり利用して、少しでも応援したいなと思っておるんですけど、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

内山都市政策課長。　〔都市政策課長　内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

ご利用いただき、ありがとうございます。今年度も、今実施すべく準備をしておりますので、ぜひ今年度も、お風呂を巡っていただければというふうに考えております。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

そうですね、やはり廃止されては、やっぱり糸魚川へ来る機会というのは減ってしまうことになりますし、やっぱり次々と施策というものを考えていかなきゃならないと思っております。市の職員の方や、またそのご家族の方も含めて、大糸線のご利用をお願いいたします。

それでは、３番目でございます。

糸魚川産のヒスイの原石を会期の初日から最終日までの６か月間、会場内の静けさの森と迎賓館に展示するとあります。静けさの森では２個、４．８トンと２．１トン、奇跡の石を幻想的にイメージする演出とはどのようなものなのか、展示する原石は３個なのか、そこら辺を確認したいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

静けさの森に展示されますヒスイ原石につきましては、２石でございます。その展示の方法につきましては、今現在、新潟県と一緒に協議のほうを進めておりますが、県が今、その展示方法のプロポーザルのほうを行います。その結果が実施計画という形になりますので、その計画に基づいて、

展示のほうはしてまいりたいというふうに思っております。当市としましては、やはりヒスイをせっかく飾っていただきますので、その希少性だとか歴史だとか、糸魚川市の文化的なものとかが、広く発信できるような形で携わっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

３個ではなく２個だということでよろしいんですね。

展示予定のこのヒスイの原石というのは、糸魚川市の所有のものなんでしょうか、それとも、また、どこで発見されたものなのか、伝えるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

静けさの森に展示されますヒスイ原石につきましては、市のものではございません。今回、県石ということで新潟県のほうが手配をして、そちらのほうの設置に至ったものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

そうすると今のところ、どこで発見されたかというのも分からないということで、そういうことでよろしいんでしょうか。万博では、国内外から約２，８２０万人の来場が想定されているということなんですけども、この糸魚川市としては、何かガイド役というんでしょうか、そういったものを立てる予定はあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

静けさの森に展示されるヒスイの箇所につきましては、常時、そちらのほうに人を立てるという予定はございません。

ただ、そのヒスイにつきまして、当市産というところが分かるような仕掛けを県と一緒に考えていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

そうすると会期中、あるいは、またはその何ていうんですかね、万博が終わった後、当市へ、より多くの観光客の方が来てもらえるような戦略を打っていると、考えているということでよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今回の万博では、静けさの森へヒスイの展示、また、新潟県と一緒に、６月、７月に展示ブースのほうを糸魚川市として出展させていただきます。そのような中で、やはり当市のＰＲビデオとか、またパンフレット等、そういったものも配布も予定しておりますし、また、新たなＰＲ手法も県と一緒に考えていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

開催日まで、あと４か月後に迫っております。成功裏に、当市への観光に利するものになってもらいたいと思っております。

それでは、４番目に参ります。

ここ数年、やっぱり雪不足で営業日数が少なくなっている傾向にあります。先ほど市長答弁でも、たしかゲレンデ等で何かやりたいというような、そんなような答弁だったように思いましたけれども、何か夏スキーとか、そういったものが、最初できればいいななんて思ってたんですけども、設備投資にかなりお金がかかるので、困難かななんて思ってたんですけれども、そこら辺はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

先ほど市長答弁もありますように、様々なイベントを指定管理者のほうでは考えております。今までもバイクのイベント等もやっていただいておりますし、また、アウトドアのほうも今、昨今、人気でございますので、そういったものも絡めながらイベント等をしていきたいというふうに声を聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

高野能生事務所長。　〔能生事務所長　高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

シャルマン火打スキー場について、お答えいたします。

こちらのスキー場は、夏の間はグリーンメッセ能生に職員が営業活動しておりますので、そちらのほうに従業員がおるということで、シャルマン火打スキー場の夏場の利用については現在考えているものではございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

当初、私もモトクロスが、去年６月の３日、４日にちょっと見させていただいて、若い家族連れの方が多かったなということで、かなり人が集まっていたということは記憶がございます。ですから、年に数回できたらいいななんて思っておったんですけども、そういったことも考えているということで、分かりました。

あと糸魚川市ですね、スキー場管理活用等調査業務委託報告というものをどのように分析をして、あとどうしていかなきゃいけないかということなんですけども、これについてはあんまり、かなりいろいろ委員会でも資料なんか見させていただいたんですけども、なかなか分かりにくくて、非常にどちらかというとあんまりちょっと、あんまりよろしくないことが書かれていて、非常にどっから始めたらいいのかというような、そんなような感じの内容で非常に分かりにくかったんですけども、そこら辺はどう分析をされてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

一昨年行いましたあり方検討の調査結果につきましては、定量的効果、定性的効果ということで、失礼いたしました、評価ということで、いただいておりました。今ほど議員おっしゃるように、コメント欄としましては、なかなか辛辣な意見もあったというふうに思っております。その意見を持ちまして、やはり私らは、庁内で検討会のほうをさせていただいておりまして、今、どのような形で今後スキー場していくかというのを検討している状況でございます。やはり庁内の検討内容、今現在の検討内容なんですが、やはり市として、誰のために、何のためにスキー場があるべきなのか、また、今現在のスキー場の立ち位置というものをしっかり確認している状況でございます。令和７年度中に、指定管理者の期限が切れますので、それまでには、やはりある程度の方向性を出していきたいなというふうに思っております。

しかし、次の方向性が出たときに、様々な事務手続等もあると思います。そのような場合は、やはりある程度の期間を持っていただきながら、スキー場の存続は考えていきたいなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

そうですね、やっぱりそこで雇用の問題もございますので、私は一概には全て何でもというのはあまり賛成はできませんので、何とか、何ていうんでしょうか、利益が出るというんでしょうかね、お客さんが来てもらえるような方法でやっぱり考えていってもらいたいと、そのように思っております。

それでは、５番の高浪の池に関してであります。

メインがキャンプ場だと思っておるんですけども、感染症拡大が落ち着きを見せ始めるにつれて、かつてほどの需要がなくなってきたと思われるんですけども、そこら辺はいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、コロナ禍につきましてはキャンプ場等のアウトドアにつきましては、需要のほうが随分上がった状況だったと思います。

高浪のキャンプ場につきましても、実態としましては、コロナ禍からは多くの方がご利用いただいておりながらも、今年度は、昨年に比べると落ち込んでいるというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

今年の６月の１日ですかね、第３回の高浪の祭りがありましたですし、野外コンサートもやられて、少しはにぎわったかなというふうに思うんですけども、ちょっと変な質問、変な質問というわけじゃないんですけども、あそこの池で釣りができないものなのかなとか、そう思ったりもするんですけども、例えばツチノコで、捕獲すると１億円というのがありまして、そこで、浪太郎でも釣れたら、何か少しお金出すよみたいな、そういったような話題性も必要じゃないかというふうに思っておるんですけど、そこら辺はあまり真剣に考えていただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今現在、高浪の池の指定管理者であります株式会社たかなみのほうは、やはりアクティビティの多様化ということで様々なものを考えております。その中で、釣りというお言葉も、昨年来いただいたこともありますので、やはりそうは言いましても、池を見に来る観光客もおられますので、安全対策等も考慮する必要もあると思いますということで、今現在、調査検討している段階かなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

ぜひ前向きに、やってみるのも面白いかなと思っておりますので、何でも駄目というとなかなか進まないもんですから、ちょうど面白いんじゃないかなと私は思っております。

６番目でございます。

ここは早川地域の地滑り地帯だというふうに理解をしてるんですけども、やっぱりこのメインというのは、やっぱりこの月不見の池だと思っております。池の周りを、何年前かがちょっと分かりませんけども、シートで修繕していただいておったということで、それは何年ぐらい前で、幾らかかったのかというのはちょっと、なかなか人に聞いても分かんなくて、それをちょっと教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

糸魚川市の観光地として、月不見の池を活用するというところは、私の今の手持ちの資料でいいますと、昭和４０年ぐらいからされてるのではないかなと思っています。そのときは、やはりトイレ等、いろいろ整備をした中で、昭和５０年代に、やはり漏水をするということで調査、また対策等を昭和の時代に行いまして、それでも、やはりまだまだ漏水が続くということで、平成の１０年、１１年、１２年にシート張り工をさせていただいております。その工事費の全体は、約６,０００万程度かなというふうに思っております。

○議長（保坂　悟君）

ここで、昼食時限のため、午後１時まで休憩とさせていただきます。

〈午前１１時５８分　休憩〉

〈午後１時００分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員、続けてください。

○７番（渡辺栄一君）

先ほど、池の周囲といいますか周りをシートで囲ったときのお金というのが６，０００万円かかったというようなことで、かなり高額だということが分かりました。

ただ、あれから２４年から２６年ぐらいたっているということもございまして、かなり、もしかしたら当初は、ああではなかったのかもしれませんけれども、もしかしたら、何ていうんでしょうか、シートが壊れてるとか、そういったことも考えられないのかなというようなことなんですけども、そこら辺はどのように考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

平成１１年前後のシート張り工から２０年程度がたっても、やはり漏水というのがなかなか収まらない実態がございました。そのような中で、平成３０年度、地元や有識者、大学教授や地質学者も入れた月不見の池水位・水質改善検討委員会というのを組織させていただきまして、令和元年まで検討のほうを進めてまいった次第でございます。

その結果は、やはり池の底にありますシートの撤去は、水が全て抜けてしまうことから、リスクが高く、また経費もかかるということで行わないという結論にもなっておりますし、また現在、利用しております井の口用水が、池の中心部から漏れなく注水することで、水位・水質改善に一定の効果が得られているということで、この手法をそのまま最優先するという結論に至っているところが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

なかなか３０年も、平成の３０年にといいますか、やられたということで、なかなかちょっと今んところちょっと詰まってるような状態だなということで、非常にどうしたらいいもんかなということでございますね。

いずれにしても、何ていうんですかね、きれいなときもあるんですよね。ですから、昨日、一昨日か、金曜日の日に見に行ったときは、非常にきれいな水になってまして、ある日、突然濁ってくるというような、非常に不思議な現象もあって、非常に実際、困ってるなというところであります。

実際、これとは関係ないんですけども、これとは関係ないといいますか、よくあそこにノートが貼ってありまして、かけてあるノートがあるんですけども。そこでは、トイレがきれいだったとか、あるいはこの藤の名所ということで来てみたが、がっかりというようなことも書いてあって、どこが名所というようなほどの藤があるのか、市はもっと管理してくださいと。二度と来たいとは思いません。岩は、すばらしいので、ぜひ名所にしてくださいというようなことも書いてございますし、後は、まるでジブリだ。もののけ姫の世界みたいで、すてきでしたというようなことも書かれておりますので、何とか、やりようによっては、まだまだ何かやり方があるのかなというようなこともございますので、せめて藤の名所ということであれば、藤の手入れ等もしていただけたらなというふうに思っておるんですけど、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

今ほど議員おっしゃるように、月不見の池につきましては、藤の名所ということでＰＲのほうをさせていただいておりました。近年は、ご指摘のとおり、藤の花が少なくなっただとか、そういったお声も聞きます。やはり私らが想定してるのは、地下水の水脈の流れが変わったのではないかと。それによって、周囲の木や、また、藤の老木化などによって景色が一変してしまったのではないかなというふうに思っております。やはり景色の修復には時間がかかると思いますが、地元の皆様と一緒に相談し、協力しながら、今後、また月不見の池の活用を図れるように進めていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

ご協力のほう、またお願いいたします。相談すると思いますので、お願いいたします。

それでは、７番目のマリンドリームに関してであります。

道の駅でマリンドリーム能生というのは、市内で一番にぎわいを見せていると思われておるんですけども、やはりカニを目当てに来るお客さんが多いと聞いております。この資源の確保というのは、どうされておるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

高野能生事務所長。　〔能生事務所長　高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

議員おっしゃられますとおり、カニが有名な場所であります。漁師の皆様にお話を聞きますと、カニのやっぱり漁獲量というのは減っているということから、一定の管理を行いながら漁獲をし、販売しているというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

マリンドリーム能生だとか、あるいは親不知のピアパークの、この将来の目標像というのはどういうものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

高野能生事務所長。　〔能生事務所長　高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

マリンドリームもそうなんですけど、ほかのところもそうだと思いますけども、やはりお客様のニーズというのは、常に変化するものだと思っております。

また、周辺の環境、そういったものに合わせて、適正な誘客となるような事業を展開するのが必要だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

人が集まるところだと思っておりますので、ぜひ盛り上げていってもらいたいと、そのように思っております。

それでは次に、農業を取り巻く環境についてであります。

１番目に関してなんですけれども、やはり水と空気と温度差というものが相まって、おいしい米ができてるんだろうというふうに思っております。

先月３０日に、糸魚川産米のブランド化の生産者大会がありましたけれども、良質米で表彰された方というのは、上早川、下早川、能生谷、根知の地区の方でありましたけれども、１０人中９人の方が、早川地域の方だったことから、かなりこの早川というところは適した地域だというふうに思っております。

それで、（２）番になるんですけども、この先月の１９日なんですけども、今井地区で、農業者の省力化に向けた研修会ってのがありまして、実際、ドローンを使って、上空から初冬の直播というものをやったんですけれども、鉄粉というものをつけたお米、もみなんですけども、それがうまく田んぼにうまく植わってるというのが分かったんですけども、もう一つ鉄粉でないほうの軽いほうのお米っていうんでしょうかね、そちらをまいたんですけども、それがうまく、軽かったんかちょっと分かりませんけど、植わってないような状態で、それでドローン自体の状態もよくなかったということで、思うように動かないで、一応４時まで、午後、１６時までに終わるはずだったんで

すけども、結局それでは終わらなくて、結局その日は、もうタイムオーバーということで、その後どうなったのかってのが分かんなくて、このスマート農業というんですか、こういった、本当に低コストでできるものなのか、そこら辺はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

スマート農業といいますと、やはり最先端技術を用いた農業、機械を用いた農業ということになりますので、やはり購入コスト等はかかってまいります。それで、生産コストにつきましても、やはり大規模な農業、やはり個々の農業というよりも集落営農ですとか法人化、そしてやはり規模というのはやはり大きく影響してくると思います。これから、また機械の改善等、またスマート農業の補助ということも来年度以降、農林水産省でも考えておりますので変動してくると思いますが、今のところ、やはり農業規模によって大きくコストの縮減というのは変わってくるというふうには捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

すいません、時間もだんだんなくなってきたので、３番目のほうに行かせていただきたいと思います。

昨年９月の２２日に武蔵小山のある商店街へ、私、行ってきたんですけども、そのときに糸魚川市観光物産店というのがあって、どういったつながりであそこと取引ができるようになったのか、ちょっと教えていただきたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

市内業者が、武蔵小山の商店街の方たちと取引がありまして、そのつながりで、その商店街のイベントに参加させていただけることになりまして、ここ数年、糸魚川市としまして出店させていただいてるところが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

ほかに、例えば食品卸の会社と食を通じた地域活性化に関する連携協定というのも、今後、締結

して取り組んでいくのも必要と考えているんですけれども、そういったことは、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

大西商工観光課長。　〔商工観光課長　大西　学君登壇〕

○商工観光課長（大西　学君）

お答えいたします。

やはり様々なイベントをするには、議員おっしゃるように、協定といいますか約束事を取り交わすことも必要だと思っております。やはりそれは双方が、機が熟したときにそのような取組が可能となると思いますので、いましばらく時間のほうをいただきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

５番目のほうなんですけども、この農業所得を上げるには、どのようなことが有効かというようなことだったんですけども、非常にコストを下げるとかそういった基盤整備というようなことが市長の答弁であったかと思うんですけども、やはりどうでしょうかね、水稲以外に園芸であるとか、そういったＱ＆Ａみたいな、そういったものを作成して、やはりこの農業というのは、やり方次第でもうかる仕事になればいいなと思っておるんですけども、そういったことはあまり考えてはいないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

園芸作物につきましては、市内でも多くの農家の皆さんが生産しております。県のほう、農協のほうでも、やはり園芸作物の推奨ということでやっておりまして、徐々にではありますが、糸魚川市内におきましても、エダマメの生産量が増える。また、越の丸茄子の生産量が増えるなどしておりますので、今後も園芸作物の推進に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

最後の質問に、３番目であります。

入札が不調だということなんですけども、これ、令和１０年供用開始とありますけれども、逆算して、いつまでがタイムリミットになるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

これまでの解体に関わる工期ということでは、議会のほうに約１６か月かかるということでお示しさせていただいております。そういったところでいきますと、来年、令和７年の１月もしくは２月上旬ぐらいまでに業者のほうが決まれば、スケジュールの範囲内に収まっていくというふうには、今考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

これはやっぱりあれなんでしょうかね、円安が続いて、資材費とか、あるいは人件費が高騰しているということなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

入札の不調の原因については、様々な理由は考えられると思いますが、これであるといったところで明確にお答えできるものはないというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

昨日の東野議員の答弁の中で、入札不落の場合、例外的に行われる不落随契というものがあるというふうに聞いたんですけども、再度、説明していただきたいんですけども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

不落随契についてということでございます。

通常、入札につきましては、入札を１回やる。それで落札者がいなかったときには、僅少な、僅かな差であれば、２回目の入札を実施いたします。そこでも落札者がいなかった。けれども、さらにその差が縮まっているということであれば、その最低価格をお示しいただいた業者と随意契約の交渉をするというような流れになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

例えば高くても結ぶというような、そういうことになるということなんでしょうか。若干高くても、そういう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

失礼いたしました。あくまでも入札に定めた予定価格よりも低く、それを超えない価格でのものになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

そうすると９，８００万円という一応枠があるんですけども、それよりも若干下がってればということで理解してよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

９，８００万円が、予定価格という今の仮定の設定であれば、それよりも、それを超えない範囲、それより下というところで数字を、価格を示していただければ落札ということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

本当に私は、何回も言うんですけども、出生数が、令和４年が１７６、令和５年が１３０人、令和６年の今年は、市が届けている届出数だということなんですけど１４８人ということでございますので、大変あまり多くない数といいますか、人数ではあるんですけども、そういったことを続けて、進めていって大丈夫なのかというふうに思ってるんですけど、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

こちらの駅北子育て支援複合施設につきましては、駅北大火からの後の復興ということで、これ

まで長い期間にわたって計画をされてきたというふうに思っております。今このような形で計画を進めておりますので、子供の数は減ってきているという現実もございますけれども、少なくなったからといって何もしなくていいというわけではないと思っております。やっぱり市内でしっかりと安心して子育てができる環境といったところで進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

これはちょっとまたやっても長くなるので、これは、一旦ここでやめます。

次に、米田市長の公約でもある、やはり看護学校ですね、これやっぱり本当に議員といいますか、４年しかないと思うんですけれども。ただ、米田市長の場合は、本当に２０年近くやられて、非常にそれなりにといいますか、やっぱりその公約ってのは重いと私は思っておるんですけども、本当に、もしこれが駄目といいますかね、今のとこ困難だというようなことなんですけども。本当に看護学校がもし駄目であれば、ほかに何か、糸魚川に若い人を呼ぶような、そういった施策というのはないものかと思っておるんですけど、そこら辺は、市長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

本当に私の公約で、看護学校の誘致という形で上げてございました。その辺いろいろ調査する中において、今現在においては非常に厳しい状況であると捉えております。いろいろと、やはり調査したり、踏査したり、いろいろ情報収集をする中で進めてまいったわけでございまして、例えばもう最悪な状態は分校であったり、訓練校であったりとか、いろいろ何か代わる手だてはないかということも含めて検討しとるわけでございますが、なかなか非常にハードルが高いものでございまして、私の公約の中には、非常にハードルの高いもの、また、可能の近いものとか、いろいろあるわけでございまして、決して、全て自分でやれるものを上げたわけでございませんで、取り組んでいきたい部分も上げさせていただきました。

そのようなことで、非常に皆様方には心配や、また、少し不満なところはあろうかと思いますが、任期中の中に何としてもという形で取り組んできたことは間違いございませんので、今の段階でのお答えは、非常に難しいという答えをさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

本当に残念ですね、やっぱり米田市長も２０年近くやられて、私みたいに１期の人間とはまた違

うもんですからね。ですから、本当にやっぱり頑張っていただきたいなと、私は陰ながら応援はしておるんですけど、そこら辺、やっぱり再度いかがでしょうか。やっぱりもう米田市長しかいないんですよ。お願いしますよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

ありがとうございます。非常に期待を持っていただくことは、本当に私にとっては非常に光栄に思う次第でございます。

しかし、現実というものをわきまえながら、しっかりとやはり取り組んできたわけでございますし、また、まだまだ、もう４年目の終わりといいながらも、まだございますので、任期中の中で精いっぱい取組を進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

ちょっと残念ですね。もう四十何秒しかないもんですから。

次に、すいません、人口減少と対策についてなんですけども、こちらについていかがなんでしょうか。何か提言しておるんでしょうか。具体的なものはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

６年度の取組といたしまして、新規拡充の検討ですとか、また、そういったところにつきましてはワーキンググループでの意見交換を通じて行って、次年度に向けて予算化に向けて取り組んできたといったところがございます。それ以外に調査研究といったところでは、意識調査といったところで、中学生、高校生の保護者アンケートの実施ですとか、それから女性活躍推進企業の取組研究といったところも行っているところであります。また、消滅可能性自治体から脱却した柏崎市のほうへは、総務文教常任委員会の皆さんと同行させていただいたところであります。それから、先進事例の調査においては、マッチングアプリ事業について調査をさせていただいておりますし、現在、若者未来会議といったところも開催をしてきたところです。

こういった取組をまとめまして、次年度予算に向けて、反映できるものはしてまいりたいというふうに考えておりますし、できないものについても引き続き、検討は続けていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

鳥取市では、何かフルリモートできる都市部の企業と連携して、転職せずに移住できる仕組みを構築したいというような、そういった提言もしておりまして、都市部のＵＩターン希望者を募るというようなことをやってるんですが、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

移住の新たな形として、今おっしゃられたようなテレワークで、実際に東京に拠点がありながらも、別のところで生活されるという方もおられますし、実際に住所を持ってこられるという方もいらっしゃいます。そういった場合については、移住支援金という、私どもで設けている補助制度の対象となるという場合もございますので、そういった制度を活用しながら、今議員おっしゃられるように、なかなか一部の企業と提携というところまではいきませんけれども、ＰＲできるところはして、そういう方々も呼び込んでいきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。

○７番（渡辺栄一君）

思うだけでは駄目なので、ぜひ行動に移していただきたいと思っております。何とかね、糸魚川から流出する若者がいないようにといいますか、少なくなるように。

○議長（保坂　悟君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

〔「失礼いたしました」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ここで、暫時休憩といたします。

再開を１時３５分といたします。

〈午後１時２７分　休憩〉

〈午後１時３５分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原洋子議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。　〔６番　田原洋子君登壇〕

○６番（田原洋子君）

こんにちは。田原洋子です。

通告書に基づき、１回目の質問をいたします。

１、教育相談センターと適応指導教室ひすいルームについて。

糸魚川市ホームページによると、適応指導教室ひすいルームは「不登校状態にある児童生徒に対して、情緒の安定や人間関係等の改善を図りながら、再登校に向けた相談・支援を行っています」とあります。

糸魚川駅日本海口、寺町２丁目にある糸魚川市教育相談センターは、１月１日に発生した能登半島地震で液状化の影響を受け、建物に入ると、床の浮き沈みがあるため、乗り物酔いをしたように気分が悪くなり、駐車場も地面が砂を吹き出したり波打ったりしています。

このため、現在、教育相談センターは立入りが制限され、ひすいルームは令和６年１月から糸魚川市民図書館で開設されています。

隣に体育館があることから運動ができる、図書館で好きなだけ本が読めるというメリットがありますが、図書館は静かな環境であるため、会話や物音に気を遣い、図書館の一部を間借りしているという感は否めないと思われます。

これらを踏まえて、以下の点について伺います。

(1) 教育相談センターで受けていた教育相談はどこで行っていますか。

(2) ひすいルームに通っている児童、生徒は何人いますか。

(3) ひすいルームに通っていた児童、生徒は再登校、進学につながっていますか。

(4) ひすいルームの糸魚川市民図書館での開設は一時的なものですか。それとも糸魚川市民図書館内に完全に移転する考えですか。

(5) 図書館内のひすいルームのエリアは、ひすいルームだけが利用できる状態となっていますか。

(6) 被災した教育相談センターは修繕をするのですか。

(7) 糸魚川市民図書館のほかに移転先の候補の検討はされましたか。

(8) 糸魚川市民図書館内でひすいルームを開設していることで不都合はありませんか。

２、糸魚川市のキャンプ場について。

糸魚川市は山も海もある豊かな自然を生かして、各所にキャンプ場があり、市外からも多くの方が利用されています。

私は２０２２年６月定例会の一般質問で「糸魚川市内にあるキャンプ場の料金見直しと予約方法について」取り上げ、料金設定の見直し、ネット予約の導入を提案しました。

農林水産課が所管する、海谷三峡パーク、雨飾山麓しろ池の森、不動滝いこいの里キャンプ場は今年度から試験的に「キャンプ場環境維持協力金」という形でテント１張り５００円、利用者１人１００円を鉄製のボックスに投入してもらう形を導入しました。

これらを踏まえ、キャンプ場について、その後どう検討され、改善されたのか、以下の点について伺います。

(1) 美山キャンプ場の担当課を生涯学習課から、クラブハウス美山を管理している商工観光課へ移管と、ネット予約は検討しましたか。

(2) ヒスイ峡キャンプ場のネット予約、ヒーリングガーデンたかなみの携帯電話の電波は入るようになりましたか。

(3) 海谷三峡パーク、雨飾山麓しろ池の森、不動滝いこいの里の「キャンプ場環境維持協力金」はどのくらい集まり、使い道はどのようにしますか。

(4) 不動滝いこいの里キャンプ場の盛土が今のテントより小さく、微妙に斜めになっていてテントを張りにくい。トイレの目隠しの壁があるが、男性が用を足している後ろ姿が見えてしまうのは改善すると答弁がありましたが、現状はどうですか。

(5) 不動滝いこいの里キャンプ場の池が埋め立てられたのはなぜですか。

(6) 荒崎キャンプ場の水はけのよくないサイト、サイトの番号が分かりにくい、野生動物が荒らす被害について、管理はどのように改善しましたか。

(7) 高ノ峰プラトーがリニューアルオープンしましたが、どのようにリニューアルされ、利用者数や評判はどうですか。

３、各地域の交流と活性化について。

毎月発行されている公民館だよりは、各地域内に全戸配布され、糸魚川市ホームページでダウンロードでき、月ごとに、何が、どこで、何時から開催されているか一覧は出ていますが、公民館を紹介するページに、各公民館が日々の情報発信をしているＳＮＳのリンク先は掲載されていません。

公民館事業の中には参加者を地区で限定しているもの以外は、どの地区の方でも参加できるものがあり、西海地区公民館「ふるさとウォーク」や、上早川地区公民館の「不動山ハイキング」、下早川地区公民館の「越後八十八か所めぐり」のように、地区外からの参加者が多い人気の事業もあります。

また、中学校が統廃合されたことで、それまで中学校の文化祭で展示されていた地区の皆さんの作品を発表する場所がなくなり、地区文化祭として公民館で開催されている地区があります。作品を展示されている方は、地区の方はもちろん、地区外から多くの方が見に来られることが作品へのモチベーションとなり、地区外にも同じ趣味を持つ仲間ができる利点もあります。

公民館だけではなく、地域おこし協力隊、集落支援員、地域づくりプランと、様々な角度の地域活動があり、公式ＬＩＮＥ配信、ＳＮＳ更新と情報発信に力を入れている地区もあります。

地区それぞれの活動が糸魚川市全体の活性化につながるのではないでしょうか。

これらを踏まえ、以下の点について伺います。

(1) 各公民館のページに、公式ＳＮＳをリンクすることはできませんか。

(2) 糸魚川市ホームページの「地域の活動紹介」のページにリンク切れや、ページ管理者の交代などで更新されていないアカウントがありますが、最新の情報ではないのはなぜですか。

(3) 各イベント情報をネット予約できるようにできませんか。

(4) 地域づくりプランで発行した冊子をフォッサマグナミュージアムなどで販売はできませんか。

以上で、１回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

田原洋子議員のご質問にお答えいたします。

１番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

２番目の１点目につきましては、移管については、クラブハウス美山と一体的な活用ができるタイミングを見定めたいと考えております。

また、インターネット予約は導入しておりませんが、市民の利便性の向上と行政事務の効率化を図るため、公共施設共通のインターネット予約システムについて調査・研究しております。

２点目のヒスイ峡キャンプ場は、高浪の池キャンプ場への集約を検討していることから、インターネット予約などの設備投資は控えております。

また、ヒーリングガーデンたかなみは、携帯電話の不感地帯であることから、Ｗｉ－Ｆｉにより通信環境を確保しております。

３点目につきましては、今年度は３施設合計で約３４万円集まり、各施設の補修費や維持管理費として使用いたしております。

４点目につきましては、５年度に改修工事を実施し、改善いたしております。

５点目につきましては、利便性の向上と安全確保を目的に実施いたしたものであります。

６点目につきましては、土壌を改良し、転圧整地する改修を行っております。

サイト番号につきましては、受付時に注意事項を記した案内図をお渡しし、対応しております。

７点目につきましては、管理棟・トイレ棟の改修、広場の整備などを行い、今年度は２,４９５人のご利用があり、好評と聞いております。

３番目の１点目につきましては、公式ＳＮＳを運用している地区公民館はまだ一部でありますが、市の公民館ページに、リンクを貼り付けることは可能であります。

２点目につきましては、地区のホームページが更新されたことに伴い、リンクが切れたものでありますが、現在は正しく表示するよう修正いたしております。今後は、地区と連携を密にし、適切に管理してまいります。

３点目につきましては、地区公民館が主催するイベントについて、既にインターネット予約を導入している事例があり、今後、活用の拡大を進めてまいります。

４点目につきましては、地域づくりの取組を市内外に紹介することは大切であり、販売等について相談いただければ対応してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

田原洋子議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、教育相談センターや市役所相談室で行っております。

２点目につきましては、６年度は７人であります。

３点目につきましては、教室復帰や別室登校等につながっている生徒がおります。

また、多くの生徒は高等学校に進学しております。

４点目につきましては、現時点では一時的なものとして考えており、移転先等については、今後も検討してまいります。

５点目につきましては、平日の９時３０分から１４時３０分までは、ひすいルームが占有しており、平日の１５時以降や休日、夏休み等の長期休業中は、他団体が利用することがあります。

６点目につきましては、現時点では考えておりません。

７点目につきましては、市の施設や空き物件を見学しましたが、現時点では、適当な物件は見つかっておりません。

８点目につきましては、現状では、大きな不都合はないと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

では、まず３の各地区の交流と活性化について再質問いたします。

まず、糸魚川市内の公民館の対象区域は何を基準に設置され、職員の配置や開館日、運営方法について、青海、糸魚川、能生で違いはありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

磯貝生涯学習課長。　〔教育委員会生涯学習課長　磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

地区公民館については、市内全部同じ制度で運用しております。配置する職員の数につきましては、地域の世帯数や高齢化により、一定の基準を基に配置はしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

今回、これをなぜ取り上げたかというと、やはり学校の統廃合、特に中学校の統廃合で核となっていた中学校の代わりに公民館の役割がとても大きくなっていると感じています。公民館というのは、営利を目的とせず、生涯学習や文化活動を支援する役割、そのほかに自治会の活動拠点となっている場合が多く、公民館と自治体活動というのは切っても切り離せないと思っております。糸魚川市のホームページを見ると、１２月だけでも事業がぎっしりあって、もう本当に細かい字でたくさんあります。中には、これからお正月を迎えるので、そば打ち教室やお正月の飾り紙、それからミニ羽子板づくりなど、季節感があって、どれもとても魅力的です。

ただこれが、この地区の方しか参加できないのか、ほかの地区からも喜んで受入れできるのかというのが、ちょっと伝わらないのかなと思っています。イベント・事業によっては、材料費だとか、いろんな様々な観点で、地区内に限定してることもあると思うんですが、場所によっては、ほかか

ら来ていただいたら大歓迎という地域もあると思います。まず、この居住エリアを限定しないものについては、ほかからの参加を大歓迎ですよというふうな表示なり、ＰＲの仕方というのはできないものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

磯貝生涯学習課長。　〔教育委員会生涯学習課長　磯貝恭子君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（磯貝恭子君）

お答えします。

公民館は、やはりその地域の方を主に対象にしている事業のほうが多いんですが、中には、例えば西海で言えば海谷まつりとか、下早川で言えば八十八か所巡りみたいに広く呼びかける事業がございます。そのような事業については、現在は、公民館のほうからおしらせばんに載せてほしいという連絡をいただきまして、市のほうのおしらせばんのほうに広く周知をしているという状況であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

今お聞きしたように、広報紙に載せていただくのが一番市民に広く伝わるんですが、例えば西海地区で農業に取り組む地域おこし協力隊の方が今、赴任されていて、毎年、えだまめもぎとり体験があるんですね。これは、西海地区の方は、回覧板なり公民館だよりに掲載されているんですが、広報に間に合わなかった場合とか、例えば生育を待ってて、どうしても広報紙の締切りに間に合わないこととかもあります。

ただ、このエダマメは、西海で全部消費しているわけではなくて、町なかの直売所で扱われているエダマメで、地域おこし協力隊というと企画定住課、農業というと農林水産課、公民館が申込先になるので生涯学習課というふうに、やっぱりこの横のつながりがとても大事だと思ってるんですね。このような地域おこし協力隊は、やっぱり糸魚川市全体で受け入れたりとかしていかなきゃいけないと思うんですが、まず、横のつながりについて、企画定住課はどうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

議員おっしゃられるように、市役所の中の縦割りではなくて横串が刺さったように連携して取り組むといったところは、とても大切かと思っております。今ほどの協力隊の例でいきますと、農業を担当している協力隊と公民館とは密接につながってる部分もあると、自治会ともつながってますので、そういった中でうまくＰＲができればいいのかなというふうには感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

西海だけではなく、上早川のＳＮＳは、まず、フェルトで作られた焼ヤマンというキャラクターがいて、ほぼ毎日のように雪が降ったよ、切り絵教室があったよって、ユーチューブで動画配信をしています。

田沢まちづくりの会では、おうみ祭りに合わせて、なぎさドームで高校生のライブをしたり、海の日に海岸清掃と海洋プラスチックを考えるイベントをしたりして、外に向けて発信しています。この海の日の海岸清掃のイベントは、すぐそこの田沢小学校だけではなく、青海小学校の子供が参加していたり、市内３つの高校生がボランティアとして参加もされていました。公民館活動というのは、地域の活動も大事なんですが、やはりその学校で体験できないものとか、例えば小学生と高校生のつながりというような活動も、とても大事にされてると思います。

まず、そういったＳＮＳとか、それぞれの活動を、まずどれだけ把握して、ちゃんとリンクが貼れてるかだけ確認できますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

中村企画定住課長。　〔企画定住課長　中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

企画定住課のほうで管理をしておりますホームページの地域の活動紹介のところでは、地域づくりプランを策定しております地区を中心に、ホームページを作っている地区が６地区、それ以外に、ブログ、フェイスブック等でＳＮＳの発信をしている地区として１１地区、それらについてリンクを貼らせていただいております。それ以外のものについては、地区公民館のページで確認いただくとか、それから協力隊であれば、協力隊のまたフェイスブックなりインスタグラムなりで、ご確認をいただくといった形になろうかと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

先ほど市長の答弁で、発行した本は、ほかで販売できるようにと言ったんですが、例えば私、西海なので海谷渓谷の写真集であったり、私が何回も言う五百羅漢、羅漢和尚さんのお墓であったりする、この文化財、載ってる本。最近は、再販された西海の昔話上・下巻というのが発売されています。やはりこういう発売も、公民館で発売しているので、ぜひ多くの方の目にとまって、すばらしいところがあるというふうに糸魚川のファンを増やしていただければと考えています。

では、次に、もう時間がないので、２のキャンプ場について再質問いたします。

まず、農林水産課が管理している海谷三峡パーク、雨飾山麓しろ池の森、不動滝いこいの森について、伺います。

不動滝いこいの森は、池が埋め立てられた原因は、ちょっと安全性ということだったんですが、私、絶滅が危惧されている、泡で産むモリアオガエルの繁殖地だったと記憶しております。こちらのほうの、例えばトンボの生息地だったりとか、環境についてのまず話合いとかは、どのようにさ

れたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

今ほどお話ありますように、不動滝につきましては、利便性の向上と安全確保という部分で池の埋立てを行いました。そのときには地域の、あそこの指定管理者が、今井生産森林組合の皆さんでございますけども、確かにモリアオガエルの産卵地ということは皆さん了解しておりました。

ただ、近くに川等もありますので、ほかの生息地もあるだろうということで地域の方とのお話合いだけだったんですけども、そちらの生息地よりも、やはり利用者の安全を優先ということで、今回、埋立ての工事を実施させていただきました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

私も、ここのところ行ったら、モリアオガエルはいつもどおり卵を産んでて、やっぱり下に卵が落ちて、もう地面の上でおたまじゃくしがふ化していて、ちょっとかわいそうだなとは思いました。ほかの生息地もあるということであれば、ぜひともそちらの生息地を守っていただければと思います。

この３つのキャンプ場、環境維持協力金という形で頂いているんですが、まず、利用者の声や管理人の方からのご意見とかは、お聞きしてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

本年度から、協力金という形で徴収させていただいております。それまでも、やはり予約のときですとか管理人がおるときには、やはりただでよろしいんでしょうかという、非常に恐縮する声というのはお客様から聞いておりました。

今回、協力金という形で徴収させていただきましたところ、大きな不満といいますか、お客様から聞いておりませんし、頂いたお金で、今まで１回だった草刈りが、２度、３度という形で、非常に利用者の利便性にはつながっているのかなというふうには感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

３つのキャンプ場で約３４万円、この金額に対して、市としては多いと思いましたか、それとも予想より少ないと感じましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

協力金そのものが、お一人当たり１００円、また、テント一張り５００円ということで、非常に金額的には、ほかのキャンプ場から比べると安いのかなというふうに思っております。

ただ、もう少したくさん欲しいなという気持ちはありましたので、少し少ないかなという気はしておりますが、今後の利用者の皆さんの推移を見ながら検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

協力金なので、本当にその金額を入れたのか、今までのお客様みたいに本当にただでいいんですかとか、たくさんもっと払いたいわって方もいたと思うので、単純には割り算計算はできないと思うんですが、今までゼロだったところが３４万というのは、大きな収入だと思うんですよ。特にキャンプ場の、先ほど言った草刈りだとかトイレ掃除というのは、どこのキャンプ場もすごく丁寧にされていて、草もやっぱり元気よく伸びるところを一生懸命草刈りしていただいてます。オープンのときと、あと閉園のときは、すごく人手が足りないので、そういう方たちの対価としてお支払いいただければ、またキャンプ場に対する愛着とか、協力しようって方も増えていくのではないかと思ってます。

ただ、あと海谷三峡パーク、オオタカの生息地であって、最近はドローンを飛ばす方がいて、繁殖に影響がないか心配する声があります。例えばそのような注意喚起の看板を立てるなどとかにも、この協力金使えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

特に最近、子供たちの利用も多くなってきましたところ、やはり少しルールを逸脱したような利用も増えてきておりますので、そういう注意看板というのは必要だというふうに私ども施設管理者も見ております。そちらのほうは協力金でなく、あくまで施設管理者であります市のほうで設置ということも可能ですので、指定管理いただいてる方々と、また今後、協議してまいりたいというふ

うに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

前回、私、質問してから、能生の荒崎キャンプ場の水はけの改良、それから高浪の池の電波、不動滝いこいの里のトイレなど、改修していただいて、キャンプ場に訪れた方が気持ちよく利用できれば、また糸魚川のリピーターになって、口コミでさらに糸魚川の来客数が増えるんじゃないかと考えています。

糸魚川の高ノ峰プラトー、ちなみに高ノ峰プラトーは、糸魚川市の管理から外れてると思うんですが、今どのような運営状態になっているかだけ、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

星野農林水産課長。　〔農林水産課長　星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

高ノ峰プラトーにつきましては、施設の所有も運営も大和川生産森林組合が行っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

キャンプ場というと私、高ノ峰プラトー、ぜひターザンロープの復活をって毎回言ってるんですが、今回も言っておきます。森林公園のいいところって、そのまんま森林の、例えば糸魚川のすばらしいブナ林を見たりとかいうのだけでもすばらしいんですが、どうしても私、小さいときの思い出のターザンロープ、復活したらいいなと思ってるので、何かそういう遊具も、体を使って遊べるものがあったらいいのかなということだけお伝えしておきます。よろしいでしょうか。

では、１の教育相談センターと適応指導教室ひすいルームについて、再質問いたします。

１月２９日の総務文教常任委員会で、能登半島地震の被害状況の現地視察を行っております。寺町の糸魚川市教育相談センターにも行っています。この資料によると、建物の危険度被害状況調査を新潟県建築士会糸魚川市部へ委託、その結果を受けて、修繕工法等を精査して対応を検討とあります。

まず、この調査の結果は出たのでしょうか。

○議長（保坂　悟君）

どなたが答えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

調査の結果、建物の軀体自体には問題ないのですが、ご覧いただいたように床や壁がゆがんでしまっている状態で、使用するには、やはり健康被害といいますか、めまいを起こしたりすることもあるので使わないほうがいいというような報告を受けています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

確かに私も入ったときに、車酔いはしないタイプなのに、やっぱり入ってるだけでちょっと気持ちが悪くなるぐらいの、何ていうんだろうかな、沈んだりとか浮き上がったりしてるところがあるなと思いました。

それで、先ほどの市長答弁で、教育相談もセンターもしくは市の相談室で行ってるってことだったんですが、こんなような、めまいを起こすような可能性がある場所で相談を受けててもいいものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

相談の依頼があった方には状況を話して、相談者の希望で、例えば教育相談センターのほうが近いので、そちらでいいという方もいれば、あそこは嫌だという方については、市役所の相談室で行ってます。教育相談センターでも、相談室の１室だけ少し被害が少ない、床がゆがんでいないところも部屋もありますので、できるだけ被害の少なかった場所を使って相談をしておりますし、あわせて、電話相談、これまでもやっておりましたが、電話での相談も多くなっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

これの修繕とかは考えていないということなんですが、まず、図書館で続けることに対しても、ほかの検討をしたんだけど場所も見つかっていないってことでしたよね。それで、まず市長にお聞きしたいんですが、糸魚川市は、ひとみかがやく日本一の子どもを育むをスローガンに掲げ、０歳から１８歳までの一貫教育に取り組んでいます。教育費相談センターとひすいルームの役割・必要性は、市長はどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

非常に児童生徒に対して、やはり多様性の今時代でございまして、それに対応できることが大切かと思っております。学校だけでできないものについては、今言ったようないろんな対応をしていきたいわけでありますので、必ずしも１か所でということではないだろうと捉えているわけでございますので、その児童生徒に適した場所というのも大事だと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

では、次に教育長にお聞きします。

ひすいルームに通っている子供たちにとって、ひすいルームはどのような場所であるべきで、最優先させなければいけないことは何だとお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

靏本教育長。　〔教育長　靏本修一君登壇〕

○教育長（靏本修一君）

お答えいたします。

ひすいルームに通っている生徒が中心なんですけれども、子供たちの声をスタッフの方から聞いていただきました。スタッフの方々とのミーティングの中で、どのようなその思いで子供たちがいるかということについてお聞き取りしましたところ、やはり環境の変化というよりも、自分たちが受け入れられて、温かく見守っていただいて、居心地がよくて楽しい時間を過ごせるというふうな部分からして、やはりスタッフの皆さんが、いつも変わらないで私たちを迎えてくれているのが一番うれしいんだというふうな話を生徒たちが話したそうです。その話を私はスタッフの皆さんから聞いて、確かに環境の変化、大きな変化はあったんだけれども、そういった環境ということももちろん大事かもしれないんだけど、やはり直接自分を理解してくださるスタッフの方が身近にいてくださる。いつも変わらないでいてくださるということが、どれだけ子供たちの心の中で大きなウエートを占めているかということをお聞きしたときに、やっぱりスタッフの皆さん方の存在ってのは物すごく大きいんだな。しかも変わらずにいてくれるというふうな部分のところについては、何か心が打たれるような気がしました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

今、図書館でひすいルームを一生懸命やってるんですが、３階の和室と視聴覚室を利用しているということですね。教育相談センターでは、相談室が独立してあったりとか、調理実習というか料理をするという体験をするための場所もあったと記憶してます。

ただ、図書館の３階に、そのような調理をする経験が積める場所だったりとかというものは、あるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

ミニキッチンといいますか、流しが１つあります。

ただ、今は修繕しないと使えない状況でして、水は使えるんですが、火は使えない状況になってます。その中でも工夫して指導員の方が、カセットこんろを持ってきて調理をしたりというようなこともやっております。

相談については、和室を少し改修しまして、事務室と相談室兼用という形で、これから使っていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

確かに一番大事なのは、スタッフの方と、あとその生徒たちに、子供たちに接する人の気持ちというのが私も一番大事だと思うんですが、そうは言っても、ある程度の場所なり、何ていうんだろうか条件というのが大事だと思ってるんですよ。例えば今、和室改修されたということなんですが、和室というのは、ふすまの私イメージがあって、個人情報の保護だったりとか、例えば３階はひすいルームで、安心して子供たちがいれる場所だよというためには、一般の方の立入りだったりとか、いきなりガチャって間違えて開けられないようにすることも大事なのかなと思うんですが、今その辺の環境はどうなってるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

今、和室の改修が終わったところで、まだ正式な事務室の移転はしていません。

ただ、したとしたときに、書架に鍵をかける。それから、和室の入り口に鍵をかける。それから、できるだけ個人情報、重大なものについては置かないようにして、今の教育相談センターを金庫代わりといいますか、そちらに重大なものは置いて、そのほかのものについて、ある程度のものは、書架に鍵をかける。入り口に鍵をかけることで対応していきたいと思います。

また今後、３階に一般の方が、ひすいルーム使用時に来れないように、来られないというかご遠慮いただくように、貼り紙をするなどして対応していきたいと思ってます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

ただ、図書館というのは、土曜自習室とかで使われてることがあると思います。そうなると、私、自習室を使っている人たちも糸魚川市で子供たちでと思うと、じゃ、その子たちが自習室なくなり

ますよってわけにいかないと思うんですね。

ただ、ひすいルームは、やっぱり占有じゃないと、例えばいろんな道具を置いてあったりとか、それを一旦片づけたりとかいう手間も出てくると思うんですよ。その辺の調整はどうするつもりでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

平日の夕方に開放する場合は、それから、土・日曜日の土曜自習室とかで使う場合については、大事なものは倉庫にしまって鍵を閉めるようにすることにしています。

ただ、委員おっしゃるように手間なんですが、致し方ない状況だと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

教育相談センターが、まだ全然修繕とか建て替えるという予定がなくて、もうしばらくの間、もう簡単に１か月、２か月ではなくて、かなりの期間、図書館を使うんであれば、やっぱりそこをひすいルーム占有だとか、土曜日になったら片づけなきゃいけないとかではなくて、占有していく必要性が、私はあるんではないかと思ってます。

ただ、図書館が悪いとかではなくて、図書館も、例えば鍵を、月曜日、休館日でも開けたりとか、協力していただけることはすごくしていただいてるとは思っています。なので、その辺の調整をもっとしていただければと思います。センターには、２階に卓球台があって、体を動かしたいときは、この卓球とかで運動とかしてるんだというふうにもお聞きしました。

まず、この卓球台とかを入れるスペースはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

卓球台については、会議室の奥のほうに既に入れてあり、子供たちも使っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

ということは、その卓球台も土曜日とかになったり、自習室になる場合は、片づけるってことでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

隣の倉庫に片づけます。キャスターがついてるので、注意しながら移動させたいと思ってます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

もう一つ、教育センターには、箱庭療法の道具があったと私、記憶してます。

箱庭療法というのは、箱の中に砂が入っていて、心理士が見守る中でクライアント、カウンセリングを受ける立場の方が、まず人や動物、乗り物、木とか花とかいったミニチュアを箱の中で自由に置いてったりとかすることで、風景とか、どういうストーリーで人間をここに置いてるんだというふうなものを創り出して、心理状態を読み解いていくものです。例えば川を造ったんだけど、橋がなくて、人間がこっちにいて、おうちが川の向こうにある場合、橋がないから、おうちに帰りたくても帰れない心理状態かどうかとか、そういうふうなのを読み解いていく道具です。

ちなみに、こういった道具は、全部図書館に移動はできてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

まさにこれから引っ越しをする段階でして、その箱庭療法の道具も移動させたいと思ってます。

ただ、土日にそのまま置いておくのはなかなか難しいので、これも隣の倉庫に土曜日は移す。使用の予定がある場合は移すことにしています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

これから本格的な引っ越しを行って、これから先は、じゃ図書館のもう３階でひすいルーム、相談業務とかも本格的に行っていくという考えで、まずよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

そうですね、これから引っ越しをしたり、また相談業務を始めながら、また不都合な点があれば、できるだけ生涯学習課は図書館所管ですので、相談しながらお互いに譲り合ってといいますか、利用者の方にご迷惑がかからないように、できるだけ対応していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

ひすいルームは、開設は１０時からで、図書館９時半オープンですよね。

まず、職員の出勤時間というのは、まず、９時半なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

指導員の出勤時間、８時半頃に大体出ております。大体、図書館の職員さんも８時半頃来られるし、来られない場合もありますので、休館日などありますから、鍵を１つ借りておりまして、その鍵を使って入り口の鍵を開け、中に入るというふうに今のところしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

ということは、ひすいルームも含めて、そこの職員は、教育センターのところで事務作業をしたりとか仕事をする必要はないってことですか。図書館で全部完結してるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

これからの話になるんですが、もう事務機能が移転して、電話、まだ電話の配線もまだしてないんです。電話やＬＡＮ配線等、工事が終了し次第、図書館の３階のほうの和室で事務機能も完結すると考えています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

先ほど、土曜日とかになると、卓球台や箱庭療法とか使わないものは全部倉庫に片づけるということだったんですが、教育相談センターを見たときに、調理実習やるだけではなくて、壁に子供たちの写真とか絵だとか習字だとかも飾られたりとかしていました。その絵とかを見て、やっぱりここは僕たちの居場所なんだよとか、例えば習字とかも少しでも上手になったら成長の段階が見れるなというような、学校と同じような機能も果たしてるんだなというふうに私は感じております。それが、もうひすいルームが完全に図書館に移転したら、そういったような掲示物とかもできるようになるんでしょうか。先ほど言ったみたいに、卓球台も片づけるんであれば、毎回毎回、せっかく飾った写真や絵とか習字とかも、一旦また外して、またつけてってことを、手間をかけていくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

子供たちが作った大事な作品ですので、ないとは思うんですが、土日の間にいたずらされたりというところも考えられます。また、個人情報、名前等が入っていると、個人情報にも関わりますので、その辺は掲示するか、しないか、今後、また指導員の方と相談しながら、掲示物については考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

先ほど教育長おっしゃったとおり、やはりあそこのひすいルームというのは、学校でも家庭でもない子供たちの大事な居場所だと思っています。やはり、どうしてそこに通えるようになるかというと、職員の方の対応であったりとか、この温かい雰囲気というのは、すごく大事にしなきゃいけないと思うんですね。その職員の方が一番力を入れなきゃいけないのは子供たちに接する時間だと思うんですよ。それが、例えば片づけたりとか、その何ていうんだろうかな、安全性とかで鍵をかけたりとかするほうに労力とか時間とかが取られて、子供たちに接する時間や相談の時間が減ってはいけないと思うんですね。その辺は、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

お答えいたします。

田原議員おっしゃるように、子供たちとの限られた時間の中で、いかに関わりながら子供たちの心に寄り添って、子供たちが願う活動を一生懸命やって、充実感・達成感みたいなものを持たせて、またあしたねという形でもって、心の安定みたいなものをどんどんつくっていくわけですけども、片づけたりというふうな作業的な部分の中での生徒との関わりも、これ、大変大事な場面なんです。清掃とか後片づけとか準備とかというふうな部分も、やっぱり大事な教育活動だというふうに私は捉えています。ただ単に、その作業等に奪われる時間が、大変子供たちの触れ合いが短くなるんじゃないかという見方もあるかもしれませんけども、そういう場面も教育活動の一環だというふうに私は捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

確かに日本の学校では、掃除が子供たちが行うということは、すごく世界各国から見て、すばらしい活動だと。掃除を通じて、自分が使ってるところは自分で片づけるんだとか、自分たちが使ってるところは、自分たちが汚せば掃除する人も大変だよねという教育の一環でもあることから、そ

の片づけたりという作業もすごく大事だと思います。

ただ、やはり今までのセンターでは、その手間だったり時間がない分、子供たちに接したりとか、例えばその分、職員が増えてるわけじゃないので疲弊しちゃいけないと思うんですよ。やっぱり子供たちの、関わってる方たちが、その職員の方たちが、今までどおり１年もたってますが、これから本当に移転して、そこを本格的に使うんであれば、やはりこれから先、起こるであろう不都合だったり、子供たちの不安なところが助長されるようではいけないと思います。その辺、職員の方たちとよく話し合っていただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

現在の教育相談センター、地盤、それから基礎の工事について試算したところ、約３，０００万から４，０００万円かかるとの試算が出ております。能登半島地震で被害を受けた場所ですので、そこに再建したときに、また同じような地震が起きたときに、また大きな被害が出る可能性もある。

ただ、やっぱり大事な子供たちのための施設ですので、早くしっかりとした居場所をつくってあげたいというのは、これは教育委員会みんなの願いであります。

今、学びの多様化検討委員会のほうでも、学びの多様化学校と一緒に教育相談センターの相談機能、それからひすいルームの機能を一緒にしたらどうかという案も委員のほうから出ています。そちらの議論と状況を見ながら、また相談センターのちゃんとした場所といいますか、移設する場所等について、これからしっかりと検討していきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

補足をさせてください。

引っ越しの作業がこれからどんどん進んでいって、少しでも使いやすいような環境づくりについて、教育委員会も一生懸命、スタッフの皆さん方と相談しながら進めていきます。教育活動を進めていくわけですから、その活動の中の困ったこと、運営上の中の困ったこと、それからいろいろ諸問題等、諸課題とか出てくると思います。そこら辺りについては、田原議員おっしゃったように、ミーティングといいましょうか、打合せみたいなものを定期的に進めていく中で、可能な範囲、それをスピード感を持って改善していくというふうなスタンスは、教育委員会としては大事に進めていきたいと思ってます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

最初の答弁で、教室復帰できたりとか、教室に入れなくても同じ学校内の別室に登校している生

徒、それから高校の進学というふうに、本当に子供たちにとっては、ここで復帰できるかできないかというのは、人生大きく変わってくる場所だと私は思っています。地震の発生から１年たって、それまでの間、教育委員会も一生懸命、空き店舗だったりとか市の施設だったりとか、あっちはどうだとか、こっちは通うの大変じゃないかとか、すごく検討されたと思うんですね。

ただ、私にとっては、１年もたってるのに、やっと今、全部引っ越しなんですかって正直思いました。早ければいいって問題じゃないんですが、この先も本格移転、引っ越しした後に、こういう不都合あるのに、まだ検討中ですとか、ちょっと方法がまだ見つからないのでといって先延ばししてるようでは、子供たちの成長というのはすごく早いし、例えば３月から４月になって学年が変わる、進学するというシーズンになると、全く、タイミングを外すだけで違ってくると思うんですね。スピード感を持って対応していただけないでしょうか、いま一度、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

お答えいたします。

今ほどご提言のように、スピード感を持って進めてまいります。ひすいルームに通ってくる子供たちは、中３が多いんです。だとすると、やっぱり進学、卒業・進学というな部分のところ、目の前に大きな課題がぶら下がってますので、少しでも居心地がよくて学びやすい、そしてスタッフの皆さんと一緒になって充実した時間が過ごせるような環境づくりを鋭意進めてまいりたいというふうに思ってます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

学校に行くには様々な理由でハードルを感じている子供にとって、ひすいルームというのは社会と接する大切な場所であると考えます。学校で学ぶような、例えば調理を通じて学ぶことというのは、料理を作るだけじゃないと私は思っています。何よりも本当に、ここはあなたたちの場所なんだって、通ってもいいんだ、受け入れてくれるんだという、温かいルームを一日でも早く取り戻すために、教育委員会だけではなく、例えば図書館であるから生涯学習課も含めて、様々な担当課がこの施設は空いてるけどどうかとか、例えば倉庫に荷物を片づけるのに棚があるよとか、こういうふうな、うちは関わり方ができるよというふうに、糸魚川市全体で知恵を出して、子供たちに対して接していただければと思います。

いま一度、糸魚川市ホームページにある適応指導教室ひすいルームの目的を読み上げます。

不登校状態にある児童生徒に対して、情緒の安定や人間関係等の改善を図りながら、再登校に向けた相談支援を行っていきます。

米田市長、もう一度、子供たちに対して、学校や教育、人と社会と接することの大切さを、市長の口から教えていただけませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

やはり、糸魚川の児童生徒の皆さんには、やはり平等な教育というものは与えられるべきだと捉えております。そういう中で、今いろいろな個々の特徴なり性格なり、いろいろ持った人たちがおられるので、なるべく今のある学校で対応できればいいんですけども、そういう学校でなかなか対応できない児童生徒については、それに対応していくことが大切だろうと思っております。やはり少子化の中においては、きめ細やかな教育で対応していくことが、我々糸魚川市の行政としての責任だろうと思いますし、そういった形でしっかりと育てていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原洋子議員。

○６番（田原洋子君）

今回ひすいルームに限って質問したんですが、ひすいルームには、能生の能生ルームもあって、能生ルームは、月、水、金と毎日ではないとか、午前中だけであったりとかいうのもあります。なので、先ほど学びの多様化学校の話も出ましたが、それだって、あしたすぐ造れるわけではないと思います。糸魚川市の学校に行きたいんだけど行けないとか、学びたいという意欲がある子供に対して、本当に糸魚川市全体で子育てをしていくんだ、子供たちに関わっていくんだという強い意志を持って、教育を進めていただきたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

○議長（保坂　悟君）

以上で、田原洋子議員の質問が終わりました。

ここで、２時３５分まで休憩といたします。

〈午後２時２８分　休憩〉

〈午後２時３５分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。　〔１６番　古畑浩一君登壇〕

○１６番（古畑浩一君）

お疲れさまでございます。一般質問もね、一番最後の大トリということで、お疲れのこととは存

じますが、もうしばらくお付き合いをお願いをいたしたいと思います。

それでは、通告書に基づきまして、一般質問をさせていただきます。

それでは、旧東北電力ビル解体工事４度目の入札不調はどういうことなのか。

(1) 不調の原因とは何か。

(2) 本年６月議会で当初見込み５，６００万円を９，８００万円に大幅増額したのになぜ不調なのか。

(3) 総務文教常任委員会では、解体工事の増額補正は行わないと市長は明言されていらっしゃいますが、これを信用していいのか。

(4) 駅北子育て支援複合施設の建設日程に支障などないのか。また、建設費、年間維持管理費等、増額のおそれはないのか。

次に、市内中学校いじめ事件に対する学校現場及び教育委員会の対応につきまして、お聞きいたします。

(1) いじめ・不登校の推移と現状。対応はどうなっているのか。

(2) タブレット紛失事件に端を発した一連のいじめ事件の概要と教育委員会、学校側の対応に問題はなかったのか。

(3) 総務文教常任委員会では、重大事態ではないと報告されたが、一転、重大事態とされ、追加調査とされたが、その経緯と現状についてお聞かせください。

次に、市長選挙について。

来春、行われる市長選挙について、１２月になっても進退を明らかにしないのは、あまりにも無責任と思われます。進退を明確にすべきと思いますがいかがでしょうか。

以上で、１回目を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

１番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

２番目の１点目につきましては、現時点ではお答えすることができません。

２点目につきましては、基本計画の概算で５，６００万円と見込んでいたものが、解体設計の見積により、９，８００万円となったものであります。

３点目につきましては、委員会のときの答弁も現時点の答弁につきましても、入札執行中でございまして、予算の範囲内で執行できるよう努めてまいります。

４点目につきましては、解体工事が遅れた場合は、本体工事の工期等への影響が懸念されます。

また、工期が延長された場合は、整備費などが増額となるおそれがあります。

３番目につきましては、私といたしましては、市長職は非常に重いものと受け止めておるわけでございまして、まだ私自身も判断ができてない状況でございますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしましたが、再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁

もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷭本教育長。　〔教育長　鷭本修一君登壇〕

○教育長（鷭本修一君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、いじめの認知件数は、４年度は１００件、５年度は１３７件、６年度は１０月末現在、７７件であります。

各学校で継続的に児童生徒の人間関係を把握したり、アンケート調査を行うなど、未然防止、早期発見、即時対応に努めております。

また、不登校児童生徒数は、４年度は４９人、５年度は７２人、６年度は１０月末現在、５４人であります。

不登校につきましては、校内及び校外適応指導教室での支援や家庭訪問等を行い、一人一人に応じた支援に努めております。

２点目につきましては、いじめ問題専門委員会の調査報告で、教育委員会及び学校の初期対応に不備があったとの強い指摘を受けております。

３点目につきましては、いじめ問題専門委員会による調査終了後、状況に変化があったため、重大事態として捉え、追加調査を行っております。

経緯や現状の詳細につきましては、追加調査中であることや個人情報に関わることで、関係者の意向もあることから、回答を差し控えさせていただきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

順番を変えましてね、市長選挙出馬につきましてなんですが、米田市長、一緒に議員も同じクラブでやってました。それぞれ与党として、そのときの市長にご出馬のご意向を聞くというのが、我々与党派の務めでございました。

でもね、過去、私も木島長右エ門さんとか山田紀之さんとか、いろんな方々の出馬表明の時期、もちろん米田市長にもお聞きしました。けど、歴代市長の中でこの１２月の末になって、自分の進退を明確にしなかった市長はいませんよ。それは市長、あまりにも無責任ではないでしょうか。糸魚川の未来を憂うからこそ、自らもう１期やりたいんならやりたいってしっかり意思表示すべきだし、自分のこの糸魚川の未来をちゃんとした人に託したいと思うなら、やはりもっと早くに辞意を表明して、新しい市長を皆さんの中で選んで出してきてくださいってやるべきじゃないですか。いかがですか、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

非常にご提言ありがとうございます。私といたしましては、やはりこの時々の考え、その年齢だとか、やはりその時代時代、そういったところを考えた中で私は判断をしてまいりました。そういう中で、今冬につきましては、非常に市長職というのを重く受け止めておる次第でございます。そのようなことで表明はできませんが、しかし、これは私の問題であり、だからといって、ほかの人たちが立候補を抑えることも私は、ないのだろうと思っております。

そのようなことで、私といたしましては今の状況の中では、そのようなお答えをさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

出馬する、しないかはね、ご本人の、いわゆる勝手だと私もそう思う。

けどね、もう既に勝手が許されるほどね、米田市長、あなたはそういう小物じゃないです。やっぱり市長選挙を連続５期、市議会議員の経験も長い。もうそれだけの大人物でありますよ。あなたが辞めたと、または辞意を表明するまでは、新しい方は、やっぱり特に自民党系は手を挙げにくいでしょう、挙げた勇気ある女性の方もいらっしゃいますけどね。やっぱりそういったことが、ネクストの時代を創り上げていくための一つのプロセスといいましょうかね、大事な時期だと思います。このまんま、年を越してしまうのは、私としては大変残念でございます。後輩として認めてくれるんなら、やっぱり言いたいですけど、そこら辺の進退は、もっと早く言ってほしかった。後は市長にお任せをいたします。

それでは次に、入札不調４回連続ってやつね、これちょっとお聞きしたいんですけどね。これもう一度、今まで渡辺栄一さん、東野さん、それぞれお聞きになってるんでね、何回聞いても不調の原因は言えないと。なぜ不調になったのかは、まだ入札が完了してないので細かいことは申し上げられないということなんでね、それは、そこはまあいいでしょう。

ただね、本年６月議会で当初見込み５，６００万円を９，８００万円に大幅増額しましたよね。これは何でなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

当初５，６００万円と見込んでおりましたものは、基本計画策定時に解体費用５，６００万円と見込んでおりましたけれども、昨年度、令和５年度に解体の詳細な設計を行った結果、予算を９，８００万円ということで、６月補正でお願いしたというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

これは、大幅に９，８００万円に増額しましたよね。このときの積算根拠の甘さにつきましては、この議会でも、総務文教常任委員会でもおかしいじゃないかと。幾ら何でも７６％ですか、の増額というのは、予算を考える上でも計画行政というものを考えて、長期ビジョンをつくる上においても、ある程度どのぐらいかかるかというのの大きな目安になると。それについて額が違い過ぎるということで問題になって、委員会では否決、本会議では通りましたよね。

もう一つあるんですよ。今、物価の高騰だとか、何だそういう人件費のアップといいますけど、この金額ですね、この９，８００万円が議会を通過したのは６月、で、第１回目の入札が７月に行われてますよ。その７月のうち、中に何か大変動があったんですか。大幅に鉄鋼だとかそういう人件費だとかが倍以上に上がっていくとか、何か大変革でもあったんですか。それを見越して、積算し直したのがこの９，８００万円じゃないんですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

室橋こども課長。　〔教育委員会こども課長　室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

令和５年度に設計を行いまして、積算された金額に基づいて９，８００万円ということで６月補正で計上させていただいたものでございます。ですので、その設計に基づいてということで、適切に金額を算出したというふうには思っておりますが、現状、入札の中では不調が続いているというふうに認識しております。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

何回も言うようにさ、全ての計画というものはね、予算計上をして、ある程度の見込みの中において、その予算の中に収めるようにして、いろんなものを造っていくんです。橋だって道路だって、もう釈迦に説法ですけどね。その根幹をなす予算が大幅に崩れるようであっては、ましてや４回も不調に終わるようであっては、計画行政も何もないじゃないですか。だったらやるとだけ言って、幾らかかるって聞いて、幾らですと言われたら、じゃ幾らねとやればいいんだ。予算なんかいいじゃないですか。我々も予算をしっかりと見る必要もないわね。

でも、計画行政とかさ、計画財政って、そういうもんじゃないんでしょう。ある程度予算を立てて、幾らで終わるかという見込み、それに沿って計画を進めていかなくちゃいけない。これはやはり積算根拠、それが甘いんじゃないですか。これ、誰ですか、積算したの。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

一般のやはり予算取りにおきましては、ある程度概算で上げていきます。そして、実際その中で、設計をしっかり組んで発注する仕組みになります。そういうことで、このたびは、やはり基本計画ですよね、計画の中での概算は５，６００万円という見込みであったわけでございます。それからまた、やはり少し時間もたってるわけでございまして、正式に積算いたしたところが９，８００万円ということで、ご理解いただきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

あのね、どうしてこんな予算が上がったかって一般の市民の皆さんに説明するなら、それで通るでしょう。

しかしね、議員として最初っからこの計画は幾らぐらいで進むんだろうって、ずっと見てきた人間に対して、それはないでしょう。蓋開けたら高かったよ、ごめんね、差額見てくださいというふうなのは、ちょっと甘いんじゃないですかね。

それから、１つ気になるのが、東野議員の昨日の質問で使われた、これ何だ、不落の意味というのは何ですか。さっきも渡辺さんが聞いてましたね。不落随意契約とは、一体何を指しているんですか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

猪又財政課長。　〔財政課長　猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

不落随意契約とは、再入札２回で落札業者がなかったとき、その差が僅かであるときに、最低業者の方と随意契約の交渉を行うものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

この不落の、いわゆるね、使ったことないんですよ、この議会では、糸魚川では。不調と言います。不落ってのは何ですか。応札した業者がいたってことですね。いいですか、入札の決定がなされないうちに何者が応札したとかなんとかって言っちゃいけないことなんですよ。応札があったとも、ないとも言っちゃいけない。あなた言いましたね、問題ないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

井川副市長。　〔副市長　井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、古畑議員から質問が、不落ということで質問があったので、財政課長はその中身についてお答えさせていただきました。

市は、委員会等で一貫して不調というふうに申し上げております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

昨日の東野議員のときにおいてはさ、入札業者と、確かにあったと、そう言ってますけど、議事録確認してください。

○議長（保坂　悟君）

暫時休憩いたします。

〈午後２時５２分　休憩〉

〈午後２時５３分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

この件につきましてはね、そこはやっぱりなぜ４度も、いわゆる不調になったのか。その中における応札した業者が何者あったのか、どうなのかってこっちも聞きたい。けど、それを聞いたら駄目なルールになってます。これは、入札が完了してないから、事前にそれをやることも聞くことも駄目です。これは、総務文教常任委員会ではっきりさせたいと思いますけどね。

それから、今の論議でいくと、あくまでも計画であって、その次に、今度は解体した後に建てられるであろう子育て支援施設についても、過去に３億円だろうって言われたのが５億円になって１０億円になって、１２億だって言われたら、パブリックコメントで市民に発表する段階では１５億になってきましたよね。その分の今回の解体費用だとか土地の取得分を引いたとして１２億５，０００万円だということで、こないだ通りましたよね。私は、公共事業というものは、必ずアップしてくるから、これは認めるべきではないでしょうとやりましたけど、多くの議員さんたちがね、そこに賛成したんで、ここは責任取ってもらいたいと思うんだけど。この子育て支援施設、この建設費も同様に上がってくるとか、そんなことはないですよね、市長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

やはり入札に応じて応札いただいた金額で決定した分については、それで決定されたと捉えております。変更にあるとしたら、物価の高騰だとか、諸般の事情の中において、お互いに契約の中で認められる範囲の中では、そういったことが起き得ることが、以前もありますし、これからもあると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

これからあったって困るんですよ。限られた予算の中を論議をして、予算を通して、今回、ＤＢＯに決めたんでしょ。その中において、事業やってみたらやっぱり建設費足んないわと。またそれ繰り返すんですか。

キターレの場合は、何も建てない、貯水槽を埋めるんだ、上はこういうふうにするんだって話が、じゃテントを建てようって話になって、これなら雨天でもイベントができるって話が、いつの間にか箱物になって、その箱物が２階建てのキターレになった。だけど、そのときはもう私は議員じゃない。帰ってきたら、キターレはできていましたが、２階建てではなくて１階建てになってました。これも、ちゃんとして議案を通した後ですよ、議案通した後、議会の承認も得ないで、あなた勝手に２階建てを１階建てに計画変更して通しましたね。そういうことを、またやるつもりなんですか、私なら許しませんよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

２階建て２階建てといいますが、ほんの一部だけ２階だったわけであります。物置と、やはりスペースが多いから事務的にも使えますねという範囲のものでございまして、お話を聞いてると、全て総２階のような捉え方をしますが、決して、そういう状況ではございませんでした。

そして、やはり金額をしっかりと抑えることが大事という形の中で、そうなったということをご理解いただきたいと思っております。

ご承知のとおり、入札をして、やっぱり工期の長いものについては、その間、物価が上がっていく部分がございます。それは、やはり請負業者の責任ではないものがあるわけであります。そういったところについては、これはもう国の、やはり国もそうですし、県もそうですし、当然、我々自治体もそうでございますが、物価スライド制の中で工事受注をしていただいたわけでございますので、やはりそういうような経緯を認めたときには、受注価格が変動する場合があります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

おっしゃることは何となく分かりますけどね。上げ幅、前に７６％も上げてしまったこともあるんでしょう。当初の見込みであって、じゃその見込みならって計画を進めて、じゃ工事に入りましょうといったら７６％も上がる。これ、今回も一緒になるんじゃないですか。計画行政ってのは、そういうもんじゃないでしょ。常に予算に縛られながらも、実現をその予算の内にしてやるのが普通なことだ。

ただ私、もう一つ信用できないのは、今回もそうですけどね、前に特別随意契約で権現荘にやったときだって、初めて聞いた言葉だった。だから、何か初めての言葉を使うときは、何かまた、ごまかさられているんじゃないかなと私は思ってしまいます。難しい専門用語を使ってね、ごまかすんじゃなくて、ちゃんとやってもらいたいと思うんですけど、いや、しかしこの際ですよ、この計画が遅れるってことはないと言ったね、ぎりぎりだけど。だけども実際、ビル壊す解体工事だけはある程度しようがないとしても、子育て支援施設については、もうやめたらいかがなんですか。

さっき、田原洋子さんの質問にもあったように、不登校の数なんて去年の倍以上でしょう、ねえ。この不登校の数やいじめの相談数なんて軒並み上がってるのに、その肝腎の、いわゆるひすいルールだって何だって地震が傾いて１年以上もそのままで、今ほとんど使えない状態で、静かにしなくちゃいけない図書館を使って、そこに対応する。スピーディーにその対応していきたいといったって、全然スピーディーじゃないじゃないですか。だけど、この子育て複合施設の１２億５，０００万円があれば、造れますよ、直すこともできるし。市長、今日は誰だ、阿部議員さんがね、やっぱり聞いたけど、やっぱりこれから老人福祉も福祉介護施設も、未満児保育だって、予算さえあれば、全部おっしゃってることが実現できるんじゃないですか。もうさ、ある程度ここまで来て、下がれなくなる気持ちは分かるけど、やめて真に市民が必要とする制度やそういうものに予算を切り替えたらいかがでございますか、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

ほかの議員にもお答えさせていただきましたが、やはり計画をしてきております、この事業につきましては、多くの方にいろんなご意見を聞いております。今おっしゃるように、反対される方もおるでしょう。

しかし、推進をしていく。また、推進してほしいという声もあるわけでございますので、私といたしましては、今まで進めてまいっているこの事業については、計画どおり進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

もうこれだけ言ってもね、もう駄目なんでしょうけど。とにかく、予算はこれ以上、びた一文出せませんのでね。その限られた予算の中でしっかりとやっていっていただきたい、見直した予算の結果なんでね。

それから、不落の随意契約につきましては、建設省のほうから、そういうことは厳に慎むようにと。これ、後であげるね。

不落随契の原則廃止等その他厳正化についてとあります。必ずしもやり方が推奨されるものではないし、基本的にはちょっと談合の疑いもかかってしまうんでね、あんまりよくないんだそうです。十分お気をつけください。もう、私もうるさいことを言うのは嫌ですからね。その点を十分留意してやってもらいたいと思います。

ちょっとね、次のいじめ事件に対してね、行きたいと思います。もう１５分も使って、すいませんでした。すぐに行きたいと思います。

このね、やっぱりいじめの問題、いじめ・不登校のさ、現状と対応につきまして、教育委員会では本当にどういうふうにお考えなのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

いじめの認知件数については、先ほど教育長が申し上げたとおりです。昨年度の１，０００人当たりの発生率、いじめのほうは５５．６であります。全国は５７．６と、ほぼ全国水準であります。不登校のほうについては、糸魚川市は２９．２、全国は３７．２と。この数字が少ないからいいとかいうわけではなくて、やっぱり一人一人に寄り添った対応というのが大事だと思ってます。

いじめについては、早期認知、それから全職員で対応する。それから一人一人に合った支援をしていくと指導していくというふうなことを基盤にして、各学校で取り組んでいただいております。不登校については、いろいろな状況の子供がおりますので、これについても、先ほどありました、ひすいルームでしっかりとエネルギーをためてもらって、できればその子の希望にもよりますが、学校復帰を目指して支援していきたいと思っております。

不登校のほうについては、これはもう年々多くなっております。大きな問題として捉えて、教育委員会全体、それから学校と連携しながら、また、関係機関とも連携しながら対応していきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

コロナとかね、インフルエンザじゃないんだから、全国の平均レベルですとかって言われたって駄目でしょう。いじめや不登校は、やっぱりゼロを目指してもらわないと困りますよ。

では、なぜいじめや不登校がこんだけ増えたのか、その理由につきましてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

お答えいたします。

一般的な回答になるかもしれませんが、やはり社会的な環境の変化に応じて、やはり様々な子供たちの生活スタイルが変わったり、あるいは遊ぶ関係の中身が変わったり、友人関係との関わり方がまた変わったり、様々な複雑な要素が絡んでるんじゃないかなと。特に家庭で過ごす時間の中の生活リズムを含めまして、だんだん何か規律っていいましょうか、一定的なパターンの生活みたいなものも、なかなかしづらくなってきてるというふうな要素も加味してるやに思います。価値観の多様化等も含まれますし、保護者の考え方も、それぞれに多様であります。それから子供たち自身の学ぶ意欲なんですけれども、やはり非常に多様化しているというふうな部分のところもいろんなアンケートを通して考えております。だとすると、やっぱりなかなか特定できない。これだというふうに決めつけるような原因みたいなものは、なかなか見つけられないでいる。やっぱり大きな関係の中では、やっぱり環境の変化と同時に人と人との関わり方が、やはり以前とは随分変わってきてるのかなということについては、十分に私どもも受け止めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

基本的にはさ、立派なことおっしゃってますけど、言ったことをやってくださいよ。さっき言うようにさ、相談ルームだとかひすいルームだとか、そういうこともなくしてさ、何でその生徒に寄り添ってどうのこうのって言えるんでしょうか。

ここはやっぱり私のところに今回の件、特にいじめ、重大事件の件について、いろんな方々が相談しに来たり、その被害者の会の方もいらっしゃいます。今回の質問は、私の独断ではなくて、そうした被害者の会の方々の声を、基づいてやります。生徒のプライバシーに関わることは、一切質問いたしません。私が問うのは、教育委員会と学校現場の対応のまずさですよ。今回指摘された多くの問題も、そこに行きつき、最終的には重大問題まで行ったのは、間違いなく、あなた方のせいですね。

それではお聞きしますが、今回の初期対応のまずさがＳＮＳによるいじめに発展し、中学生のみならず高校生を巻き込んだいじめ大事件となり、被害者総数、生徒総数が１９人以上にも上る今回の混乱を招いたんではないでしょうか。

やはり、この証言の中の多くは、学校側も教育委員会も、今回の事実を初期段階で隠蔽しようとしたんではないですかって言ってます。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

調査委員会のほうから、学校、それから教育委員会の対応について指摘をいただいてます。タブ

レットの紛失時、１台目のタブレットの紛失時の対応について、不適切であった。それから、その紛失当時、紛失時のマニュアルが市としてなかったこと、それから学校として１台目がなくなったときに、持ち帰りの禁止や鍵のかかる保管庫での保管というような措置を取らなかったことが、２台目の紛失等につながったということです。そこについては、大いに教育委員会は反省し、今、再発防止として、マニュアルの作成、研修会の実施等を行っております。

実際、私たちが、学校、それから教育委員会がこのいじめの事案を知り得たのが、令和５年４月１３日、生徒からの訴えにより、不適切な画像、それからメッセージの送信が明らかになりました。その後は、学校や警察等と連携しながら対応してきたつもりであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

今ほどの課長の答弁に、ちょっと補足をさせてください。

初期対応が非常にまずかったということについて、学校と教育委員会の責任があるというご指摘だと思います。確かに、今ほどタブレットの端末がなくなった、１台目がなくなったときに、これはもう完全にいじめの事案として預かっていれば、しっかり認知して預かっていれば、いじめの対応としての対応できたわけですけど、その認知が、まず、なされていなかったということが、非常に危機管理なさの甘さ、それが、まず大きな原因です。それは学校と教育委員会、同じような問題意識の中で過ごしていってしまったもんですから、フリーしてしまった。２台目に、また紛失があったわけですけども、それもまたいじめなんですけれども、いじめの認知という形にしっかりとカウントしなかった。要するに、いじめの事例として挙がってこなかった。それについて対応するというふうな部分についてのアクションが、何も起こさなかったということが、そもそもやっぱり初期初動の一番の大きなまずさということで、専門調査委員会からの強い指摘、評価を受けたという内容が、最初の第一歩のスタートが、大変間違っていたということの反省でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

なるほど、そうだったんですかってね、納得したいところなんですが、事実は違うでしょ。このタブレットは２台なくなりました。この２台がなくなって、さあどうしましょうかということをやってるうちに、生徒さんの自宅から発見された。それは母親を伴って返還されたはずです。母親は、この件について、まるでうちの息子が取ったようなんで、警察を入れてぜひ調べてくださいって言ったけど、そのとき教育委員会はどうしました。記録読んでるんでしょう。

○議長（保坂　悟君）

どなたが答えますか。

〔「休憩お願いします」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

暫時休憩いたします。

〈午後３時１１分　休憩〉

〈午後３時１２分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

３月に２台のタブレットが発見されたときに、教育委員会と学校のほうで連絡を取り合いました。そのとき教育委員会の担当者と学校のほうで話して、見つかったので、これでよかったという言い方は悪いかもしれませんが、ほっとして、それ以上追及しなかったというところ、この点についても調査委員会から、対応が不適切であったというふうな指摘を受けております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

実はここからがね、この１つのいじめ事件を複雑に、奇々怪々にするスタートなんですよ。

いいですか、タブレットが２つがなくなりました。この２つは、生徒の家から発見された。親御さんがちゃんと学校へ持ってきてくれました。そのとき学校は、年度末もあったし卒業生もあるし、これ以上みんなに聞き取るのも大変だから、これはもうお母さん、これ以上、追及しませんよ、大丈夫ですからって。じゃ、このタブレットどうしますか。学校で掃除してたら見つかったってことにしようって、やりましたね。それを文書にして保護者に出そうとしたんですが、それがいつ、４月９日です。そうですね、いかがですか、その件については事実ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷭本教育長。　〔教育長　鷭本修一君登壇〕

○教育長（鷭本修一君）

お答えいたします。

掃除をしていて、結局それが見つかったということの内容については、今までいろいろな意見交換とか情報交換した中では聞いたことのない話でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

この件についても、書類見せてあげたいけどさ、実名いっぱい出てるんで、これ駄目だろうね。年度末の整備って書いてますね。そういうことを向けて、保護者に対して配ろうとしましたよ。年度末の整備作業で発見しましたって書いてある。確かに掃除とは書いてないですね。

でだ、保護者向け文書の作成ありがとうございました。事実を知らせることは、ＧＩＧＡスクールを推進する上で大切なことでありますので、感謝いたします。文章の修正は、ございません。多分、事実関係、これでいいですかと聞いたんでしょうね。事実関係ができない時期でしたので、年度末の整備作業で発見という表記されたのだとご推察します。

これ、誰から誰への文書だと思いますか、知ってるなら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

こちらでは把握しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

これはね、今回のタブレット事件について、こういうふうにして、すればいかがですかということで、４月９日、市教育委員会、植木指導主事より、以下の指導を受けたという、学校側の記録ですね、これは。そうしてくれると、とてもありがたいということですね。

いいですか、男子生徒の家から発見されたのを年度末の整備作業で発見する、うその文書を作成して、保護者に配ろうとしたんです。起案者は教頭、決裁者は校長。前校長のＧＩＧＡスクール構想に傷がつかないように、教頭が忖度し、新校長もそれを容認した。市教育委員会も、うその報告を容認したんです。こっからが、うその積み重ねになっていくと思いますよ、この後のね、展開は。これを認めませんか、いかがですか。連れて来ればどうですか、その指導教諭、いかがですか。

私が、ちょっと、私がうそをついているって思うなら、ちゃんとその本人にそういうことを言ったねとか、こういう文書あるねとかって聞いてきてください。じゃなきゃ、今答えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷺本教育長。　〔教育長　鷺本修一君登壇〕

○教育長（鷺本修一君）

お答えいたします。

その内容についても、いじめ問題専門調査委員会の方々からの、それぞれ担当者ごとの聞き取りの内容の中に、それらに触れられるような内容があったと、私も記憶しています。そのような正式な文書みたいなものについての中身については、詳細は掌握しておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

中身は掌握してませんじゃないだろう。その件について、把握してございませんというのが正しいんだ。掌握したのは、証拠となるタブレットの中身のデータのことじゃないですか。これは消去した。後に警察が入ってくることになるんですが、警察が調べようとしたら、データが全部消えてるんです。これは隠蔽じゃなくて、隠遁と言われたそうですよ。日本語はなかなか難しいんですが。

その後、事件が起こるんです。４月の１３日にね、やっぱり性的メールの発信及びタブレットの画像が流出され、また、それに基にしたんであろう、なりすましだとかいろんなメールが飛ばされていった。

もう時間が、もう少なくなってくる。

その後、これ３年生だったんですよね。もう４月以降には高校生になってくる。すると、この状態で、高校と中学をまたぐ大きなＳＮＳのいじめ事件に発展していくんです。分かりますか。これ、従来の今までやってきたいじめ問題とは別なんです。

そこで、そこの高校時代の話に入る前に、ここで１つ大きな問題があります。中学校と高校は、進学時において情報交換しますね。いろんな問題があった子、また、病気の子供、給食でいろんなアレルギーがあって食べれない子、ピアノを弾ける子、弾けない子と、ちゃんと高校と中学校で引き継ぎといいましょうか、いろんな話合いをします。そのとき、このいじめ事件があったことを把握しながら、高校教師たちに言ってないんです。高校側に何にも言ってない。

したがって、高校では、そのいじめられたとする女の子と、いじめたであろう加害者の子、同じ教室にして、しかも席まで近くしてしまったです。その後、様子がおかしいんで高校の生活指導の先生たちが事情を聴いていったら、こういうことになってるんじゃないかということですね。いかがですか、そこ。いや、私はちゃんとやりましたということを言えるんでしょうかね、これ大体、どなたがやるんですか、現場の学校の先生ですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

３月末に中学校と高校のほうで、児童に対する引き継ぎを行います。ＳＮＳの不適切な画像の送信等が分かったのが４月１３日ですので、引き継ぎのほうは３月に行っていて、その時点では把握しておりませんでした。

ただ、中学生のタブレットがなくなったということは、３月では言える話でしたので、その点については、なくなったこと自体を高校のほうにしっかりと引き継ぎをするべきだと、今、反省してます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

今反省されたって困るんですよ。再発防止に全力をって言われたって、困るんですよ。傷ついた生徒、子供たちは、この中にいますよ。あなたがさっき言った、全国平均のやや下の、いじめや不登校の中の、この数字の中に隠れてるんですよ。データ、データというと、私、あんまりデータ論好きじゃないんですけどね。

しかもだ、その後、今度、高校に入っていって、しかも同様の事件を起こしてくるんですよ。だから、これが高校と中学校をまたぐＳＮＳいじめ事件となってくるんですよ。

さてね、ここでやっぱり問題はね、基本的にさ、このＧＩＧＡスクールというものを推進していくという考え方と、一つの何だろうな、ネット環境を使っていくという、その情報リテラシーの様々な問題、今、全国的にも世界的にも取り上げられてます。この辺の対応はされたんですか。その後、するようにって、私は指摘したし要求もしたよね。その後はちゃんとやってるんですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古川こども教育課長。　〔教育委員会こども教育課長　古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

再発防止に向けて、校長会で研修会を行いました。その研修を受けて、各学校で校長から職員に指導する。また、いじめのほうには、親の責務というものが追加されましたので、保護者に対しても年１回しっかりと検証を行う。それから、児童生徒については、学期に一遍、情報リテラシー、情報プランについての学習を行うよう指示したところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

しかし、教育委員会からもらった、このいじめの報告書について、今後の対応について、そういうことは一切書いてません。考えてることと、やっぱり頭の中で考えたことは読めません。しっかり文書にして、しかも、全ての学校や教育者に対して、指導要綱として載せるべきです。

いいですか、オーストラリアではね、とうとう１６歳以下のＳＮＳ閲覧を禁止しましたよ。これについては賛否があったんだけど、国民の７７％がこの法案に賛成したそうです。その素案、背景というのは、もう手に負えないんですよ。親だろうが教師であろうがね。

いいですか、教育長ね、この問題については糸魚川だけじゃないと私も思う。だから日本で、教育界として全体としてどうするか、やはりじっくり考える問題だと思うんですよ。しかも早急に、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

お答えいたします。

今、海外の事例を話されましたけれども、国内、それから県内でも、このＳＮＳによる、要するにインターネットを介した様々な諸問題が連発しています。非常にその対応については、苦慮するべき内容です。なかなか手が届かない世界の中でどういうことが行われているかということが全く分からない、そういう世界です。いまだかつて、私どもがなかなか経験してなかった世界の中が、知らないところで動いてる。非常に危機感を持ってます。

したがいまして、これはやっぱり学校もそうなんですけども、やっぱり家庭の力というふうな部分のところもうんと力を借りないというとですね、なかなか課題解決に向かっていかないというふうな部分で、やっぱりこれは社会的な大きな課題である。しかも教育的な大きな課題でもあるというふうに私は捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

だからね、教育長、本当にいいこと言いますよね、教育者として、教育長として。けどさ、教育長、あなた言ってることとやってることが、合ってないじゃないですか。

いつでしたかね、７月１日、実際、調査を行って、今回の被害に遭った生徒からも直接声を聞いてますね。何で私がこんな目に遭わされなくちゃいけないのか。タブレットの画像を利用した１つの画像が、こんなになりましたということをあなたに言いましたよね。あなた、それを全部知って、そこの場に出たはずだ。だけど、出された報告書には、女生徒の訴えが何にも書いてなかったんですよ。

そこで、その女生徒は、心の底から頭に来たんですよ、本当に。結局、大人は何にもしてくれない。教育委員会は何もしてくれない。学校は、全てを隠そうとしている。教育委員会に言ったって、何にも駄目じゃないですかと。靍本さん、あなたどうしました。下向いて、何も言わなかったそうですね。何が子供一人一人に寄り添って、一つ一つのケースについて真正面から向かい合う、付き添う。突き放したんじゃないですか。おかげでその子は、大きなショックを受けて、やはりある程度、病院に行かなくちゃいけなくなった。

てことはだ、今回、皆さんが隠そう隠そうとしていたこの重大事態は、靍本さん、あなたを守るためじゃないんですか。任期もうじきなんでしょう。今定例会の最後には、その任期をめぐって、是か非か問われるべき、問われるはずですよね。あなた、これしっかり責任取ってきなさいよ。これは自らの責任だと思いますよ。あれだけ立派なこと言って、何もできないんですか。かわいそう過ぎませんか、その子供は。

さらに波及すること１９人、なりすましのメールで大恥をかいた。そんな大人にとったって苦しいのに、小っちゃい子供にしてみれば、もっと大変ですよ。その親は厳格に、小学校時代、スマホを持たせなかったのに、なりすまされちゃってるんですよ。そういった細かいこと、学校に全部、教師に全部言ってますよ、皆さんは。

市長にも言ってますよ。お便り、市長直通便、うちの子がいじめられてます。どうにかしてくださいって、タブレットの件と併せて、なるべく早く解決したいと思いますって、あなたちゃんと答

え出してますね。知らなかったじゃ、すみませんよ。

言っておきますが、教育委員会、糸魚川市じゃない、糸魚川市の中の教育委員会だ。変わったんですよ、教育改正によってね。教育委員長というものが外れて、なくなりました、制度上。教育委員長の代わりに誰が入ったかというと、市長、あなたです。各自治体の長が、教育長を兼務することで、私は知らないところで行われましたということを言わさないようにしたんです。それが教育改革だったんです。だから、教育委員会は、何か事があったら、すぐに市長に報告しなくちゃいけない義務があるんだ。それ、やりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

お答えいたします。

先ほどの古畑議員さんの報告書の中に生徒の思いが何にも書かれていなかったというふうな部分のところのご指摘がありましたが、それは、いじめ問題専門委員会の方々の調査した結果の内容が、その報告書にまとめられていたというふうな内容で、私どもは受け止めてますし、そのように受け止めていただきたいと思います。

ただ、被害生徒から、直接、私は心情を聞く場面がありました。そのときに、私は初めて生徒たちの声を聞いたんですけれども、やっぱり非常に直接話を聞く、それまでは保護者の皆さん方からしか話聞かなかったんですけれども、直接生徒から話を聞いたときに、これはやっぱり初期初動も含めてなんですけども、私どもの対応が、やっぱりいかに生徒たちの心情を害しているかという部分については、非常に深刻に私は受け止める機会なりました。生徒の直接の話を聞いて、私は、再発防止に徹底的に取り組んでいこうというふうな思いを強めたのが印象的です。

それともう一つ、市長にその都度報告したかということのご指摘なんですけども、私は状況に応じながら、その都度その都度、市長にはスピード感を持って、それこそスピード感を持って、丁寧に説明をし、市長の判断を仰ぎながら、それぞれ進めてきた経緯がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

もう１秒でもオーバーすると議長に叱られますからね。

でもね、スピード感を持って取り組むって言いますけど、この事件の発生は、２０２２年１２月１５日ですよ。２年も前だ。市長に、知ったのも全部そうだろう。議会はこの件を、議会じゃない教育委員会がこの件を、遅れた最大の理由は、この件を隠蔽しようとしたことだ。

この件について、上教大については説明しましたか。じゃないわ、上越、何だ。まあいっか、時間ないわ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

細かいことを聞こうとしましたが、もうやめました。時間ないですからね、この件は、また総務文教常任委員会でじっくりと聞かせていただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（保坂　悟君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

これをもちまして、一般質問を終結いたします。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会といたします。

大変お疲れさまでございました。

〈午後３時３２分　散会〉

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

議　　長

議　　員

議　　員

令和６年第４回定例会会議録

第５号（１２月１９日）

令和６年第４回糸魚川市議会定例会会議録　第５号

令和６年１２月１９日（木曜日）

議事日程第５号

令和６年１２月１９日（木曜日）
〈午前１０時００分　開議〉

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　所管事項調査について
日程第３　　議案第８２号から同第８９号まで、請願第５号及び発議第８号
日程第４　　議案第９０号から同第９９号まで
日程第５　　議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号まで
日程第６　　議案第１０３号
日程第７　　議案第１０７号
日程第８　　諮問第２号から同第５号まで
日程第９　　発議第９号
日程第10　　閉会中の継続調査について

本 日 の 会 議 に 付 し た 事 件

日程第１　　会議録署名議員の指名
日程第２　　所管事項調査について
日程第３　　議案第８２号から同第８９号まで、請願第５号及び発議第８号
日程第４　　議案第９０号から同第９９号まで
日程第５　　議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号まで
日程第６　　議案第１０３号
日程第７　　議案第１０７号
日程第８　　諮問第２号から同第５号まで
日程第９　　発議第９号
日程第10　　閉会中の継続調査について

〈応招議員〉　１８名

〈出席議員〉　１８名

１番　　利 根 川　　正　　君　　２番　　阿　　部　　裕　　和　　君

３番	横山人美君	４番	伊藤麗君
５番	保坂悟君	６番	田原洋子君
７番	渡辺栄一君	８番	加藤康太郎君
９番	東野恭行君	１０番	和泉克彦君
１１番	田中立一君	１２番	松尾徹郎君
１３番	宮島宏君	１４番	中村実君
１５番	近藤新二君	１６番	古畑浩一君
１７番	新保峰孝君	１８番	田原実君

〈欠席議員〉　　０名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長	米田徹君	副市長	井川賢一君
総務部長	大嶋利幸君	市民部長	渡辺忍君
産業部長	五十嵐博文君	総務課長	嶋田猛君
企画定住課長	中村淳一君	財政課長	猪又悦朗君
能生事務所長	高野一夫君	青海事務所長	仲谷充史君
市民課長	川合三喜八君	環境生活課長	木島美和子君
福祉事務所長	山岸千奈美君	健康増進課長	林壮一君
商工観光課長	大西学君	農林水産課長	星野剛正君
建設課長	長﨑英昭君	都市政策課長	内山俊洋君
会計管理者 会計課長兼務	山田康弘君	ガス水道局長	山口和美君
消防長	竹田健一君	教育長	鷲本修一君
教育次長	山本喜八郎君	教育委員会こども課長	室橋淳次君
教育委員会こども教育課長	古川勝哉君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務	磯貝恭子君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ケ原考古館長兼務 市民会館長兼務	嵐口守君	監査委員事務局長	陶山智君

〈事務局出席職員〉

局長	磯貝直君	次長	伊藤伸一君
係長	水島誠仁君		

〈午前１０時００分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（保坂　悟君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、６番、田原洋子議員、１４番、中村　実議員を指名いたします。

次の日程に入ります前に、休会中、議会運営委員会が開かれておりますので、その経過と結果について、委員長の報告を求めます。

古畑浩一議会運営委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑委員長。　〔１６番　古畑浩一君登壇〕

○１６番（古畑浩一君）

おはようございます。

１２月５日と１８日に議会運営委員会が開催されましたので、その経過と結果につきまして、ご報告いたします。

まず、委員長報告につきましては、総務文教常任委員長及び市民厚生常任委員長から、休会中の所管事項調査について、その結果を報告したい旨の申出がありますことから、本日の日程事項としております。

次に、議員発議につきましては、総務文教常任委員会に付託となっておりました請願第５号が採択されたことから、「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書が発議第８号として、また、発議第９号、北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書の計２件が、それぞれ国を提出先として所定の手続を経て提出されております。これを本日の日程事項として委員会付託を省略し、即決にてご審議いただくことで委員会の意見の一致を見ております。

次に、議会運営につきましては、委員長の交代に伴い、ハラスメント防止対策について協議の進捗状況を確認した上で、今後どのように進めていくかが話し合われました。

委員から、ハラスメント防止条例の運用上の不備やアンケート実施に関わる課題など、多くの点が上げられる中、ハラスメント防止条例につきましては、糸魚川市議会基本条例、政治倫理規則との整合性を踏まえ、改正に向け、継続検討していくこととなりました。

以上で、議会運営委員会委員長報告を終わります。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり進めることにいたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、ただいまの委員長報告のとおり進めることに決しました。

日程第２．所管事項調査について

○議長（保坂　悟君）

日程第２、所管事項調査についてを議題といたします。

本件については休会中、総務文教常任委員会及び市民厚生常任委員会が開かれ、調査を行っておりますので、その経過と結果について、委員長の報告を求めます。

東野恭行総務文教常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野委員長。　〔９番　東野恭行君登壇〕

○９番（東野恭行君）

おはようございます。

総務文教常任委員会では、１２月１３日に所管事項調査を行っておりますので、その主な内容について、ご報告いたします。

調査内容は、こども課及びこども教育課の所管する４項目であります。

項目の１点目、来年度からの実施に向け策定が進められている第３期糸魚川市子ども・子育て支援事業計画（案）でありますが、委員より、今どきの子供たちは、物心がついたときからスマートフォンなどに触っており、我々の感覚では使い方の指導はできない。ＳＮＳの対応など、情報リテラシーの問題、情報化社会に対応した内容も必要ではないかとの質疑に対し、担当より、計画の中に、子供の安全の確保といった事業を掲げているが、明確には記載されていない。今後、予定している市町村こども計画を策定する際には、そういう部分も位置づけるよう検討を進めたいと答弁が

ありました。

委員より、子育て環境の満足度の令和４年度の数字が３３．９％に下がったことについて、教育委員会は、市内医療機関の分娩休止の発表が影響したとの判断であったが、ほかにも原因はないのか。今後の議論の方向性を誤る可能性はないかとの質疑に対し、担当より、アンケートを実施した令和４年９月の２か月ほど前に分娩休止が発表され、アンケートの自由意見には、医療機関に関する心配の声が多かった。それらを踏まえ、あくまで推定ではあるが、教育委員会としての捉えとしたと答弁がありましたが、委員より、満足度の減少について、背景をしっかりと考察してほしいとの意見がありました。

次に、調査項目の２点目、保育園等の適正配置と民営化に関する方針についてでありますが、冒頭、こども課より、基本方針（案）として、１つは、地域特性を踏まえ、集団としての活動の充実が図られる適正規模を維持し、適正配置・民営化等を推進すること。もう一つは、子供の成長段階に応じた持続可能で、質の高い教育・保育を提供していくことが、方針として示されました。

委員より、自然とのふれあいを大事にした保育など、独自性のある魅力的な保育園も選べるようになれば、新しい動きになると思う。民営化は、事業者の公募という形で進んでいくのかとの質疑に対し、担当より、スピード感を持って適正配置・民営化を進めていきたいと考えている。園は、地域の拠点にもなる。場合によっては、小規模であっても特色のある保育ができれば、地域の活性化につながるということもある。地域の方々や保護者の皆さんと協議しながら進めていきたいと答弁がありました。

次に、調査項目の３点目、（仮称）駅北子育て支援複合施設整備事業についてでは、委員より、今回のＤＢＯは２者からの提案を受けたとのことだが、２つの案に対して、これに応じた工事金額や、工事金額を算出するための設計書が２者から出ていなければ、２者が競合したとは言えないのではないか。２者からの資料提供が必要ではないかとの質疑に対し、米田市長より、これは入札であり、優先交渉権者もこれで決まっている。応札のあったものを全部見せるということは、逆におかしいと考えていると答弁がありました。

委員より、旧東北電力ビルの解体工事の入札の不調が続いているが、全体の計画に影響はないのかとの質疑に対し、担当より、解体工事は１６か月かかる見込みである。施設整備工事は令和８年６月からを予定しており、来年２月までに解体工事に着手できれば、スケジュールの範囲内であると認識していると答弁がありました。

委員より、この事業を中止するとどういう問題が発生するのか。また、違約金やキャンセル料などは、どのくらい発生するのかとの質疑に対し、担当より、設計委託契約を結んだ後であれば違約金等の話が出てくる場合があると推測している。また、当事業で、国の補助の対象と考えていた用地取得費、物件移転補償料、旧東北電力ビルの解体費や解体設計委託などが、返金あるいは補助が受けられない場合もあると答弁がありました。

次に、調査項目の４点目、市内中学校で発生したいじめ事案に係る経過についてでは、委員より、追加調査委員会の報告を待つと３月になる。何らかのけじめ、処分が必要ではないか。また、保護者は、悲痛な思いで相談していると思う。解決策の一つは、犯人の特定や謝罪などと思われるが、調査委員会は、そこまでの調査が可能なのかとの質疑に対し、担当より、第三者委員会の追加調査委員会は、そのような権限を持っていない。保護者説明会の折に、このことは説明していると答弁

がありました。

委員より、これまでも、再発防止、指導強化といった反省の発言が繰り返しあったが、具体的な内容を問う質疑に対し、担当より、６月末に調査委員会から、教育委員会の至らない点などについて指摘を受けたこと、再発防止の取組としては、管理職、教職員への研修、子供への定期的な指導の実施、保護者向けの研修の実施、タブレットも、学校で保管する場合は施錠して保管することとした。また、危機意識が足りなかった部分となるが、教育委員会にタブレット紛失時の対応マニュアルがなかったことを重く受け止め、ガイドラインを作成し、各学校に周知徹底していると答弁がありました。

このほかにも質疑、意見等がございましたが、報告は割愛いたします。

以上で、所管事項調査報告を終わります。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

本件については、委員長報告のとおり了承することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本件は委員長報告のとおり了承することに決しました。

次に、田中立一市民厚生常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中委員長。　〔１１番　田中立一君登壇〕

○１１番（田中立一君）

おはようございます。

市民厚生常任委員会では、１２月１２日に所管事項調査を行っておりますので、その主な内容について、ご報告いたします。

調査項目は、第５次糸魚川市犯罪のない安全・安心なまちづくり推進計画についてであり、担当課より、概要版に沿って説明いただきました。

改定に当たっては、現在、県が策定作業を進めている第６次新潟県犯罪のない安全・安心なまちづくり推進計画と整合性を図って策定することとしており、事前に確認したところ、大きな修正はないとのことなので、当市の計画も基本方針や施策の方向性などの変更は行わず、最近の現状を確認した上で、防犯対策の課題の追加や文言の修正等を行っている。今後、１月にパブリックコメントを実施し、２月に推進計画策定委員会において最終審議を行い、３月の市民厚生常任委員会で最終報告を予定している。計画の趣旨及び改定は、糸魚川市犯罪のない安全・安心なまちづくり条例

に基づくものであり、計画の対象範囲は、主として日常の行動範囲内で発生する市民生活に関係する犯罪への対策、取組のほか、犯罪被害者等への支援を対象とし、期間は、令和７年度から令和１０年度までの４年間である。犯罪等の現状については、刑法犯の発生状況や消費生活相談件数の状況、犯罪発生の一般的な背景と要因、防犯対策の現状と課題をまとめている。課題では、特殊詐欺・悪質商法の増加や犯罪被害者等に対する支援の項目を追加している。計画の基本目標は、市民が安全で安心して暮らすことができる地域社会の実現とし、数値目標の設定のうち、刑法犯認知件数については、直近３年間の平均値をベースに数値目標を設定しており、第１次から第３次の各期間においては目標を達成できたが、現在の第４次は、目標設定１１６件以下に対し、１０月末時点での平均値が１２８件であり、達成が厳しい状況である。第５次においては、刑法犯認知件数の目標の設定を第４次の実績値から１０％減少とする。また、特殊詐欺等発生件数は、直近の単年度の発生件数をベースに数値目標を設定しており、令和６年１０月末現在３件であるが、計画終了時においてゼロとすることを目標とする。施策の展開の基本方針は、意識づくり、地域づくり、環境づくりで、自らの安全は自ら守る、地域の安全は地域で守るという防犯意識の下、地域ぐるみの防犯活動により犯罪の防止を図るため、市民、事業者、警察、その他関係機関、市が一体となった地域の防犯力を高めるための推進体制づくりを進める。施策の展開として、計画を推進するための推進体制の整備などについて記載しているという説明がありました。

委員より、特殊詐欺について質疑があり、特殊詐欺の被害状況は、その年によって件数と被害額は内容が違うので、ゼロ件になるのはなかなか厳しい状況である。その対策としては、やはり特殊詐欺なので意識づくり、啓発活動というのも大事なところかと思う。啓発活動の中には出前講座があり、消費生活相談員が今年度１６回ほど出て、悪質商法にかからないように、いろいろ事例を挙げて出前講座を行っている。また、地域づくりの点で地域の方々や関係団体、いろんな方々の連携が大事というふうに捉えていて、高齢者等見守り支援ネットワークもあり、その中で独り暮らし高齢者の対応とか特殊詐欺被害の対応に関する訓練等といった活動も大事なことと捉えている。環境づくりは、地域の防犯組合協議会というものもあり、自治会、事業所などへは、防犯カメラの設置強化といった取組を促進していくことが大事と捉えている。特殊詐欺というのは、新しい手段でいろいろと出てくるので、随時、情報提供することが非常に大事だと思っている。方法としては、例えば福祉と連携をして、ヘルパーさんや民生委員さんが訪問のときに伝えるとか、広報も使っての周知も大事だと思っており、新たな手が出るたびにそのような周知に努めたいと思っている。犯罪発生の要因の中に規範意識の低下という文言があるが、施策の中に規範意識を高めるような施策がないことについて、規範意識に関する部分に関して学校教育の担う部分もかなり大きいと思っており、教育委員会等と連携する中で、子供たちへの防犯教育も含めて規範を遵守といったところを啓発したい。また、交通安全、防犯を含めた意識啓発を市民に対して計画書の中にどのような方法で反映できるか、また検討するという答弁がありました。

以上で、市民厚生常任委員会の所管事項調査について、報告を終わります。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

本件については、委員長報告のとおり了承することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本件は委員長報告のとおり了承することに決しました。

〔「議長、議事進行」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

１点お聞きしたいと思うんですけどね、議会運営委員会のときにもお話ししましたが、この所管事項調査の中で、建設産業常任委員会の委員長報告がないのはどういうことですか。

○議長（保坂　悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前１０時２０分　休憩〉

〈午前１０時２０分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

今ほどの古畑議員のご質問にお答えいたします。

建設産業常任委員会では、協議題の中に所管事項調査がもともと組まれておりませんので、今日の報告がないということであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

保坂議長が、建設産業常任委員会委員長として所管事項調査をやったときね、私のほうから、駅前のね、いわゆる鉄道ジオラマの管理体制に対してディディエフ社に認定いたしましたが、これに対するパワハラによって観光協会の職員が辞めさせられて、いまだ、それがトラウマになっている状況についてね、そういうことをやった業者を何年か契約の中に置いてメンテナンスやってもいいのか、これをぜひ調べていただきたい。

また、権現荘に無償譲渡となりましたが、約４億５，０００万円ぐらいの資産の中に９，０００万円をつけてやると、５億円以上のものの、無償譲渡となっていきます。そうすると、これに伴う、

いわゆる譲与税だとか、そういう部分のものは発生しないのか、これをお聞きしました。これは、そのときの保坂建設産業常任委員会の委員長がね、了解しましたと、分かりましたと。私のほうは、ちゃんと建設産業常任委員会の中で取り上げてもらえるものだと思いました。

それからね、やっぱりその後、新聞発表等によりますと、権現荘における盗難事件等も発生していますよね。

それから今度は、スキー場の経営についても、シーズン中に経営することが、なかなか経済上、難しいとかというふうな話であって、これは、建設産業常任委員会の委員長の所管事項に上げてですよ、全議員に対してさ、それは周知すべきじゃないんですか。そういう指導を建設産業常任委員会の委員長だった保坂さんは、議長にするときは、それをちゃんと引き継いでやるっていうことも一つの条件であったと思うんですよ。

ましてや議長においたって、委員長ではないですが、建設産業常任委員会の委員であったわけですよ。これはやっぱり所管事項としてやらなかったことに対してね、非常に私としては残念に思います。これはやっぱり委員会としてもしっかりと審査を遂行していただきますよう強く要求したいと思います。

○議長（保坂　悟君）

暫時休憩いたします。

〈午前１０時２３分　休憩〉

〈午前１０時２３分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

今ほどの古畑議員のご指摘・ご意見・主張というのは、当然、議員ですからお持ちかと思います。前段の、私が建設産業常任委員会のときには、確かに古畑議員からそういうご指摘をいただきましたが、特段、委員会の中で、その声を反映させる委員会の項目として上げるというようなご意見がございませんでしたので、上げておりません。

また、後段の現委員長、利根川委員長の判断におきましては、正副打合せの中で、休憩中の報告で取り扱うというように判断し、また、委員会の中でも、特段それを所管事項調査に格上げをして審査をするというような議論もありませんでしたので、そのまま調査を行ったと。しかるべき所管事項調査になっておりませんので、本日の報告はないということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

これで終わりますけどね、やっぱり委員会運営としては、とても消極的だと思います。やはりこういう声があって、市民からもそういう声が寄せられる。また、こういう心配があるっていうこと

に対して、委員会としても答えるべきだと思います。また委員の発言がなかったからという、そういうことがちゃんと委員長の耳に届いているんなら、委員長のほうから次第に上げていけばいいんですよ。行政に対する報告事項というものは、それぞれがとても大事なものです。報告事項が議員の本会議の中において皆さんに、委員長報告しなければならないとそのとき思ったら、所管事項調査に上げればいいんだよ。何も行政としても、そういうことについて隠し立てすることなくやっぱり報告、要するに委員会の議事にはないけど、議会に報告しておかないとまずいということで、ちゃんと報告していただいてるんでね、そのことにつきましては全議員、ひいては全市民に対して公表するように強く要望するものであります。

これにて議事進行を終わります。

○議長（保坂　悟君）

古畑議員の議事進行は終わりました。

日程第３．議案第８２号から同第８９号まで、請願第５号及び発議第８号

○議長（保坂　悟君）

日程第３、議案第８２号から同第８９号まで、請願第５号及び発議第８号を一括議題といたします。

本案については、休会中、総務文教常任委員会が開かれ、審査を行っておりますので、その経過と結果について、委員長の報告を求めます。

なお、関連して、発議第８号の説明を求めます。

東野恭行総務文教常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野委員長。　〔９番　東野恭行君登壇〕

○９番（東野恭行君）

本定例会初日に、当委員会に付託となりました関係部分については、１２月１３日に審査が終了しておりますので、その経過と結果について、ご報告いたします。

審査の結果については、お手元配付の委員会審査報告書のとおり、議案第８３号及び第８５号から第８９号までは原案可決、議案第８２号及び第８４号は否決、請願第５号は採択であります。

審査の過程における主な事項について、ご報告いたします。

議案第８２号から同８５号までは、糸魚川市特別職、一般職の給与、市議会議員の議員報酬等の条例改正についてであり、内容が関連しているため、一括説明、一括質疑としました。

担当課より、今回の議案は、今年１０月の新潟県人事委員会の勧告に準じ、給与、手当等の引上げを行いたいものである。市民には、給与等が上がらない方々がいることも重々承知しているが、民間企業等の賃上げを波及させたい目的もある。これらの条例改正により、全体で約１億１，１００万円の増額となる見込みであるとの説明があり、委員より、物価高騰が続く中で今回の賃上げは、市民は納得しないのではないかという質疑に対して、担当課より、公務員の給与等は人事委員会の勧告に準じた形で、状況によっては、例えば３年前、４年前には手当を減額する議案を

提出している。民間の動向を調査した上での勧告が出されていると答弁がありました。

委員から、インフレによる物価上昇分として妥当ではないかという意見、また、別の委員からは、人事委員会の勧告だからといって市長、副市長、議員が、自分たちで賃上げを決めていいのか。市民の生活は苦しく、特に飲食店などは、なかなかお客さんが戻ってこない中で、店を閉めている方もいる。理事者や議員は、据え置いたほうがいいのではないかという意見もありましたが、担当課より、特別職及び議員の月額は特別職報酬等審議会で審議されるが、期末手当は、県の人事委員会の勧告に準拠したもので、これまでも勧告に準拠して、手当を上げたり下げたりすることもあったという説明がありました。

また、人材確保対策として、公務員の待遇を引き上げることに賛成する意見に対し、担当課より、全国的に公務員離れが進んでおり、当市においても応募者が、特に新卒者の応募が減っており、通年採用という形で社会人経験者も含めて募集している状況であると説明がありました。

このほかにも多くの質疑や意見が述べられた後、全て起立採決を行い、議案第８２号及び第８４号は否決、議案第８３号及び第８５号は原案可決となりました。

次に、議案第８６号から第８８号でありますが、こちらは特段、質疑はなく、原案可決となっております。

議案第８９号、損害賠償額の決定及び和解についてでは、教職員の出張時に発生した市有自動車事故について、冒頭、教育長から陳謝があり、その後、対物の賠償分について仮示談が成立したことの報告がありました。

委員より、遠方へ行くときは公共交通機関の利用、あるいは前泊してでも安全を優先する対応が必要ではないかという質疑に対して、担当課より、基本的には公共交通機関を使って移動することとなっているが、今回のように時間帯によって公共交通機関が使えない、あるいは公共交通機関がない場所への移動の場合、やむを得ず車で移動という形になる。十分注意し、基本的には公共交通機関の利用を推奨していくと答弁がありました。

ほかにも、多くの質疑がありましたが、本議案は原案可決となっております。

続きまして、請願であります。

請願第５号、「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書の採択を求める請願では、委員より、学校における働き方改革の加速、学校の指導運営体制の充実、教師の処遇改善の一体的、総合的な推進が必要であると中央教育審議会のほうでも今年８月に提言しており、請願の内容も現状に即したものであり、賛成したいという意見、また、教職員の現場では事務手続も多く、また、担任を持つことの負担感、あるいは保護者対応などの負担感など、請願の内容以上の課題があるように思われ、少しでも緩和されるよう、この請願には賛成をしたいなどの意見などがあり、特に異議なく、本請願は採択となりました。

本請願は、意見書の提出を願意としておりますことから、発議第８号を提出いたします。

これより発議文を読み、提案理由といたします。

発議第８号、「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書。

今、学校現場は、教員希望者の減少に加え、病気休職者の増加など、深刻な教職員不足により、子供たちの学びに大きな支障を及ぼしています。持続可能な学校の実現のためには、教職員の勤務

環境の改善、とりわけ長時間労働の是正が、喫緊かつ最大の課題です。２４年４月には、猶予期間が設けられていた５業種に労基法時間外上限が付され、社会全体が勤務時間の適正化に向かう中、給特法適用の教員については上限を守らない状態が放置されています。

「骨太方針２０２４」では、中教審「審議のまとめ」を踏まえ、働き方改革のさらなる加速化、処遇改善、指導・運営体制の充実、育成支援を一体的に進めること、２０２５年度、通常国会に教職調整額の水準や各種手当の見直しなど給特法改正案を提出することが記載されています。

学校の働き方改革の前進を図る観点から、まずは骨太方針の実現は必要です。しかし、長時間労働是正には不十分であり、教員の健康と福祉が守られていない状況の抜本的な是正策として、具体的な業務の削減、教員の業務負担軽減につながる教職員定数改善などを策定・実施すべきです。

国においては、持続可能な学校の実現と子供たちの豊かな学びの保障のため、学校の長時間労働是正に資する政策実行を求めます。つきましては、下記の事項につきまして、今後の議会でご提起いただき、学校の働き方改革の実現に向けてご尽力いただけますようお願いいたします。

学校の働き方改革推進のため、以下の事項を実施すること。

１、教職員の負担軽減を図る観点から、国として具体的業務削減策を示すこと。

（１）部活動の地域移行をさらに進めること。

（２）「カリキュラム・オーバーロード」の実態にあることから、学習指導要領の内容の精選やそれに伴う標準授業時数の削減等を行うこと。

２、教職員定数改善を実施すること。

３、自治体での取組が確実に進むよう、人の配置・確保も含め、推進のための必要な財源確保等を行うこと。

４、教員の命と健康が守られる法制度の整備を図ること。

５、今後、勤務実態調査を行った上で、その結果に基づき必要な措置を講ずること。

以上、地方自治法第９９条の規定により、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、衆議院議長、参議院議長に意見書を提出します。

以上で、総務文教常任委員会の報告を終わります。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

発議第８号については、会議規則第３７条第３項の規定により、委員会の付託を省略することにいたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。

討論の通告がありますので発言を許します。

渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。　〔７番　渡辺栄一君登壇〕

○７番（渡辺栄一君）

おはようございます。渡辺栄一でございます。

議案第８２号、糸魚川市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び第８４号の糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の立場で討論を行います。

ご承知のように、本案件に関わる人事委員会制度は、争議権の制限を受ける公務員などの待遇改善に資するものであり、その増額の数字も決してお手盛りではなく正当な根拠を有するものであります。したがって、本案件には賛成をいたします。

だからといって、貴重な税金を頂く立場としては、厳しい姿勢が必要であり、反対の意見にも利のあるところと存じます。渡辺栄一個人は、議員としての仕事を頂いた後、３年余り議会のチェック機能を果たすべく市民の皆様のご意見を伺うため、東奔西走してまいったつもりでございます。ありがたいことに、初対面の方でも、市議会議員としての信用があるおかげなのか、けげんそうに反応される方はいない感じがしました。

市行政執行部の方々には、時に回答が困難なお話もさせていただきました。しかし、議会全体としては、残念ながらチェック機能が果たせず、箱物行政による財政の硬直化が進行し、人口減少も止められず、期待される民間需要の好循環を生み出すことができませんでした。このような現状での増額には大変申し訳ない気持ちもあります。

一方、活動を続ける中で、誠にお恥ずかしいですが、経済的に出費超過してしまうこともありました。

さて、この案件に賛成の方も反対の方も、可決されれば増額分も頂くことになります。私と違い、ゆとりある議員生活をなさっている方や議員としての成果にじくじたる思いの方は、増額分を市内店舗等での買物に回してほしいことをお願いしまして、討論を終了いたします。

○議長（保坂　悟君）

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

新保議員。　〔１７番　新保峰孝君登壇〕

○１７番（新保峰孝君）

議案第８２号、糸魚川市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、反対討論を行います。

糸魚川市特別職の職員の給与に関する条例の第３条第１項第３号後段中、１００分の

１２２.５を１００分の１２５に、１００分の１７０を１００分の１７５に改めるものであります。加えて、令和６年１２月支給の特例措置として、１００分の１７５とあるのは、１００分の１８０とするとされております。

糸魚川市の経済状況も、新型コロナウイルス感染症の山を越して、ようやくコロナ禍前の状態に戻りつつあるのではないかと思います。けれども一般職と違い、まだ市長等特別職の期末手当をさらに引き上げるような状況には至っていないと考えるものでありますので、本案に反対するものであります。

続いて、議案第８４号、糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、反対討論を行います。

糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の第９条第２項中、１００分の１７０を１００分の１７５に改めるという一部改正となっております。加えて、令和６年１２月支給の特例措置として１００分の１７５とあるのは、１００分の１８０とするとされております。

当市の経済状況も、新型コロナウイルス感染症の山を越して、ようやく通常に戻ってきている状況ではないかと思いますが、まだ回復途上ではないかと思います。そのような中で、一般職と違い、議員の期末手当をさらに引き上げるような状況には、まだ至っていないと思いますので、本案に反対するものであります。

以上であります。

○議長（保坂　悟君）

新保議員におわびいたします。

今ほどマイクが入ってませんでしたので、申し訳ございませんでした。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野議員。　〔９番　東野恭行君登壇〕

○９番（東野恭行君）

みらい創造クラブの東野恭行でございます。

議案第８２号、糸魚川市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の立場で討論させていただきます。

人事院勧告は、労働基本権の制約を受けている国家公務員に代わって、人事院が内閣・国会に勧告を行います。民間企業と国家公務員の給与格差をなくすために、毎年、少なくとも１回行うよう法律で定められている制度であり、公務員、特別職、市議会議員にとって大切な制度であると考えます。

人事院勧告が行われると、地方公務員の給与にも影響があります。地方公務員の給与改定、ボーナス是正が行われるのは、人事院勧告とほぼ同じ時期となります。地方公務員は、国家公務員と同様に労働基本権の制約によって給与やその他勤務条件の交渉ができません。そこで、地方公務員の給与や勤務条件が社会情勢に適応するよう人事委員会が設置されています。

人事委員会とは、地方公務員法に基づき設置されている人事行政機関で、議会や県知事に勧告を行います。人事委員会は、都道府県、指定都市、特別区などに設置されていますが、一般市町村に

は人事委員会が設置されていません。したがって、一般市町村においては、人事院や都道府県の勧告を受けて具体的な給与改定方針が決定します。この人事院勧告が認められないということは、公務員の唯一の給与改定の手段を無視することになり、公務員の適正な身分保障を損ねることになります。

したがって、年に１回行われる勧告に沿った給与の増減は妥当なものであり、今回の条例改正も妥当であると考えます。

逆に、一時的な感情や目の前の増額分のみを見て、今回の条例改正を反対するのであれば、人事院勧告制度の否定につながる行為と言わざるを得ません。

よって、今回の糸魚川市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定については、賛成とさせていただきます。

続きまして、議案第８４号、糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、こちらも賛成の討論をさせていただきます。

まず、議員活動においては、市民の代表としての責務や地域の声を聞くための活動が求められます。このような多忙な日程をこなすためには、十分な報酬がなければなりません。報酬が適正でなければ、優秀な人材が政治の世界に入ることをちゅうちょする要因になると考えます。

次に、個人差はあると思いますが、議員の活動には多くの経費が伴います。それぞれ、広く多岐にわたるものと考えます。これらの費用を適切に補償することで、議員は業務に集中でき、市民ニーズに応えることができます。毎年行われるこの条例の改正は、一般職や特別職と同様、年度によって民間企業との格差をなくすために減額もあり、増額もあり得ます。報酬が増額されることが社会通念上よろしくないこととされ、減額を美徳とすることは間違いであると考えます。

このことから、議員は、人事院勧告による報酬増額が市民にどのように還元されるか考慮すべきと考えます。議員は、適正な報酬と経費を受け取ることで、より多くの時間とリソースを地域貢献や政策の実現に費やすため、緊張感を持って職務に当たらなければならないと考えます。

以上の理由から、議案第８４号、糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成いたします。議員活動が、持続的かつ効果的に行われるために適正な改正と捉えております。

以上で、賛成討論を終わります。

○議長（保坂　悟君）

次に、伊藤　麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

伊藤議員。　〔４番　伊藤　麗君登壇〕

○４番（伊藤　麗君）

糸魚川の未来を魅せる会、伊藤　麗です。

議案第８３号、糸魚川市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定と議案第８５号、糸魚川市職員の寒冷地手当の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定については賛成、議案第８２号、糸魚川市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定と議案第８４号、糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定

については、反対の立場から討論をいたします。

初めに、議案第８３号と議案第８５号についてでは、人事院勧告に基づき初任給が引き上げられるなど、おおむね３０歳後半までの若年層職員や子育て中の職員を特に重点に置きつつ、全年齢層での給料の改定が行われ、約３０年ぶりの高水準のベースアップと言われております。

これは、市職員の確保、公立の保育園での保育士確保に課題のある当市において、採用市場において優位性を高めること、また、競争力・体力のある市内企業の賃上げを牽引する役割も期待できることから賛成したいものであります。

続きまして、議案第８２号と議案第８４号についてでは、まず、糸魚川市の経済動向から、近年、糸魚川市は地域経済の回復を目指していますが、市内中小零細企業の多くは、震災や気候の変動、また、人件費や物価の高騰を受け、従業員の給与やボーナスに価格転嫁などできる状況になく、まだまだ厳しい経済状況に直面しています。このような情勢の中で、県内の企業規模５０人以上の事業所から算出された数字を根拠に税金を使って政治家の報酬を増加させることは、市民の理解を得られるのでしょうか。

糸魚川市内の経済状況に倣った糸魚川市の基準づくりを検討する必要性もあると考えます。また、透明性の確保も重要と考えております。

我々の報酬は、市民の税金から支払われております。そのため、市民が納得できる形で説明されるべきですが、現行の人事院勧告による方法では、そのプロセスが不十分だと思います。期末手当についても、市民が参加する特別職報酬等審議会などで議論し、意見を反映させる仕組みが必要です。このような透明性の欠如は、政治への信頼感を損なう要因になり得ると思います。

未来の議員を志す人たちのためにも、この期に上げるべきだという意見や、議員も物価高騰の中で生活する市民の一人だという同僚の議員の意見にも、率直に申し上げますと理解も共感もできるものではありますが、結論といたしまして、糸魚川市の現状を鑑みると、市議会議員と特別職の期末手当の増額は、市民の経済的な安定が脅かされている状況下において不適切であると考えます。市民のためによりよい議論をし、真に必要な施策に資金を振り分ける姿勢を持つべきで、市民の声に真摯に耳を傾け、現実的かつ公正な判断を下すことが求められております。

よって、反対したいものであります。

これらの理由により、私、伊藤　麗は、議案第８３号と議案第８５号については賛成、議案第８２号と議案第８４号については反対の立場であり、議員各位におかれましては、賢明な決定を行っていただくことをお願いいたします。

○議長（保坂　悟君）

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。　〔１６番　古畑浩一君登壇〕

○１６番（古畑浩一君）

それでは、これより反対討論を行わせていただきたいと思います。

最初のほうに言っときますけどね、私、あくまでも議員と特別職の議案に対して反対なんであって、８３号の一般職員の給与につきましては、私も賛成ですんで、一般職の、いわゆる人事院勧告

によるものとね、特別職や議員のものを一緒くたにやっぱり考えるべきではないと私は思いますよ。一般職の例を引き合いに出して、特別職等に対しては反対するのはおかしいっていうのは、私はおかしいと思いますよ。

それでは入りますよ。

議案第８２号、糸魚川市特別職の職員の給与に関係する条例の一部を改正する条例の改正について及び議案第８４号、糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の改正について、この両議案について、反対の立場で討論を行います。

これらは、県人事院勧告に従い、特別職、市議の期末手当を０．１％引き上げるものでありますが、数字にごまかされてはいけません。０．１％といえども、市長ともなると９万４，７６０円のアップで、現状１６１万円が１７０万円、１７０万５，６８０円になるものであります。副市長においても７万２，７９５円増の１３１万円、１３１万３１０円、教育長においては６万６，４７０円増の１１９万６，４６０円となります。すごいベースアップの額でございますよね。普通のサラリーマンが聞いたら、もう羨ましくてしようがない額だと思いますよ。

人口減少・少子高齢化に歯止めがかからず、より深刻さを増し、物価上昇は止まらず、景気回復も遅れ、いまだ各業界ともにコロナ不況にあえいでいるのにボーナスアップは許せません。

さらに、市内中学校で起きた教育用タブレット２台の盗難に端を発したいじめ事件は、学校、市教育委員会の初期対応のまずさから、被害生徒は１７名から１９名に及び、いじめの重大事態にまで発展し、いまだ解決を見せておりません。

こうした経過からも、減俸はあっても増額などは言語道断であります。それを許し、賛成する議員は、もっと困惑する市民、困窮する市民、さらに怒れる市民の声に耳を傾けるべきだと思います。

議会においても、議長を例に取ると４万４，６２０円増の８０万３，１６０円の増となります。ハラスメントによる任期末の議長、議会運営委員会の委員長交代劇など、議会の混乱を招き、市民の議会への信用を失墜させた責任は重大であります。何をもって期末手当の増額を受け入れようとするのか。私には、到底理解できるものではありません。議員たるもの、厳しく自らを律するべきと考えます。それが厳しい選挙を勝ち抜き、市民の負託を得た議員のあるべき姿ではないでしょうか。

最後に、増収となる歳費の財源は、市民の血税であることを肝に据えるべきだと思います。

以上です。

○議長（保坂　悟君）

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中議員。　〔１１番　田中立一君登壇〕

○１１番（田中立一君）

市民ネット２１、田中立一でございます。

請願第５号及び発議第８号、「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書の採択を求める請願に、賛成の立場で討論を行います。

学校現場では、貧困、いじめ、不登校など、課題が山積するとともに、国の教育課程・基準に基づき定めた教育課程の時数と内容が過多になっているカリキュラム・オーバーロードの状態にある

と言われ、様々な課題を大量に抱えている現場の悲鳴が聞こえてきます。ＧＩＧＡスクール構想や外国語授業など、学習指導要領に伴う教師の職務の多様化・複雑化がますます進み、時間外勤務は長時間に及んでおり、教材研究や授業準備の時間を確保することが困難となっております。

このような長時間勤務など、教育現場の過酷な現状から、教員採用試験者の減少や教師の職に魅力を持ちながら、合格しても辞退するなど、成り手不足が社会問題になっており、スタッフを含めた体制の整備が求められているところであります。学校の働き方改革を進めるという喫緊の課題を抱えながら、時間をかけて取り組みたいことがあるのに時間に制限がかかるという状況に陥っていて、具体的な教員の業務負担軽減など、早急な処遇改善が求められています。

ある報道による現場からの声などを見ますと、子供たちと語らう放課後の時間もなくなった。職員会議の時間さえ生み出せない。放課後の打合せもできない、埋められないその時間は、超過勤務となって職員の心と体の健康まで奪う状態になっている。ＳＤＧｓに関する内容、食育や防災教育、主権者教育など、これまでの教科等の学習に加えて指導することが学校教育に求められ、激動している状況である。指導内容が増えると、教材研究や指導部の検討にかける時間も増え、教員の職務時間も超過の状態を招くなどなど、深刻な状況がうかがえます。

子供たち一人一人が大切にされ、豊かな人間関係の中で教育が行われることが、保護者、地域住民、教職員共通の願いであります。そのためにも本請願は、勤務実態調査をしっかり行い、必要な措置を講ずる、すなわち児童生徒と教職員が接する時間を多く確保できる、そして、児童生徒一人一人の状況を把握しやすい財源措置、法整備など、教育条件整備を国に求めるものであり、賛成いたしますので、よろしくお願いいたします。

○議長（保坂　悟君）

以上で、通告による討論は終わりました。

ほかに討論の通告はありません。

討論なしと認め、これにて討論を終結いたします。

これより議案第８２号、糸魚川市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案に対する採決は、起立により行います。

本案に対する委員長の報告は、否決であります。

本案は、原案のとおり可決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起　立〕

○議長（保坂　悟君）

起立多数であります。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第８３号、糸魚川市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第８４号、糸魚川市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案に対する採決は、起立により行います。

本案に対する委員長の報告は、否決であります。

本案は、原案のとおり可決することに賛成の議員の起立を求めます。

〔起　立〕

○議長（保坂　悟君）

起立多数であります。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第８５号、糸魚川市職員の寒冷地手当の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第８６号、糸魚川市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第８７号、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第８８号、新潟県市町村総合事務組合規約の変更についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第８９号、損害賠償額の決定及び和解についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議事の都合により、発議第８号を先議いたします。

お諮りいたします。

発議第８号、「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書を採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

なお、このことにより、請願第５号、「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書の提出を求める請願については、採択すべきものといたします。

ここで、暫時休憩をいたします。

１１時１５分まで休憩といたします。

〈午前１１時０８分　休憩〉

〈午前１１時１５分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

日程第４．議案第９０号から同第９９号まで

○議長（保坂　悟君）

日程第４、議案第９０号から同第９９号までを一括議題といたします。

本案については、休会中、建設産業常任委員会が開かれ、審査を行っておりますので、その経過と結果について、委員長の報告を求めます。

利根川　正建設産業常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川委員長。　〔１番　利根川　正君登壇〕

○１番（利根川　正君）

おはようございます。

本定例会初日に当委員会に付託となりました関連部分については、１２月１６日に審査が終了しておりますので、その経過と結果について、ご報告いたします。

結果については、お手元配付の委員会審査報告書のとおり、原案可決であります。

審査の過程における主な事項について、ご報告いたします。

議案第９０号、糸魚川市糸魚川ジオステーションジオパル条例の一部を改正する条例の制定についてでは、担当課より、改正理由については、物価高、高騰などに対応するため、使用料を改定することで、ジオラマ鉄道模型ステーション、ジオラマスタッフの人件費や整備維持費用に充当したいものであり、改正部分は、車両を持込みした場合のみ現行２００円をジオパル車両を利用する場合と同額の５００円とするもので、約４７万円の増額を見込んでいると説明がありました。

委員より、実績を見ると、車両を持ち込む方が増えている。車両の持込みができることを広く伝えるようＰＲをお願いしたいという意見がありました。また、利用時間が３０分を超えないように、どのように管理しているのかとの質疑に、担当より、使用時間が何分までと書いた紙を受付で渡しており、混雑時にもスタッフのほうで振り分けしている旨の答弁がありました。

このほか若干の質疑がございましたが、報告は割愛します。

次に、議案第９１号、糸魚川市スキー場条例の一部を改正する条例の制定についてでは、担当課より、改正理由について、燃料費などの高騰に伴い入浴利用料金を改定し、ホワイトクリフ塩の道温泉の営業に関する財源としたいと説明がありました。

委員より、料金の値上げによる利用者の減少について検討したかとの質疑に、担当より、令和６年４月から１１月まで1万３２１人の利用があり、昨年との比較で１２３％と利用者が回復している状況である。今後も急激な増加にはならないにしても、利用者が増えていくと推測すると答弁がありました。

また、議員より、利用している方は、ほとんど固定客で、その方々に対して回数券などはあるのかという質疑に、担当より、現在１１回券、２３回券がある。これについても料金改定後に検討する予定であると答弁がありました。

このほか若干質疑がありましたが、報告は割愛いたします。

次に、議案第９２号、糸魚川市白馬山麓国民休養地条例の一部を改正する条例の制定について、担当課より、改定理由について、昨今ニーズが高まっている高浪の池キャンプ場の収益を上げることを目的として使用料の改定を行うものであり、近隣の同様な施設を調査し、テントサイト使用料の上限額を3,０００円に改定するものであると説明がありました。

委員より、平日は安くても、土日・祝日、一番混雑するお盆などの料金をある程度高く設定するなど、赤字を極力減らすような料金設定の工夫についてどう考えているかとの質疑に、担当より、使用料の設定については、指定管理者と今後、協議して設定していきたいと答弁がありました。

このほか若干質疑がありましたが、報告は割愛いたします。

次に、議案第９３号、糸魚川市集会施設条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第９６号、財産の譲与についてでは、担当課より、施設の効果的な管理運営を図るため、田屋会館を地元の下田屋自治会に譲渡するものであると説明がありました。

委員より、国の補助金で建設した同様の施設について、今後、行政としてどのように考えている

かとの質疑に、担当より、農林水産課で管理している地区集会所は、残り３施設ある。今後も地元と譲与する方向で協議を進めていきたいと答弁がありました。

若干質疑がございましたが、報告は割愛いたします。

議案第９４号、糸魚川市簡易水道条例の一部を改正する条例の制定についてでは、担当課より、簡易水道事業の料金体系及び加入金の統一を図るための料金改定等であり、令和７年度から令和８年度の２年間で統一したい。来年１月以降に住民説明会を行い、市の広報やホームページなどでも周知していきたいと説明がありました。

委員より、若干質疑はありましたが、特段、報告することはありません。

次に、議案第９５号、糸魚川市ガス供給条例の一部を改正する条例の制定についてでは、担当課より、カーボンニュートラル化対象ガスの名称をカーボン・オフセット都市ガスに変更するための条例改正であると説明があり、特段、質疑はありませんでした。

議案第９７号、字の変更について及び議案第９８号、字の変更についてでは、担当課より、下早川地区及び今井地区において進められた圃場整備工事が完了することに伴い、今後の換地処分登記に向け、字の変更をするものであると説明がありました。

委員より、若干の質疑はございましたが、特段、報告することはありません。

議案第９９号、市道の認定についてでは、机上審査の前に現地視察を行っております。

委員より、認定後、市道除雪についての質疑があり、担当より、市道認定後の除雪については、機械除雪により行うが、今後、住宅が建築され、住み始めてから除雪サービスを開始する予定であると答弁がありました。

ほかに若干の質疑がございましたが、報告は割愛いたします。

以上で、当委員会に付託されました議案についての報告を終わります。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

よろしくお願いいたします。

委員長報告に対して、若干の質疑をさせていただきます。

まず、議案第９０号、糸魚川市糸魚川ジオステーションジオパル条例の一部を改正する条例の制定についてでございますが、これは実質、その使用料を取ることになりますよということなのかというところです。これまでは、その使用料が安いということでも、そこに利用者の方が来る理由になっていたと思うんですけども、今回の使用料に、改正するについては、利用者の数がどうなっていくのかという見通しを、誰がどのように考えてくださっているのか、また、委員会にはどのような話があったのか、これが１点でございます。

それから、使用料改正の理由は、物価高への対応と、それからスタッフさんの待遇の改善というふうに説明がございましたんですけど、そこをもう少し具体的に伺いたいと思います。

この値上げされた分のお金を含めて、どこに一体、市からの支出が行くのか、観光協会なのかですね。行った先では、どのように金が使われていくのかということです。一番心配されるのは、スタッフさんの待遇が本当に改善されるかということですね。今は、どのような身分、お立場で、どのくらいの報酬を得ておられるか分かりませんけども、それが今回の条例改正によってどのくらい改善されていくのか、具体的なところをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川委員長。　〔１番　利根川　正君登壇〕

○１番（利根川　正君）

田原議員のご質問ありがとうございます。

まず、一番の使用料、それから持込みの見通しといたしまして、先ほどご説明いたしました、現行２００円のジオパル車両を利用する場合と同額の５００円、ですから３００円の値上げで持ち込めるという形で検討するという形で進んでおります。

それから、２番目に具体的な件ですが、こちらはジオパル車両の持込み５００円とすることで、３００円分の使用料ですね、４７万円分の増額を充てるということになっております。

３番目に関しましては、委員会の中で、特段議論はありませんでした。

それから、４番目のスタッフの改善されたのかどうかも、具体的な委員会の中では議論はありませんでした。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

議論がないことをね、報告するわけにはいかないけども、実際、値上げをしていくということですよ。支出が増えるっていうことじゃないですか。その使われ方というところをチェックしておかないと、いかがかなと私は思いました。

それと、今回、料金を改善になった後のＰＲですね。それを周知といったらいいか、どのようにされるかということは委員会で議論があったのか。つまり、ホームページ等で料金が今表示されてると思うんですけども、それがね、２か月、３か月先でもそのままになってるということはないのかですが、すぐにでも議会で可決されたら、このような料金が変わりますと。だけどもお越しくださいという、そういうＰＲが必要になってくると思うんですけども、その辺、委員会の中ではご議論はありましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川委員長。　〔１番　利根川　正君登壇〕

○１番（利根川　正君）

ＰＲのホームページに関してですが、料金のＰＲの設定についてのホームページの公表するという形の議論は、今回の委員会の中ではされておりません。

それから、ふだんのＰＲに関しましては、先ほど言ったとおり、車両を持ち込めるという形で皆さんに広くＰＲして、利用してもらいたいというふうにＰＲするという形で進めていくという報告です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田原　実議員。

○１８番（田原　実君）

では、議案第９２号、糸魚川市白馬山麓国民休養地条例の一部を改正する条例の制定についても伺いたいと思います。

この高浪の池のキャンプ場に関しましては、利用料が、例えば白馬等と比べても非常に安いからということでお客様が来ているという話を以前に聞きましたが、ただコロナのほうも収まってきて、そういったアウトドアブームといった中での高浪の池に来るお客様は、若干減っているという話も聞いているんですよね。そういった折に、この料金を上げていったときにですね、利用が低くなっていくというような、そういったことを考えておかなくちゃいけないと思うんですけども、その点、管理者、運営者とは、どういう話をした上で、ここに議案として出されたのかというところを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川委員長。　〔１番　利根川　正君登壇〕

○１番（利根川　正君）

コロナが明けまして、利用者が減ったということで、利用者を増やすための策といたしまして、株式会社たかなみさんが、テントサイトにおける新たな取組の検討を始めるという、利用者の増加につながる提案をされているという形で伺っております。それも、担当課より説明がありました。

以上です。

○議長（保坂　悟君）

ほかにご質疑ございませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

それでは、議案第９１号、糸魚川市スキー場条例の一部を改正する条例の制定について、お伺いいたします。

先ほどちょっと聞いたんですけどね、まず、これは糸魚川に２か所あるスキー場、シャルマンとシーサイドバレースキー場のことだということでよろしいですね。委員会の最中にね、このシーズン中であっても、やっぱりスキー場を休業させることができるようにするんですか。経営不振といいましょうかね、そういうのはシーズンに入ってから、その場の雰囲気で決めるんですか。今日は、お客さん誰もいないから閉めようとかってするんですか。そういうのはちゃんと話し合ったんです

か。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川委員長。　〔１番　利根川　正君登壇〕

○１番（利根川　正君）

古畑議員の質問、ありがとうございます。

休業とかいう質問に対して、委員会の中では、特段質問、また議論はありませんでした。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

だから、審査が甘いんですよ。営業をやってて、例えば今回の値上げにつきましては、シーズン券も含めて、回数券も含めて今後やっていきたいと言ってるでしょ。これ来年の話じゃないですよね、今シーズンの話ですよね。それで行くとだ、来シーズンの話なんですか。あのね、この１２月に来て料金の改定だとかなんだとか、休業日を自分たちで好きで決めていいとか、でね、シーズン券を発行するとＪＲの定期券みたいなもんで、要はね、その間も営業していかなくちゃいけないんですよ。下手なこと言われると、いわゆる何というか、利用料金を返していかなくちゃいけない。いわゆる契約事項なんですね、このシーズン券だとかというのは。そういうことについてしっかり話し合われたのか。

それからね、私もやっぱり、ここでＰＲの件、スキー場のパンフレットにはそれぞれ値段だとか営業時間だとか全部書いてありますね。そういうのは全部見直していくんですか。書き直すというか作り直すというか、その費用って幾らぐらいになるんでしょうかね。

言っときますけど、これ来シーズンの話じゃないですよね。もうオープンしたんですよ、安全祈願祭までやって。ある日、突然値上げしたんですか、この議会が終わったら。シーズン中に急に値上げするんですか。準備期間というものが、普通要るでしょうが。これ、あくまでも今シーズンからですよね。来シーズンからなのか。やっぱりその辺の話をね、いつからそれを行うのかということにつきまして、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川委員長。　〔１番　利根川　正君登壇〕

○１番（利根川　正君）

古畑議員の、まず最初のシーズン券等、質問がありましたが、こちら、今回議案で上げられたのは、ホワイトクリフ塩の道温泉の入浴利用券に関しての改定であります。

それから、２番目の質問のスキー場の、今シーズン、いつからするかという質問もですね、今回、この議案第９１号の件は、これもホワイトクリフ塩の道温泉の、温泉に関わる入浴料の改定でありまして、こちらも７年度４月１日からという形で変えますので、夏のシーズンから変えるという形の温泉入浴料金という形になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

そういうことなら、納得をいたしました。やっぱり大事な観光施設のスキー場でもあります。それに関わるものとして、営業日みたいなものだって全部見直していかなくちゃいけないし、経営そのもの自体どうなっていくのか、来年の４月１日、こういった料金改定、それからね、やっぱり営業日だとか休業日だとかというのも併せて考えるべきでしょう。これやっぱりＰＲ期間というものは、やっぱりスキー場なんかは、たくさんの方が来られてるわけですからね。その辺につきましても周知していけるように、円滑にね、値上げは反対しませんけど、反対しませんけど、それで経営がやっていけるかどうか、委員会のほうでしっかりと論議をして、あわせて、スキー場の存続そのものをどういうふうにして考えていくのか、ご検討いただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（保坂　悟君）

ほかにご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

ただいまのところ、討論の通告はありませんので、討論なしと認め、これにて討論を終結いたします。

これより、議案第９０号、糸魚川市糸魚川ジオステーションジオパル条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９１号、糸魚川市スキー場条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９２号、糸魚川市白馬山麓国民休養地条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９３号、糸魚川市集会施設条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９４号、糸魚川市簡易水道条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９５号、糸魚川市ガス供給条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９６号、財産の贈与についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９７号、字の変更についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９８号、字の変更についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９９号、市道の認定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

日程第５．議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号まで

○議長（保坂　悟君）

日程第５、議案第１００号から同第１０２号まで及び同第１０４号から同第１０６号までを一括議題といたします。

本案については、休会中、市民厚生常任委員会が開かれ、審査を行っておりますので、その経過と結果について、委員長の報告を求めます。

田中立一市民厚生常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中委員長。　〔１１番　田中立一君登壇〕

○１１番（田中立一君）

本定例会初日に当委員会に付託となりました関係部分については、１２月１２日に審査が終了しておりますので、その経過と結果についてご報告いたします。

結果については、お手元配付の委員会審査報告書のとおり、原案可決であります。

審査の過程における主な事項について、ご報告いたします。

議案第１００号、糸魚川市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでは、担当課より、し尿くみ取り手数料は、おおむね３年に１回見直しを行っており、新年度から手数料単価を上げたいものである。改定理由は、人口減少等に伴うし尿くみ取り量の減少、対象世帯が主に中山間地に点在することによる収集効率の低下、物価高騰による収集運搬費の増加によるもので、受益者負担の原則の下、改定を行う。改定内容は、現行の単価１０リットル当たり１１２円を１６円上げて１２８円とし、また、１２８円のうち、２円は市の事務費の一部に充当し、残りの１２６円が、収集運搬業者への支払い額となる。収集量は、元年度から５年度までの５年間で約２４％減少しており、今後も年４％程度の減少傾向が続くと見込んでいる。来年１月から３月の間にホームページやおしらせばんなどで市民周知を行い、来年４月１日以降のくみ取り分

から適用予定であるという説明に、委員より、接続していない世帯がどういう世帯かという質疑があり、くみ取りの件数は、令和５年度１，４９０件あり、下水道整備が敷設されてない中山間地のほうに多く点在している。やはり名簿等を見ると、中山間地域の高齢者世帯が多いように見受けられ、経済的な面、それから将来的に高齢者のみ世帯では先がないというところで、ためらいもあるのかなというふうに理解している。下水道のほうで、そういった世帯の公共下水道、合併浄化槽等の接続等を推進しているところだが、課がまたいでいるので承知していないが、高齢者のみの世帯が多いように感じている。そういった世帯にしてみれば、値上がりというのは家計の面でも大変影響が大きいかなと思うが、下水道、それから合併浄化槽等の手数料等と比較すると、費用的には安いという面もあり、そこは受益者負担というところの部分は堅持していかなければいけないと考えていると答弁がありました。

このほか若干の質疑がありましたが、報告は割愛させていただきます。

次に、議案第１０１号、糸魚川市障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例の制定についてでは、現在、市内には４か所の地域活動支援センターがあり、今回の条例改正により、令和７年４月から能生地域にある、いちょうの家、青空工房の２施設を１施設に統合して、新たな名称を青空いちょうの家とするとともに、青海地域にある、あけぼの福祉作業所を、あけぼのに名称変更したいものである。改正理由及び期待される効果は、いちょうの家、青空工房は、施設統合により、利用者の障害特性に合わせた支援をより多くの指導員で検討、共有し、統一性を持って行うことができること。また、運営経費に係る財源についても、これまでは基本的な業務に対し特別交付税の対象となっていたが、施設統合により、１日当たりの平均の利用人数が増えることで、さらに国・県の補助が見込め、財源が確保されることで、より安定的・継続的な運営が期待でき、最終的には利用者へのサービス向上へつながることが期待される。

あけぼの福祉作業所の名称変更については、以前の障害福祉事業の一つであった小規模作業所をイメージさせる名称となっているが、障害福祉制度の改正の過程で、小規模作業所というサービス種別がなくなっており、利用者や家族からも名称変更を希望する声があること、また、これまでも、利用者や地域の皆さんからは「あけぼの」との愛称で親しまれていることから、今回の条例改正に併せ、名称変更を行いたいという説明に、委員より、今度一緒になる青空工房といちょうの家の組織や運営について質疑があり、いちょうの家は、主に知的障害を持つ家族の方がつくる育成会のほうが主体となって運営されていた。また、青空工房は、主に精神障害を持つ方の家族が家族会として運営されてきたところで、最初の成り立ちのところから対象の方も違っていたので、２つの小規模作業所ということで活動してきた。それが制度改正により、名前のほうが、小規模作業所から地域活動支援センターというふうに変わったが、２つのまま運営をしていた。２つの施設を一つに統合するので、名称としては青空いちょうの家という施設になるが、実際にやっている内容も日課の行程も少しずつ違っている。同じ施設の中だが、当面の間はこれまでどおり青空班とかいちょう班というようなグループ分けをする中で、安定して活動していただけるよう運営を考えていると答弁がありました。

このほか若干の質疑がありましたが、報告は割愛させていただきます。

次に、議案第１０２号、指定管理者の指定について（糸魚川市斎場及び能生火葬場）では、糸魚川市斎場及び能生火葬場の指定期間が、令和７年３月３１日で期間満了となることから、同年４月

１日以降の指定管理者を定めたいもので、候補者は、五輪・糸魚川二幸グループ、指定期間は、糸魚川市斎場が令和７年４月１日から令和１２年３月３１日までの５年間、能生火葬場が令和７年４月１日から令和９年３月３１日までの２年間である。令和８年度末で能生火葬場を廃止とすることから、このような期間となっている。火葬業務を中心とした斎場の管理及び運営を円滑に遂行できること、故人の尊厳及び利用者の心情に配慮したきめ細やかなサービスを提供することを基本方針としている。申請者は１者であったという説明に、質疑はありませんでした。

次に、議案第１０４号、令和６年度糸魚川市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）、議案第１０５号、令和６年度糸魚川市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）、議案第１０６号、令和６年度糸魚川市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）では、質疑はありませんでした。

以上で、市民厚生常任委員会の審査報告を終わります。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

ただいまのところ、討論の通告はありませんので、討論なしと認め、これにて討論を終結いたします。

これより、議案第１００号、糸魚川市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

これより、議案第１０１号、糸魚川市障害者地域活動支援センター条例の一部を改正する条例の制定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

これより、議案第１０２号、指定管理者の指定についてを採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１０４号、令和６年度糸魚川市国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）を採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１０５号、令和６年度糸魚川市後期高齢者医療特別会計補正予算（第２号）を採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１０６号、令和６年度糸魚川市介護保険事業特別会計補正予算（第２号）を採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

ここで、昼食時限のため、１時まで休憩といたします。

〈午前１１時５２分　休憩〉

〈午後１時００分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

日程第６．議案第１０３号

○議長（保坂　悟君）

日程第６、議案第１０３号を議題といたします。

本案については、休会中、それぞれ常任委員会が開かれ、審査を行っておりますので、その経過と結果について、委員長の報告を求めます。

東野恭行総務文教常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

東野委員長。　〔９番　東野恭行君登壇〕

○９番（東野恭行君）

本定例会で、当委員会に分割付託となりました議案第１０３号については、１２月１３日に審査が終了しておりますので、その経過と結果について、ご報告いたします。

結果については、お手元配付の委員会審査報告書のとおり、原案可決であります。

審査の過程における主な事項について、ご報告いたします。

企画定住課・財政課の関係部分では、２款１項４目２１、ふるさと糸魚川応援寄附金事業について、担当課より、多くのふるさと糸魚川応援寄附金を頂いたことから、報償費、運搬料、ポータルサイトのシステム使用料など、返礼品などに係る経費を追加したいものである。返礼品は、お米などが中心であった。歳入は、２億５，０００万円増額し、６億５，０００万円とすると説明がありました。

委員より、市内の経済循環に寄与していると受け止めているが、多額のコンサル料を支払ってはいないかとの質疑に対し、担当より、ポータルサイトと契約をしているが、ふるさと納税の業務を委託に出しているわけでなく、そういう面では、ほかの自治体より経費がかかっていないと考えている。担当職員が懸命に対応している状況であると答弁がありました。

文化振興課の関係部分では、担当課から、フォッサマグナミュージアムのショップの売上げが予算を上回る見込みで、商品を補充するための増額補正、また、歳入では、入館料の値上げ及びショップの売上増に伴うものであると説明があり、好評な商品を問う質疑には、担当より、５００円、１，０００円といった価格のヒスイ製品が多く出ていると答弁がありました。

委員より、入館料の値上げに対しても苦情等がなかったのはよかったと思う。今後も適切な受益者負担により施設の充実を図るなど、情勢を見ながら適宜、対応してほしいという意見に対して、米田市長より、フォッサマグナミュージアムは、糸魚川を知る情報発信基地の一つだと思っている。我々が目指すものは、普通の観光と違い、説明が必要。そこで学ぶことが知的満足度を高め、観光と教育という二面性を併せ持った施設であるので、ブラッシュアップし、その価値を示し、これに見合う料金を頂けるようにしていきたいと答弁がありました。

このほかにも、質疑・意見等がありましたが、報告は割愛させていただきます。

以上で、総務文教常任委員会の報告を終わります。

○議長（保坂　悟君）

次に、利根川　正建設産業常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

利根川委員長。　〔１番　利根川　正君登壇〕

○１番（利根川　正君）

本定例会初日に当委員会に分割付託となりました議案第１０３号について、１２月１６日に審査が終了しておりますので、その経過と結果について、ご報告いたします。

結果については、お手元配付の委員会審査報告書のとおり、原案可決であります。

審査の過程における主な事項について、ご報告いたします。

農林水産課関係では、担当課より、農地集積・集約化対策事業は、国の補正により下早川あわら地区における交付金の増額が見込まれるため、地元への協力金を増額したい旨の説明があり、質疑はありませんでした。

建設課関係では、担当課より、道路除排雪事業は、除排雪委託料について、市道等の機械除雪に係る作業委託料８億円を見込み、今シーズンの除雪に対応するため、増額したい説明がありました。また、土砂災害緊急事業は、能登半島地震により被災した大平寺地区の能生川左岸ののり面について、のり面保護の治山事業を行いたい旨の説明があり、質疑はありませんでした。

次に、住宅管理費は、市営住宅にかかる給湯器の故障件数が見込みより多く、冬場を迎えることから施設修繕料を増額したい説明がありました。

委員より、給湯器の故障件数についての質疑があり、担当より、管理している公営住宅は全体で４８０戸、そのうち入居している戸数は約３８０戸であり、現時点で９戸の給湯器修繕を行っていると答弁がありました。

次に、都市政策課関係では、担当課より、生活交通確保対策事業は、市内路線バスを運行する事業者への補助金であり、当初予算１億５，５００万を計上していたが、燃料価格、車両修繕費の増加などで、当初予算に対して５００万円不足する見込みであり、今回、補正予算を計上したいものと説明がありました。

委員より、現在２８台を保有しており、稼働年数２０年以上、走行距離１００万キロ以上という車両が多いが、これはバス会社における常識的な数値なのかとの質疑に対し、担当より、稼働年数２０年以上の車両が１３台であり、中古を購入して車両をやりくりしている。また、走行距離については、一定ラインの中で安全に運行していると答弁がありました。

委員より、今後、中型、小型にシフトしていき、燃料費等の経費節減についてバス会社と行政とで協議しているのかとの質疑に、担当より、年々バスを利用されている方が減少している状況であり、糸魚川バスに対しては、利用状況に見合った車両の大きさでの運行をお願いしている。と答弁がありました。

このほか若干の質疑がございましたが、報告は割愛いたします。

以上で、議案第１０３号のうち、当委員会に分割付託となりました部分について、報告を終わります。

○議長（保坂　悟君）

次に、田中立一市民厚生常任委員長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

田中委員長。　〔１１番　田中立一君登壇〕

○１１番（田中立一君）

本定例会初日に当委員会に分割付託となりました議案第１０３号については、１２月１２日に審査が終了しておりますので、その経過と結果について、ご報告いたします。

結果については、お手元配付の委員会審査報告書のとおり、原案可決であります。

審査の過程における主な事項について、ご報告いたします。

環境生活課関係では、担当課より、２款交通安全対策費、高齢者運転免許証自主返納支援事業は、申請件数の増加及び翠ペイギフトカードを選択される方の増加に伴い追加したいもので、具体的には、タクシー券から翠ペイギフトカードにお客様が流れており、タクシー券の場合は使用期間が最長２年間あるため、当年度だけでなく翌年度にも支払いが分散したが、翠ペイギフトカードの場合は、当初に２万円を一括払いしなければならないため、支払い形態の違いにより、予算不足が見込まれるものである。

４款、生活環境総務費、鳥獣対策事業は、有害鳥獣捕獲に係る委託料を追加したいものであり、昨年冬の捕獲状況などから推測すると、１２月以降も４００頭程度の捕獲が想定され、当初見込みより増え、全体で１，２００頭程度と見込んでいるという説明に、委員より、運転免許返納の際の市民の声についての質疑があり、免許返納の際のアンケートでは、免許返納のきっかけについては、高齢のための運転不安と家族に勧められたという方が大半の結果となっている。今後の移動手段については家族や知人の支援を受けるというものと、バスやタクシーを利用するというものが上げられている。免許返納後の生活の不安や心配事については、心配があるという方が２９％あり、内容は、外出時に不便、通院時の不安、行動が制限されてしまう、生活リズムが変わってしまうなどがあったと答弁がありました。

福祉事務所関係では、担当課より、３款障害者自立支援諸費、障害者自立支援諸費は、制度改正に伴い、令和７年４月から変更が生じる事項に対応するため、障害者自立支援給付審査支払い等システムの改修に係る委託料である。老人福祉費、遠隔地介護サービス送迎等支援事業は、今年度から新規で実施しており、前期分の申請を受付したところ、当初見込みよりも該当となる方が多く、予算が超過したため、後期分として追加をするものである。生活保護扶助費は、生活保護費の増額補正であり、入院による医療費の増加が主な理由であるという説明に、若干の質疑がありましたが、報告は割愛させていただきます。

健康増進課関係では、担当課より、４款医療対策費、医療人材確保対策事業は、ＪＡ新潟厚生連の経営悪化に伴い、状況の改善に向けた経営改革を進める糸魚川総合病院に対し、病院の先行き不安による医療従事者の離職を防ぎ、２４時間３６５日の安定的な医療体制の維持につなげるため、人材確保対策として補助金を交付するものである。これにより、糸魚川市が病院に対してしっかりと支援していくという姿勢を従事者の皆さんに伝えたいという説明に、委員より、医療人材確保として、今回の補正を含めて糸魚川総合病院にどれだけ支援しているかという質疑があり、今回の人材確保以外に、救急医療体制の確保などを含めて、令和５年度の決算では、糸魚川総合病院に対して２億２，７００万円ほど補助金として支払い、令和６年度予算も同様のメニューで２億４，５００万円ほど計上しているという状況であるという答弁でした。

経営は、ＪＡ厚生連であり、他の民間病院との違いは何かという質疑では、米田市長より、違いといわれても、一つしかない病院である。最近、県の要請もあり、今の糸魚川総合病院が黒字化になるにはどのような姿となるべきかという考え方を出してきたが、とても容認できるものではなく、救急医療も、また産科も、さらに糸魚川市にとって必要というような診療科目までなくなるような状態である。それを考えたときに、赤字の部分というのは、地域にとって必要な部分を担ってもらっていると捉えているので、我々が支援をする中で、何とかやりくりをしながら、その中でも赤字を出しながら運営していることが、糸魚川総合病院の実情と思っている。上越圏域の医療構想を進

める中において、その辺が明確になりながら、公的病院が公立病院と等しくなっていく今が過渡期であり、糸魚川市には、当然、地域医療を支えていく施設が必要であり、県もそれをどう捉えているかというところをしっかりと確認して進めていきたいし、特に上越圏域は、地域医療構想の中でもその辺をしっかりと確立していかなくてはいけないと思っているという答弁でした。

開業医の病院と総合病院の対応の違いについての質疑では、米田市長より、糸魚川総合病院も加入している医師会とは、毎年、懇談会も行っており、要望などを通じて、どのような施策をしていけば行っていけばいいのかというような意見もいただいている。そういったところから、民間の診療所に対しても開業医の支援をしている状況であり、今、我々が向いてるのは糸魚川総合病院かもしれないが、病院と開業医の皆さんとのつながりの中で、救急医療についてもご協力いただいて取り組んでいるのが実情である。このような中、糸魚川の医療は本当に今大変な状況になっていると思っている。糸魚川総合病院しかり、そして開業医の皆様方もだんだん高齢化してきており、５年、１０年後、１５年後は、やはり不安なところがあり、全体を見て、どう対応していくかが非常に大事な事柄だと思っているという答弁がありました。

委員より、１，２００万円という数字の根拠についての質疑があり、今回の補助金は、地域医療体制をしっかりと守っていくために職員の離職をまず防ぎたい。金額の設定に当たっては、糸魚川総合病院の職員が約４００名おられるというところで、１人当たり３万円というところから導き出したものである。職員の皆さんの働きやすさであったりモチベーションの向上、そういったものに充てていただければと考えているという答弁でした。

他の自治体が支出しない中で、糸魚川市が率先してこういう姿勢を見せるという質疑では、米田市長より、県内の厚生連病院というのは大体同じに捉えられがちだが、各自治体の成り立ち、生い立ちを考えたときに、かなり差がある。特に糸魚川は非常に人材不足で、市内のみで医療人材を賄えない状態であり、他地域からおいでいただいてる方々が、結構多いという現状にある。そういう中で厳しい労働環境や厳しい給与状況となり、将来が厳しい状態と捉えたときには、簡単に一つのきっかけで辞めたり、地元へ戻る方が結構いるということを聞いている。そういう中で、糸魚川市はずっと医療人材に対しては苦労しながら、そして制度をつくりながらいろいろやってきているが、これまでの取組が無にならないよう、また、経営状況悪化に伴う人材離れの危機意識から、ぜひ職員の皆様には、引き続き地域医療を守っていただきたいという一つの考えから、今回の支援をさせていただきたいという答弁がありました。

このほか若干の質疑がございましたが、報告は割愛いたします。

以上で、議案第１０３号のうち、当委員会に分割付託となりました部分について、報告を終わります。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの各委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、発言を許します。

渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

渡辺議員。　〔７番　渡辺栄一君登壇〕

○７番（渡辺栄一君）

渡辺栄一でございます。

議案第１０３号、令和６年度糸魚川市一般会計補正予算（第４号）について、賛成の立場で討論を行います。

４款衛生費の医療人材確保対策事業の１，２００万円は、ＪＡ新潟厚生連の経営状況の悪化を受けて、同厚生連が運営する糸魚川総合病院に対して、状況改善に向けた経営改革を進める同病院に対して、病院の先行き不安による医療従事者の離職を防ぎ、安定的な医療体制の維持につなげるため、緊急的な対応として、市独自の予算措置を講じました。同対策事業費の当初予算約１億４，０００万円に、緊急支援補助金としての追加は、市が、県に対する支援の働きかけや厚生連の経営計画のつくり直しを確認しながら、その間の必要な支援策として、やむを得ない判断措置であると思います。

今月２日のヒスイ王国館で行われた「糸魚川総合病院の現在地と将来の姿」の公開講演会の講話の中で、山岸病院長より、今年は１億円の黒字だが、来年は給与を戻すため、再び赤字になってしまうような意見がありました。公金を増額投入していくことに限界も生じてくるため、ＪＡ新潟厚生連の経営改革を前提に、国や県に対し、緊急の財政支援、地方財政措置の拡充等について要望し、地域医療の中核を担う糸魚川総合病院の存続を図ってほしいと思います。

次に、８款土木費の道路除排雪費の除排雪委託料の４億８，０００万円の増額は、今冬は降雪量が多いとの予報や雪道での安全確保、心が折れるような雪国の不安を払拭させるために必要な予算と思います。そのほか、生活保護世帯における生活保護扶助費８，０００万円、能登半島地震により被災した太平寺地内の能生川左岸について、のり面保護工事費７，２００万円は、緊急性が高いものと判断いたします。

以上をもちまして、議案第１０３号、令和６年度糸魚川市一般会計補正予算（第４号）について、賛成を表明して、討論を終了いたします。

○議長（保坂　悟君）

以上で、通告による討論は終わりました。

ほかに討論の通告はありません。

討論なしと認め、これにて討論を終結いたします。

これより議案第１０３号、令和６年度糸魚川市一般会計補正予算（第４号）を採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

ここで、暫時休憩いたします。

〈午後１時２１分　休憩〉

〈午後１時２２分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

日程第７．議案第１０７号

○議長（保坂　悟君）

日程第７、議案第１０７号、教育長の任命についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

ご説明申し上げます。

議案第１０７号は、教育長の任命についてでありまして、教育長、竈本修一さんの任期が令和６年１２月３１日をもって満了となりますことから、再度任命いたしたく、議会のご同意をいただきたいものであります。

以上でありますが、よろしくご承認くださいますようお願い申し上げます。

○議長（保坂　悟君）

お諮りいたします。

ただいま説明のあった本案については、会議規則第３７条第３項の規定により、委員会の付託を省略いたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

これより説明に対する質疑に入ります。

本案の質疑は、１人１５分以内としてください。

ご質疑ありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

それでは、質疑をさせていただきます。

本案の鷲本さん続投ということでございますが、いかなる理由なのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

人格が高潔で、教育行政に関して見識を有している点、また、教育に対して強い情熱と使命感を持っている点、また学校教育のみならず、スポーツ、文化、自然観察など、幅広い分野で知識を有している点を推薦の理由にさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

これは、それだけじゃなくてね、現在審議中の市内中学校でのいじめ事件の、これだって現在、重大事態に指定されて再調査やってますよね。人格の高潔さだとか経験の豊富さとか強い情熱とかではない。この問題について、しっかり責任を持って取り組むという項目がやっぱりいるんじゃないですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

お答えいたします。

教育長として、今お務めいただいておるわけでございまして、当然、そういった今、学校の起きておる諸問題については、そのような対応をできる、私は、人格を有している人として捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。

○１６番（古畑浩一君）

教育長続投にするにしろ、ここで、任期満了で辞めるにしろね、次の教育長になったって、なられた方が今のいきなりいじめ問題の渦中に取り組んでいかなくちゃいけないので、私も個人的には、この鷲本さんの続投しかないかなと。

ただ、その中身というのはね、いい人だ、すばらしい実績がある、強い情熱を持っているといういい面だけじゃないですよ。やっぱりいじめ事件における初期対応の甘さから、大きな重大事件にまで発展させてしまったと。その責任を、身を持ってこの問題の解決について全力を挙げていかな

くちゃいけないというのが最大の続投の、何ていいましょうかね、理由になるんじゃないですか。やっぱりそれだけ優れてる人や人格高潔で強い情熱があって、高い見識と何のかんのっていうんだったら、このいじめ事件だって、問題はもっと早く処理できたはずでしょう。全てについてパーフェクトじゃないじゃないですか。だから、何だろう、その功罪併せ持つ部分をやっぱり言うべきだろうと思うんですよね。

本案について反対するわけではありませんが、私としては引き続き、このいじめ問題等のやっぱり調査と、それから解決を強く望むものであります。

終わります。

○議長（保坂　悟君）

ほかにご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

これより、議案第１０７号、教育長の任命についてを採決いたします。

本案は、これに同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案については、これに同意することに決しました。

暫時休憩いたします。

〈午後１時２８分　休憩〉

〈午後１時２８分　開議〉

○議長（保坂　悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

当市議会では、申合せにより、教育長に就任し、または再任したときは、挨拶を行うこととしておりますので、この際、発言を許します。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

鷲本教育長。　〔教育長　鷲本修一君登壇〕

○教育長（鷲本修一君）

今ほどは、教育長再任の議案に、議員の皆様方から同意をいただきまして、ありがとうございました。

私は、教育長として１期３年と４か月の間、務めさせていただきました。これまでの取組の中で、反省を含めて様々な場面に遭遇し、体験し、多くのことを学ばせていただきました。今、教育委員会が抱える課題は山積しておりますけれども、何よりも子育てや教育の尊重を具現化していく、各

施策を確実に推進していくことが肝要であると強く実感しております。引き続き、糸魚川市教育大綱に基づいて、子ども一貫教育のさらなる充実・発展を目指して、成果と課題を踏まえ、一歩一歩、皆さんと一緒に進めてまいりたいと考えております。教育委員の皆さんや教育委員会事務局職員とチーム力を発揮しながら、課題解決に向け、鋭意、精いっぱい努めてまいりたいと思います。

議会並びに議員の皆様方からは、引き続きのご指導とご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げまして、一言の挨拶とさせていただきます。

今後ともよろしくお願いいたします。

日程第８．諮問第２号から同第５号まで

○議長（保坂　悟君）

日程第８、諮問第２号から同第５号までを一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

ご説明申し上げます。

諮問第２号から第５号は、人権擁護委員候補者の推薦についてであります。

諮問第２号は、現在、人権擁護委員をお願いいたしております、髙柗和子さんが、令和７年３月３１日をもって辞任いたしますことから、新たに、渡邉寿敏さんを推薦させていただきたく、議会のご同意をお願いいたしたいものであります。

諮問第３号は、現在、人権擁護委員をお願いいたしております、恩田正身さんの任期が、令和７年３月３１日で満了いたしますことから、新たに、杉野　尚さんを推薦させていただきたく、議会のご意見をお伺いいたしたいものであります。

諮問第４号は、現在、人権擁護委員をお願いいたしております、田村ゆかりさんの任期が、令和７年３月３１日で満了いたしますことから、再度推薦させていただきたく、議会のご意見をお伺いいたしたいものであります。

諮問第５号は、現在、人権擁護委員をお願いいたしております、田中唱子さんの任期が、令和７年３月３１日で満了いたしますことから、新たに、丸山京子さんを推薦させていただきたく、議会のご意見をお願いいたしたいものであります。

以上でありますが、よろしくお願い申し上げます。

○議長（保坂　悟君）

お諮りいたします。

ただいま説明のあった本案については、会議規則第３７条第３項の規定により、委員会の付託を省略したいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

これより説明に対する質疑に入ります。

質疑は、１人１５分以内としてください。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

これより諮問第２号、人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

本案は、これを適任と認め、答申することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は、これを適任と認め、答申することに決しました。

次に、諮問第３号、人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

本案は、これを適任と認め、答申することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は、これを適任と認め、答申することに決しました。

次に、諮問第４号、人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

本案は、これを適任と認め、答申することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案はこれを適任と認め、答申することに決しました。

次に、諮問第５号、人権擁護委員候補者の推薦についてを採決いたします。

本案は、これを適任と認め、答申することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は、これを適任と認め、答申することに決しました。

日程第９．発議第９号

○議長（保坂　悟君）

日程第９、発議第９号、北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

古畑議員。　〔１６番　古畑浩一君登壇〕

○１６番（古畑浩一君）

それでは、発議第９号について、意見書を読み上げ、提案理由といたします。

北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書。

北朝鮮による日本人拉致問題については、２００２年の日朝首脳会談で北朝鮮が日本人の拉致を認め、拉致被害者５名が帰国を果たしたものの、その後は解決に向けた進展が見られないまま２０年以上が経過いたしました。

政府認定の拉致被害者１２名が安否不明の状況であり、このほか特定失踪者、拉致の可能性を排除できない事案に係る方々が、いまだ多数おられます。

新潟県では、拉致被害者５名のうち、横田めぐみさんと曽我ミヨシさんが、いまだ帰国を果たされていません。また、県内には拉致の疑いのある特定失踪者の方が６名おられ、現在も安否が分からぬままとなっております。

このような状況の中、近年では横田めぐみさんの父、滋さん、田口八重子さんの兄、飯塚繁雄さんが、拉致被害者との再会を果たせぬまま他界されており、被害者自身やその家族の高齢化が進む中、もはや一刻の猶予も許されない状況に置かれております。

よって、国会及び政府においては、拉致被害者及び特定失踪者家族の痛切な思いを共有し、拉致被害者及び特定失踪者全員の早期帰国並びに真相の究明に向け、今後とも拉致問題を「最優先、最重要課題」と位置づけ、国際社会と連携を強化しつつ、国際情勢に鑑み、時期を逸することなく、国を挙げて全力で取り組まれるよう、強く要望いたします。

以上、地方自治法第９９条の規定により、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、外務大臣、拉致問題担当大臣（内閣官房長官）に意見を提出いたします。

以上であります。

○議長（保坂　悟君）

ただいまの説明に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

本案については、会議規則第３７条第３項の規定により、委員会の付託を省略したいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。

ただいまのところ、討論の通告はありませんので、討論なしと認め、これにて討論を終結いたします。

これより発議第９号、北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書を採決いたします。

本案は、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、本案は原案のとおり可決することに決しました。

日程第１０．閉会中の継続調査について

○議長（保坂　悟君）

日程第１０、閉会中の継続調査についてを議題といたします。

総務文教常任委員長、建設産業常任委員長、市民厚生常任委員長及び議会運営委員長から、会議規則第１１１条の規定により、お手元に配付してあります申出書のとおり、閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りいたします。

各委員長から申出のとおり、閉会中の継続調査に付することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

ご異議なしと認めます。

よって、各委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査に付することに決しました。

以上で、本定例会の全日程が終了いたしました。

閉会に当たり、米田市長から発言を求められておりますので、この際、これを許します。

米田市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂　悟君）

米田市長。　〔市長　米田　徹君登壇〕

○市長（米田　徹君）

令和６年第４回市議会定例会閉会に当たり、お礼を兼ねまして、一言ご挨拶申し上げます。

去る１２月２日から本日までの長期間にわたり、条例改正や補正予算など、多数の重要案件につきまして、慎重なご審議をいただきましたことに対して、厚くお礼を申し上げます。

さて、この機会に２点について、ご報告申し上げます。

最初に、市内スキー場のオープンについて、ご報告申し上げます。

明日、２０日、金曜日にシャルマン火打スキー場がオープンいたします。

シーサイドバレースキー場につきましては、積雪量が不足していることから、オープン日を２７日、金曜日といたして準備を進めております。両スキー場を核とした冬季の観光振興と交流人口の拡大に努めてまいります。

２点目に、国の補正予算に伴う専決処分について、ご報告申し上げます。

１２月１７日に、物価高騰の影響を受ける生活者や事業者に対し、きめ細やかな支援を行うため、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金について、国の補正予算が成立いたしました。この中で、国は、低所得世帯支援枠として、住民税非課税世帯１世帯当たり３万円、うち子育て世帯は、子供１人当たり２万円を加算することといたしており、また、非課税世帯等灯油購入費等助成事業につきましては、昨年同様に県で実施を検討いたしております。

いずれの事業も、詳細が決まり次第、早期に対象者に支給いたしたいことから、専決処分で対応させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、今ほど申し上げた事業以外の物価高騰対応等の事業につきましては、３月定例会に、改めて提案させていただく予定といたしております。

以上、２点について、ご報告申し上げました。

議員各位をはじめ市民の皆様から、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、令和７年３月市議会定例会の招集日を、２月１７日、月曜日とさせていただきたい予定でありますことをご報告申し上げ、閉会のご挨拶とさせていただきます。

大変ありがとうございました。

○議長（保坂　悟君）

これをもちまして、令和６年第４回糸魚川市議会定例会を閉会いたします。

長期間にわたり、大変お疲れさまでございました。

〈午後１時４３分　閉会〉

地方自治法第１２３条第２項の規定により署名する。

議　　長

議　　員

議　　員